

博士学位論文（東京外国語大学）
Doctoral Thesis (Tokyo University of Foreign Studies)

氏 名	韓 必南
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	博甲第 183 号
学位授与の日付	2014 年 5 月 21 日
学位授与大学	東京外国語大学
博士学位論文題目	日本語と韓国語における所有表現の対照研究 - 所有に見られる連続的様相と機能の棲み分け

Name	Pil-nam, Han
Name of Degree	Doctor of Philosophy (Humanities)
Degree Number	Ko-no. 183
Date	May 21, 2014
Grantor	Tokyo University of Foreign Studies, JAPAN
Title of Doctoral Thesis	A Contrastive Study on Possession in Japanese and Korean

東京外国語大学博士論文

日本語と韓国語における所有表現の対照研究

—所有に見られる連続的様相と機能の棲み分け—

韓 必南

目 次

目 次.....	2
図表目次.....	6
序章	9
0.1. 研究目的と研究対象	9
0.2. 本稿の構成	10
0.3. 研究方法と術語について	11
0.3.1. 研究方法.....	11
0.3.2. 表記について	12
0.4. 資料について.....	13
第1章 先行研究	14
1.1. 類型論における「所有」	14
1.2. 角田太作(1991).....	16
1.3. 西山佑司(2003).....	18
1.4. 益岡隆志(1987,2004,2008).....	21
第I部 動詞による所有表現	23
第2章 日本語と韓国語の存在文	23
2.1. 先行研究.....	23
2.1.1. 「ある/いる」を巡る議論	23
2.1.2. 「있다」を巡る議論.....	26
2.2. 用例について.....	29
2.3. 分類方法について	30
2.4. 「ある/いる」構文の分類.....	32
2.4.1. 空間的存在文	32
2.4.1.1. 場所存在・所在文.....	32
2.4.1.2. 生起存在文.....	35
2.4.2. 非空間的存在文	36
2.4.2.1. 様態存在文	37
2.4.2.2. 所有文.....	38

2.4.2.3. 属性数量詞存在文	40
2.4.2.4. 処格措定存在文	41
2.4.2.5. 実在文	42
2.4.2.6. 倒置指定存在文	43
2.4.2.7. リスト存在文	44
2.4.2.8. 帰属存在文	44
2.4.2.9. 絶対存在文	45
2.4.3. おわりに	47
2.5. 「있다」構文の分類	48
2.5.1. 空間的存在文	48
2.5.1.1. 場所存在・所在文	48
2.5.1.2. 生起存在文	52
2.5.2. 非空間的存在文	55
2.5.2.1. 様態存在文	55
2.5.2.2. 所有文	56
2.5.2.3. 処格措定存在文	59
2.5.2.4. 具格措定存在文	60
2.5.2.5. 実在文	60
2.5.2.6. 倒置指定存在文	61
2.5.2.7. リスト存在文	62
2.5.2.8. 帰属存在文	62
2.5.2.9. 絶対存在文	63
2.5.2.10. 時間存在文	64
2.5.3. おわりに	65
2.6. 存在文の類型に対する日韓対照的考察	67
2.6.1. 「ある/いる」と「있다」が対応しない場合	67
2.6.2. 「ある/いる」と「있다」が部分的に対応する場合	69
2.7. 「ある/いる」と「있다」による所有文	71
2.6. 第2章の結び	77
第3章 日本語の「もつ」と韓国語の「가지다/갖다」	80
3.1. 先行研究	80
3.1.1. 「もつ」に関する先行研究	80
3.1.2. 「가지다/갖다」に関する先行研究	81
3.2. 資料と考察対象について	83

3.3. 「もつ」構文	84
3.3.1. 「もつ」の所有物名詞.....	84
3.3.2. 「もつ」の統語論的環境.....	92
3.4. 「가지다/갖다」構文.....	96
3.4.1. 「가지다/갖다」の所有物名詞.....	96
3.4.2. 「가지다/갖다」の統語的環境.....	106
3.4.3. 「가지다/갖다」の文法化とその周辺.....	108
3.4.3.1. 語尾として機能する「V-어 가지고/갖고」	109
3.4.3.2. 助詞として機能する「가지고/갖고」	112
3.5. 第3章の結び	117
3.5.1. 所有物の分類による特徴.....	117
3.5.2. 存在文に照らして	118
第4章 「する」と「하다」	119
4.1. 先行研究.....	119
4.1.1. 角田太作（1991[2009]）	119
4.1.2. 佐藤琢三（2003）	120
4.1.3. 影山太郎（2003,2010）	120
4.1.4. 韓国語の「하다」に関する研究.....	121
4.2. 「する」と「하다」に見られる連続的様相.....	122
4.2.1. 「する」と「하다」による所有表現.....	125
4.2.2. 「する」と「하다」の形態・統語的特徴.....	130
4.3. 第4章の結び	134
第Ⅱ部 連体修飾の所有表現	135
第5章 連体修飾節―「ある/いる,もつ,する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」	135
5.1. 先行研究.....	135
5.2. 「ある/いる」と「있다」	137
5.1.1. 用例抽出について	138
5.1.2. ある/いる	138
5.1.2.1. ある.....	139
5.1.2.2. いる	145
5.1.3. 있다	148
5.1.4. 結果	155

5.3. 「もつ」と「가지다/갖다」	157
5.3.1. 用例抽出について	157
5.3.2. 「もつ」の連体修飾	157
5.3.2.1. もつ-[Pe V Pr].....	158
5.3.2.2. もつ-[Pr V Pe].....	165
5.3.3. 「가지다/갖다」の連体修飾	169
5.3.3.1. 가지다-[Pe V Pr].....	169
5.3.3.2. 가지다-[Pr V Pe].....	176
5.3.4. 日韓対照的考察	180
5.3.4.1. 連体修飾「もつ」と「가지다」の所有物	180
5.3.4.2. 「もつ」と「가지다」の連体形	182
5.4. 「する」と「하다」	184
5.4.1. 用例抽出について	184
5.4.2. 「する」と「하다」の所有物.....	184
5.4.3. 「する」と「하다」の連体活用形.....	187
5.5. 第5章の結び.....	189
第6章 日本語と韓国語の属格構造.....	193
6.1. 先行研究.....	193
6.1.1. 日本語における「の」に関する研究.....	193
6.1.2. 韓国語における「의」に関する研究.....	194
6.2. 資料と考察範囲について	196
6.3. [NP ₁ の NP ₂] と [NP ₁ 의 NP ₂]	196
6.3.1. 事象叙述内在型.....	198
6.3.2. 属性叙述内在型	199
6.3.2.1. タイプ(a).....	199
6.3.2.2. タイプ(b).....	200
6.3.3. コピュラ関係の属格構造.....	202
6.3.4. その他語彙論・語用論に基づく関係.....	204
6.3.5. 属格構造による所有表現.....	205
6.3.5.1. 所有-[Pr-Pe]型.....	207
6.3.5.2. 所有-[Pe-Pr]型.....	213
6.4. 第6章の結び.....	215
第7章 結論.....	216

7.1. 所有動詞の叙述用法	216
7.2. 連体修飾の所有表現	218
7.3. 所有表現に見られる機能の棲み分けと意味の連続性	221
7.4. 今後の課題と展望	224
略語一覧	225
参考文献	226
【謝辞】	232

図表目次

表 1. 「있다」による「所在文」と「所有文」(유현경 1998: 204-221 を要約).....	28
表 2. 本稿の分類 - 日本語と韓国語における存在文	31
表 3. 〈場所存在・所在文〉の語順別割合 (597 例)	33
表 4. 〈生起存在文〉の語順別割合	35
表 5. 〈様態存在文〉の語順別割合 (94 例)	37
表 6. 〈所有文〉の語順別割合 (1,045 例)	38
表 7. 〈属性数量詞存在文〉の語順別割合 (45 例)	40
表 8. 〈処格措定存在文〉の語順別割合 (51 例)	41
表 9. 〈実在文〉の語順別割合 (24 例)	42
表 10. 〈倒置指定存在文〉の語順別割合 (56 例)	43
表 11. 〈リスト存在文〉の語順別割合 (67 例)	44
表 12. 〈帰属存在文〉の語順別割合 (47 例)	44
表 13. 〈絶対存在文〉の語順別割合 (531 例)	45
表 14. 主語名詞句の意味役割と「있다」の形態統語的特徴	48
表 15. 「있다」 - 〈場所存在・所在文〉	49
表 16. 「있다」 - 〈生起存在文〉の語順別割合	52
表 17. 「있다」 - 〈様態存在文〉の語順別割合	55
表 18. 「있다」 - 〈所有文〉の語順別割合	57
表 19. 「있다」 - 〈処格措定存在文〉の語順別割合	59
表 20. 「있다」 - 〈具格措定存在文〉の語順別割合	60
表 21. 「있다」 - 〈倒置指定存在文〉の語順別割合	61
表 22. 「있다」 - 〈リスト存在文〉の語順別割合	62
表 23. 「있다」 - 〈帰属存在文〉の語順別割合	63

表 24. 「있다」 - 〈絶対存在文〉の語順別割合	63
表 25. 「ある/いる」と「있다」 - [所有者-所有物]	76
表 26. 「가지다」と「갖다」の使用頻度(KNC 全体)	109
表 27. 「가지고」と「갖고」の文文化の例(KNC の小説ジャンル)	109
表 28. 「NP _(ACC) gajigo/gajgo」: 置き換えの可否	113
表 29. 静的な意味を表す「する」動詞	120
表 30. 「する」構文の叙述のタイプ	122
表 31. 「する」と「하다」の属性・状態叙述	124
表 32. 連体修飾「ある」と「いる」	138
表 33. 「있다」の連体修飾	148
表 34. 連体修飾「もつ」の所有物(606 例)	158
表 35. 連体修飾「가지다」の所有物(500 例)	169
表 36. 「もつ」の連体形 - 活用形別割合	182
表 37. 「가지다」の連体形 - 活用形別割合	182
表 38. 「する」と「하다」の実現形(Pe V Pr)	187
表 39. [NP ₁ 의 NP ₂] と [NP ₁ 의 NP ₂] の類型化	196
図 1: 「ある/いる」構文の所有物 (818 例)	75
図 2: 「있다」構文の所有物 (644 例)	75
図 3: 「もつ」650 例 - 所有物のカテゴリー別割合	85
図 4: 「もつ」構文の統語的環境 - 「ある/いる」構文との比較	94
図 5: 「가지다(501 例)/갖다(318 例)」 - 所有物のカテゴリー別割合	96
図 6: 「가지다」構文の統語的環境 - 「있다」構文との比較	108
図 7: 「する」構文と「하다」構文における連続的様相	122
図 8: 「する」と「하다」 - 所有物の分類	125
図 9: 「する」の実現形(叙述用法)	130
図 10: 「하다」の実現形(叙述用法)	130
図 11: [NP ₁ にある NP ₂]における「所有」(273 例中 17 例)	139
図 12: [NP ₁ がある NP ₂]の分類(264 例中)	141
図 13: [Pe ある Pr]の所有物(199 例)	141
図 14: 連体修飾「ある」の所有物(537 例中「所有」216 例)	145
図 15: [NP ₁ にいる NP ₂]の分類(270 例)	146
図 16: [NP ₁ がいる NP ₂]における「所有」(96 例中 16 例)	147
図 17: [NP ₁ 에 있는 NP ₂]における「所有」(263 例中 12 例)	149
図 18: [NP ₁ 가 있는 NP ₂]の分類(226 例)	152
図 19: [Pe 있다 Pr]の所有物(153 例)	152
図 20: 連体修飾「있다」489 例中〈所有(165 例)〉における所有物	155

図 21 : 連体修飾「もつ」 - [Pe V Pr]型の所有物(606 例中 437 例)	158
図 22 : 「もつ」の連体形 - [Pe V Pr](437 例)	164
図 23 : 連体修飾「もつ」 606 例中 - [Pr V Pe]の所有物(169 例)	165
図 24 : 「もつ」の連体形 - [Pr V Pe](169 例)	168
図 25 : 連体修飾「가지다」 500 例中 - [Pe V Pr]の所有物(339 例)	170
図 26 : 「가지다」の連体形 - [Pe V Pr](339 例)	175
図 27 : 連体修飾「가지다」 500 例中 - [Pr V Pe]の所有物(161 例)	176
図 28 : 「가지다」の連体形 - [Pr V Pe](161 例)	179
図 29 : [Pe V Pr] - もつ(437 例), 가지다(339 例)	181
図 30 : [Pr V Pe] - もつ(169 例), 가지다(161 例)	181
図 31 : 「する」と「하다」の所有物(Pe V Pr)	184
図 32 : [NP ₁ 의 NP ₂]の類型(1,034 例)	197
図 33 : [NP ₁ 의 NP ₂]の類型(1,050 例)	197
図 34 : 「の」における「所有」の実現様相(496 例)	206
図 35 : 「의」における「所有」の実現様相(740 例)	206
図 36 : 「の」と「의」における[Pr-Pe]型の内訳	207
図 37 : 「の」と「의」における[Pe-Pr]型の内訳	214
図 38 : 所有動詞の叙述用法－所有物の分類度	216
図 39 : 連体修飾 - [所有者(Pr)-所有物(Pe)]型における所有物の分類度	218
図 40 : 連体修飾 - [所有物(Pe)-所有者(Pr)]型における所有物の分類度	219
図 41 : 所有動詞の連体修飾と属格構造の相補的分布	221
図 42 : 叙述の類型における「所有文」の位置づけ	223

序章

従来の、所有表現に関する研究の大きな流れを見ると、主に存在文を対象とした「存在」と「所有」の区別に関する議論(2.1 参照) および、属格構造の意味的分類(6.1 参照) を行っているものが主流である。周知の通り、日本語と韓国語の所有表現は、大きく動詞による表現と属格構造による表現に分けられる。とりわけ多様な名詞の性質と機能に影響される所有表現においては、NP₁ と NP₂ の実現型 ([所有者－所有物]/[所有物－所有者]) および、それと密接に関連している名詞句の指示性・叙述性によって、動詞による表現と名詞による表現の間に違いがあり、両者の違いに注目することは、所有表現の研究において極めて重要である。

しかし従来の研究では動詞による表現と属格構造による表現を別々に扱ってきたため、両者の機能の分担や、所有の連続的様相に関する研究は極めて乏しいと言わざるを得ない。

本論文では、名詞句の指示性および叙述性、そして NP₁ と NP₂ の実現型 ([所有者－所有物]/[所有物－所有者]) に着目しつつ、動詞による所有表現と名詞による所有表現を考察し、互いに重なり合う側面と相補分布を成している側面を明らかにする。

0.1. 研究目的と研究対象

本論文は、「存在」や「所有」の意味の違いに対する認知論的な議論に深く立ち入るものではなく、日本語と韓国語におけるいくつかの所有を表す形式—「ある/いる, もつ, する, の」と「있다, 가지다/갖다, 하다, 의」—を研究対象として、対照言語学的な観点に基づきつつ、①所有物の分類から見られる、動詞文、形容詞文、コピュラ文に繋がる「所有」の連続的様相、②所有表現に見られる文法化、③動詞による所有表現と名詞による所有表現の機能の棲み分け、の3点について明らかにすることを目的とするものである。

主に名詞(句)の意味論的機能に注目しつつ、それぞれのコーパスから得られた実例の分析を通して、日本語と韓国語の所有表現における上述の①～③について考察を行う。

本稿は書きことばの小説(0.4 を参照) を資料としており、限られた範囲の考察に留めているという限界はあるものの、所有表現に対する新たな観点からの接近、そしてその結果に基づく所有表現の位置づけ、さらに日本語の場合と韓国語の場合の共通点と相異点を提示している点で、所有表現の研究のみならず対照言語学的にも意義をもつと思われる。

以下では、本稿での考察範囲について述べる。

第I部では、「ある/いる」と「있다」、「もつ」と「가지다/갖다」、「する」と「하다」によるそれぞれの所有文を取り扱う。これらの動詞による構文は、文中に現れる名詞とともに命題によって属性を表す場合もあれば、状態や出来事といった事象を表す場合もあるという点で共通する。

「所有する, 所属する, 属する, 内在する, 含める…」等のいわゆる「関係動詞類」として扱われる述語の多くは、叙述の類型 (1.4 参照) においては、比較的多様性を示さず、もっぱら述語の語彙論のレベルで叙述の類型が決まると思われる。それに対して、「ある/いる, もつ, する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」は、構文論のレベルで叙述の類型すなわち命題の意味的類型が決まるということに注目すべきである。

第Ⅱ部では、上掲の所有動詞—「ある/いる、もつ、する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」—による連体修飾節に加え、日本語と韓国語の属格構造—[NP₁의 NP₂]と[NP₁의 NP₂]—を考察の対象とする。連体修飾節による表現は文の場合と異なる様相を呈するという事に注意しなければならない。連体修飾節の場合と文の場合の大きな違いの一つとして、テンス・アスペクトの実現様相が挙げられる。さらに、連体修飾節の所有表現は、主名詞が所有物であるかそれとも所有者であるか（以下、[Pr-Pe]と[Pe-Pr]と呼ぶ）という実現型による特徴においても文の場合と異なる。

連体修飾による所有表現には、所有動詞による連体修飾のほか属格構造が含まれるが、属格構造における[Pr-Pe]型や[Pe-Pr]型の判断および、それぞれの意味関係(6章参照)は、コンテキスト依存的である場合も多く、さらに多様な様相を呈する。

以上のことを考慮に入れ、所有文と連体修飾による所有表現をそれぞれⅠ部とⅡ部に分けて取り扱う。

0.2. 本稿の構成

本論文は大きく、序章、第1章：本稿に直接関連する先行研究、第2章～第4章（第Ⅰ部）：所有動詞による構文、第5章～第6章（第Ⅱ部）：連体修飾による所有表現、第7章：結論で構成されている。

第Ⅰ部では、所有動詞による構文について、「属性叙述」と「事象叙述」という叙述の類型を考慮しつつ、各構文の使用実態を含む意味的、統語的特徴および、所有物の分類について考察する。第Ⅱ部では、所有動詞による連体修飾節と属格構造を検討した上、両者の機能に見られる違いおよび、日本語と韓国語での共通点と相違点を示す。

各章で扱う具体的な内容を次にまとめておく。

第1章では、類型論における「所有(Possession)」および、本論文と関連の深い「所有物の分類」「名詞の意味的機能」「叙述の類型」という概念に関する先行研究について概観する。

第2章では、名詞句の指示性と命題内容に注目しつつ、コーパスから得られた「ある/いる」構文と「있다」構文の用例を分析し、日本語と韓国語における存在文の分類を行う。

第3章では、日本語の「もつ」構文と韓国語の「가지다/갖다」構文について、角田太作(1991)を参考にしつつ、所有物の分類および、それぞれの構文の意味論的、統語論的特徴について見ていく。さらに、存在動詞の場合と異なる側面についても取り上げる。

第4章では、日本語の「する」と韓国語の「하다」によって表される所有文、すなわち、「属性」や「状態」を表す構文を対象に、所有物名詞(句)の特徴および、各構文の実現環境について、実例とともに見ていく。

第5章では、前述の所有動詞—日本語の「ある/いる」「もつ」「する」と、韓国語の「있다」「가지다/갖다」「하다」—による連体修飾節を検討し、所有者と所有物の実現型（[Pr-Pe]/[Pe-Pr]）および所有物の分類から見られる特徴を取り上げる。

第6章では、属格構造[NP₁의 NP₂]と[NP₁의 NP₂]を対象に、それぞれの意味構造による分類を行った上、属格構造による所有表現の主な機能と特徴について述べる。

第7章の結論では、第1章から第6章までの考察を踏まえ、まず、7.1では第Ⅰ部で扱った所有動詞による構文について、7.2では第Ⅱ部で扱った所有動詞の連体修飾節と属格構造について、それぞれの考察の結果明らかになったことを示す。続く7.3では所有表現における文法化および「所有」の連続する様相について述べる。最後の7.4では今後の課題と展望について述べる。

0.3. 研究方法と術語について

以下では、本稿の立場と研究の方法について述べた後、本稿で用いる概念や略語の表記を示す。

0.3.1. 研究方法

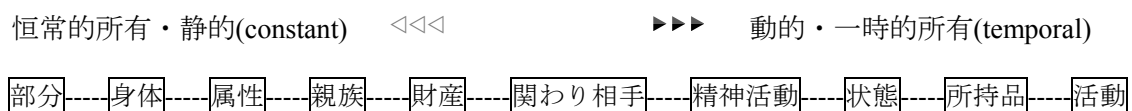
研究方法に当たって、「所有」を捉える本稿の立場について断っておく。

前述した通り、動詞文、形容詞文、コピュラ文に繋がる「所有」の連続の様相に焦点を当てている本稿の立場からすると、典型的とされてきた「所有」だけを切り取って考察すると、論点に繋がる重要な側面を捉えることができない。このようなことを考慮し、「所有」の周辺とみなされるところまで考察の範囲に含める。

「所有物の分類」は本論文の全体にわたって肝心である。これに関しては、原則として類型論に基づいている角田太作(1991)の「所有傾斜」(1.2 参照)に倣っている。なお、角田太作(1991)では所有者名詞がヒトであるものを扱っているが、本稿でいう「所有者」は必ずしもヒトに限らない。このようなことを含め、新たな項目が加わるなどの若干の修正および追加は避けられないということに注意されたい。

角田太作(1991)の「所有傾斜」に加え、「もつ」「가지다/갖다」(3章)の対象名詞に基づく関係を基準とする。「所有」と「存在(所在)」との区別を巡る議論が多い存在文や、意味関係の不明瞭性を巡る議論が多い属格構造とは異なり、「もつ」「가지다/갖다」による構文では、格関係によって所有者と所有物が比較的明瞭に捉えられる。

本稿で用いる所有物のカテゴリーを以下に示しておく。なお、各カテゴリーの詳細については、各章の考察の際に具体的な例とともに取り上げる。



所有物のカテゴリーにおいて、左側にいくほど所有者との関係は、通常、恒常的(constant)なものとして捉えやすい。〈部分〉〈身体〉〈属性〉は他の言語でも一般に「譲渡不可能(inalienable)所有」として扱われる。¹ 本稿の分類は基本的に譲渡可能か否かという区別に準じているが、時間的制限の可否に関連する恒常性や一時性という側面にも注目した分類である。

次に、実現される意味の曖昧性について、次のようなことに注意されたい。

1 世界の様々な言語に見られる譲渡可能性(alienability)による文法的な区別が Lyons (1968), Clark(1978), Chappell & McGregor(1996) 等によって論じられている。

所有物(名詞句)は、名詞の語彙的意味によって、通常「恒常的所有物」として捉えられるものもあれば、「一時的所有物」として捉えられるものもある。しかし実例における所有物の捉え方は、修飾語句をはじめとする構文全体に影響されるため、特定の語彙が常に恒常的所有物そして、あるいは常に一時的所有物として実現されるとはいえない。つまり、同一の名詞または名詞句が構文によっては異なる所有物のカテゴリーに属するという事は十分考えられる。

例えば「余裕／ゆとり」のような名詞を取り上げると、構文によっては〈属性〉または〈精神活動〉として解釈される場合もあれば、無情物をはじめとする指示対象の〈状態〉として捉えられる場合もある。仮に「余裕がある」といった場合は、構文によっては特定のヒトの恒常的性格を表す場合もあれば、一定の場面に限られる所有者の様子を表しているという可能性も考えられる。前者は恒常的〈属性〉とみなし、後者は一時的〈状態〉とみなしうる。

〈属性〉に関しては、その指す範囲がとりわけ広く、捉える立場も一律ではないが、本論文では一定の時間や期間における作用・状態にはまらない抽象的な事柄を「属性」とみなす。

所有表現全般において、広い意味範囲に及ぶ〈属性〉類が大きい割合を占めるということはある程度予測される。それゆえ、〈属性〉の割合そのものに大きな意味があるというより、むしろそれぞれの所有表現における他の所有物の分布および比較的割合に注目する必要がある。

0.3.2. 表記について

本稿においては、「所有者(Possessor)」、「所有物(Possessee)」の略称として「Pr」、「Pe」を用いる。[所有者+動詞+所有物]や[所有者_{-POSS}所有物]の形式で表れたものは[Pr-Pe]型と呼び、[所有物+動詞+所有者]や[所有物_{-POSS}所有者]の形式で表れたものは[Pe-Pr]型と呼ぶ。所有動詞による連体修飾節を指す場合は、[Pr V Pe], [Pe V Pr]と記す。

第2章の存在文の考察の際には、「所有」に限らないため、存在動詞の取る2つの項、すなわち「場所(Location)」と「主語(Subject)」の略称として、それぞれ「L」、「S」を用いる。Lは場所に限らず「～に」という場所名詞句に相当するものを指し、Sは主格「が」に限らず「は/も/さえ」なども含め、主語名詞句に相当する名詞句を指す。なお、「所有」とみなしうる場合は〈L=所有者(Pr)〉〈S=所有物(Pe)〉として捉えられる。その他、Advは副詞(Adverb)、Qは数量詞(Quantifier)の略称として用いる。

第6章においては、日本語と韓国語の属格構造を扱う。属格構造の表記は特に断りのない限り、[NP₁のNP₂], [NP₁의 NP₂]と記す。

韓国語における「가지다/갖다の文法化(3.4)」の例示をはじめ、構文における各形式の正確な意味を捉えるためにグロスが必要であると判断される場合は、日本語訳とともにグロスを付することとする。なお、ハングルをローマ字で表しているところは河野六郎(1947)²に倣っている。略語は本稿の末尾の「略語一覧」に記しておく。韓国語で書かれた文献および用例の日本語訳は筆者による。

2 河野六郎(1947)によるハングル字母と転写に用いるローマ字は次の通りである。

母音：ㅏ a, ㅑ ia, ㅓ oa, ㅕ e, ㅗ ie, ㅜ ue, ㅡ o, ㅠ io, ㅗ u, ㅠ iu, ㅓ ai, ㅓ iai, ㅓ oai, ㅓ ei, ㅓ iei, ㅓ uei, ㅓ oi, ㅡ y, ㅣ i, ㅓ yi, ㅓ ui / 子音：ㄱ g, ㅋ d, ㅍ b, ㅈ j, ㅋ k, ㅌ t, ㅍ p, ㅊ c, ㅊ gg, ㅊ dd, ㅊ bb, ㅊ jj, ㅌ s, ㅌ ss, ㅎ h, ㄴ n, ㅁ m, ㄹ r, ㅇ(初声)‘, ㅇ(終声)ng

0.4. 資料について

日本語の資料は、国立国語研究所の『現代日本語書きことば均衡コーパス(以下、BCCWJ と称する)』モニター公開データ (2009 年度版) の書籍 3,000 万語のうち、文学ジャンルを主な資料とする。用例抽出には、国立国語研究所公開の索引検索ツール「中納言」の語彙素検索を用いる。必要によってはオンライン検索システム NLB (NINJAL LAB for BCCWJ) を利用し、参考となる情報を提示する。

韓国語の資料は、現代韓国語の研究・教育用に作られた『21 세기 세종계획 연구, 교육용 현대 국어 균형 말뭉치 (21 世紀世宗計画研究・教育用現代国語均衡コーパス(以下、KNC と称する))』の書き言葉(written)のうち、小説作品(Imaginar)を主な資料として用いる。検索システムは KNC の活用システム「글잡이」を利用する。なお、用例の末尾にコーパス上の ID 番号を付す。

必要によってはオンラインで公開されている活用システム KKMA を利用し、参考となる情報を提示する。頻繁に使われない用法やわずかな頻度しか示さない用法については、コーパス以外の図書、インターネットの資料などを用いてさらに確認を行った。

第1章 先行研究

序章でも述べたように、本論文では所有物の区別による違い、名詞句の意味論的機能および文の命題による違いは、所有表現と深く関連していると考えている。所有表現とその周辺に見られる様々な言語現象を明らかにするためには、これらの意味論的な問題に注目すべきである。

このようなことを念頭に置きつつ、以下では本論文の考察の際に重要となる概念について見ていく。

まず、1.1 では、通言語的に「所有(Possession)」に関連する概念について見ていく。所有者と所有物の間に見られる分離可能性または譲渡可能性をはじめ、類型論において頻繁に取り上げられる所有物のカテゴリー、そして意味領域における曖昧性について理解することは、広義の「所有」を理解するためにも重要である。

1.2 では、類型論的な観点に基づいて所有物の分布に着目している角田太作(1991) を取り上げる。なお本論文の「所有物の分類」は角田太作(1991) の「所有傾斜」に動機づけられている。

続く1.3では、名詞句の意味論的機能に関する問題を詳細に取り扱っている西山佑司(2003, 2004) を取り上げる。本論文の第2章と第6章は西山佑司(2003) の論考に負うところが大きい。

1.4 では、「叙述の類型」について論じている益岡隆志(1987) を取り上げる。本稿は、「所有」というカテゴリーが「動詞文」「形容詞文」「コピュラ文」と連続線上にあるということが「所有」に対する明確な規定を難しくする要因であると考えている。これは益岡隆志(1987) のいう「属性叙述」と「事象叙述」の連続性と関連しており、本稿の考察に当たってこれらの概念について確かめておく必要がある。

1.1. 類型論における「所有」

いわゆる「所有(Possession)」は通言語的に非常に幅広い意味関係を表すとして、類型論をはじめとする従来の研究では属格構造の典型的な意味関係(Prototypical Conceptual Relations) もしくは中核的(Core) および、周辺的な(Peripheral/Marginal) 意味関係について論じているものが目立つ。

同時にこれらの意味関係をすべて「所有」として扱うべきか否かという議論も常に行われている。例えば、Taylor(1989, 1999) は「所有」を主に人間と所有物の間に成り立つ意味関係(Relation of Ownership) を指すとして、比較的狭い範囲の中で扱っている一方、Heine(1997: 22)³ は人間に限らず非情物(Inanimate) の所有者(Possessor) も含めてより広く捉えている。

他方、Langacker(1993) は所有の典型的なタイプとして「所有権(Ownership)／全体 - 部分(Part-Whole)／親族関係(Kinship Relations)」を挙げており、Stassen(1997) は「譲渡可能所有(Alienable Possession)」「一時的所有(Temporal Possession)」「譲渡不可能所有(Inalienable Possession)」⁴「抽象

3 Heine(1997) は認知言語学の立場から述語による所有表現、特に「have-construction」と名詞による所有表現を取り上げ、両構造の関連性とともに関与する概念的スキーマについて論じている。

4 Inalienability に注目した名詞の区別は、メラネシア諸語の所有標示に関する論考である Lévy-Bruhl(1914)から始まっている。Chappell&McGregor(1996), Lyons(1968), Clark(1978), Nichols(1988), Chappell &McGregor(1996), Heine(1997) 等によって世界の様々な言語に見られる譲渡可能性(alienability) による文法的な区別が取り上げられてきた。Nichols(1988: 562) には、「譲渡不可能」かそれとも「譲渡可能」かによる文法的な区別がある言語の場合、必ず前者の「譲渡不可能」に属する要素は閉じた体系であり、「譲渡可能」に属する要素は開かれた体系であるということが指摘されている。

的所有(Abstract Possession)」といった4つのタイプに分け、「譲渡可能所有」を中核的・典型的なものとし、「一時的所有」「譲渡不可能所有」を周辺的なものとして扱っている。「抽象的所有」は上述の3つのタイプの外側に位置づけられている。

さらに、所有関係の意味論的な分類と関連の深い概念として、前掲の「有情物対非情物(Animate vs. Inanimate)」: Heine(1997), Clark(1978), 「譲渡可能対譲渡不可能(Alienable vs. Inalienable)」: Nichols(1992), Svorou(1993), Stassen(1997)のほか、「位置的・空間的近接性(Contiguity of Location or Spatial Proximity)」: Lyons(1977), Clark(1978) もよく取り上げられる。

同時に Lyons(1968), Clark(1978), Stassen(2009) 等をはじめ、「存在」「所在」「所有」のそれぞれの表し方に比較的明確な違いが観察される言語を中心に「所有」に関する研究が積み重ねられてきた。

Lyons(1968: 392-393)によると、「存在」と「所有」の構造は「所在」から派生したもので、ラテン語をはじめとする定不定の標示を持たない言語では、通常、主題(topic)か評言(comment)かによって「所有」と「所在」を区別するという。

一方、30言語を対象に「所有」について調べている Clark(1978)によると、英語には以下の4つの構造の区別があり、このような区別は他の多くの言語にも見られるという。

- (1) a. There is a book on the table. (existential)
- b. The book is on the table. (locative)
- c. Tom has a book. (have possessive)
- d. The book is Tom's. (be possessive)

(Clark 1978: 87)

上掲の (1a) a book, (1b) the book と場所辞 on the table の関係は、(1c) a book, (1d) the book と Tom に平行的であるが、後者の (1c) (1d) は有情物が Loc (場所) として実現されている点で前者と区別されると説いている。さらに、(1a) (1c) では対象が不定(indefinite) であるのに対して、(1b) (1d) では対象が定(definite) であると述べ、対象名詞の「定性」による違いも指摘している。

Clark(1978) は「名詞句の配列順」「名詞句の定性」「名詞の有情性」に注目して上述の4つの構造を区別しているが、これらをすべて所在(locationals) に基づく構造と看做している点においては Lyons(1968) と同じ立場である。

ついでに、前掲の英語の例の対応構造に用いられる日本語の動詞としては「ある/いる」を提示している⁵ が、(2) の所在(Locative) のところに「いる」のみを挙げていることや、所有(Possess) に「ある」のみを挙げていることなど、情報の正確さに問題がある。

- | | | | | |
|-----|--------------------|-----------------|----------------------------|----------------------------|
| (2) | <u>Existential</u> | <u>Locative</u> | <u>Possess₁</u> | <u>Possess₂</u> |
| | iru [+animate] | iru | aru | aru |
| | aru [-animate] | | | |

(Clark 1978: 103-104)

⁵ 韓国語に関しては言及されていない。

Dixon(2009: 298-305) は、所有表現に使われる様々な言語の所有動詞を取り上げ、これらの動詞がとる所有物の制限について論じている。例えば、南アマゾンのジャラワ語では、英語の「have」に相当する動詞「-kiha-」は、おおよそ「分離可能所有」に該当する「ownership」のみに用いられ、「身体部位」や「親族」には使わないという。一方、ユト・アステカ語族のユト語の所有動詞「-ga-」の場合は、「親族」や「身体部位」のような、「分離不可能所有」とされる所有物のみを取るという。ちなみに Dixon(2009) では日本語の所有動詞として「ある」のみを提示している。

さらに、諸言語における所有・存在表現の使用状況については、「持つ」型言語と「ある」型言語を提示している風間伸次郎他(2013) も参考になる。

所有者と所有物の分離可能・不可能性による制限が明確な言語に比べると日本語と韓国語ではそれほど目立たないとはいえ、「ある」と「もつ」や、「있다(issda)」と「가지다(gajida)」の場合を見ても所有物の種類による影響がないとはいえない。

以上の類型論における議論を考慮しつつ、日本語と韓国語におけるそれぞれの所有動詞による構文を所有物の種類に注目して考察することは両言語の所有表現の特徴を正確に捉えるのに役立つ。

類型論的な研究で頻繁に取り上げられる概念は、いうまでもなく日本語と韓国語の所有文および属格構造の考察に当たっても参考になる。前述した通り、所有関係および所有者の捉え方は研究者によって有情物に限る立場もあれば、非情物も含めて広義に捉える立場もある。

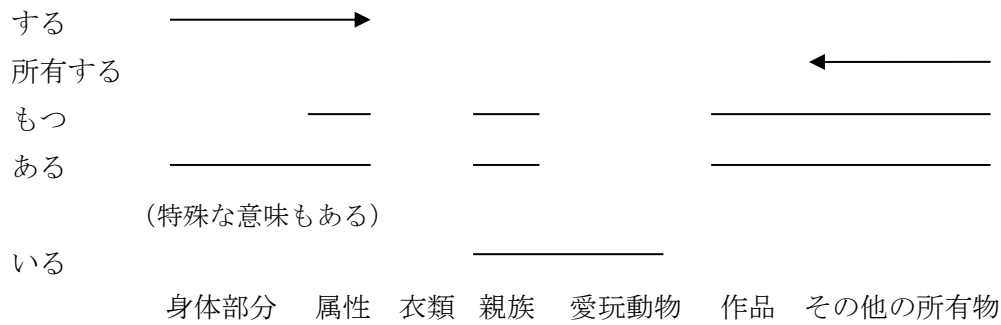
本論文では有情物に限らず、構文によってはモノや抽象的な事柄も所有者とみなするという立場に立ち、所有を広義に捉える。

1.2. 角田太作(1991)

角田太作(1991) は、「所有者」と「所有物」といった名詞句の意味的役割に注目しつつ、日本語の所有動詞と属格構造における所有物の分類について論じている。角田太作(1991[2009]) における「所有傾斜」および、「所有者+の+所有物」型と「所有物+の+所有者」型の区別はとりわけ本稿に示唆するところが多い。これらに関する記述を以下にまとめる。

角田太作(1991[2009]) は、「日本語の所有を表す動詞」として「する、所有する、もつ、ある、いる」を取り上げ、それぞれの動詞がとる「所有物」の種類の違いおよび、言語による違いを示している。具体的には、「分離不可能所有」と「分離可能所有」といった特徴に基づき、所有物名詞を左から右へと「身体部分」「属性」「衣類」「親族」「愛玩動物」「作品」「その他の所有物」のように区分した「所有傾斜」を提示している。

日本語の「する、所有する、もつ、ある、いる」に対する所有物の分布 (角田太作 1991[2009: 145]) を以下に示す。



角田太作(1991[2009: 158]) では、所有物のうち「身体部分」や「属性」について、「頭、性格」等のように「普通、誰にでもあるもの」と、「髭、才能」等のように「普通、誰にでもあるとは限らないもの」があると述べ、前者を「普通所有物」とし、後者を「非普通所有物」として区別している。その上、「もつ」の場合は、修飾語句の有無にかかわらず、通常、「身体部分」の名詞や、「普通所有物」に当てはまる「属性」に使えないなど、動詞の種類によって伴う所有物に違いがあると指摘している。このように、動詞の種類によって、また言語によって、それぞれの所有物の分布に違いがあるということは注目に値する。

序章で述べたように、本稿は原則として角田太作(1991) の「所有傾斜」に基づいているため、以上の指摘をはじめ、「所有物の分布」は本稿の全体にわたって重要な考察対象である。

また、次の指摘は属格構造(6章) の考察の際に参考になる。

角田太作(1991[2009: 154]) では、所有動詞のほか「名詞+の+名詞」を取り上げ、「所有者+の+所有物」型と「所有物+の+所有者」型があると述べ、「所有物+の+所有者」型に見られる制限について次のようなことを指摘している。

(3) 角田太作(1991[2009]) による「所有物+の+所有者」型

- a. 「身体部分」－ 髭の男、ホクロのこども、長い髪の少女
- b. 「属性」－ 並外れた体重の男、よい性格の男、立派な態度の女
- c. 「衣類」－ 眼鏡の男、長いスカートの女、あかいかばんの少女

上掲の「所有物+の+所有者」型の表現は、上で示した「所有傾斜」の「身体部分」と「属性」の名詞では使えるが、その下では使いにくいという。

とりわけ様々な意味構造を想定しうる属格構造の特徴を正確に捉えるためには、[所有者-POSS 所有物]または[所有物-POSS 所有者]という [NP₁ の NP₂] の実現型に注目してさらに考察を深める必要がある。

以上の角田太作(1991) は、「所有」の研究において考えるべきことを多く取り上げている点で注目に値するものの、実例に基づく使用実態よりも、母語話者の内省に頼っている記述が目立つ。

言語研究において母語話者の内省による判断が重要な手掛かりとなるということを否定するわけではないが、実例の分析に基づく実現様相、使用傾向における共通点・相違点にも注目すべきである。

さらに、[所有者-_{POSS} 所有物]や[所有物-_{POSS} 所有者]のような実現型による違いは属格構造に限らず、所有動詞の連体修飾においても重要だが、角田太作(1991) では所有動詞については同じ観点からの考察を行っていない。

本論文では各章で扱うそれぞれの所有表現に対し、所有物の分類および、[所有者+動詞+所有物]と[所有物+動詞+所有者]、[所有者-_{POSS} 所有物]と[所有物-_{POSS} 所有者]という構造の違いがもたらす影響について考察するとともに、対照言語学的な観点から日本語と韓国語における使用実態および類似点と相違点を提示する。

1.3. 西山佑司(2003)

西山佑司(2003) は、コピュラ文、存在文を中心に名詞句の指示性や叙述性をはじめ、意味論的機能に関連する問題を幅広く取り扱っている。なお本論文の分類、とりわけ第2章と第6章においては、西山佑司(2003) の論考に負うところが大きい。

まず、「名詞句の指示性」「指定コピュラ文」「(倒置)指定コピュラ文」という概念について取り上げる。

(I) 名詞句の指示性と非指示性

「指示的名詞句」と「非指示的名詞句」について典型的な例とともに要約する。

・指示的名詞句

(4) 隣の部屋に、メシアンがいる。(西山 2003)

例 (4) は世界のなかの個体を指示する機能を果たしており、「誰か/何か」が主語名詞句の指示対象であることが前提となる。下線部のところが一般名詞である場合は、固有名詞と置き換えても、通常、元の文で表される真理値は変わらない。

・非指示的名詞句(変項名詞句)

(5) なにか質問したいひとはありませんか。(寺村 1982)

(6) 洋子が教えることのできない科目がある。(西山 2003)

下線部のところは世界のなかの個体を本来的に指示しようとする働きと無縁であり、固有名詞に置き換えて表すことはできない。(5) (6) における主語名詞句のような機能を果たす名詞句を、西山佑司(2003) は「非指示的名詞句」の一つとして「変項名詞句」と名付けている。次の (7) のような存在文における「変項名詞句」は、(8) のような意味構造を持っていると解いている。

(7) こんなことを言う人がある。

(8) [X がこんなことを言う人である] を満たす X の値が空でない。

(西山佑司 2003: 405)

西山佑司(2003: 61) は、「指示的名詞句」と「非指示的名詞句」の区別はあくまで文中の名詞句が述語との関係で果たす意味機能上の相違であること、したがってこの区別は名詞や名詞句それ自体が有する性質ではないと看做している。

(Ⅱ) 「措定文」と「(倒置)指定文」

以下では西山佑司(2003: 119-141) による「措定文」「倒置指定文」「指定文」についての説明をまとめる。

<措定文(predicational sentence) : 「A は B だ」>

「A で指示される指示対象について、B で表示する属性を帰す。」という意味構造を持つ。

A は世界のなかの対象を指示し、B は対象指示の表現ではなく、A の属性・性質を表す。

次に措定文の典型的な例を示す。

(9) 太郎は学生だ／あいつは馬鹿だ。／モーツァルトは天才だ。／鯨は哺乳動物だ。

「太郎は学生だ」に登場する「学生」のような名詞句を「叙述名詞句(predicate nominal)」と称し、「非指示的名詞句」の一つとして扱っている。西山佑司(2003: 73) によると、「このばあいの「学生」は、「学生性」とでもいうべき属性を表し、その属性を主語「太郎」の指示対象に帰している」と述べ、「あのバラは赤い」「洋子は元気だ」のような形容詞文における述語「形容詞や形容動詞と同種の意味機能を有している」という。

<(倒置)指定文(inverted specificational sentence) : 「A は B だ/B が A だ」>

「誰が(=どれが)…であるか」という疑問文とそれに対する答えを単一文のなかで実現している文である。A は世界のなかの個体を指示する働きを一切もたず、非指示的である。

意味を変えずに「B が A だ」によって言い替えることができる。倒置指定文の典型的な例は次のごとくである。

(10) 幹事は田中だ。／太郎について気になる点は、彼の話し方だ。／委員長は、あのひとだ。

このように、倒置指定文「A は B だ」における A(変項名詞句)は、[X が NP である]という命題関数を表示しており、論理的には1項述語であるという。

さらに、「洋子が教えることのできない科目がある」といった場合、仮に「洋子が教えることのできない科目＝数学」であるとき、？数学がある」のように表せないと述べ、この文は「洋子はある科目を教えることができないということを述べているにすぎない」と説いている(西山佑司 2003: 75-76,89)。

「指定文(specificational sentence)」は上述の倒置指定文「A は B だ」を「B が A だ」に言い替え

た文を指す。次に指定文の例を挙げておく。

- (11) 田中が幹事だ。／太郎の話し方が、彼について気になる点だ。／あのひとが委員長だ。

以上の「指示的名詞句」「叙述名詞句」「変項名詞句」のような名詞句の意味論的機能による違いは、コピュラ文、存在文に限らず、所有表現全般に深く関連している。

前節で取り上げた「所有物の分類」も、名詞自体が有する意味というより（名詞自体の意味と一致する場合もあるが）、文中の他の名詞句や述語との関係に強く影響されるということに注意しなければならない。

次に、第6章(属格構造)での考察の際には、前掲の概念に加え、西山佑司(2003)の $[NP_1$ の $NP_2]$ の分類についても考える必要がある。

西山佑司(2003: 16)は $[NP_1$ の $NP_2]$ が表す表現自体の「言語的意味」に重点を置いて、次の五つのタイプを区別している⁶。

- (12) 西山佑司(2003: 16)による $[NP_1$ の $NP_2]$ の分類

- a. タイプ [A] : NP_1 と関係 R を有する NP_2
- b. タイプ [B] : NP_1 デアル NP_2
- c. タイプ [C] : 時間領域 NP_1 における、 NP_2 の指示対象の断片の固定
- d. タイプ [D] : 非飽和名詞(句) NP_2 とパラメータの値 NP_1
- e. タイプ [E] : 行為名詞句(句) NP_2 と項 NP_1

(12) の分類における決定的な要因としては、「 $[NP_1$ の $NP_2]$ における「 NP_1 の」が叙述性をもつかどうか、 NP_2 が飽和名詞であるかそれとも非飽和名詞であるか、さらには NP_2 が項構造を要求するか否か(西山佑司 2003: 49)」を挙げている。

西山佑司(2003)の観点からすると、「妹のセーター」と「女性のセーター」の「言語的意味」はいずれも「 NP_1 と関係 R を有する NP_2 」であり、「タイプ [A]」に当てはまる。一方、「女性用のセーター」の場合は、「 NP_1 デアル NP_2 」に言い替えられるということから「タイプ [B]」に属するという。

「言語的な意味」に注目した西山佑司(2003)の分類は、日本語の「 NP_1 の NP_2 」の多様なタイプの特徴を捉えるのに役に立つ。ところが、属格構造と所有動詞による連体修飾の機能の違いおよび日韓対照言語学的な観点に焦点を当てている本稿の立場からすると、実現した「構文の中での NP_2 に対する NP_1 の意味機能」にとりわけ注意を払うことが肝心である。名詞句の意味機能は当然ながら構文を離れては決まらないケースもあるわけで、多かれ少なかれ語用論とも関わっている。さらに、「言語的な意味」だけを重視すると、例えば、日本語では形容動詞をはじめ、意味的に形容詞に準ずる名詞が NP_1 にきた場合、容易に「 NP_1 デアル NP_2 」に言い替えられ、前掲

6 「3匹の豚」「二台の自転車」のような「数量詞+の+名詞」や「あのひと」「例の教師」「ある種の賄賂」のような「限定辞+名詞」は考察の対象外としている(西山佑司 2003: 52)。

の「タイプ [B]」に当てはまる。一方、韓国語では NP₁ に形容詞に準ずる名詞がきても、コンピュータ動詞を用いた「NP₁ 인 NP₂」とは表せない場合が少なくない。このようなことを含め、対照研究を考慮すると、新たな観点からの接近が不可欠である。

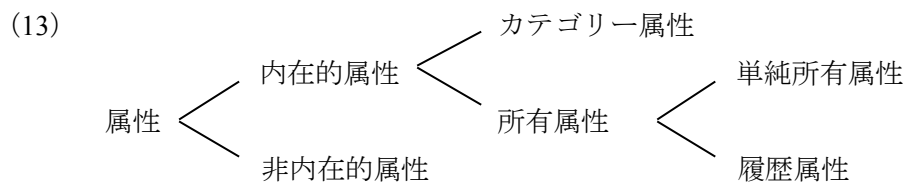
1.4. 益岡隆志(1987, 2004, 2008)

益岡隆志(1987) は、文を構成する二大要素、事柄の内容を表す「命題」と表現者の主観的な態度を表す「モダリティ」のうち、「命題」に関連する「叙述の種類」という概念について論じている⁷。益岡隆志(1987: 20) では、「命題」は「現実世界を対象として表現者がおこなう概念化を表現する形式」とし、命題の対象、つまり「現実世界を対象として表現者がおこなう概念化」を「叙述」と称している。

益岡隆志(2008: 3-15) は、「叙述の様式」として、「対象の属性を叙述するタイプ」と「出来事を叙述するタイプ」があるとし、それぞれ「属性叙述(Property Predication)」「事象叙述(Event Predication)」と名付けている。「属性叙述」については、「対象が有する属性を述べるものであり、その点で対象の存在を志向するという特徴を持つ。そのため構造的には、対象を表示する部分と属性を表示する部分という2つの部分で構成される」と述べ、文のレベルでは基本的に「主題(対象表示部分)+ 解説(属性表示部分)」という有題文の形で表されると説いている。

一方、「事象叙述」については、「特定の時空間に実現するイベント (出来事) を述べるものである。構造的には、個々のイベントを表す動詞(動詞述語)を主要部 (head) とし、それに補足語 (項 (argument)) と修飾語 (付加語(adjunct)) が従属部 (dependant) として加わる」と述べ、文のレベルでは第一次的には、無題文の形で表されると説いている。ちなみに、益岡隆志(2004) は「事象叙述文」が有題文の形を取りうるということを否定してはいない。益岡隆志(2004: 5-6) は、「属性叙述文」における「主題」について、「その存在が属性を付与するという文の内部的な事情により与えられている」と捉え、「文内主題」と称する一方、「事象叙述文」における「主題」は「談話・テキストのレベルで派生的に与えられる談話・テキスト主題である」という見解である。従来の研究においては「事象叙述」に比べ「属性叙述」の考察が不十分であると、「属性叙述」のさらなる考察の必要性について指摘している。

益岡隆志(2008: 5-8)では「属性」を大きく「内在的属性」と「非内在的属性」に分け、次のように図式化している。



(益岡隆志 2008: 7)

⁷ 現代日本語学において、文の命題に注目した代表的な論考としては佐久間鼎(1941)、三上章(1953)が挙げられる。命題に関する議論は近来に入って益岡隆志(1987, 2008)、仁田義雄(2001)をはじめ、再び多くの研究者によって盛んに取り上げられている。

「内在的属性」のうち「カテゴリー属性」の典型は、「日本は島国だ」のような名詞文「XはYだ」の構造を持つとし、「所有属性」の典型は、「あの人は優しい」のような形容詞文（属性形容詞文）であるという。「あの人は優しい」のような表現は「単純所有属性」を表すとし、「友人はフランスに何度も行った（＝友人はフランスに何度も行ったことがある）」のような表現は「履歴属性」を表すとして、両者を「所有属性」のなかに位置づけている。

一方、「非内在的属性」については、代表的な例として「あの人は多忙だ」を挙げ、時間的限定のもとで成り立つ性格のものであると説いている。

さらに、このような観点において注意すべき点として、前掲の緒タイプの中に「含意の関係(意味的な連鎖)」が認められること、「本来的に事象叙述を表す述語(用言)が一定の条件のもとで対象の属性を表す場合がある(＝事象叙述述語(事象叙述用言)の属性叙述化)」ということを経、属性叙述と事象叙述が相互に完全に分断されているのではない(益岡隆志 2008: 7) と述べている。

本論文の第2章においては、「～したことがある」という存在文を益岡隆志(2008)に倣い「履歴属性」として「所有表現」の一種とみなす。「属性叙述」と「事象叙述」の区別があり、そしてこれらの類型が連続的であると捉える観点も基本的に益岡隆志(2008)に倣っている。ただし、すべての構文が「属性叙述」と「事象叙述」の2つの類型に限られるかどうかという問題をはじめ、属性の下位分類の位置づけについては言語現象に基づくさらなる検証が必要である。

第 I 部 動詞による所有表現

第 I 部の研究の目的は、日本語と韓国語におけるいくつかの所有を表す構文—「ある/いる」「もつ」「する」, 「있다」「가지다/갖다」「하다」を述語とする構文—を対象とし, 書きことばコーパスの用例分析を通して, それぞれの存在・所有文の意味的類型と, 名詞句の機能を含め, 各類型における意味的・統語的特徴を明らかにすることである。所有文における「属性叙述」と「事象叙述」が一つの述語によって表される場合, それぞれの構文の類型はいかなるものに影響され, いかなる特徴を示すかに焦点を当てて考察を行う。

第 I 部の構成については, まず, 第 2 章では日本語と韓国語の存在動詞による構文の分類について述べる。なお, 典型的な所有表現に限らず, 所在文をはじめとする他の文型も考察範囲に含める。所有に限らず, 存在動詞による多様な文型を取り上げるのは, 周辺の文型との連続性に注目する必要があると判断されるためである。

続く第 3 章では「もつ」と「가지다」による構文について, 第 4 章では「する」と「하다」によって表される所有表現について考察する。

第 2 章 日本語と韓国語の存在文

本章の構成は次の通りである。まず 2.1 では, 日本語と韓国語の存在文に関する先行研究について概観する。2.2 では用例抽出について, 2.3 では分類方法について記す。

その後, 2.4 では「ある/いる」構文の分類を行い, 2.5 では「있다」構文の分類を行う。2.6 では存在文の分類に見られる日本語と韓国語の対照的な側面を提示し, 2.7 では本章の考察の結果を示す。

2.1. 先行研究

2.1.1. 「ある/いる」を巡る議論

日本語において存在動詞⁸による表現が一律ではないことは従来の研究でしばしば指摘されてきた。高橋太郎(1975)は「ある」が無生物だけではなく人間の所有にも用いられることを取り上げ, 「存在の表現」と「所有の表現」が区別されると述べている。また, 金水敏(1984)は「いる」が「所有」の意味を表す場合を含め, 「ある」と「いる」の使用環境について論じており, 角田太作(1991)では人間の所有には「ある」が使われるが, 動物の所有には「ある」を使えないということが指摘されている。このように日本語においては「ある」と「いる」といった動詞の種類による違いを巡る議論が目立つ。

一方, 「ある/いる」による「所在文」と「存在文」の違い, とりわけ「存在文」について詳細に論じている研究としては, 飯田隆(2002), 西山佑司(2003), 金水敏(2006)が挙げられる。

以下では「主語名詞句の指示性」によって日本語の「存在文」を分類している西山佑司(2003,

8 本稿における「存在動詞」の「動詞」という名称は, 「用言」という意味で用いる。また, 「意味的に存在に関わる用言」としては, 「있다」の他に「존재하다 (存在する), 실재하다 (実在する), 위치하다 (位置する)」や「계시다 (いらっしゃる), 없다 (ない)」も挙げられるが, 本稿では「있다」のみを考察の対象とする。

2004) と、「ある」と「いる」の使い分けを主な根拠として「空間的存在文」と「限量的存在文」を区別している金水敏(2006) を取り上げる。

まず、西山佑司(2003) は、日本語の存在文を「場所表現を伴う存在文」と「場所表現を伴わない存在文」とに分け、さらに次のように下位区分している。1.3 でも述べたが、本稿における存在文の分類は基本的に西山佑司(2003) の次の分類に基づいている。

(14) 場所表現を伴うタイプ

- (i) 場所存在文 (例：机の上にバナナがある) (中立叙述)
- (ii) 所在文 (例：おかあさんは、台所にいる)
- (iii) 所在コピュラ文 (例：おかあさんは、台所です) (措定文⁹)
- (iv) 倒置指定所在文 (例：その部屋には誰がいるの？...洋子がいるよ) (総記)
- (v) 存現文 (例：おや、あんなところにリスがいるよ) (中立叙述)

(15) 場所表現を伴わないタイプ

- (i) 実在文 (例：ペガサスは存在しない)
- (ii) 絶対存在文 (例：太郎の好きな食べ物がある)
- (iii) 所有文 (例：山田先生には借金がある)
- (iv) 準所有文 (例：フランスには国王がいる)
- (v) リスト存在文 (例：甲：母の世話をする人はいないよ。
乙：洋子と佐知子がいるじゃないか。)

(西山佑司 2003: 393-417)

上掲の「場所表現を伴うタイプ」のうち、「場所存在文」については「最も標準的なタイプの存在文であり、空間的場所における対象の有無を表す」とし、場所を必須とすると記している。それに対して、「所在文」の場合は「特定の対象をとりあげ、それについてその居場所、位置などを叙述する文であり、このタイプの主語は一般的に定名詞句である」という。

一方、「場所表現を伴わないタイプ」に属される「絶対存在文」についての記述を見ると、「主語名詞句は変項名詞句であり、文全体はその変項の値の有無を述べているだけであって、その値がどこかの場所に存在すること、つまり、空間的な一定の位置を占めていることを述べているわけではない(西山佑司 2003: 92)」と説いている。

「所有文」「準所有文」に関しては、主語名詞句が指示的機能を果たさない「変項名詞句」であるとし、「絶対存在文」の変種として位置付けている。西山佑司(2003) の「所有文」と「準所有文」に相当するものは厳密に言って「恒常的所有」に限られる狭義の「所有」である。

9 「措定文(predicational sentence)」とは、西山佑司(2003: 123) によると、「A で指示される指示対象について、B で表示する属性を帰す」と規定される「A は B だ」のコピュラ文のことを指す。西山佑司(2003: 128) は、「「A は B (だ)」における B の位置には名詞以外に、形容詞や形容動詞が現れることも珍しくない」と指摘し、その例として「彼は彼女より背が高い」「今日の海は静かだ」などの例を挙げている。

さらに、前掲の分類には含まれていないが、西山佑司(2004) では「帰属存在文」という存在文の文型を付け加えている。「帰属存在文」についての説明を以下に挙げる。

「LニS ガイル/アル」という形式にたいする帰属存在文の読みとは、<L がしかじかのメンバーからなる集まりを表し、S の指示対象がそのメンバーに該当する>という読みである。この場合、L は場所辞ではない。S は指示的名詞句である。
(西山佑司 2004: 173)

次に、金水敏(2006) では、「ある」「いる」の使い分けおよび場所名詞句の統語的位置に注目して存在文の分類を行っている。金水敏(2006: 4-15, 41) では、「存在の対象物が物理的な空間を占める表現」を「空間的存在文」と称し、「ある集合の要素の有無多少について述べる表現」を「限量的存在文」として区別している。

さらなる特徴をもつ文型として、「所有文」「リスト存在文」を提示しているが、意味的に「限量的存在文」と同じ分類の中に含めている。

以下に金水敏(2006: 20-30) の存在文の分類を代表的な例とともに示す。

(16) 空間的存在文

- ・所在文 例) お父さんは ({会社/アメリカ/どこか} に) いる。
- ・生死文, 実在文 例) お父さんはもう {??ありません/いません}。
 {ペガサス/シャーロック・ホームズ/神様/幽霊/宇宙人}はいます(いません)。
- ・眼前描写文 例) あ、子供が {いる/*ある}。

(17) 限量的存在文

- ・部分集合文 例) 最近は、教科書以外の本は一冊も読まない学生が {いる/ある}。
- ・初出導入文 例) 昔、ある山奥の村に、太郎という男の子が {いた/あった}。
- ・疑似限量的存在文 例) 昔、太郎という男の子がある山奥の村に {いた/*あった}。
- ・所有文
 語彙的所有文 例) 私には 婚約者が {ある/いる}。
 統語的所有文 例) 私には結婚を約束した人が {ある/いる}。
 疑似所有文 例) 私には婚約者が北海道に {*ある/いる}。
- ・リスト存在文 例) A 社のブレーンにはニュートン、アインシュタイン、湯川秀樹が
 {ある/いる}。

金水敏(2006) によれば、「空間的存在文」は場所名詞句を必須とする、すなわち「二項存在動詞」を取る構文であり、場所名詞句は基本的に動詞の直前に置かれる。

一方、「限量的存在文」の動詞は「一項存在動詞」であり、場所名詞句は必ずしも要しないとし、場所名詞句の基本的な語順は主語より前であるという。「限量的存在文」における「二格名詞句」は項ではなく、随意的な副詞句として位置づけられている。

金水敏(2006) の分類は、場所表現に関わるか否かによって大分類している点では前述の西山佑司(2003) と大きく変わらないが、主語の指示対象が有情物であっても「ある」が使えるという現象を主な根拠としている。

「所有文」「リスト存在文」に関しては金水敏(2006)と西山佑司(2003)での名称と中身のいずれも一致する。一方、「部分集合文(金水敏 2006)」「眼前描写文(金水敏 2006)」と「絶対存在文(西山佑司 2003)」「存現文(西山佑司 2003)」は、それぞれの名称は異なるものの中身は同じものを指している。残りの項目に関しては両研究の注目している側面が異なる。

以上の西山佑司(2003) と金水敏(2006) の分類は、命題の意味構造の観点から見ると、次のような点において議論の余地がある。

まず、西山佑司(2003) の「存現文」や、金水敏(2006) の「眼前描写文」「初出導入文」は、命題内容による分類とはいえない。命題内容に焦点を当てると、「存現文」「眼前描写文」は基本的に「場所存在文」の意味構造をもっており、「初出導入文」は「絶対存在文(西山佑司 2003)」または「部分集合文(金水敏 2006)」の意味構造を有していると考えられる。そしてそこに語用論的な要因が加わるとさらにそれぞれの文型に分けられるとみなすべきではないだろうか。

次に、西山佑司(2003) は存在文の意味構造をコピュラ文と関連付けている点で非常に興味深い。コピュラ文の構造と関連のある「ある/いる」構文を網羅的に取り上げていない。

韓国語においては、日本語における「ある」と「いる」のような区別がないため、金水敏(2006) の根拠を韓国語に適用することはできないが、金水敏(2006) の場所名詞句の位置付けや、西山佑司(2003, 2004) のいう名詞句の指示性、およびコピュラ文との関連性は、存在文の考察に欠かせない重要な要因であり、「있다」構文の分類にも大いに参考になる。

2.1.2. 「있다」を巡る議論

「있다」構文の多様な意味に着目している研究としては, 박양규(1975)をはじめ, 남기심(1993), 유현경(1998), 장미라(2002) 等が挙げられる。

박양규(1975: 94)によると、「B 에(게)¹⁰ A 가 있다 (B に A がある/いる)」が「所有の表現」である場合は、B や A に「所在の表現」の場合と異なる「共起制約」があるという。「共起制約」の一例として有情性と無情性による「体言選択の制約」を取り上げ、「所有の表現」における「B 에」の B は一般に「有情物」であると述べている。

一方、以下の(18)のように、B が「無情物」である場合も「所有の表現」として捉えられる場合があるが、これは「机」と「引き出し」の間に一種の「非分離関係」が成り立つからであると論じている。

ここで「非分離関係」とは、「全体と部分」「本体と属性」「親族関係」などのように、B と A の間に既に結ばれている、いわゆる譲渡できない所有の関係をいう(박양규 1975: 95)」と定義されており、「A は常に B を前提とするため、これらの分離はこれら自体の破壊や変質を意味する」と付け加えている。

10 場所名詞句が有情物である場合は「-에」ではなく、「-에게」もしくは「-한테」が使われる。

- (18) 저 책상에 설함이 있을까? (あの机に引き出しがあるだろうか?)
 (19) 저 책상에 시계가 있을까? (あの机に時計があるだろうか?)
 (20) 저 책상에 내 시계가 있을까? (あの机に私の時計があるだろうか?)

(박양규 1975: 95)

上掲の例 (19) は一般には「所在の表現」として捉えられるが、適切な状況を与えれば「所有の表現」である可能性も考えられ、その意味解釈において曖昧性を有すると説いている。

仮に「책상 (机)」に「시계 (時計)」が装置された特殊な場合を想定すると、(19) は「所有の表現」になりうるということである。

それに対して、例 (20) では「시계 (時計)」の所有主を別に明示することによって、解釈の曖昧性が解消されていると述べている。同様に、B が「有情物」である「B 에게 A 가 있다 (B に A がある/いる)」の場合も「所在の表現」である可能性が完全に排除されるわけではないという。

박양규(1975: 97) は、「있다」の用法は実に多様であって常に「所有」や「所在」のみを表すわけでもなければ、常に処格を支配するわけでもないと記しているが、議論の焦点は「所有表現」に見られる特徴を明らかにすることにあり、「所有」と「所在」以外の表現は考察の対象としていない。結論として、「있다」で表される「所有表現」の機能は、実際の言語使用の場面で話し手や聴き手によって付与される実用的な意味解釈であり、「所在表現」の機能から区別されるような文法的論理が別に存在するわけではないと主張している。すなわち、「所有」と「所在」の区別は語用論的な問題であるということであろう。박양규(1975: 104) のこのような見解は注目に値する。ただし、「있다」構文の分類は語用論的な要因だけではなく、「名詞句の指示性」といった文の構成要素の意味機能とも密接に関わっている。

次に、韓国語の助詞「-에」と「-로」の用法を網羅的に扱っている 남기심(1993: 14) では、自動詞文「NP₁ 가 NP₂ 에 V」における NP-에¹¹ の意味のうち「所在地」を表す「-에」の場合は、他の助詞に置き換えられないということの特徴として挙げている。

「所在」と「存在」の区別に関しては、「所在の場合は「NP-에」が必須項であるのに対して、存在の場合は随意的である(남기심 1993: 20-21)」と指摘されている。「NP-에」を必要としない場合の一種として「때(時), 적(こと), 사건(事件), 경우(場合), 일(こと), 소문(うわさ), 약속(約束)など」の名詞が「있다(ある), 없다(ない)」構文の主語として用いられる場合を挙げている。

一方、「所在」として取り上げている例を見ると、「NP-에」の NP が具体的な場所を指示する場合に限らず「경우(場合), 처지(境遇)」などの抽象的な事柄を指示する場合も含めている。この点、本稿の立場と異なる。後に取り上げるが、本稿では「NP-에」の NP が抽象的な事柄を指す場合は主語との関係において「所在」と区別すべき意味構造を有するものとする(2.5 参照)。

11 「単語結合論」に基づいて「-에格」の用法に着目している研究としては趙義成(1996) が挙げられる。趙義成(1996: 16, 20) は、「場所-에 + 存在詞/存在動詞」型の「対象の存在場所を表す-에格」は「用言と強く結びついており、単語結語の構成素をなしている」とみなす一方、「-에格」「-가格」および存在詞からなる文で、「-가格」が「-에格」で示された対象の部分や属性を表し、「-에格」で示された対象がその全体、すなわち所属源を表す」場合は「単語結語をなさない用法」として区別している。

남기심(1993) では, 「NP-가」 と 「NP-에」 の二項を要求する構文として「事物の所在」を表すものの他に, 「2 つの NP が所有-被所有の関係を表すもの」を取り上げ, それぞれの統語構造(남기심 1993: 22)を示している。次の (21) (22) がそれである。

(21) は「所在」として「NP-가」と「NP-에」の「語順の置き換えが自由である」という特徴をもつと指摘しており, (22) はいわゆる「所有」に当てはまるが, 「二重主語文として実現される」また「さらなる「NP-에」が随意的に現れうる」ということを特徴として挙げている。

(21) NP₁-이 NP₂-에 있다/없다

(22) NP₁-에/에게(한테) NP₂-이 있다/없다

NP₁-이 NP₂-이 있다/없다

유현경(1998) は, 韓国語の形容詞を対象に統語的な側面に基づいて形容詞文の基本文型を提示しているが, その中で「있다」について取り上げている。

「있다」によって表される意味のうち, 考察の範囲を「所在」と「所有」に限ってその違いについて述べている。「所在文」と「所有文」についての説明を以下の表にまとめる。

表 1. 「있다」による「所在文」と「所有文」(유현경 1998: 204-221 を要約)

	所在文	所有文
項構造	(NP ₁ 에) NP ₂ 가 Adj (~に) ~가 ある/いる	NP ₁ 에 NP ₂ 가 Adj ~に ~가 ある/いる
二重主格文の成立	일층(에/*이) 전화기가 있어서 一階(に/が) 電話が あって	아내(에게/가) 몸살 기운이 있어서 家内(に/が) 寒気が あって
連体修飾節の主名詞に関わる制約	전화기는 일층에 있으므로 電話が 一階に あるから → 일층에 있는 전화기 一階に ある 電話	나에게도 선약이 있다 私にも 先約が ある → ?나에게 있는 선약 私に ある 先約
NP の機能	主体尊敬「-시-」は NP ₂ 가 と呼応 → NP ₂ 가 が主語, NP ₁ 에 は場所	主体尊敬「-시-」は NP ₁ 에 と呼応 → NP ₁ 에 が主語, NP ₂ 가 は補語 ¹²
動作性 (副詞との共起 /アスペクト /意図性)	나는 집에 {*꽤, 잘} 있다 私は 家に {かなり, よく} いる 나는 집에 있겠다 (未来意志) 私は 家に いる 너는 집에 있어라 (命令) あなたは 家に いる	나는 돈이 {꽤, *잘} 있다 私は お金が {かなり, よく} ある *나는 돈이 있겠다 (未来意志) 私は お金が ある *너는 돈이 있어라 (命令) あなたは お金が あれ

12 성광수(1979: 64-67) は, 철수가 돈이 많다(チョルスが お金が多い)という文の NP₁ と NP₂ を両方とも「主語」とみなしている。格標識をもった内面構造の「a. 철수에게 돈 많다 (チョルスに お金 多い)」から「b. 철수에게 돈이 많다 (チョルスに お金が多い)」のように, 一次主語化の過程を経て, 「c. 철수가 돈이 많다 (チョルスがお金が多い)」のように, 随意的な二次主語化が起こった結果, 二重主語文が形成されると捉えている。

述語の格構造によって「돈(お金)→ 돈이(お金が)」という「客格の主語化」が義務的であるのに対し, 「与格または処格の主語化」, つまり「철수에게 (チョルスに)→ 철수가 (チョルスが)」は選択的であるとみなしている。

次に, 장미라(2002) は, 文の構成成分の意味的な特徴および語順に注目して「存在」と「所有」を次のように区別している。「所有を表す있다構文は, 存在文では随意的である場所の位置に, 人間を表す名詞句がきて人間中心の所有関係を形成する。この場合, 存在表現ではその位置が比較的自由的な場所名詞句が, 文頭に固定される。さらに, 主格表示と結合して二重主格構文をなす(장미라 2002: 77)」と述べている。

장미라(2002) のいう「存在」はいわゆる「所在」のことを指している。「存在」と「所有」に加え, 両方を表す「存在・所有」の基本構造を以下のように示している。

- (23) a. (NP₁에) NP₂가 V (存在文)
 b. NP₁에게/가 NP₂가 V (所有文)
 c. NP₁에게 NP₂가 V (存在・所有文)

(장미라 2002: 65-67)

従来の研究を検討すると「所有文」の特徴として ① 二重主格構文の成立, ② 「NP₁에/에게/가 NP₂가 있다」の形式の「固定された語順」, を挙げている点において共通している。

以上の研究をはじめ, 韓国語学における「있다」の研究¹³ では, 主に形態・統辞論的なふるまいに注目して, 形容詞や動詞との同異, 「所在」と「所有」の区別に関連する要因を明らかにしてきた。ところが, 命題や名詞句の指示性を含む意味論的な観点, 文脈による解釈といった語用論的な観点からの考察は不十分である。

2.2. 用例について

日本語における「ある/いる」の用例については, BCCWJ の「ベストセラー」のうち, 「文学」ジャンルから検索された「ある」と「いる」の例をそれぞれ 1 万例のところで区切った後, 補助動詞「-ている」「-である」をはじめ, 「-とある」「-とあって」「-にあって (において)」「-だけあって」「それでいて」「こともあろうに」「しかたありません」「いたいた」, さらに「-する必要がある」のような話者の態度に関わるものを除く残りの例を対象とする。連体修飾用法は修飾部と被修飾名詞との意味的格関係などを考慮し, 叙述用法と別に第Ⅱ部(5章)で取り扱うが, 場所名詞句と主語名詞句が述語に先行する「NP に/で NP がある前」「NP に/で NP があった後」のような用法は本章で取り上げる。

韓国語における「있다」の用例については, KNC の書きことば(written)のうち, 小説(Imaginar)に絞って形態素単位で検索をかけると 42,229 例¹⁴ が得られた。検索された例を前方から 1 万例のところで区切った後, 補助動詞「-아/어 있다 (ている)」をはじめ, 「-고 있다 (ている)」「-ㄴ 수 있다(できる)」「-ㄴ 필요가 있다(する必要がある)」「-ㄴ 리가/-ㄴ 턱이 있다(するはずが/するわけがない)」「-는 한이 있어도(することがあっても)」「-에/에게 있어서(にとって/に

13 이완웅(1929), 박승빈(1935), 최현배(1937), 李熙昇(1955), 성광수(1976), 서정수(1991)等。

14 유현경(1996: 200)によると, 3,000 万文節を対象とした「있다」の頻度数調査の結果, 580,874 の頻度で現れ, 用言のうち「하다 (する)」に次いで 2 位を占めているという。

において)」および、「재미있다(面白い), 맛있다(美味しい), 멋있다(格好いい)」などのような一単語のものを除く残りの例を対象とする。連体修飾用法は 5 章で扱うが、「ある/いる」の場合と同様, 場所名詞句と主語名詞句が述語の前に置かれる「NP 에/에서 NP 가 있기 전(～に/で～がある前)」「NP 에/에서 NP 가 있는 후(～に/で～があった後)」のような表現は本章で取り上げる。

2.3. 分類方法について

本稿の分類方法と分類基準については以下のような方法を採用。

(Ⅰ) 存在文の分類に当たっては, コピュラ文との関わりに注目した西山佑司(2003, 2004) に基づき, 「指示的名詞句」「非指示的名詞句」「措定コピュラ文」「(倒置)指定コピュラ文」という概念(1.3 参照)を取り入れる。分類の詳細に当たっては, テキストの中における「ある/いる」構文を検討し, 名詞句の指示性, 時間的限定の可否, 場所表現の関与について判断する。

まず, 西山佑司(2003) の分類のうち, 「所在コピュラ文(例: おかあさんは, 台所です)」は「ある/いる」構文ではないため, 本稿の考察範囲に入らない。また「存現文」については「場所存在文」にさらなる語用論的な要因が加わったものとみなす。最後に「準所有文」は「所有文」に含める。残りの「実在文」「絶対存在文」「リスト存在文」「帰属存在文(2.1.1 参照)」は西山佑司(2003, 2004) の定義に倣う。

(Ⅱ) 韓国語の存在文に関しては, 対照言語学的な観点から日本語の「ある/いる」構文の類型を基準に, 命題内容に注目しつつ, テキストにおける「있다」構文の検討を通して類型化を行う。

例えば, 次の (24) を取り上げて説明すると, テキストを確認しない限り (25) と (26) のいずれの解釈も可能である。

(24) 가해자가 있어 치료비를 부담해주는 것도 아니고... [CE000079]

(加害者がいて治療費を負担してくれるわけでもないし...)

(25) そもそもだれも害を与えていない

(26) 加害者に当たる人が今この場にはいない／所在地がわからない

仮に, 話し手が (25) のように思っていて (24) を発言したとすると, 主語「가해자 (加害者)」は世界の中の個物を指示していない非指示的名詞句であり「絶対存在文」にはまる。

一方 (26) の意味で発言した場合は, 「가해자 (加害者)」は特定の人物を指しているわけで指示的機能を果たしている。そしてその人物の居場所を問題とする文であるため「場所存在・所在文」に当てはまる。

(Ⅲ) 本稿における「ある/いる」構文と「있다」構文の類型を表にして以下に示しておく。表 2 の墨塗りの項目は本稿で新たに提示する文型である。「-」で示す部分は, 「있다」には見られるが「ある/いる」には見られない文型, またはその逆のケースを表す。

表 2. 本稿の分類 - 日本語と韓国語における存在文

類型		「ある/いる」構文	「있다」構文
空間的	場所存在・所在文	「空間的場所における対象の有無」および「特定の対象の居場所・位置」について述べる文である。	
	生起存在文	主語名詞句 S は出来事や活動を指し示し、特定の時間・空間における S の生起について述べる文である。	
非空間的	様態存在文	もっぱら主語名詞句 S の様態(副詞)を問題にする文である。 特定の空間を限定することはできない。S は指示的名詞句である。	
	所有文	指示対象 NP ₁ を取り上げ、NP ₂ でもって特徴づける文である。 「A は B がある/いる」のような二重主格構文が成立する。	
	属性数量詞存在文	「NP ₁ は NP ₂ が Q(属性数量詞) ¹⁵ ある」の形で「NP ₁ の NP ₂ は Q だ」という意味構造を有する。	-
	[NP-TOP NP-LOC V]型 処格指定存在文	「NP ₁ は NP ₂ にある/いる」の形でもって「NP ₁ は NP ₂ だ(倒置不可)」という意味構造を有する。	
	[NP-TOP NP-INS V]型 具格指定存在文	-	「NP ₁ 는 NP ₂ 로 있다」の形でもって「NP ₁ 는 NP ₂ 이다(倒置不可)」という意味構造を有する。
	実在文	西山(2003) に倣う。2 個の M ₁ , M ₂ を仮定し、M ₁ において指示対象をもつ表現 A が、M ₂ においてはその対応物を有する/有しない、ということ述べる文であり、主語名詞句 S は指示的名詞句である。	
	倒置指定存在文	「NP ₁ は NP ₂ にある」の形でもって「NP ₁ は NP ₂ だ/NP ₂ が NP ₁ だ」という意味構造を有する。	
	リスト存在文	西山(2003) に倣う。背後にかならずなんらかの変項名詞句が介在しており、その変項を埋める具体的な値を列挙する S は指示的名詞句である。	
	帰属存在文	西山(2004) に倣う。L は L と語用論的に関連している個物の集まりを表し、S の指示対象は L のメンバーに該当する S は指示的名詞句である。	
	絶対存在文	西山(2003) に倣う。S は変項名詞句であり、その変項の値 x が空ではないことを述べる。	
	時間存在文	-	通常「NP 있다」の形で「時間が経つ」や「時間を待つ」という意味を表す。

上掲の分類について、まず、特定の空間上に実現する事態を述べるもの（以下、「空間的存在文」と呼ぶ）と、特定の空間と関わりのないもの（以下、「非空間的存在文」と呼ぶ）に二分類する立

15 韓必南(2013) では、「高さが 300m はある」「体重が 100kg もある」に加え、「子供が四人いる」のような人数を表すものも含めてしまったが、「高さ、重さ」などの値は主体の内的な属性であるのに対し、個数、人数などの数量は外的であり、区別すべきである。以下、本稿における「属性数量詞」とは、「高さ、重さ、長さ」などのような、主体の内的な属性の値を表すもののみを指すということに注意されたい。

場は先行研究と変わらない。次に、先行研究では「出来事や活動の生起を述べるもの」や「もっぱら主語の様態について述べるもの」は取り上げていないが、本稿では前者を〈生起存在文〉、後者を〈様態存在文〉と称し、考察の対象に含めている。さらに〈所有文〉については、恒常性を帯びるものから一時性を帯びるもの、抽象的な事柄から具体的な事柄まで多様かつ広範囲にわたる表現であると考えている。考察に当たっては所有物のカテゴリーに注目しつつ、所有文の実現様相について具体的な例とともに見ていく。

最後に、〈属性数量詞存在文〉は「ある」構文においてのみ見受けられる一方、[NP-TOP NP-INS V]形式で表れる〈具格指定存在文〉や、〈時間存在文〉とでも称しうる文型は「있다」構文においてのみ散見される文型であり、日本語と韓国語の対照言語学的な観点から注目に値する。

(Ⅳ)「ある/いる」と「있다」の上掲の文型について、益岡隆志(1987)の「叙述の類型」の観点に基づき、「事象叙述」として位置づけられるもの、「属性叙述」として位置づけられるもの、さらにいずれにも当てはまらないものを提示する。

以下の2.4では「ある/いる」構文の分類について述べ、2.5では「있다」構文の分類について見ていく。

2.4. 「ある/いる」構文の分類

意味的分類において注意すべきことは、「AにBがある/いる」といった同一の表現形式で表されていても、文全体が表そうとする命題は一様ではないということである。

例えば、Aの指示対象が「空間的場所」である場合もあれば、「Aの中に」という形で何らかの集合体を指し示す場合もある。また、Aが「空間的場所」である場合は、Bにくる名詞との関わりによって「事物の所在」や「出来事の生起」として捉えられるケースもあれば、「所有者—所有物」として捉えられるケースもあり、一つの表現形式でもっていくつかの異なったタイプの命題を表す。

以下の2.4.1では「空間的存在文」について取り上げ、2.4.2では「非空間的存在文」の下位分類および意味的・統辞的特徴について見ていく。

2.4.1. 空間的存在文

「ある/いる」構文のうち、「空間的存在文」は一定の時間・空間において実現する事態を表す存在文であり、「事象叙述存在文」とも称しうる。これらの構文における主語名詞句Sは指示的であり、場所名詞句Lは物理的・空間的場所を表す。空間的存在文は少なくとも〈場所存在・所在文〉〈生起存在文〉に区別される。以下の各項目ではそれぞれのタイプについて実例とともに見ていく。

2.4.1.1. 場所存在・所在文

ここでは「空間的場所における対象の有無」および、「特定の対象の居場所・位置」について

叙述する「ある/いる」構文について取り上げる。西山佑司(2003) は、前者を「場所存在文」と呼んで一般に「LにSがある/いる」の形式をもつとし、後者を「所在文」と呼んで一般に「SはLにある/いる」の形式をもつと述べている。なお、本稿は「場所存在文」と「所在文」の区別を否定する立場ではないが、主語名詞句が特定名詞句である場合においてはこれらの区別が必ずしも明確であるとは言い切れないため、〈場所存在・所在文〉として取り上げることとする。〈場所存在・所在文〉の内訳を以下に示す。

表 3. 〈場所存在・所在文〉の語順別割合 (597 例)

	語順	ある	いる
場所存在・所在文	LS/S	62.3% (165 例)	47.3% (157 例)
	SL/L	37.7% (100 例)	52.7% (175 例)
	計	100% (265 例)	100% (332 例)

上の表で見て取れるように、「ある」においては述語の直前に主語名詞句 S がきているもの(62%)が目立つ一方、「いる」においては述語の直前に場所名詞句 L がきているもの(52%)が比較的多い。

まず、「〈場所 L〉 + 〈主語 S〉 + ある/いる」および「〈主語 S〉 + ある/いる」の形式で現れた例について取り上げる。以下に典型的な例を示す。

- (27) 通り沿いに昭和シェルのガソリンスタンドがあつて、その少し先なんだけど [OB6X_00015]
 (28) ドアの横には冷蔵庫がある。 [OB3X_00154]
 (29) 棚には缶詰の食品もいくつか並んでいる。米も卵もある。 [OB4X_00122]
 (30) アパルトマンに戻ったとき、台所にねずみがいたのです。 [OB1X_00055]
 (31) そこにはソフィーの祖母がいて、銀髪が夜の闇に淡い光を放っていた。 [OB6X_00109]
 (32) だからもし起きておばあちゃんがいなかったら白髭神社において [OB6X_00084]

主語名詞句に注目すると、「ある」における S はほとんど不定名詞句であるのに対して、対象が有情物である「いる」の場合は上掲の (31) (32) をはじめ、S が特定の者を指している例が過半数を占めている。主語名詞句の伴っている助詞は、疑問文や否定文を除き、「S が ある/いる」が一般的である。疑問文や否定文では次の例のように「S は ある/いる」で現れる。

- (33) この近くに、水明荘の他に旅館やホテルはありますか？ [OB1X_00175]
 (34) それで、尼僧院にハイメ・ミロはいたのですかな？ [OB3X_00026]
 (35) カーテンから洩れる陽は明るく、隣の床に衿子はいない。 [OB2X_00128]
 (36) ママはいる？ [OB3X_00036]

S の数量に関する情報が現れている例も少なからず見受けられる。数量詞を含む 52 例中 81% が「(L)S ある/いる」に当てはまる。数量の示し方を見ると、「S が Q」タイプ、「Q の S」タイプ、「S の Q」タイプが現れている。「ある」においては「S が Q」タイプが目立つ一方、「いる」に

においては「QのS」タイプが際立つ。なお、(41)のような「SのQ」タイプはすべて「いる」の例である。

(37) 部屋の中には机がひとつあり、事務椅子がふたつ、そしてビニール・シートの補助用の椅子がふたつ置いてあった。〔OB3X_00111〕

(38) 護摩壇の中に、四つの炉があり、…〔OB2X_00266〕

(39) 小屋には四匹のうさぎがいて、どれも若く生き生きとして元気そうだ。〔OB4X_00163〕

(40) 庭には、ライフル銃を持った六人の兵士がいた。〔OB5X_00108〕

(41) 奥座敷には、藤森幸一郎、笹岡照二、それに山賀組三代目の田城正雄の三人がいた。
〔OB2X_00203〕

さらに、次の例は「L^でSがいる」の形式で現れており、注目に値する。

(42) 外来でたくさんの患者さんがいても、昼ごはんも食べずに、じっくり話を聞িয়েくれる。
〔OB6X_00025〕

定延利之(2008: 29-34) は「四色ボールペン、北京でありましたよ」という表現が不自然ではないと述べ、「見てきた／味わってきた」といった「体験の発言」では状態をデキゴト化し、「デキゴトの存在場所を表すことば」に付ける「で」を用いる場合があると指摘している。

(42) では「モノ」ではなく「ヒト」が対象である点で異なるが、(42)の「外来で」の場合も「患者さんの診察」というデキゴトの存在場所として捉えているという可能性が窺われる。

次に、「〈主語 S〉+〈場所 L〉+ある/いる」および「〈場所 L〉+ある/いる」の例を取り上げる。

主語名詞句が明示されている例を見ると、「S^はLにある/いる」の形が一般的である。ただし、「いる」においては従属節を成している例が多く、「S^がLにいる」の例も比較的高頻度(37%)を示している。以下に「〈主語 S〉+〈場所 L〉+ある/いる」の典型的な例を示す。

(43) 彼女のアパートは恵比寿にあったからだ。〔OB3X_00140〕

(44) 実家は電車で北に三十分ほど行った町にある。〔OB6X_00083〕

(45) この日、塚本氏は、東京にいて、別荘には、彼女と…〔OB3X_00091〕

(46) 梶田氏の事件のあったときにも、お婆さんは窓際にいたのだろうか？〔OB6X_00126〕

(47) だれか鉄也がここにいるということを通報したものがあのではないか。〔OB1X_00011〕

(48) 自分の息子がすぐそばにいるというのにその父親が知らないなんて。〔OB5X_00201〕

一方、コンテキストから主語名詞句が明確であり、「〈場所 L〉+ある/いる」の形をとっているケースとしては次のような例が挙げられる。

- (49) 「熱いココアでも飲むかい」「そうね、でも、ここにあるかしら」〔OB2X_00066〕
 (50) 中にテープは入ってなかったようだ。「そっちにあったっけ」〔OB2X_00116〕
 (51) そんなら朝までここにいるよ。動くの、めんどくさい。〔OB6X_00016〕
 (52) ホテルのバーに一時間ほどいて出ると、十時だった。〔OB2X_00135〕

上掲の例のように〈場所 L〉のみが現れたケースにおいては、主語が話し手や聞き手を指す「いる」の例が極めて多く、(51)をはじめ、「いてよ、いたい、いてあげる/くれる/もらう」などの意志・動作性に関わる形式が際立つ。「いる」の例においては、さらに(51)(52)を含めて「まだ／もう／いつまで／今／今月」のような、具体的な時間・期間が明示されているものも少なくない。このように「いる」構文において時間表現がとりわけ目立つのは、モノとは異なり、ヒトは常に動く存在であるという側面が言語活動に影響を与えているといえよう。

2.4.1.2. 生起存在文

一定の時間帯において発生する出来事・活動を表す存在文を〈生起存在文〉と呼んでおく。〈生起存在文〉は「ある」のみに見られる用法である。以下に語順別割合を示す。

表 4. 〈生起存在文〉の語順別割合

	語順	ある	いる
生起存在文	S	70.1% (82 例)	-
	(起点/着点)LS	21.4% (25 例)	-
	LS	8.5% (10 例)	-
	計	100% (117 例)	-

文脈から出来事の起こる場所が明らかであり、L が省略されている例、または特定の場所に関心が向けられておらず S のみが現れている例が 7 割を占めている。なお、L だけの例は現れていない。

L が表面的に現れているか否かにかかわらず、S は具体的な事象を指すため、必然的に時間性・空間性を帯びている。「明日／今朝／来月／十二月の日曜日／三日前に」など、出来事の発生時間が具体的に明示されている例も少なくない。

S のみが現れている例としては次のような例が挙げられる。

- (53) 明日、重大発表がある、というニュースが伝わったあと、父親は妙に活気づいて、私たちに言った。〔OB6X_00125〕
 (54) 「今日はビデオがありますので、じゃあスクリーンの正面に」世話役の教授が案内する。〔OB6X_00205〕
 (55) もどって聞けば、夜中に地震があつて…〔OB1X_00135〕

次に、L と S が明示されている例を見ると、処格名詞句「L で」を伴い「出来事の生じる場

所(place)」を表している例のほか、奪格名詞句「Lから」を伴い「行い手(agent)」または「起点(source)」を表している例や、「Lに」でもって「着点(goal)」を表している例が見受けられる。

以下の(56)～(60)をはじめ、Sに「連絡／呼び出し／申し出／報告」などのような一種の言語活動として捉えられる名詞がきて、Lはそれの「起点(source)」や「着点(goal)」に当てはまるケースが目立つ。

(56) それから二時間後にチャールズ・コーンから電話があった。[OB4X_00266]

(57) 節子さんから電話があったぞ。[OB6X_00067]

(58) あなたの所に連絡はありませんでした？ [OB3X_00137]

(59) 国務長官のところにガボン大使館から正式な抗議があったんだ。[OB5X_00121]

(60) 一昨日の夜になって、久慈駅の遺失物係から、署に問い合わせがありましてね [OB2X_00134]

一方、(61)～(63)のように、Lが出来事の生じる場所を示す例はわずか8%に過ぎない。主語名詞句Sには、「事故／試合／爆発／会合」のような出来事を表す名詞類がきている。

(61) 今日、十一時から、三田にあるM倶楽部ってところで、パーティーがあるらしいの。
[OB4X_00115]

(62) 一週間ほどして、家の前で、水道管の工事があったんですよ。 [OB2X_00204]

(63) 「三週間ほど前にあのマンションの前で、人が自転車に撥ねられて亡くなるという事故があったんですが... [OB6X_00126]

前述の〈場所存在・所在文〉と〈生起存在文〉は、いずれも一定の時間・空間の上に実現する事態について述べる文である。これらの文型においては、場所名詞句(L)や主語名詞句(S)を取り上げ、さらに具体的に描写することも可能である。これは両方の名詞句が指示的機能を果たしているからにほかならない。したがって、「空間的存在文」は「事象叙述」として位置づけられる。

2.4.2. 非空間的存在文

「非空間的存在文」は、意味構造によってさらに「指定文の意味構造をもつタイプ（以下、指定構造存在文）」と、「指定文の意味構造をもつタイプ（以下、指定構造存在文）」に分けられる。以下では、まず「指定構造存在文（2.4.2.1～2.4.2.5）」に属す〈様態存在文〉〈所有文〉〈属性数量詞存在文〉〈処格指定存在文〉〈実在文〉について取り上げ、その後、「指定構造存在文（2.4.2.6

～2.4.2.8)」に属す〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉について見ていく。2.4.2.9では、いずれのタイプにも当てはまらない文型として〈絶対存在文〉を取り上げる。

2.4.2.1. 様態存在文

ここで取り上げる構文は、対象の存否や対象の占める場所には関心が向けられておらず、もっぱら主語名詞句で指示される対象のありさまを表す。このように、指示対象をその様態でもって特徴づける、すなわち「AはB(様態)だ」の意味構造を有する「ある/いる」構文を〈様態存在文〉と呼んでおく。

以下に示すように主語名詞句の指示対象が有情物であり、「いる」の例が目立つ。これらの構文においては、副詞成分が必須であり、省略できないのが特徴的である。副詞との語順に注目して分類した結果を次の表に示す。

表 5. 〈様態存在文〉の語順別割合 (94 例)

	語順	ある	いる
様態存在文	S-Adv	81.8% (9 例)	37.3% (31 例)
	Adv	18.2% (2 例)	56.6% (47 例)
	L-Adv	0% (0 例)	2.4% (2 例)
	Adv-L	0% (0 例)	2.4% (2 例)
	SL-Adv	0% (0 例)	1.2% (1 例)
	計	100% (11 例)	100% (83 例)

構造に目を向けると、「ある」の場合は、現れた 11 例中 9 例は主語と副詞が明示された S-Adv に当てはまる。残りの 2 例は、S が文脈上明らかであり、省略されている Adv に当てはまる。

「ある」で現れた例を見ると、「どう」「～とともに」、「～ように」のような副詞が現れている。〈様態存在文〉において「ある」の例が明らかに少ないのは、「いる」と異なり、「～で」を伴うとコピュラ文として捉えられてしまうことも理由の一つであろう。

(64) ここに掲載した二人の高校生の体験談は、ぼくに、あらためて父としてどうあるべきかを考えさせてくれたものです。 [OB2X_00029]

(65) 私の心は、常に皆様とともにある。 [OB6X_00087]

一方、「いる」の場合は、S は省略され、副詞のみが現れた Adv の例が 56% の大きい割合を示しており、それに次いで S-Adv の例も高い頻度で現れている。

副詞として「～と一緒に／～ずに」に加え、「～したままで／独りで／～するつもりで」などを伴った例も見出される。

(66) 軽蔑している男なのに、彼と一緒にいると、自分はレディなのだと感じさせられてしまう。

[OB5X_00070]

(67) どう挨拶してよいのやら判らないのか、黙ったままでいる。[OB4X_00168]

(68) あいつは長いこと独りでいすぎた。[OB6X_00043]

(69) このまま一人で部屋の中にいたら、頭がおかしくなりそうだわ。[OB5X_00070]

わずかながら L が現れている例として (69) が挙げられるが、副詞「一人で」を省略し、L「部屋の中に」とすると、単に情報の量が少なくなるのではなく、表そうとする意味が変わってしまうということに注意すべきである。

〈様態存在文〉においては、「ある」の例に限ると、特定の時間に限らないのが一般的だが、「いる」の場合は「しばらく／その時／十年も」などのような時間的制限を受けているケースが多く、「事象叙述」の一面も持っている。強いて言えば、「ある」に比べ、「いる」の方は「事象叙述」として実現されやすいといえよう。

2.4.2.2. 所有文

〈所有文〉は、指示対象を取り上げて「〈所有物〉がある/いる」でもって特徴づける、すなわち意味的に指定制造を有する。表れた構造に注目すると、以下の表に示すように、所有物のみが明示された形式が最も目立つ。なお、所有者(Possessor)、所有物(Possessee) はそれぞれ Pr, Pe と記す。

表 6. 〈所有文〉の語順別割合 (1,045 例)

	語順	ある	いる
所有文	Pe	52.8% (497 例)	52.4% (54 例)
	Pr-Pe	45.6% (432 例)	47.6% (49 例)
	Pe-Pr	1.4% (13 例)	0% (0 例)
	計	100% (942 例)	100% (103 例)

所有者と所有物が両方とも明示されている例を見ると、ほとんどの例は [Pr-Pe] に当てはまる。以下の例のような [Pe-Pr] の形式は倒置による強調と考えられる。

(70) 浦野の論説には魅力があるし、強みがある。 [OB4X_00083]

(71) それだけの才能が、たしかに彼にはあったのです。[OB4X_00199]

所有者名詞の示し方は与格名詞句「NP に(は)」が約 6 割を占めており、それに次いで「NP は」が 25% を占めている。残りの例は「NP も」が比較的多く、さらに所有者と所有物が両者とも「NP が」で表れ、二重主格構文を成しているケース(3%)も観察される。

一方、所有物名詞の意味的、語彙的特徴に注目すると、「性格、教養、癖」などのように恒常

性を帯びるものもあれば、「違和感、苦しみ、焦り」などのように一時性を帯びるものもある。さらに「～に対して興味がある」「～と関係がある」などのように、一定の対象を要求するケースもある。表現形式に注目すると、〈所有文〉は少なくとも次のようなタイプに下位区分しうる。

- ・タイプ(I)：「Pr(に)はPeがある」形式をとる典型的所有文
- ・タイプ(II)：「PrはNPにPeがある」の形式をとる。
- ・タイプ(III)：「PrはNPとPeがある／PrとPrはPeがある」の形式をとる。

まず、タイプ(I)を取り上げると、所有物(Pe)は「魅力／才能／体力／人気／迫力／教養／経験／癖」などのような抽象的性質を表すものが最も目立つ。代表的な例としては前掲の(70)(71)をはじめ、次のようなものが挙げられる。

(72) 気品があって清々しい。[OB5X_00169]

(73) あなたはもっと愛される資格があるわ。[OB5X_00056]

(74) わたしには母と二人の妹がいます。[OB3X_00121]

所有物の分類の詳細については「있다」構文とともに改めて2.7で取り上げ、続けてタイプ(II)とタイプ(III)について見ていく。

所有物名詞が「不満／興味／疑問／自信／影響／心当たり／見覚え」のような感情・感覚を表すもので対象の「に格名詞句」を要求する場合と、「話し／お願い」のような言語活動をはじめとして相手の「に格名詞句」を要求する場合はタイプ(II)に当てはまる。まず、前者について取り上げると、「に格名詞句」を「～に対して」に言い替えられる場合(28%)も少なくない。(75)のように「所有者(Pr)、対象、所有物(Pe)」がすべて明示されているケースはわずか7%に過ぎず、文脈上所有者(Pr)が明らかであり、現れていないケースがほとんどである。

所有者(Pr)が現れている例においては、所有者は「に格」ではなく、一般に「NPは/も」の形をとっている。以下の例における「妻に」「心霊現象に」は感情の対象であり、所有者の「に格名詞句」と区別される。

(75) もっとも、伊織は別れて暮らしている妻に、特別未練があるわけではない。

[OB2X_00349]

(76) 心霊現象にキョーミあるの？ [OB6X_00005]

さらに、「話したいこと／尋ねたいこと」のような言語活動をはじめ、「借り／見せたいもの」のような名詞句が現れ、活動の相手に相当する「に格名詞句」を伴っている例(26%)も散見される。所有物(Pe)は、願望を表す「～たい」の修飾を受けている統語的構成のものが極めて多い。

所有者(Pr)は1人称の場合がほとんどであり、通常現れない。所有者が現れている例は以下の(78)の1例のみである。

(77) ナナコにあったら訊きたいことがたくさんあった。 [OB6X_00084]

(78) 俺な、うちのじいちゃんにはずいぶん借りがあるんだ。 [OB6X_00033]

最後に、タイプ(Ⅲ)は、所有物名詞が一定の比較対象「NP と」や「NP に」を要求する「関係／掛り合い／違い／共通点」などの語彙であり、それが文全体の構造に影響を及ぼしている。タイプ(Ⅲ)においても、所有者は「NP に」ではなく、「NP は/も/が」のような形で表されるのが一般的である。

(79) それが、例の事件と、どんな関係があるんですか？ [OB3X_00035]

(80) 首席助役も、山崎公安室長も、沼田助役も、全員、関係があるだろうというのですがね。
[OB2X_00227]

このように、〈所有文〉は所有物名詞の意味的、語彙的な性質に強く影響され、恒常的な属性を表すもの、一時的な状態を表すもの、さらに一定の対象を要求するものなど、極めて広範囲にわたる表現である。

2.4.2.3. 属性数量詞存在文

西山佑司(2003: 345) は、コピュラ文の「東京タワーは 300m である」のような構文を指し、「措定文であり、その言語的意味は、〈東京タワーは、[R は 300m である] 〉である」と述べ、語用論的な操作によって変項名詞句 R の中身が補完され、「東京タワーは、高さは 300m である」のような解釈が得られると記している。これらを「属性数量詞構文」と呼んでいるが、「ある」構文にも同類のものが見受けられる。

本稿ではこのような存在文を〈属性数量詞存在文〉と呼んでおく。〈属性数量詞存在文〉は、意味的に「A は B が C である／A の B が C である」ということを表し、「象は鼻が長い」構文に類似した「措定文」にほかならない。なお、この用法は「ある」のみの用法である。〈属性数量詞存在文〉の現れ方を次の表に示す。

表 7. 〈属性数量詞存在文〉の語順別割合 (45 例)

	語順	ある	いる
属性数量詞存在文	Pr-Q	37.8% (17 例)	-
	Pr-Pe-Q	24.4% (11 例)	-
	Pe-Q	20.0% (9 例)	-
	Q	17.8% (8 例)	-
	計	100% (45 例)	-

(81) 「平気、平気。ぼく、結構身軽だし」うそをつけ。軽く百キロはあるだろう。[OB6X_00134]

(82) 背は、百六十五センチくらいあるらしいが、平凡な顔立ちの女に見える。〔OB3X_00118〕

(83) ギャラリー両脇の殺風景な壁は高さが三十フィートもあり、上方は闇に吸い込まれている。
〔OB6X_00010〕

数量詞の後にくる助詞は「くらい／ほど／も」がほとんどである。構造に注目すると、上の表で見て取れるように、所有物が現れていない「Pr-Q」に次いで、所有者と所有物の両者とも明示されている「Pr-Pe-Q」の例が比較的多く、そのほか所有者が現れていない「Pe-Q」や、数量詞のみが現れている例も観察される。それぞれの形式の出現頻度の差はそれほど大きくない。

〈属性数量詞存在文〉は時間性や空間性とは無縁であり、常に「属性叙述」として捉えられる。

2.6 で再び取り上げるが、〈属性数量詞存在文〉は韓国語の存在文には見受けられない文型として注目に値する。

2.4.2.4. 処格措定存在文

「SはLにある/いる」の形でもって意味的に「SはL(状態・身分)だ」を表す構文がある。注意すべきことは、「LがSだ」のように倒置することはできないということである。このような存在文を「処格措定存在文」と呼んでおく。

〈処格措定存在文〉は、LによってSの一時的状態として捉えられるケースもあれば、恒常的属性として捉えられるケースもあり、「準属性叙述」として位置づけうる。

意味的に〈所有文〉に類似しているものの、〈処格措定存在文〉においては、「AはBがある」のように表すことはできない。非文にならない場合でも表そうとする意味に違いが生じるということに注意されたい。語順に注目して〈処格措定存在文〉の内訳を以下の表に示す。

表 8. 〈処格措定存在文〉の語順別割合 (51 例)

	語順	ある	いる
[NP _{-TOP} NP _{-LOC} V] 処格措定存在文	SL	85.2% (23 例)	66.6% (16 例)
	L	14.8% (4 例)	29.1% (7 例)
	LS	0% (0 例)	4.1% (1 例)
	計	100% (27 例)	100% (24 例)

L としては主に「状態／地位／立場／要職／傾向／最中」のような名詞が修飾語句を伴って現れている。以下に代表的な例を挙げる。

(84) 秋雪は心臓障害で長時間の歩行が困難な状態にあり、もうベビーカーは窮屈になっていて、
車椅子を使うしかなかった。〔OB6X_00216〕

(85) 彼の妻は結婚後も仕事を続けており、それなりに責任のある地位にいますが、
それにしても最近、深夜に帰宅することがあまりにも多すぎる。〔OB5X_00068〕

語順に注目すると、表 8 で見て取れるように、「S は L にある/いる」のような形で現れた例が極めて多い。「いる」においては、次のような LS 順の例も 1 例見受けられるが、「ある」においては LS の例は見受けられない。

(86) 藤森，笹岡二人の親分のうち，どちらが葬儀委員長になってもおかしくはなかった。

二人の下に，京浜兄弟会の親分たち六人衆もいた。鶴見の川瀬惣十郎，海岸の外山勇，伊勢佐木の秋元繁次郎，高島町の高橋吉松，鶴岡町の雨宮満安，神奈川の滝沢隆一であった。

[OB2X_00203]

2.4.2.5. 実在文

ここで取り上げる構文は，西山佑司(2003) の「実在文」や金水敏(2006) の「生死文」に相当する。主語 S を取り上げ，それが仮想のものであるかそれとも現実のものであるかについて述べる文や，S が亡くなってこの世に存在しないということを述べる文である。〈実在文〉における主語名詞句 S は指示的機能を果たす。

現れた形式に注目すると，「ある」と「いる」のいずれにおいても S のみの例が最も多い。

表 9. 〈実在文〉の語順別割合 (24 例)

	語順	ある	いる
実在文	S	80.0% (8 例)	71.4% (10 例)
	SL	10.0% (1 例)	28.6% (4 例)
	L	10.0% (1 例)	0% (0 例)
	計	100% (10 例)	100% (14 例)

(87) 「バケモノなんていないよ」芦川は，塾の教室で先生の質問に答えるときと同じ，揺るぎない口調で否定した。 [OB6X_00062]

(88) 呪いなんてあるわけがない。 [OB5X_00253]

(89) もし，あのとき兄がパーティーに出席していなかったら，彼はもうこの世にはいないのだ。 [OB4X_00244]

(90) “座”とは仏教でいう六道の中にある人間としてのポジションといったもので，この世にあるうちに座の向上をはからなくては，来世に向けてよい往生が得られないとしています。 [OB2X_00162]

述語の形に注目すると，「ある」の場合は「あるわけがない／あるかもしれない／あったら／あるうちに」のいずれかに当てはまり，「いる」の場合は「いたかもしれない／いない／いなければ」のいずれかに当てはまる。

場所名詞句 L が現れている例を見ると、「この世に／後世に／どこにも／どの時代に／小説の世界なら」のような名詞句が L にきている。〈実在文〉は意味的に「S は仮想のものだ/S は現実のものではない」という「指定構造」を有しているとみなしうる。

以下で見ていく構文は、いわゆる「指定文」と密接な関係にある。本稿では「指定構造存在文」と呼んでいるが、これには〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉という文型が当てはまる。

2.4.2.6. 倒置指定存在文

「S は L にある」もしくは「L に S がある」の形式でもって、「S は L だ」という倒置指定文の意味構造を有する存在文を〈倒置指定存在文〉と称する。

これらの構文は「L が S だ」のように言い替えても表そうとする意味に違いは生じない。〈倒置指定存在文〉に当てはまる例は「ある」のみに見受けられる。

表 10. 〈倒置指定存在文〉の語順別割合 (56 例)

	語順	ある	いる
倒置指定存在文 [NP-TOP NP-LOC V]	SL	75% (42 例)	-
	LS	25% (14 例)	-
	計	100% (56 例)	-

(91) 私の今やっておる研究の目的はその信号を解析することにある。[OB2X_00153]

(92) 喧嘩のもともとの原因は、抄子の身勝手さにある。[OB3X_00017]

(93) 苦悩するがゆえに人間である。その苦悩に挑み、乗り越えていくところに、真実の人間の偉大さがあり、ヒューマニズムの勝利がある。[OB5X_00073]

例 (91) の場合、「研究の目的はその信号を分析することである」または「その信号を分析することが研究の目的である」として捉えうる。これらは「S は何か」という問いを立て、それに当てはまる値として「それは L だ」と答えられる点が特徴的である。このような構造が成り立つのは、主語名詞句が変項名詞句であるということを示唆する。

主語名詞句としては「原因／目的／理由／焦点／問題／違い／矛盾／不満」などの名詞類が現れている。語順に目を向けると、SL 構造(75%) が一般的であり、(93) のような LS 構造は倒置による強調と思われる。

また、以下の例のように、「どこにあらう」という形式でもって「何であらう」という意味を表すものも〈倒置指定存在文〉と見なしうる。

(94) リーが彼を愛さなくてはならない理由がどこにあらう？ [OB4X_00268]

2.4.2.7. リスト存在文

西山佑司(2003) に倣い、変項名詞句 L と指示的名詞句 S で構成され、意味的に「(L といえば、L としては) S が挙げられる」のように解釈される存在文を〈リスト存在文〉と称する。

表 11. 〈リスト存在文〉の語順別割合 (67 例)

	語順	ある	いる
リスト存在文	S	75% (39 例)	66.6% (10 例)
	LS	25% (13 例)	33.3% (5 例)
	計	100% (52 例)	100% (15 例)

「ある」と「いる」のいずれにおいても、L が現れておらず、S のみの例が目立つ。L は一般に文脈から容易に復元できるが、文脈がないと命題の意味が正しく読み取れない場合が少なくない。以下の (95) においては、「L：よろこび上手の決め手 = S：家庭の家風、本人の性格」という解釈が得られる。主語名詞句 S には固有名詞がきている例が目立つ。

(95) 〈よろこび上手〉には、生まれながらの素質というものもある。家庭の家風もあるだろうし、本人の性格もあります。〔OB4X_00210〕

(96) 「跡目は、誰にするつもりですか」「健しか、いないだろう...」〔OB2X_00193〕

(97) 信長の気に入りの家臣ならば木下藤吉郎や明智光秀がいた。〔OB1X_00207〕

西山佑司(2003) の指摘の通り、〈リスト存在文〉は意味的に指定文の構造を有しているとみなされる。

2.4.2.8. 帰属存在文

西山佑司(2004: 173) に倣い、「L = S ガイル/アル」形式において、「L がしかじかのメンバーからなる集まりを表し、S の指示対象がそのメンバーに該当する」という定義に当てはまる存在文を「帰属存在文」として分類する。これらの文における L と S は両方とも指示的機能を果たしている。

表 12. 〈帰属存在文〉の語順別割合 (47 例)

	語順	ある	いる
帰属存在文	LS	52.6% (20 例)	55.6% (5 例)
	S	28.9% (11 例)	33.3% (3 例)
	L	13.2% (5 例)	0% (0 例)
	SL	5.3% (2 例)	11.1% (1 例)
	計	100% (38 例)	100% (9 例)

上の表で見て取れるように、〈帰属存在文〉においては「ある」の例が目立つ。次の (98) (99)

をはじめ、LS の順で現れている例が過半数を占めている。

(98) 証拠物の中には梶の自白調書がある。 [OB6X_00222]

(99) 参加者のなかに、懐かしい笑顔があった。七年前に、伸一がカナダのトロントを訪問した折、空港で、ただ一人、迎えてくれた泉谷照子である。 [OB6X_00113]

(100) 例の北原が、N組に、いたんだな？ [OB3X_00035]

以上では「指定構造存在文」として〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉を取り上げ、それぞれの文型の特徴について見てきた。これらの文型は時間性・空間性に関わるものでもなく、属性・性質に関わるとも言い難い。

西山佑司(2003: 366-372) では、コピュラ文における「倒置指定文」や「指定文」が益岡隆志(1987)のいう「事象叙述文」や「属性叙述文」のいずれにも当てはまらないということについて論じている。同様に、存在文においても「事象叙述文」や「属性叙述文」または「準属性叙述文」のいずれの類型にも当てはまらない文型として、〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉、さらに後述の〈絶対存在文〉が挙げられる。

今後これらの位置づけについて考えることが肝心であるが、ここでは「事象叙述文」や「属性叙述文」に当てはまらない存在文の文型を提示することにとどめておく。

2.4.2.9. 絶対存在文

寺村秀夫(1982: 159) は、「ある集合の中のある種の部分集合の存在を問題にする表現」を「部分集合文」と称し、「この種の表現では、存在主体が生きものであるかどうかという区別意識が全くなく、アルとイルの区別もなくなる」と述べている。その例として、「ナニカ質問シタイ人ハアリマセンカ？」といった例を挙げている。「部分集合文」は西山佑司(1994) の「絶対存在文」に相当する。本稿では西山佑司(1994) に倣い、「絶対存在文」と呼んでおく。

〈絶対存在文〉は、「非空間的存在文」のうち〈所有文〉に次いで頻繁に用いられる文型である。このタイプに当てはまる例の語順別割合を以下の表に示す。

表 13. 〈絶対存在文〉の語順別割合 (531 例)

	語順	ある	いる
絶対存在文	S	90.3% (252 例)	66.6% (168 例)
	LS	8.6% (24 例)	29.0% (73 例)
	SL	1.1% (3 例)	4.4% (11 例)
	計	100% (279 例)	100% (252 例)

次の例のように S だけが現れている例が圧倒的に多い。

(101) 自分が生きて今存在しているという、これに勝る喜びがあろうか。〔OB4X_00029〕

(102) 先生、翻訳をしてもらいましたところ、ひどいことを書いている新聞があります。
〔OB6X_00119〕

(103) 私よりもっと強い人はほかにいるでしょう。〔OB5X_00222〕

上掲の例における「これに勝る喜び／ひどいことを書いている新聞／私よりもっと強い人」は変項名詞句であり、それぞれ「x = これに勝る喜び」「x = ひどいことを書いている新聞」「x = 私よりもっと強い人」の x の値の有無について述べている文である。

飯田隆(2002)、西山佑司(2003) には「絶対存在文」が動詞文に似ているということが指摘されている。その通り、上掲の例は意味的に、それぞれ「ある喜びがこれに勝る」「ある新聞がひどいことを書いている」「誰かが私より強い」ということを表している。

LS と SL の例としては次のような例が挙げられる。

(104) 軽井沢にもサナトリウム跡がホテルとして再利用された例はあるし、特にこの建物は...
〔OB5X_00237〕

(105) 妻が夫から「君に見捨てられたら、僕は生きていけない」といわれたら、妻たちのなかには感動する人もいるでしょうが、同時に情けない男として、夫を疎ましく思う妻たちもかなりいそうです。
〔OB5X_00068〕

(106) こんないい青年は本当の人間のなかにはいないだろう」と言っているのか—。
〔OB2X_00052〕

(107) できることなら、完璧に近い男に私のワインを飲んでももらいたいと思う。
けれどもそんな男は果して私のまわりにいるだろうか。〔OB2X_00116〕

上掲の例における L は、空間的な場所ではなく、「変項の値の走る範囲（西山佑司(2003)）」として捉えられる。述語の形に注目すると、「いるだろう／いるかもしれない／いれば／あれば／あろうか」など、推量形、仮定形、疑問形で表されている例が目立つということも一つの特徴である。また、「～することがある」の形で現れた次のような例も〈絶対存在文〉とみなしうる。

(108) 官吏や、新聞記者や、ときには軍人などもやってくることがあった。〔OB6X_00125〕

(109) 彼が道ばたでどこかの猫と熱心に会話しているときに、人がたまたまそばを通りかかることはあったけれど、それを見ても、誰もべつに気にはとめなかった。〔OB6X_00060〕

(110) 理事長が行くこともあるけども、だいたい私の仕事になる。〔OB6X_00126〕

以上のように、〈絶対存在文〉はもっぱら抽象的な「変項の値の有無」を表す構文であり、「措

定構造存在文」や「指定構造存在文」とも区別される。また、前述した通り、時間性・空間性との関わりもなければ、属性・性質を述べる文でもなく、「事象叙述文」や「属性叙述文」のいずれかの類型の中に位置づけることは難しい。

2.4.3. おわりに

以上では、実例の用例分析に基づき、命題の意味的構造によって「ある/いる」構文の類型化を試みた。「ある/いる」構文が特定の空間において実現する「空間的存在文」と特定の空間と関わりのない「非空間的存在文」に大分類されるということは、西山佑司(2003)、金水敏(2006)で指摘されている。本稿では、西山佑司(2003, 2004)に基づきつつ、コーパスの用例の分析を通して「ある/いる」構文の新たな文型として、「空間的存在文」に属す〈生起存在文〉、「非空間的存在文」に属す〈様態存在文〉〈属性数量詞存在文〉〈処格指定存在文〉〈倒置指定存在文〉を提示した。

先行研究で提示した文型を含め、「非空間的存在文」のなかには、指定コピュラ文の意味構造を有するタイプと、指定コピュラ文の意味構造を有するタイプがある。本稿ではこれらをそれぞれ「指定構造存在文」と「指定構造存在文」と称する。

〈所有文〉〈属性数量詞存在文〉〈処格指定存在文〉〈実在文〉は「指定構造存在文」の一種として位置づけられる。一方、〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉は「指定構造存在文」の一種として位置づけられる。しかし、「指定構造存在文」や〈絶対存在文〉は、いずれの意味構造にも当てはまらないということがわかった。

以下に「ある/いる」構文の類型を典型的な例とともに示す。

【空間的存在文】

- ・ 場所存在・所在文 例) 作業場の一番上の棚に赤い靴が一足ある。
 例) 君はどこにいたんだ。
- ・ 生起存在文 例) 今、アナウンスがあっただろ。

【非空間的存在文】

- ・ 様態存在文 例) 一緒にいると、時間が経つのが早い。
- ・ 所有文 例) 君には才能がある。
- ・ 属性数量詞存在文 例) 軽く百キロはあるだろう。
- ・ 処格指定存在文 例) 二人はいま満ち足りたあとの虚脱のなかにいた。
- ・ 実在文 例) バケモノなんていないよ。
- ・ 倒置指定存在文 例) 喧嘩のそもそもの原因は、抄子の身勝手さにある。
- ・ リスト存在文 例) 跡目は、誰にするつもりですか？ 健しか、いないだろう。
- ・ 帰属存在文 例) この七十余戸のなかに、大久保利通が生い立った家もあった。
- ・ 絶対存在文 例) 自分で言う人がありますか。

2.5. 「있다」構文の分類

本節では、韓国語の存在動詞「있다¹⁶」による構文を対象に、実例の分析を通していくつかの文型を提示する。日本語の「ある/いる」の場合と同様、韓国語の「있다」構文も、特定の空間の上に実現する事態を述べる「空間的存在文」と、特定の空間と関わりのない「非空間的存在文」に大分類される。まず「空間的存在文」について考察した後、「非空間的存在文」について考察する。

2.5.1. 空間的存在文

存在動詞「있다」を述語とし、特定の空間に実現する事態を表す「空間的存在文」は〈場所存在・所在文〉〈生起存在文〉に分けられる。それぞれの文型を以下の各項目で取り上げる。

2.5.1.1. 場所存在・所在文

周知の通り、日本語では対象の有情性によって「ある」と「いる」を使い分けるが、韓国語においてはいずれの場合も「있다」で表される。

ところが、「있다」構文においては、主語名詞句が対象(Theme)として実現する場合と、行為者(Agent)として実現する場合とで、述語「있다」と語尾との結合様相に違いがある。主語名詞句 S が無情物であるかそれとも有情物であるかに関係なく、対象(Theme)として実現すると意志性に関わる語尾との結合において制約を受ける。主語名詞句が対象(Theme)である場合と行為者(Agent)である場合¹⁷のそれぞれの構文において、「있다」の形態的・統語的なふるまいの違いを次の表に示しておく。

表 14. 主語名詞句の意味役割と「있다」の形態統語的特徴

意味役割		もの/人-가	人-가
形態統語的特徴		Theme	Agent
現在	있다	×	○
否定	안 있다/안 있는다	×	○
否定(不可能)	못 있다/못 있는다	×	○
未来意志	있겠다	×	○
希求	있고 싶다	×	○
命令	있어라	×	○
勧誘	있자	×	○
複合動詞(試み)	있어 보다	×	○
程度副詞	많이, 약간	○	×
様態副詞	잘, 조용히	×	○

16 「있다」は活用において動詞と形容詞の両方の性格を備え持っている(남기심・고영근(1985: 131-133)を参照)。それゆえ、動詞とみなす立場と形容詞とみなす立場、さらに「存在詞」という独立した範疇を設ける立場に分かれる。최현배(1971)をはじめとして、学校文法においては「있다」を「形容詞」として扱っている。一方、動詞とみなす立場としては정인승(1956)等が挙げられ、「있다」の独自性を重視し「存在詞」とみなす立場には, 이완웅(1929), 朴勝彬(1935), 李熙昇(1955), 성광수(1976), 서정수(1991)等が挙げられる。

17 「있다」の動詞的用法に注目している研究には, 서정수(1996), 岸田文隆(1997), 安平鎬(2004), 정태구(2007)等がある。

まず, 有情物を指す主語名詞句 S が対象(Theme) として実現したケースとしては次のような例が挙げられる。なお, 「*」は不適切であることを表す。

(111) a. 본인이 있건 없건 어느 누구에게도 결코 욕설을 할 줄을 몰랐다. [CE000029]

(本人がいようがいがないが¹⁸, 誰一人にも決して悪口を言うことはなかった。)

b. *본인이 있건 안 있건 어느 누구에게도 결코 욕설을 할 줄을 몰랐다.

(本人がいようがいまいが誰一人にも決して悪口を言うことはなかった。)

一方, 主語名詞句 S が行為者(Agent) を指す次の例では, 意志性に関わる語尾と自由に結合する。

(112) 대학에 들어가고 수원에 있는다고 떨어지는 것도 아닌데... [DENA006]

(大学に入ってスウォン(地名)にいるからといって離れることでもないのに...)

(113) 더 있으라고 해도 안 있다. 너무한다고 생각하면서 계속 참고 앉아 있었는데...

(もっといると言われてもいない。ひどいと思いながらもずっと我慢して座っていたのに)

[신혁 『기회-꿈이 있는 당신께 드리는 선물』]

このように S が行為者に相当するか否かによる違いはあるが, いずれの場合も物理的空間における S の存在・非存在について述べる文であり, 本稿の〈場所存在・所在文〉に当てはまる。〈場所存在・所在文〉の内訳を次の表に示す。なお, コンテキストによって S と L がいずれも省略されているものは計量調査に反映されていない。

表 15. 「있다」 - 〈場所存在・所在文〉

	語順	用例数	割合
場所存在・所在文	SL 있다/L 있다	209 例	54.4%
	LS 있다/S 있다	175 例	45.6%
	計	384 例	100%

述語の直前にきている名詞句に注目すると, 「SL 있다/L 있다」の割合が「LS 있다/S 있다」を上回っており, 日本語における「いる」構文の場合と類似した傾向にある。これは, 「있다」構文の〈場所存在・所在文〉において, ヒト主語の例が過半数を超えているということに影響されている。

まず, 「〈主語 S〉 + 〈場所 L〉 + 있다」および「〈場所 L〉 + 있다」について取り上げる。特に断りのない限り, 「L 에는」と「L 에」を含めて「L 에」と記す。また, 助詞「이/가」と「은/는」

18 下線の日本語訳はなるべく直訳にしてある。

は、それぞれ「가」と「는」で代表する。

主語 S と場所 L の 2 つの名詞句が明示されている場合の、S の示し方については、「S 는 L 에」の形式が多いということが予測されるが、実例を見ると、従属節や、疑問文における「S 가」の使用に影響され、「S 가 L 에」の例(52%) が最も目立つ。なお、韓国語では疑問文の主語名詞句は一般に「S 가」の形をとるという点が日本語と異なる。ただし、以下の例 (116) のように「S 가 L 에」で表されていても、「S 는 L 에」に言い替えられる場合も少なくない。

以下に「SL 있다/L 있다」の典型的な例を示す。なお、場所名詞句 L には一重下線を、主語名詞句 S には二重下線を引いてある。

- (114) 그의 화실은 신촌에 있다. [CE000030]

(彼のアトリエはシンチョンにある.)

- (115) 나의 작고 허름한 집이 효자동에 있었으므로, 종종 광화문엘 나갔다. [D96AA114]

(私の小さくてみすぼらしい家が孝子洞(地名)にあったので、度々光化門(地名)に出かけた。)

- (116) 지금 그 아이가 어디에 있는가? [CE000030]

(今[lit. その子が]どこにいる?)

- (117) 집에 있길래 읽었는데 꼭 소설 같더군. [D96AA114]

(家にあったから読んだけど、まるで小説のようだね。)

- (118) 왜 진호 곁에 더 있어 주지 않고 왔니? [BEXX0017]

(なんでチノ(人名)のそばにもっといてあげないで(もう)来たの?)

「SL 있다/L 있다」においては、主語の指示対象がヒトである例が 75% の高い割合を示している。全体的に主語が特定名詞句であるケースが 9 割を超えており、際立つ。ヒト主語の例が多いことと関連して、(118) の「있어 주다」をはじめ、「못 있겠다／있든지／있어봤다／있는다」などの主語の意志に関わる形や、「아까／줄곧／지금／48 시간」のような時間・期間が明示されている例も少なからず観察される。

次に、「LS 있다/S 있다」に当てはまるもの、すなわち「〈場所 L〉 + 〈主語 S〉 + 있다」および「〈主語 S〉 + 있다」の形式で表れた例を見ると、主語の指示対象が無情物を指すものが 7 割以上を占めている。これと関連して主語が不定名詞句である例も 72% を示す。主語名詞句の示し方に注目すると、「(L 에) S 가」の形式が圧倒的に多い。

- (119) 바로 곁에 작은 폭포가 있었다. [D96AA114]

(すぐ隣に小さい滝があった。)

(120) 거기에 테레사가 살고 있는 아파트가 있었다. [CE000030]

(そこにテレサが住んでいるアパートがあった。)

(121) 방 안을 둘러본 그들은 선풍기와 재떨이가 있는 것을 보고…

(部屋の中を見回した彼らは扇風機と灰皿があるのを見て…) [CE000020]

(122) 춘기가 있다는 것을 확인한 석기는 다짜고짜 방으로 들어서며 손짓으로 일행을 불러 들었다. (춘ungi(人名)がいるということを確認したソギ(人名)はむてっぽうに部屋に立ち入りながら手振りで連れを呼び入れた。) [CE000020]

(123) 편지는 그대로 있었다. (手紙はそのままあった。) [CE000029]

「〈主語 S〉+ 있다」の形で現れた例 (122) は「방에 춘기가 있다는 것을 (部屋に춘ungiがいるのを)」または「춘기가 방에 있다는 것을 (춘ungiが部屋にいるのを)」のように復元できる。ついでに「S が部屋にいる／いない」を念頭において述べているのか、「S が他の場所ではなく部屋にいる」という意味で述べているのかは必ずしも明確ではない。

一方、例 (123) は文脈から「그곳에(そこに)」が省略されたケースであり、「그곳에 그대로 있다(その場所にそのままある)」という意味を表すことに注意されたい。仮に、副詞「그대로」でもって、空間的な場所と関係なく「封筒が開けられておらず、そのまま」のように、もっぱら S の様態について述べる場合は後述(2.5.2.1) の「様態存在文」と見なしうる。

さらに、以下の (124) においては、「방에 있다 (部屋にいる)」ではなく、「방에서 있다 (部屋でいる)」¹⁹ となっており、動作性を帯びるという点が注目に値する。これは、2.4.1.1 の「LS いる」のところで取り上げた「状態のデキゴト化」という現象と通じるところがあり、事態に対する話し手の捉え方が類似した方法で両言語の文法に反映されている現象として、興味深い。

(124) 아늑한 방에서 저는 한 남자와 단둘이 있었던 것입니다. [D96AA114]

(ちんまりとした部屋で私は一人の男と二人きりでいたのです。)

「ある/いる」構文においては観察されない「있다」構文の形式としては、L が具格で表されている「L 로 S 가 있다」の形式が挙げられる。「L 로」における L には「後ろ, 上, 隣」などに相当する位置名詞がくるとということが特徴的である。以下に典型的な例を示す。

(125) 풀무간 뒤로 마당이 있고 마당을 지나면 바로 방 둘 딸린 일자 초가다.

(鍛冶屋の後ろに庭があって庭を過ぎていくとすぐ部屋が二つ付いた長屋の草屋だ。)

[CE000073]

19 筆者の内省では、場所名詞句「방에서(部屋で)」が「있다」の直前にくると不自然であるが、場所名詞句と「있다」の間に他の成分が入ると自然であると判断される。

- (126) 옷목으로 이불과 옷을 넣어두는 외쪽 장롱이 있고, 그 옆으로 화장대와 얇은뱅이 책상, 그리고 텔레비전과 전화기와 커피포트 일습이 전부였다. [CE000030]
(上のところ(온돌의部屋の焚口に遠いところ)に布団と服を入れておくたんすがあり
その隣に化粧台と座卓,そしてテレビと電話とコーヒーポットセットがすべてだった。)

最後に,主語の指示対象の数量(Q)に関する情報が与えられている例(35例)を見ると,(127)を含む3例のみが「SL 있다/L 있다」の形式に当てはまり,残りはすべて「LS 있다/S 있다」の形式に当てはまる。以下の例における一重下線は場所名詞句 L,二重下線は主語名詞句 S,波線の下線は数量名詞句 Qを表す。

- (127) 사내 두셋이 항상 그녀 주위에 있다는 느낌을 버릴 수가 없었다. [CE000020]
(男二三人がいつも彼女の周りにいるような気がした。)

- (128) 저쪽에 의자 하나 있지? [CE000030]
(あちらに椅子一つあるでしょ?)

- (129) 뒤에는 밤나무와 대추나무가 몇그루 있었다. [DENA006]
(後ろには栗の木となつめの木が何本かあった。)

- (130) 안악굴 올라가는 길옆에 들면 되다 만 방앗간이 하나 있다. [BEXX0006]
(安岳窟に上がっていく道端に入ると建てかけの精米所がひとつある。)

- (131) 근처에 세 척의 중선이 있다. [BEXX0024]
(近所に三隻の船がある。)

数量の示し方に注目すると,(127)～(130)のように,「SQ/S가Q」の形式が一般的であり,「Q의S/QS가」の形式は(131)を含め4例のみである。ついであるが,日本語に見られる「アニタと私とグロリアの三人」のような「SのQ」タイプは韓国語では不適切である。

2.5.1.2. 生起存在文

ここでは,一定の時間帯に発生する事態を表す〈生起存在文〉を取り上げる。以下の表に〈生起存在文〉の語順別割合を示す。

表 16. 「있다」 - 〈生起存在文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
生起存在文	S 있다	96 例	74.4%
	LS 있다	29 例	22.5%
	SL 있다	4 例	3.1%
	計	129 例	100%

まず, S と L が両方とも現れている例に限って, L の伴っている助詞, および S に注目すると, (I) 「L 에서(で) S 가 있다», (II) 「L 에/에게(に) S 가 있다», (III) 「L 에게서/에서(から) S 가 있다」の3つのタイプに分けうる。

まず, 「사고 (事故), 살인 (殺人), 총격전 (銃撃戦), 심문 (尋問), 축제 (祭り), 전달식 (傳達式)」のような出来事や催し物を表す S が「L 에서(で)」を伴って表れるタイプ(I)の典型的な例を示す。

- (132) 그날은 지방 로케를 나가지 않고 서울 시내의 어느 관광호텔에서 <청춘의 나팔수> 라는 영화의 촬영이 있었기 때문에... (その日は地方ロケに行かなくてソウル市内のある観光ホテルで「青春のラッパ手」という映画の撮影があったので...) [CE000021]

- (133) 다른 증인들에 대한 심문은 오후 두 시부터 본 법정에서 있겠습니다.
(他の証人に対する尋問は午後二時から本法廷であります。) [BEXX0026]

次の例は, 「무슨 일 (何の事), 어떤 일 (どんな事)」などの S が「L 에/에게(に)」を伴って表れるタイプ(II)に当てはまる。

- (134) 정숙이에게 무슨 일이 있었냐고 묻자 그 반 담임인 고 선생이 난처해하며 대답했다.
(조ンス크(人名)に何かあったのかと聞いたら, そのクラスの担当のコウ先生が気まずそうに答えた。) [CE000079]

さらに, 「연락²⁰ (連絡), 보고 (報告), 소환 (召還), 전화²¹ (電話)」のような言語活動や伝達に関わる S が, 活動の行い手または発信先に相当する「L 에게서(から)／에서(から)」を伴って表れるタイプ(III)の例を以下に示す。

- (135) 대남연락부로부터 소환이 있었습니다. [CE000026]
(테남(地名)의連絡部から送還がありました。)

- (136) 그에게서 연락이 있을 때까지 기다려야 하는 것이었습니다. [D96AA114]
(彼から連絡があるまで待たなければならぬのでした。)

主語名詞句 S が言語活動や伝達に関わる名詞である場合は, 物理的・空間的な場所の上で行

20 趙義成(1994: 34-35) は, 「存在詞と連結する-에서」の例の中, 「집에서는 연락 없었냐? (家からは連絡ないの?)」のような例を「場所が主体を含む場合」として取り上げている。

21 伊藤英人(1990: 12) は, 「時間や場所を示す状況語はなく, 文脈その他で現在から切りはなされた過去のひとつの時間帯にことがらが成立している」という例として, 次のような例を挙げている。

“그렇잖아도 김부장한테 전화가 있었어요.” (そうでなくても金部長に電話がありました。)

われる事象と見なすか否かについて議論の余地はあるものの、具体的時間の中のある時点で生じるという側面に着目すると、これらも〈生起存在文〉とみなしうる。

〈生起存在文〉に当てはまる例は 129 例現れているが、以下の (137) (138) のように、表面的に L は明示されず「S 가 있다」のような形で現れた例がおおよそ 74% に達している。

(137) 오후에 일일행사처럼 전체 기합이 있었다. [CE000029]

(午後、日常行事のように団体体罰がありました。)

(138) 경과보고와 함께 평교사회 설립 취지문 낭독이 있었다. [CE000079]

(経過報告とともに平教師会設立の趣旨文の朗読があった。)

L と S が両方とも現れている場合は、LS 順の例が目立つ。一方、S が L に先行している SL 順の例はわずか 3% に止まっている。

さらに、出来事や活動の具体的な発生時間を表す状況語を伴っている例をはじめ、「있고 나서 (あってから) / 있는 후 (あった後)²²」のような過去の事象を表す形式と共起し、活動性を帯びている場合が多いことも〈生起存在文〉の特徴の一つである。

(139) 사고가 있고 나서 교감은 그것이 학생을 잘못 지도한 때문이라며 나와 담임을 담담했다. (事故があってから教頭はそれが間違った指導をしていたせいだといって私と担任をいためつけた。) [CE000079]

(140) 르봉이 수감되었다는 보도가 있는 후의 일이었다. [D97_B046]

(ルボンが収監されたという報道があつた後のことだった。)

(141) 그 일이 있는 뒤 나는 미팅 같은 걸 하지 않았다. [D96AA114]

(そのことがあつた後、私は合コンなんかはしなかった。)

上掲の例 (140) (141) の場合は場所を特定できない、もしくは場所を問題としない表現として捉えられる。仮に、(141) に L を想定するとするならば、場所ではなく「저번 미팅에서 (この間の合コンで)」のように、活動を表す名詞句の方が自然である。

22 「있은」が用いられた例を網羅的に取り上げている岸田文隆(1997: 282-283) は、「있다」の主体が「こと」である場合、その事象が存在する時間的な幅は、必ずしも常にひろがりをもっているとは限らず、瞬間的にもしくは点的に存在することもありうる。このような場合、「있다」は動詞「열리다(開かれる), 행하여지다(おこなわれる), 일어나다(起こる)」などと同じ意味になり、動作性を帯びるため、過去の事象を点的にとらえる「-ㄴ/은」の形式と共起しうる」と述べている。

2.5.2. 非空間的存在文

「非空間的存在文」に属する「있다」構文は、日本語における「ある/いる」の場合と同様、意味構造上「措定構造存在文」と「指定構造存在文」、さらにこれらのいずれにも当てはまらない文型に分けられる。

以下では、2.5.2.1～2.5.2.5 において「措定構造存在文」に属す〈様態存在文〉〈所有文〉〈処格措定存在文〉〈具格措定存在文〉〈実在文〉について取り上げ、その後、2.5.2.6～2.5.2.8 では「指定構造存在文」に属す〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉について取り上げる。

2.5.2.9～2.5.2.10 では「措定構造存在文」と「指定構造存在文」のいずれにも当てはまらない〈絶対存在文〉〈時間存在文〉を取り上げる。

2.5.2.1. 様態存在文

〈様態存在文〉においては、対象の存否や対象の占める場所に関心の外にあって、もっぱら S で指示される対象が「どのような」様態であるかに関心が向けられている。「가만히 (じっと) / 어리멍멍히 (ぼうぜんと)」などのような様態を表す副詞成分を必須とする文型である。現れたすべての例において、主語名詞句 S はヒトである。

表 17. 「있다」 - 〈様態存在文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
様態存在文	Adv 있다	65 例	58.0%
	S-Adv 있다	47 例	42.0%
	計	112 例	100%

構造に目を向けると、S は省略されており、副詞のみが現れた「Adv 있다」に当てはまる例が過半数を占めているものの、S が明示されている例との使用頻度の差はそれほど大きくない。

主語が省略されている「Adv 있다」の例としては (142) (143) が挙げられ、「S Adv 있다」には例 (144) が当てはまる。

(142) 가만히 좀 있어. [BEO0080]

(lit. おとなしくいなさい。)

(143) 당신하고 오래 있다 보면 아무짝에도 쓸모없는 평범한 인간으로 전락해 버리기 안정 맞춥이겠어. ([lit. あなたと長くいると], どこにも役立たない平凡な人間へと転落してしまいそう。) [CE000030]

(144) 아버지는 그저 조용히 있거나, 아니면 좁은 마당에 나와서 햇볕을 쬌거나...

(父は [lit. ただ静かに] いたり, それとも狭い庭に出て日差しを浴びたり...)

[CE000023]

例(142)は、文脈上暴れる子供に向かった母親の発言であり、主語名詞句の居場所は問題とならない。一方、場所名詞句「집에 (家に)」を加え「집에 가만히 좀 있어! (家でおとなしくしてろ!)」とした場合は、「어디 가지 말고 (どこにも行かないで)」という意味を表し、L が必須である〈所在文〉に変わってしまうことに注意しなければならない。(142)と同様、(143)においても特定の空間的な場所を想定できない。

さらに、「같이 있으면 (一緒にいると) / 같이 있어 보면 (一緒に過ごしてみれば)」のような形で現れた例も少なからず見受けられる。

2.5.2.2. 所有文

従来の研究でしばしば指摘されてきたが、〈所有文〉の統語的な特徴の一つは「二重主格構文」が成り立つということである。「二重主格構文」と関連して、さらに次のような問題についても考える必要がある。同じ名詞句を用いている場合でも、(145)では二重主格の構造が許容できないのに対して、(146)では L と S の両名詞句とも主格で表すことが可能である。

- (145) 일층(에/*이) 전화기가 있어서, 한번씩 들락거릴라치면 여간 짜증스럽지가 않다.
(一階に電話があって、一度出入りしようとするそのもどかしさは並大抵ではない)
(유현경 1998: 205)

- (146) [일층이 [전화기]가 있어서] 편하다. [一階가[電話]가あって] 楽だ。 (作例)

仮に、電話を多く利用する人がいて、「二階に比べると、一階の方が [電話があるから] 便利だ」という意味で(146)のように発話すると、何の不自然さも感じられないであろう。(145)と(146)はいずれも「있다」が従属節の述語として用いられているものの、(146)は「있다」を述語とする従属節が、[일층이 편하다 (一階が楽だ)]という主節を構成する文に挿入されている形になっているので、次のように従属節を前に取り出し、移動することが可能である。

- (147) [전화기가 있어서] [일층이 편하다]. [電話があって] [一階が楽だ].

つまり、(146)における「일층 (一階)」は主節の主語である点で(145)と異なる。故に(145)は〈所在文〉として捉えられる一方、(146)は〈所有文〉として捉えられる。

ここでは、〈所在文〉と〈所有文〉の区別は名詞句の性質だけでは決まり難く、文全体の命題から判断すべきであるということを指摘しておくことに止め、以下では〈所有文〉とみなされるものについて述べる。

まず、〈所有文〉の現れ方を以下の表に示しておく。Pr, Pe はそれぞれ所有者(Possessor), 所有物(Possessee)を表す。

表 18. 「있다」 - 〈所有文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
所有文	Pe	378 例	50.9%
	Pr-Pe	349 例	47.0%
	Pe-Pr	15 例	2.0%
	計	742 例	100%

所有者と所有物が両者とも明示されている例において、所有者名詞の表れ方に注目すると、「NP 에/에게」のごとく与格で表れている例が 4 割を占めており、それに次いで「NP 는」が 29% を示している。さらに、所有者と所有物が両者とも「NP 가」で表れ、二重主格構文を成している例も 19% を占めており、少なくない。なお、「ある/いる」構文では所有者が「NP 가」の形をとっている例がわずか 3% に過ぎなかった。「ある/いる」構文に比べると、「있다」構文における二重主格構文の使用は比較的多いということが注目される。

「있다」構文においても、所有物名詞の語彙的な特徴によって、タイプ(Ⅰ)「A(에/에게)는 B 가 있다」のような典型的な所有文、タイプ(Ⅱ)「A 는 B 에/에게 C 가 있다」の形式でもって、所有者のほかに一定の対象や相手を要求するもの、タイプ(Ⅲ)「A 는 B 와 C 가 있다/A 와 B(에)는 C 가 있다」の形式で「関係がある、違いがある」などの比較対象を必要とするものに分けられる。それぞれのタイプについて典型的な例とともに見ていく。

<所有文－タイプ(Ⅰ)>

「Pr(에/에게)는 Pe 가 있다」の形式をとる典型的な所有文のタイプ(Ⅰ)においては、「재주 (才能), 애교 (愛嬌), 실력 (実力), 권리 (權利), 경험 (經驗), 장점 (長所)」などの抽象的な事柄を表すものがとりわけ目立つ。以下にタイプ(Ⅰ)の代表的な例を示す。それぞれ〈属性〉〈親族〉〈財産〉の所有を表す。

(148) 그에게는 뛰어난 재주가 있고… [D97_B046]

(彼にはすぐれた才能があって)

(149) 제겐 애가 둘이나 있고, 남편도 있어요. [D96AA114]

(私には子供が二人もあって、主人もあります。)

(150) 달랑 읍내에 집 한 채 있는 것이 고작이었으니… [CE000023]

(せいぜい市内に家が一軒あるのが全てだったから…)

<所有文－タイプ(Ⅱ)>

「Pr 는 N(対象・相手)에/에게 Pe 가 있다」の形式をとるタイプ(Ⅱ)には、主に「고민 (悩み), 불만 (不満), 자신 (自信)」のような「感情・感覚」を表す名詞句が主語にきて感情の対象を要求するもの²³ と、「부탁 (頼み), 할말 (話し), 보고할 것 (報告)」「줄 선물 (プレゼント), 보여줄

23 남기심(1993: 25-26) では、「NP₁-에 NP₂-가 있다」で現れた構文のうち、NP₂が「NP-에」を要求する場合がありますと述べ、「NP-에」を要求する名詞として「관심 (関心), 즐거움 (楽しさ), 기쁨 (喜び), 두려움 (恐ろし

사람 (紹介したい人)」のような「言語活動・授受活動」を表す名詞句が主語にきて活動の相手を要求するものがある。それぞれの例を以下に挙げる。(151) (152) の波線部の「NP 에(는)」は「感情の対象」に相当し、(153) (154) の「NP 에게/께」は「活動の相手」に相当する。

(151) 시청률에는 이미 자신이 있다. [CE000023]

(視聴率にはもう自信がある。)

(152) 노동자들이 사회주의 문제에 관심도 있고… [CE000029]

(労働者たちが社会主義の問題に関心もあって…)

(153) 참, 원주임께 한가지 여쭙볼 게 있습니다. [CE000079]

(そういえば、ウォン主任に一つお尋ねしたいことがあります。)

(154) 내 자네에게 부탁이 하나 있네. [CE000023]

(私、君にお願いが一つある。)

全般に「所有物」のみの例が際立ち、「所有者，対象/相手，所有物」の3つの名詞句がすべて現れた例はわずかである。「所有者」が明示される場合は「NP 가」または「NP 는」の形をとるのが一般的である。

<所有文-タイプ(Ⅲ)>

「Pr 는 NP 와 Pe 가 있다/Pr 와 Pr(에)는 Pe 가 있다」の形式をとるタイプ(Ⅲ)においては、「공통점 (共通点), 관계 (関係), 거리 (距離), 차이 (差)」のような陳述性を有する語彙²⁴ がきて、所有物に相当し、関わり対象や比較対象を要求する。典型的な例を以下に示す。

(155) 우리가 교제하고 있을 무렵의 그녀의 신분은 나하고는 좀 차이가 있었거든.

(私たちが付き合っている頃の彼女の身分は私とは少し差があったからな) [D97_B046]

(156) 『우리시대의 무당』 역시 기존 소설 작법과는 거리가 있다. [BEXX0026]

(『我が時代の神子』も既存の小説の作法とは距離がある。)

(157) 그 이름과 전화번호가 장 루블리에라는 남자와 어떤 연관성이 있는지 알 수는 없었지만

(その名前と電話番号がジャン・ルブリエという男とどんな関連性があるかはわからないけど)

[BEXX0025]

(158) 물론, 형태와 기능엔 다소간의 차이가 있긴 하지만… [CE000079]

(もちろん形態と機能には多少の差があることはあるが…)

さ)」の感情・感覚類のほか、「상관 (相関), 관계 (関係)」類も挙げている。しかし後者の関係類の場合は、「NP-에」を「NP-와」に言い替えた表現も可能である点で前者の感情・感覚類と区別されると思われる。
24 菅野裕臣他(1988)では、「N(가) 있다」の形を取る語彙を指して、「2つの構成要素の間に格語尾やとりたて語尾が挿入されて、あたかも2単語のように見える」と定義し、「分離用言」と呼んでいる。このような観点からすると「N(가) 있다」全体を陳述的所有物として捉えることも考えうる。

(155) ~ (157) のような「Pr 는 NP 와/과 Pe 가 있다」の形式の方が、(158) のような「Pr 와 Pr(에)는 Pe 가 있다」の形式を上回っているものの、出現頻度においてそれほど大きな差は見られない。なお、所有物の分類の詳細については「ある/いる」構文とともに改めて 2.7 で取り上げる。

2.5.2.3. 処格指定存在文

「ある/いる」構文でも取り上げたが、韓国語における存在文の中にも「S 는 L 에 있다」の形で現れ、意味的に措定文「S は L だ」として解釈されるものがある。

語順に注目すると、S が L に先行している例が 63% (12 例) を占めているのに対して、L が S に先行している例は見受けられない。残りの 36% (7 例) は、S が省略されており L のみが現れているものである。

表 19. 「있다」 - 〈処格指定存在文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
[NP _{-TOP} NP _{-LOC} V] 処格指定存在文	SL 있다	12 例	63.2%
	L 있다	7 例	36.8%
	計	19 例	100%

〈処格指定存在文〉には次のような例が当てはまる。

- (159) 전도 여기서는 사람들에게 상당히 존경을 받는 지위에 있어요. [D97_B046]
(私もここでは人から相当尊敬される地位にあります。)

なかには次の (160) ~ (162) のように、L の語彙的な意味により、さらに変動しやすい事態として捉えられるものもある。L として「상태 (状態) / 처지 (立場) / 과정 (過程)」のような名詞が修飾語句を伴って現れているものが目立つ。

- (160) 정식 약혼이 아직 지지부진 상태에 있는 것은 그가 아직 결혼할 계제가 못 되었기 때문이었다. (正式な婚約がまだ進まない状態にあるのは彼が結婚する準備ができていないからであった。) [D97_B046]

- (161) 나는 내가 더 이상 혼돈의 와중에 있지 않다는 걸 분명하게 자각할 수 있었다.
(私は私がもはや混沌の中にいないということを自覚することができた。) [DENA026]

- (162) 아직 조사단계에 있어 뭐라고 속단할 계제는 못 됩니다마는... [CE000030]
(まだ調査段階にあつて即断することはできませんが...)

これらは上述した通り、短期間の状態として捉えられる場合もあれば、属性として捉えられる場合もある。属性として捉えうる場合においても、消滅しない属性とはいえない側面があり、「事象叙述存在文」と「属性叙述存在文」にまたがる中間的なタイプ(準属性叙述存在文)とみなしうる。

2.5.2.4. 具格指定存在文

主に職業や職位を含む身分や役割を表す具格名詞句を伴い、「A 는 B 로 있다」の形で「A は B だ」という意味構造をもつ構文を〈具格指定存在文〉と呼ぶ。

〈具格指定存在文〉は、「엄마 (母), 아빠 (父), 오빠 (兄)」などのような親族関係を表す名詞は NP-INS として適切ではないため、名詞類の選択に制約がある。²⁵

構造においては、具格名詞句 N-INS が S に先行することではなく、「NP-TOP NP-INS 있다」または「NP-INS 있다」のいずれかの形式をとる。〈具格指定存在文〉の語順別割合と典型的な例を以下に示す。

表 20. 「있다」 - 〈具格指定存在文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
[NP-TOP NP-INS V] 具格指定存在文	SI 있다	6 例	54.5%
	I 있다	5 例	45.5%
	計	11 例	100%

- (163) 나는 스물일곱 살 때 샌프란시스코에 있는 어느 광업 주식 중개업 점원^{으로} 있었기 때문에... [D97_B046]

(私は二十七歳の時サンフランシスコの、ある鉱業株式仲介業の店員をしていたので...)

- (164) 저놈이 십삼년동안이나 전차 운전수^로 있다가 올에서야 겨우 감독이 된 것이라는데 (あいつは十三年も電車の運転手をしていて、今年になってやっと監督になつたらしいが) [AE000122]

- (165) 어찌하다 이모부의 조교^로 있다가는 시간강사가 된 것이 인연이 되어 맺어졌다.

(時折、叔父の助教をしていて非常勤講師になったのがきっかけで繋がった。)

[CE000023]

2.5.2.5. 実在文

西山佑司(2003) の〈実在文〉、および金水敏(2006) の〈生死文〉に当てはまる例としては次のような例が現れている。

²⁵ Lyons (1968: 301) は、ロシア語における類似の現象を「分離不可能所有」の観点から取り上げているが、韓国語の「NP 로/으로 있다」に見られる名詞類の選択の制限も「分離不可能所有」の程度性に関わる現象であると考えられる。

(166) 운명의 여신이 정말 있는 것만 같았다. [CE000020]

(運命の女神が本当にいるような気がした。)

(167) 하느님은 정말 있는 것일까. [CE000079]

(神様は本当にいるのだろうか。)

「実在文」は、指示対象 S を取り上げ、それが現実のものであるか否かについて述べているということから、「指定構造存在文」とみなしうる。すべての例において L は現れず S と動詞のみで実現されている。

以下では「指定構造存在文」に属する〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉について見ていく。

2.5.2.6. 倒置指定存在文

「L 에 S 가 있다 (～に～がある)」もしくは、「S 는 L 에 있다 (～は～にある)」の形で表される例の中、以下に挙げるものは意味的に「S は L だ」の構造を有する。倒置指定文「L が S だ」にしても表そうとする意味に違いは生じない。このような特徴を有する「있다」構文を〈倒置指定存在文〉と称する。語順は SL が一般的である。

表 21. 「있다」 - 〈倒置指定存在文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
[NP _{-TOP} NP _{-LOC} V] 倒置指定存在文	SL 있다	36 例	85.7%
	LS 있다	6 例	14.3%
	計	42 例	100%

(168) 화장시간이 그만큼 중요함에도 불구하고, 상당한 시간을 빼앗겨야 되는데

여인들의 고민이 있다. (化粧時間がそれほど重要であるにも関わらず、相当な時間を奪われるところに女性たちの悩みがある。) [DENA006]

(169) 이 소설의 일차적 매력은 그 아름다운 방황의 진지함과 순수함에 있다. [BEXX0008]

(この小説の一次的な魅力はその美しいさまよいの真剣さと純粋さにある。)

これらは「S は何か」のように、例えば (168) 「여인들의 고민은 무엇인가? (女性たちの悩みは何か)」, (169) 「이 소설의 일차적 매력은 무엇인가? (この小説の一次的な魅力は何か)」という問いを立て、それに当てはまる値として「それは L だ」と答えられるという構造をもっている。

これは、L は指示的であり、S は非指示的であるということを示唆する。意味的には後述の〈リスト存在文〉に似ているものの、形式において異なる特徴を示す。

名詞の種類に注目すると、「매력 (魅力), 불만 (不満), 원인 (原因)」のような名詞類が目立ち、その具体的な内容に当てはまる情報が L によって表されている。

さらに、慣用的に用いられる表現の中、「무엇인지 (何か)」に言い換えうる「어디에 있는지 (どこにあるか)」という表現も〈倒置指定存在文〉とみなしうる。

- (170) 학생들의 불만이 어디에 있는지 그거나 슬그머니 알아보는게 어떻겠소? [DENA009]
(学生たちの不満がどこにあるかそれをこっそりと調べてみたらどうですか?)

2.5.2.7. リスト存在文

〈リスト存在文〉は「要素の有無多少を述べるのではなく、要素の個体を数え挙げる(金水敏 2006: 20-30)」という用法を持つ。西山佑司(2003) によって提示された文型であるが、再び説明すると「x (= 母の世話をする人) はいないよ」という文に対して、「洋子と佐知子がいるじゃないか」のような、x に当てはまる値を挙げる構文のことである。

韓国語の「(L 에는) S 가 있다」構文の中にも〈リスト存在文〉に相当する文が見受けられる。〈リスト存在文〉における S は指示的機能を果たしており、固有名詞の例が多い。

一方、〈所有文〉の場合は、仮に「영희에게는 남편이 있다 (ヨンヒには夫がある) = 영희는 유부녀다 (ヨンヒは人妻だ)」 という意味を表そうとした場合、「영희에게는 철수가 있다 (ヨンヒにはチョルスがある)」のように固有名詞に言い替えられない。L は文脈から読み取れ、表面的に現れないのが一般的である。

表 22. 「있다」 - 〈リスト存在文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
リスト存在文	S 있다	41 例	85.4%
	LS 있다	7 例	14.6%
	計	48 例	100%

〈リスト存在文〉の意味構造は「(L といえば) S だ」とみなしうる。例えば (171) の場合は、文脈上「社会現象を反映している作品には」という L を復元することが可能である。

- (171) 피카소의 게르니카나 렘브란트의 야경이 있잖아?” [CE000029]
(ピカソのゲルニカやレンブラントの夜景があるじゃない。)

- (172) 상무도 있고, 전무도 있지만 이들은 광고에 관한 한 예외적인 존재에 지나지 않는다.
(常務もいるし、専務もいるけど、彼らは広告に限っては例外的な存在にすぎない。)
[CE000030]

- (173) “너희 반도 잘한다던데” “3 반은 은철이형이 있잖아요” [CE000079]
(あなたの組も上手だって。3 組はウンチョル兄さんがいるじゃないですか)

2.5.2.8. 帰属存在文

西山佑司(2004: 173) は「L がしかじかのメンバーからなる集まりを表し、S の指示対象がその

メンバーに該当する」存在文を〈帰属存在文〉と呼んでいる。

〈帰属存在文〉に当てはまる「있다」構文の形式と代表的な例を以下に示す。

表 23. 「있다」－〈帰属存在文〉の語順別割合

	形式	用例数	割合
帰属存在文	LS 있다	7 例	58.3%
	S 있다	5 例	41.7%
		12 例	100%

- (174) 파견 오 년차에는 연수 동기인 함중복이 있었다. [BEXX0018]

(派遣五年次には研修同期であるハムジョンボクがいた)

- (175) 거기 직원 중에 조민국이 있는지도 알아보고, 곧 들어갈 테니까. [CE000020]

(あそこの職員の中にジョミングク(人名)があるかも調べてみて、すぐ戻るから。)

上掲の例のように、S が有情物であり、特定の人集まり L と特定の人物を表す S で構成されているものが比較的目立つ。L が省略されている例は 1 例のみであり、残りの例はすべて LS 構造をとっている。

2.5.2.9. 絶対存在文

〈絶対存在文〉は、「ある/いる」構文で取り上げた、「[x が S である] を満たす x の値が空でないことを表す」構文である。〈絶対存在文〉に当てはまる「있다」構文の語順別割合と代表的な例を以下に示す。

表 24. 「있다」－〈絶対存在文〉の語順別割合

	語順	用例数	割合
絶対存在文	S 있다	379 例	82.2%
	LS 있다	58 例	12.6%
	SL 있다	(反語的 21 例) 24 例	5.2%
	計	461 例	100%

- (176) 그렇다고 가해자가 있어 치료비를 부담해주는 것도 아니고, 어머니는 제가 어떻게 했으면 싶으세요? (かといって加害者がいて治療費を負担してくれるわけでもないし、お母さんは私にどうして欲しいですか?) [CE000079]

- (177) ‘용서받지 못할 죄’란 있습니다. (‘許されざる罪’というのはあります。) [D97_B046]

- (178) 그런 욕심을 안 가진 사람이 있느냐구. (そんな欲のない人っているか。) [DENA006]

- (179) 콜이 잔뜩 난 아이들이 있다고 (怒っている子供たちがいると…) [CE000079]

上掲の例(176)は「x = 가해자 (加害者)」における x の値の有無について、(177)は集合体「죄 (罪)」の中の部分要素「x = 용서받지 못할 죄 (許されざる罪)」における x の値の有無について、それぞれ述べている。

構造に注目すると、「連体修飾+S 가 있다」のように、連体修飾を受けている S のみが現れている例が圧倒的な割合を示している。一方、L が現れている例を見ると、L に「세상에는 (世の中には)」や「~중에는 (~の中には)」という名詞句がきている例がとりわけ目立つ。

(180) 세상에는 두 부류의 남자가 있다고 생각했지. [D96AA114]

(世には二つの部類の男がいると考えた。)

上掲の例は「세상에는 (世の中には)」といった不特定の L を伴っているが、下線部を「남자는 두 부류다 (男は二部類である)」のように言い換えうることからわかるように、L が具体的な場所を指示していないということに注目すべきである。

さらに、頻繁に用いられる〈絶対存在文〉の一つとして次のようなものが挙げられる。

(181) 선생님한테 못할 이야기가 어디 있니? [CE000079]

(先生に話せないことなんてどこにある?)

上掲の例は、「어디(에) 있니? (どこにある?)」という疑問形の形式でもって「存在しない」という意味を表す反語的な表現である。このような表現における不定代名詞「어디(どこ)」を場所とみなすことには無理があろう。

2.5.2.10. 時間存在文

「있다」構文の中には、時間名詞とともに用いられ、言語表現において場所表現を伴わずもっぱら時間の経過に焦点が当てられる表現がある。このような存在文を暫定的に〈時間存在文〉と呼んでおく。

全ての例(41例)において、「있다」は「지나서 (経って)」と「기다리면 (待つと)」のいずれかに、または両方に言い替えられる。典型的な例としては、「일주일만 있으면 (一週間だけ待てば)」「조금 있다가²⁶ (少し経てから)」をはじめ、次のような例が挙げられる。

(182) 앞으로 몇 시간만 더 있으면 이 돌이 석회로 변하겠는걸. [D97_B046]

(これから何時間経てばこの石が石灰に変わりそうだ。)

26 野間秀樹(1993)によれば「있다가」で現れた例は「活動体主語」をとって「意志用言」として使われる傾向がある。「意志用言」については菅野裕臣(1986-7)を参照。

(183) 15 분쯤 있다가 들어오는 막차가 완행이니까 그 막차를 타야 한다. [CE000021]
(15 分ぐらい後に到着する終列車が緩行だからその終列車に乗らないといけない。)

(184) 두 시간쯤 있다가 들어온 한 여선생이 말한다. [CE000079]
(二時間ほど経ってから入ってきたひとりの女性の先生がいう。)

2.5.3. おわりに

以上、命題の意味的構造に注目しながら、韓国語の存在動詞「있다」を述語とする構文の類型化を試みた。「있다」構文も、「ある/いる」構文の場合と同様、「空間的存在文」と「非空間的存在文」に大分類される。

「空間的存在文」としては〈場所存在・所在文〉〈生起存在文〉が挙げられ、「非空間的存在文」としては〈様態存在文〉〈所有文〉〈処格指定存在文〉〈具格指定存在文〉〈倒置指定存在文〉〈実在文〉〈絶対存在文〉〈時間存在文〉が挙げられる。

「非空間的存在文」は、さらに指定文の意味構造を有する「指定構造存在文」—〈所有文〉, 〈処格指定存在文〉〈具格指定存在文〉〈実在文〉—と、指定文の意味構造を有する「指定構造存在文」—〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉—があり、いずれの意味構造にも当てはまらないものとして〈絶対存在文〉〈時間存在文〉が挙げられる。

【있다構文の分類】

- ・空間的存在文—〈場所存在・所在文〉〈生起存在文〉
- ・非空間的存在文
 - 指定構造存在文：〈様態存在文〉〈所有文〉〈処格指定存在文〉〈具格指定存在文〉〈実在文〉
 - 指定構造存在文：〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉
 - その他：〈絶対存在文〉〈時間存在文〉

以下に「있다」構文の類型を典型的な例とともに示す。

【空間的存在文】

- ・場所存在・所在文 例) 저쪽에 의자 하나 있지? (あちらに椅子一つあるでしょ?)
例) 우리 회사는 부산에 있다. (うちの会社はプサンにある。)
- ・生起存在文 例) 심문은 오후 두 시부터 본 법정에서 있겠습니다.
(尋問は午後2時から本法廷にて行われます。)

【非空間的存在文】

- ・様態存在文 例) 혼자 있는 것을 좋아한다. (独りでいるのが好きだ。)
例) 가만히 좀 있어. (おとなしくしてろ。)
- ・所有文 例) 그에게는 뛰어난 재주가 있다. (彼には優れた才能がある。)
- ・処格指定存在文 例) 우리는 같은 처지에 있다. (私たちは同じ境遇にある。)

2.6. 存在文の類型に対する日韓対照的考察

「ある/いる」構文と「있다」構文の分類結果に基づくと、「ある/いる」と「있다」の用法は概ね対応するものの、互いにずれがある場合も見受けられる。

以下では「ある/いる」と「있다」の用法が対応しない場合と、「ある/いる」と「있다」の用法が部分的にのみ対応する場合に分けて取り上げる。

2.6.1. 「ある/いる」と「있다」が対応しない場合

韓国語の「있다」にしか見られない文型として〈時間存在文〉と〈具格措定存在文〉といった2つの文型が挙げられる。

まず、〈時間存在文〉は「일주일 있으면 (一週間待てば) / 조금 있다가 (少し経てから/待ってから)」等のように、時間名詞を伴って時間の経過を表す構文である。これらの表現における動詞「있다」は、通常「지나다(経つ)」もしくは「기다리다(待つ)」への言い換えが可能であるという特徴をもつ。以下のような例がそれに当てはまる。

- (185) 앞으로 몇 시간만 더 있으면 이 돌이 석회로 변하겠는걸. [D97_B046]

‘ap-‘yro micc sigan-man de ‘iss-‘ymien ‘i dor-‘i seghoi-ro

これから 何 時間-だけ もっと ‘iss-CV.COND この 石-NOM 石灰-INS

bienha-geiss-nynger.

変わる-INFER (これから何時間経てばこの石が石灰に変わりそうだ。)

- (186) 두 시간쯤 있다가 들어온 한 여선생이 말한다. [CE000079]

du sigan-jjym ‘iss-daga dyr‘e‘o-n han ‘iesensaing-‘i

二 時間-ほど ‘iss-CV 入ってくる-ATTR.PAST 一.ATTR 女先生-NOM

marha-n-da.

いう-PRS-IND (二時間ほど経ってから入ってきたひとりの女性の先生がいう。)

次に、〈具格措定存在文〉は、主に職業や職位等の身分、役割を表す名詞類が具格名詞句として現れ、「A 는 B 로 있다」の形でもって「A は B(身分/状態)だ」の意味を表す構文である。このような表現も日本語の「ある/いる」構文には欠けている。

- (187) 나는 스물일곱 살 때 샌프란시스코에 있는 어느 광업 주식 중개업 점원으로 있었기 때문에... [D97_B046]

na-nyn symur ‘irgob sar ddai sainpyransisyko-‘ei ‘iss-nyn ‘eny

私-TOP 二十 七 歳 時 サンフランシスコ-LOC ある-ATTR.PRS とある

goang‘eb jusig junggai‘eb jem‘uen-‘yro ‘iss-‘ess-gi ddaimun‘ei

鉱業 株式 仲介業 店員-INS ‘iss -PAST-NMLZ ために

(私は二十七歳の時サンフランシスコの、とある鉱業株式仲介業の店員をしていたので…)

- (188) 오라버니 셋이 아직 총각으로 있습니다. [CE000073]

‘orabeni seis-‘i ‘ajig conggag-‘yro ‘iss-sybnida.

兄 三-NOM まだ 未婚男子-INS ‘iss -HON.IND

(兄の三人がまだ独身です。)

日本語と韓国語の場合が対応しないもう一つのタイプとして〈属性数量詞存在文〉が挙げられる。〈属性数量詞存在文〉は日本語の「ある」にしか見られない構文である。これらの意味構造は「Pr は, [Pe が Q だ]」のように表しうる。代表的な例を見てみよう。

- (189) 「平気, 平気。ぼく, 結構身軽だし」うそをつけ。軽く百キロはあるだろう。

[OB6X_00134]

- (190) 背は, 百六十五センチくらいあるらしいが, 平凡な顔立ちの女に見える。

[OB3X_00118]

- (191) ギャラリー両脇の殺風景な壁は高さが三十フィートもあり, 上方は闇に吸いこまれて
いる。

[OB6X_00010]

例 (189) では, Q のみが現れており, 「(体重=)百キロ」であることを表している。一方, (190) では, Pe と Q が現れ, 「(女の)背=百六十五センチ」であることを表し, (191) では Pr, Pe, Q がすべて明示され, 「壁の高さ=三十フィート」であるということを表す。数量詞は助詞を伴わないで現れる場合の他, 「は/も/ほど/くらい」といった係助詞や副助詞を伴っている例も少なくない。

これらに対応する韓国語の表現には, 「なる」に相当する「되다」動詞が用いられるのが一般的であり, 「있다」では表せない。次に「되다」による〈属性数量詞構文〉の例を挙げる。

- (192) 집까지의 거리는 10 미터도 될까 말까 했다. [BTAA0005]

jib-ggaji-‘yi geri-nyn 10mite-do doi-rgga mar-gga ha-iss-da

家-まで-POSS 距離-TOP 10 メートル-も なる-INFER ならない-INFER する-PAST-IND

(家までの距離は 10 メートルあるかないかくらいだった。)

- (193) 그 해의 총 생산량은 5,730 만 톤이나 되었다. [BTH00405]

gy hai-‘yi cong saingsanriang-‘yn 5,730 man ton-‘ina doi-‘ess-da.

その 年-POSS 総 生産量-TOP 5,730 万 トン-も なる-PAST-IND

(その年の総生産量は 5,730 万トンもあった。)

2.6.2. 「ある/いる」と「있다」が部分的に対応する場合

以下に挙げる〈様態存在文〉においては、「ある/いる」と「있다」の用法が部分的にのみ対応する。まず、日本語と韓国語の〈様態存在文〉が互に対応する場合を取り上げる。

日本語の例において、存在動詞が「～と一緒に」「独りで」「～するつもりで」などの副詞を伴って現れる場合は、主語名詞句の指示対象は有情物であり、「いる」で表されている。このような「いる」構文に対しては、その韓国語対応型として「있다」構文を挙げることができる。以下に日本語と韓国語のそれぞれの例を示す。

(194) 一人でいると, 不安でたまらないのだ。 [OB6X_00205]

(195) あいつは長いこと独りでいすぎた。 [OB6X_00043]

(196) 혼자 있기를 이렇게 좋아하는 사람이 결혼을 하고 아이들까지 낳았으니
알다가도 모를 일입니다. [BEXX0026]

honja 'iss-gi-ryr 'ireh-gei joh'aha-nyn saram-'i gierhon-'yr
独り 'iss-nmlz-ACC このようだ-ADV LZ 好きだ-ATTR 人-NOM 結婚-ACC
ha-go 'a-'i-dyr-ggaji nah-'ass-'yni 'ar-dagado mo-ryr 'ir-'i-bnida.
する-CV 子供たち-まで 生む-PAST-CV わかる-CV わからない-ATTR こと-COP-HON.IND
(独りでいるのがこんなに好きな人が結婚して子供まで生んだから不思議です。)

(197) 작가로 살기로 고집하는 것도, 혼자 있고 싶은 욕망 때문에 그러할 것입니다.

jagga-ro sar-gi-ro gojibha-nyn ges-do honja 'iss-go sip-'yn
作家-INS 生きる-NMLZ-INS こだわる-ATTR.PRS こと-も 一人 'iss-CV.願望-ATTR
'iogmang ddaimun'ei gyreha-r ges-'i-bnida. [BEXX0026]
欲望 ために そうだ-ATTR こと-COP-HON.IND
(作家として生きることにこだわるのも、一人でいたいという欲望のためでしょう。)

(198) 軽蔑している男なのに, 彼と一緒にいると, 自分はレディなのだと感じさせられて
しまう。 [OB5X_00070]

(199) 알지 못하는 사람들 앞에서나, 가까운 사람들과 함께 있을 때에나... [D97_B046]

'ar-ji mos ha-nyn saram-dyr 'ap-'eise-na gagga'u-n
知る-NEG.PSSB-ATTR 人-PL 前-LOC-も 近い-ATTR
saram-dyr-go hamggei 'iss-'yr ddai-'ei-na...
人-PL-COM 一緒に 'iss-ATTR 時-LOC-も
(知らない人の前でも, 身近な人と一緒にいる時でも...)

(200) どこにいても, だれといても, 心が平安になると伝えたいのです。[OB6X_00100]

(201) 당신하고 오래 있다 보면 아무짝에도 쓸모없는 평범한 인간으로 전락해 버리기
안성맞춤이겠어. (あなたと長くいると, どこにも役立たない平凡な人間へと転落して
しまいそう。) [CE000030]

一方, 「ある」構文の中, 次のような例に対応する「있다」構文は見受けられない。次の例を見ると, 「ある」が「どうある」や「どのようにある」という形で実現されている。

(202) 実状はどうあれ, 表向きはやはり「厄介になる」という形になる。 [OB5X_00232]

(203) その礎に歴史がどのようにあったかを知ることは, とても大切な気がします。
[OB6X_00086]

(204) ここに掲載した二人の高校生の体験談は, ぼくに, あらためて父としてどうあるべきかを
考えさせてくれたものです。 [OB2X_00029]

次に, 韓国語の「있다」の場合は, 「가만히 (じっと/おとなしく), 그냥 (ただ/何もしないで), 어리벙벙히 (呆然と)」などといった様態を表す副詞を伴って用いられる場合が多い。次のような表現は, 日本語では「副詞 + いる」の形で表すと不自然であるといえよう。

(205) 가만히 좀 있어. (おとなしくしてろ。) [BRE00080]

(206) 형님, 일단 오늘은 그냥 있으시는 게 좋을 것 같습니다. [CE000020]
(兄貴, とりあえず今日は何もしない方が良いと思います。)

(207) 열토당토 않은 생트집에 어리벙벙히 있다가… [DENA007]
(とんでもない言いがかりに呆然としていては…)

以上, 「ある/いる」構文と「있다」構文におけるそれぞれの文型について, 日韓対照的な観点から対応する場合と, 互に対応しない場合について見てきた。

まず, 〈場所存在・所在文〉〈生起存在文〉に加え, 「非空間的存在文」に属す〈絶対存在文〉〈所有文〉〈処格指定存在文〉〈実在文〉〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉のほとんどの文型において, 「ある/いる」と「있다」が対応しているといえる。

一方, 韓国語の「있다」にしか見受けられない文型としては, 〈時間存在文〉〈具格指定存在文〉が挙げられ, 日本語の「ある」にのみ見受けられる文型としては〈属性数量詞存在文〉が挙げられる。さらに, 〈様態存在文〉については, 「ある/いる」と「있다」の一部の用法のみが対応し, 他の文型に比べ複雑な対応関係になっているということが明らかである。

2.7. 「ある/いる」と「있다」による所有文

「ある/いる」と「있다」による所有表現は、大まかに「恒常的所有」²⁷と「一時的所有」に区別しうる。通常、時間的制限を受けない「恒常的所有」の典型としては〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈親族〉が挙げられる。さらに、「資産、土地、家」などの〈財産〉は、現実世界においては可変的であるものの、言語活動においては「恒常的所有」に似たふるまいをする傾向がある。

一方、「好きな人、親しい人」「좋아하는 사람 (好きな人), 아는 사람 (知り合い)」などのような〈関わり相手〉をはじめ、「予感、感じ」「기대감 (期待感), 고민 (悩み)」などの〈精神活動〉、〈状態〉として分類しうる「熱、暇、用事」「증상(症状), 약속 (約束)」のような具合・予定や「話、お願い」「할 말 (話)」のようなもの、さらには体に所持しているものを表す〈所持品〉の場合は、一時性を帯びる。

このようなことを考慮しつつ、現れた用例を検討すると、「ある/いる」構文と「있다」構文における所有物のカテゴリーは次のような連続線上にあると考えられる。

(208) 「ある/いる」と「있다」の所有物のカテゴリー

恒常的所有・静的(constant) <<<<<< >>>>>> 動的・一時的所有(temporal)

部分-----身体-----属性-----親族-----財産-----関わり相手-----精神活動-----状態-----所持品

以下に各カテゴリーの典型的な例を示す。

<部分>

(209) ここには地下室があって、剣と杯がその目印になっている。[OB6X_00109]

(210) 長く伸びた指は適度に節があって男らしい。[OB5X_00031]

(211) 그 방에는 창문이 둘 있어. [D97_B046]

(その部屋には窓が二つある。)

(212) 이마에 큰 점이 있고 다리를 약간 절름거리는데… [CE000026]

(額に大きいほくろがあって、足を少し引きずっていたが…)

<身体>

(213) 普通の蛇ではなく、脚や角までであると言われ、日本にも“みずち”の名前で伝わっている。

[OB2X_00083]

27 日本語学の連語論に基づいている奥田靖雄(1983:284-288)によると、動詞「ある」が、属性として、部分としてもっている、という語彙的な意味を実現する場合は、に格の名詞とのくみあわせにおいて「内在のむすびつき」をつくるという。「内在のむすびつき」の特徴として「に格の名詞は、空間的なニュアンスをもたない具体名詞か抽象名詞であって、動詞との関係において空間的なありかをしめさず、属性や部分のありかをしめしている」と言及している。この「内在のむすびつき」の特徴は本稿における恒常的所有の特徴に相当する。

(214) 여신 라벨라처럼 머리만 있고 몸통이 없어. [D97_B046]

(女神のラベラーのように頭だけあって胴体はない。)

次の例のように、「ヒト+〈修飾語句を伴っていない身体部分〉」は純然たる身体的所有を表すというより、「足=歩く」「耳=聴く」「眼=見る」など、ヒトの持つ一般的な能力の所有を表す。

(215) 「だって、屋上までだと随分あるぜ。ずっと歩いてのぼろうっていうの」

「あんたたちも足はあるんでしょ」

[OB1X_00269]

(216) 당신들도 귀 있고 눈 있으니 알 것ियो. [CE000023]

(あなたたちも耳があって眼もあるからわかるでしょう。)

<属性>

「迫力，観察眼，センス，教養」「経験，前科，アレルギー，障害，癖」など，「있다」構文においては「才能（才能），장점（長所），매력（魅力），기품（氣品）」「권리（權利），자격（資格），경험（経験），죄（罪）」など，性質・性格を表すものをはじめとして抽象的な事柄を指す名詞でもって主体を特徴づける。

(217) ここの猿たちだって，そのくらいの知恵はあるってものだ [OB1X_00135]

(218) 能条君には，演劇の才能があった。[OB4X_00199]

(219) 度胸もあるし，仕事もしっかりしている。[OB2X_00153]

(220) 그에게는 뛰어난 재주가 있고… [D97_B046]

(彼にはすぐれた才能があって)

(221) 이 집은 풍류도 있어 분위기 한번 좋군요. [CE000079]

(この家は風流もあって雰囲気がいいですね。)

(222) 제가 자격이 있는지는 모르지만 일할 기회만 주시면 정말 열심히 해보겠습니다.

([lit.私が資格が]あるかどうかわかりませんが，働く機会さえいただければ一生懸命やってみます。)[CE000029]

<親族>

(223) わたしにはベルリンに残してきた妻と子供がありますし，それに，家族をこよなく愛しています。 [OB4X_00229]

(224) わたしには母と二人の妹がいます。[OB3X_00121]

(225) 제겐 애가 둘이나 있고，남편도 있어요. [D96AA114]

(私には子供が二人もあって，主人もあります。)

(226) 누구나 어머니는 있다. [CE000023]

(だれにでもお母さんはいる。)

<財産>

(227) 貯金だってあるし、贅沢さえしなきゃ十分食べていけるでしょう。 [OB4X_00171]

(228) わたしには使い切れないほどの金があるが, … [OB4X_00156]

(229) 달랑 읍내에 집 한 채 있는 것이 고작이었으니… [CE000023]

(市内に家一軒あるのがせいぜいだったから…)

(230) 촌에서 난 여자가 무슨 돈이 있을 거라고. [CE000023]

(田舎出身の[lit.女が何のお金が]あると)

<関わり相手>

「恋人、友達」をはじめ、「子供の世話をしてくれる人、一緒に行く人、好きな人、親しい男、会いたい人」「좋아하는 사람 (好きな人), 아는 사람 (知り合い)」など、親族以外の人間関係を表すものを指す。

(231) 雛子に何人, ボーイフレンドがいようが, 僕は何とも思わない。 [OB4X_00094]

(232) 他に好きな人がいるのなら, 早く離婚してくれるといいのに。 [OB5X_00231]

(233) 애인은 있습니까? (恋人はいますか?) [CE000029]

(234) 그에게도 부모가 있고, 가족이 있고, 사랑하는 사람이 있고, 친구가 있고, 직장도 있을 것이다. (彼にも親があり, 家族があり, 愛している人があり, 友達があり, 職場もあるはずだ。) [BEXX0025]

<精神活動>

(235) 一瞬見えない手で頬を叩かれたような感じがあった。 [OB1X_00184]

(236) 今, 遠山と重森には同じ戸惑いがあった。 [OB5X_00185]

(237) 저는 평생 그렇게 살 자신도 있습니다. [CE000029]

(私は一生そのように生きていく自信もあります。)

(238) 한편으로는 이해를 하면서도 시종 제 마음으로는 불만이 있었지요. [CE000023]

(一方では理解しつつも, 始終自分の心のなかでは不満がありました。)

<状態>

「熱, 痛み, しびれ」「증상 (症状), 이상 (異常)」のような物理的現象をはじめ, 「暇, 約束,

用事, 用」「볼 일 (用事), 약속 (約束)」などの一定の時間における予定・都合を表すものなどを〈状態〉と呼んでおく。以下に代表的な例を示す。

- (239) 熱があるんじゃない。測ってみたら [OB2X_00128]
(240) 切符を買う余裕がそのときのラリーにはまだあった。[OB4X_00142]
(241) キャサリンは翌朝仕事があるからと言って, 先に自室へ失礼しようとした。
[OB4X_00245]
(242) 여러 날 전부터 가끔 한기와 신열이 있는 것을 가벼운 고열로만 알고...
(何日か前から度々寒気と熱があるのを軽い風邪だと思って...) [CE000073]
(243) 아마 브레이크에 이상이 있었던 것 같아요. [CE000030]
(おそらくブレークに異常があったようです。)
(244) 나는 일이 좀 있어서 못 갔어. [CE000079]
(私は用事があって行けなかった。)

さらに, 「話, 報告, 質問 + ある」「부탁(お願い), 청(お願い), 할 말(話) + 있다」のような表現も〈状態〉の一種と見なしうる。

- (245) 閉店後, 「話がある」と中尾が私を大衆的なレストランに呼んだ。[OB2X_00052]
(246) 네가 지금 청이 있다구 했느냐? [CE000073]
([lit.あなたが] 今お願いがあるといった?)

統語的構成を成している次のような例も上掲の表現と同類のものと考えられる。

- (247) 見せたいものがあるんだ [OB6X_00120]
(248) クリスマスじゃなくて十九歳の誕生日だったら, ほしいものあるんだけど [OB6X_00084]
(249) 줄 선물이 하나 있소. [CE000026]
([lit.あげるプレゼントが] 一つあります。)
(250) 보고 싶은 영화가 있으면 뭐든지 말해. [CE000030]
(見たい映画があったら何でも言って。)

統語的構成を成している例を見ると, 所有物名詞句内の被修飾部に, 日本語の場合は「～こと, ～ところ(側面), ～もの, ～人」, 「있다」構文では「～일(こと), ～데(ところ), ～것(もの/こと), ～구석(面/ところ), ～사람(人), ～말(言葉/話)」という語彙が目立つ。これらの表現は存在動詞によって頻繁に表される所有表現の一つである。なお, 韓国語における「할 말」「할 일/볼 일」は, それぞれ日本語の「話し」「用事」に相当するひとかたまりの表現である。

最後に, 本稿の計量調査には含めていないが, 以下のような表現も所有表現の一種と見なしうる。

(251) 私は同じクセを持っている女としばらくつきあっていたことがある。〔OB6X_00214〕

(252) 훨씬 전에도 그녀는 자살을 기도한 적이 있었다. 〔CE000030〕

(ずっと前にも彼女は自殺を図ったことがあったそうだ。)

益岡隆志(2008: 6) は、「過去のイベントを履歴として所有することを表す場合」について言及し、「A は B (～したこと) がある」のような表現を「履歴属性 (履歴所有の属性)」と呼んでいる。ただし、「～したことがある」の例を見ると、構造的に「A は B {～したこと} がある (所有文)」と「{A が～したこと} がある (絶対存在文)」との判断が常に明快であるとはいえない。

以上の所有物のうち、統語的構成のものを除く例について所有物の分類を行った結果を以下の図に示す。

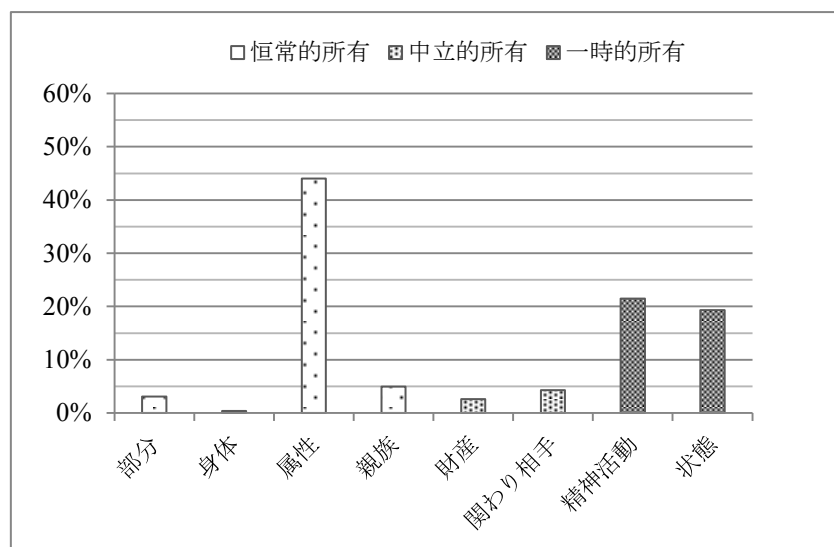


図 1 : 「ある/いる」構文の所有物 (818 例)

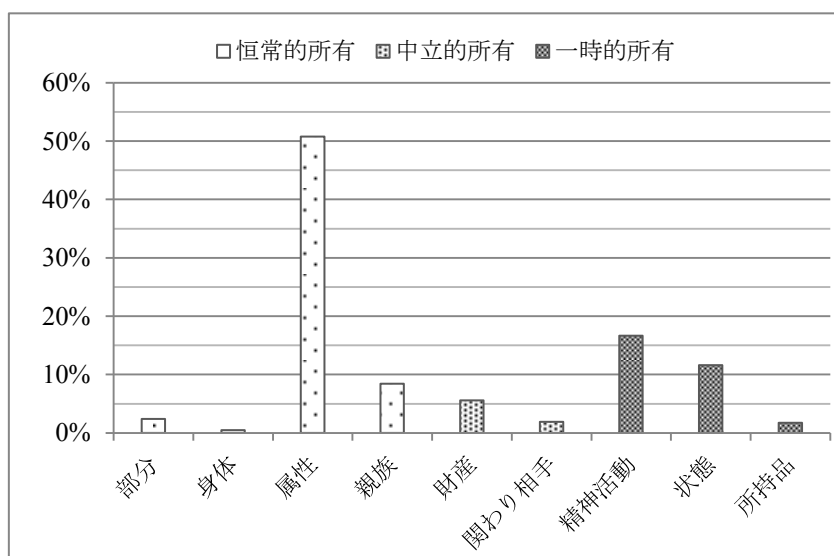


図 2 : 「있다」構文の所有物 (644 例)

所有物のカテゴリーにおいて、「ある/いる」構文と「있다」構文はほとんど対応するが、〈所持品〉の例はわずかながら「있다」構文にのみ観察される。〈所持品〉の例は「場所存在・所在文」に繋がる表現であるが、ヒトや身体が存在場所であるという点が特徴的である。そしてこのような意味的な特徴が使用傾向に影響を与えるということに注意すべきである。日本語において、「ある」による〈所持品〉の表現が非文というわけではないが、〈所持品〉には一般に「ある」ではなく、「持っている」の方が選択されやすいようである。「있다」構文に現れた〈所持品〉の例を以下に示す。

(253) 담배 있냐? (タバコある?) [CE000023]

(254) 그의 손에는 카메라가 있었다. (彼の手にはカメラがあった。) [CE000079]

次に、所有者と所有物が両方とも明示されている[所有者+所有物+動詞]の例について、「所有者の示し方」に注目すると、以下の表のようになっている。

表 25. 「ある/いる」と「있다」 - [所有者-所有物]

語順	所有者	ある/いる	있다
Pr-Pe	NP _{1-LOC}	61.5% (296 例)	42.7% (149 例)
	NP _{1-TOP}	25.7% (123 例)	29.5% (103 例)
	NP _{1-NOM}	3.7% (18 例)	19.8% (69 例)
	NP _{1-その他}	9.1% (44 例)	8.0% (28 例)
計		100% (481 例)	100% (349 例)

「ある/いる」構文と「있다」構文のいずれにおいても、「NP に(は) NP がある」「NP 에/에게(는) NP 가 있다」のごとく、所有者を与位格で表示しているケースが最も多く、それに次いで「NP は NP がある」「NP 는 NP 가 있다」の形式が高頻度で現れるという点では共通している。

ところが、「ある/いる」構文に比べると、「있다」構文においては二重主格構文の使用が比較的多いという傾向が見られる。以下に「ある/いる」構文と「있다」構文における二重主格構文の例を示す。

(255) 熊가 いちばん 人気가 ある의요. [OB1X_00030]

(256) 자네가 무슨 돈이 있다고… [CE000020]

(lit. 君が何のお金があって…)

(257) 죄지은 놈들이 무슨 할말이 있어? [CE000029]

(lit. 罪を犯した奴らは何の言うことがあるのか?)

日本語においては、例 (255) の「人気がある」をはじめ、連語構成のものがほとんどであるのに対して、「있다」構文では (256) (257) および、前述の〈属性〉〈財産〉の項目で取り上げ

た(222)(230)などを含め、連語構成²⁸に限らず二重主格構文の例が散見される。

2.6. 第2章の結び

本章では、日本語の「ある/いる」構文と韓国語の「있다」構文の類型と位置付け、存在動詞による「所有文」の意味的、形態・統辞的特徴という2点について考察した。本章での考察の結果を以下に示す。

日本語の存在文について分類を行っている西山佑司(2003, 2004)に基づきつつ、コーパスの用例を検討すると、「ある/いる」構文と「있다」構文には、西山佑司(2003, 2004)で提示している「場所存在文」「所在文」「絶対存在文」「所有文」「実在文」「リスト存在文」「帰属存在文」のほか、さらなる文型が見受けられる。

「ある/いる」構文と「있다」構文はいずれも特定の時間・空間に関わる「空間的存在文」と、物理的な空間と無縁である「非空間的存在文」に分かれる。「非空間的存在文」のなかには、指定コピュラ文の意味構造を有するタイプ(指定構造存在文)と、指定コピュラ文の意味構造を有するタイプ(指定構造存在文)とがある。「指定構造存在文」には、〈所有文〉〈属性数量詞存在文〉〈処格指定存在文〉〈具格指定存在文〉〈実在文〉が当てはまり、「指定構造存在文」には〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉が当てはまる。さらに、いずれにもはまらない文型として〈絶対存在文〉〈時間存在文〉が挙げられる。

益岡隆志(1987)の「叙述の類型」の観点から考えると、すべての文は「事象叙述文」または「(準)属性叙述文」のいずれかに当てはまるということである。しかし「指定構造存在文」やもっぱら抽象的な変項の値の有無を表す〈絶対存在文〉は、「事象叙述文」と「(準)属性叙述文」のいずれの特徴も持っていない。したがって益岡隆志(1987)の「事象叙述」と「(準)属性叙述」のほかに新たなタイプの叙述の類型を認める必要がある。ここでは、存在文のなかには、益岡隆志(1987)の「叙述の類型」では説明し切れない文型があるということを指摘することに止める。

次に、対照言語学的な観点から「ある/いる」構文と「있다」構文の相違点について考えると、〈属性数量詞存在文〉は日本語では「ある」によって頻繁に使われる表現の一つであるが、「있다」にはそれに対応する用法がない。一方、〈時間存在文〉〈具格指定存在文〉は、「ある/いる」には見られず、「있다」にのみ見られる用法である。さらに〈様態存在文〉においては「ある/いる」と「있다」の間に用法のずれが見られる。

最後に、存在文の文型のうち〈所有文〉において注目される点として、第一に、「ある/いる」構文と「있다」構文のいずれにおいても統語的構成をなしている所有物名詞句が頻繁に表れる。なお統語的構成の所有物名詞句は一時性を帯びる場合においてとりわけ目立つ。第二に、日本語では所有物のカテゴリーのうち、〈所持品〉の表現に存在動詞「ある」を用いない傾向が窺われる。第三に、「ある/いる」による所有表現に比べ、「있다」による所有表現では二重主格構文の使用が目立つ。

28 南潤珍(2006: 72)では「권위(権威), 책임(責任), 용기(勇氣)」等について「있다」と2項構造の「連語構成」を成す」と言及している。

本章で取り上げた「ある/いる」構文と「있다」構文の文型を典型的な例とともに以下に示しておく。なお日本語と韓国語の間にずれが見られるところは で囲んである。

【ある/いる構文と있다構文の分類】

-----空間的存在文-----

<場所存在・所在文>

日) 部屋には大きな姿見があります。

韓) 저쪽에 의자 하나 있지? (あそこに椅子が一つあるでしょ?)

日) 君はどこにいたんだ。

韓) 우리 회사는 부산에 있다. (うちの会社はプサンにある。)

<生起存在文>

日) 今、アナウンスがあっただろ。

韓) 다른 증인들에 대한 심문은 오후 두 시부터 본 법정에서 있겠습니다。

(他の証人に対する尋問は午後二時から本法廷にて行われます(lit.であります)。)

-----非空間的存在文-----

<様態存在文>

日) 一緒にいると、時間が経つのが早い。

韓) 가만히 좀 있어. (おとなしくしてろ。)

<所有文>

一時的所有

日) あたしたち、今夜、時間があるんです

日) 一つお願いがあります。

韓) 내 자네에게 부탁이 하나 있네. (私、君にお願いが一つある。)

韓) 저는 평생 그렇게 살 자신도 있습니다。

(私は一生そのように生きていく自信もあります。)

恒常的所有

日) わたしには母と二人の妹がいます。

日) 熊がいちばん人気があるのよ。

韓) 제겐 애가 둘이나 있고, 남편도 있어요。

(私には子供が二人もあって、主人もあります。)

韓) 그에게는 뛰어난 재주가 있고… (彼にはすぐれた才能があつて)

<属性数量詞存在文>

日) 軽く百キロはあるだろう。

<処格措定存在文>

日) 二人はいま満ち足りたあとの虚脱のなかにいた。

韓) 나는 내가 더 이상 혼돈의 와중에 있지 않다는 걸...

(私は私がもはや混沌の中にいないということを...)

<具格措定存在文>

韓) 오라버니 셋이 아직 총각으루 있습니다. (兄の三人がまだ独身です。)

<実在文>

日) バケモノなんていないよ。

韓) 하느님은 정말 있는 것일까. (神様は本当にいるのだろうか。)

<倒置指定存在文>

日) 喧嘩のもともとの原因は、抄子の身勝手さにある。

韓) 이 소설의 일차적 매력은 그 아름다운 방황의 진지함과 순수함에 있다.

(この小説の一次的な魅力はその美しいさまよいの真剣さと純粋さにある。)

<リスト存在文>

日) 跡目は、誰にするつもりですか？ 健しか、いないだろう...

韓) “너희 반도 잘한다던데” “3 반은 은철이형이 있잖아요”

(あなたの組も上手だって。3組はウンチョル兄さんがいるじゃないですか。)

<帰属存在文>

日) この七十余戸のなかに、大久保利通が生い立った家もあった。

韓) 파견 오 년차에는 연수 동기인 함중복이 있었다.

(派遣五年次には研修同期である함중복이 있었다。)

<絶対存在文>

日) 自分で言う人がありますか。

韓) 그런 욕심을 안 가진 사람이 있느냐구. (そんな欲のない人っているか。)

<時間存在文>

韓) 두 시간쯤 있다가 들어온 한 여선생이 말한다.

(二時間ほど経って入ってきたひとりの女性の先生がいう。)

第3章 日本語の「もつ」と韓国語の「가지다/갖다」

本章では、所有動詞「もつ」を述語とする構文と「もつ」に相当する韓国語の「가지다/갖다²⁹」構文を対象に、所有物の分類および、形態・統辞的特徴について考察する。

3.1 では「もつ」と「가지다/갖다」に関する従来の研究をまとめ、3.2 では考察の対象について述べる。3.3 では日本語の「もつ」について、3.4 では「가지다/갖다」について、それぞれの用例の分析と考察を行う。3.5 では前章で見てきた存在文の場合に照らしつつ、本章での考察の結果を示す。

3.1. 先行研究

以下の 3.1.1 では日本語の「もつ」に関する従来の指摘を取り上げ、3.1.2 では「가지다/갖다」を巡る議論について概観する。

3.1.1. 「もつ」に関する先行研究

先行研究(1.2 参照) で取り上げた角田太作(1991) によると、所有物が「身体部分」である場合は、次のような「適切な文脈」がある場合を除いて、通常、修飾要素の有無にかかわらず「もつ」を使わないという。

(258) 太郎は足を持っているんだ。自分で歩かせろ。 (角田太作 1991[2009: 171])

一方、「属性」に関しては、「普通所有物」の場合は「もつ」を使えないが、「非普通所有物」の場合は名詞によって「もつ」を使える場合と使えない場合があるという。

例えば、「気品／類希な気品、貫禄／堂々たる貫録」を含む多くの場合は、修飾要素の有無にかかわらず「もつ」を使えないが、「才能／特殊な才能」の場合は「もつ」を使えると述べ、どのような名詞が使えるかは不明であると記している。

このようなことを含め、角田太作(1991) における「もつ」の所有物は、「属性」「親族」「作品」「その他の所有物」に限られている。

以下にそれぞれの例を挙げる。なお、() 内に該当の所有物のカテゴリーを記しておく。

- (259) a. 山田さんはすぐれた才能を持っている。 (属性)
b. 山田さんは立派な親を持っている。 (親族)
c. 山田さんは多くの著書を持っている。 (作品)
d. 私は車を持っている。 (その他の所有物)
- (角田太作 1991[2009: 150])

以上の指摘を含め、「もつ」構文における所有物名詞については本章の 3.3.1 で詳しく取り上げ

29 「갖다」は「가지다」の縮約形として頻繁に用いられるが、母音で始まる語尾との結合において制約がある。

る。

他方、「もつ」構文に関する意味論的、構文論的特徴について言及している論考には、高橋太郎(1975)、原沢伊都夫(1991)、早津恵美子(2000)、由井紀久子(2000) 等がある。³⁰

使役動詞「もたせる (もつ+ (サ) セル)」を研究対象としている早津恵美子(2000: 100) を取り上げると、「人に 物を もたせる」の場合、「人に物をもたせて／もたせると...V-サセル／V-スル」という複文の構造で用いられることが多いという。さらに、「人に 認識を もたせる」「人に 属性を もたせる」など、「使役対象」の性質による構文論的・意味論的特徴について述べている。

早津恵美子(2000) は使役文に関する考察であるものの、所有物名詞と構文の構造との関連性に注目しており、注目に値する。このような先行研究の指摘と関連する「もつ」の統辞論的特徴については3.3.2で取り上げる。

3.1.2. 「가지다/갖다」に関する先行研究

韓国語の「가지다/갖다」に関する従来の研究を見ると, 최창렬(1983), 신현숙(1984), 전수태(1987)をはじめ, 多くの研究では動詞の語彙論の一つの項目として「가지다」を取り上げている。

一方, 장미라(2002) は構文的, 意味的な特徴に注目しつつ, 「가지다」構文を「所有文」として取り上げており, 注目に値する。さらに, 이수련(2006), 이종열(2008) は認知言語学の観点から「가지다/갖다」について論じている。他方, 韓国語において「가지다」の文法化が非常に進んでいるということと関連するが, 홍윤표(1984), 남윤진(2000), 범금희(2008) 等をはじめ, 「가지다/갖다」の文法化に関する研究がとりわけ目立つ。

以下では, 「가지다」の用法に見られる通時的変化および, 構文的な特徴について述べている 장미라(2002) と, 言語習得の過程に見られる「가지다」の使用様相に関する 이종열(2008) を取り上げる。その後, 「가지다/갖다」の文法化について 남윤진(2000) を取り上げる。

まず, 장미라(2002: 69) によると, 「가지다」³¹ は基本的に「行動, すなわち所有過程」と「結果状態 (所有状態)」の両方の意味を表す述語であるが, 実際の言語表現では「所有状態」を表す用法が生産的であるという。通時的な観点からは「gaji-go 'issda (もっている)」の形式は中世や近代の韓国語資料にはほとんど現れておらず, 主に「所有過程」の意味を表していたが, 「結果状態の持続 -go 'issda」の形が確立した後, 20 世紀に入って「gaji-go 'issda (もっている)」の使用頻度が高くなり, 現代韓国語において「所有状態」の表現として定着した(장미라 2002: 75) と解いている。さらに, 「가지다」は他動詞でありながら, 状態的な側面が浮き彫りになるのが

30 高橋太郎(1975: 2) は, 「所有・所属を表す動詞」として「もつ」を取り上げ, 連体形になると現在形と過去形の意味の区別がなくなると言及しており, 原沢伊都夫(1991) は述部においてテイル形で用いられることが多いと述べている。現代日本語動詞のアスペクトについて論じている吉川武時(1976: 301-302) は, 「他動詞で主体の状態を変化させることをあらわすもの」を「結果動詞」と称し, その一種類として「持つ」の類を取り上げている。

一方, 由井紀久子(2000: 116) は, 意味論的観点に基づき, 「もつ」の意味的な基盤から意味の拡張を経て所有表現にいたる様子を, 意味成分の融合, 意味成分の暗在化と顕在化といった概念を取り入れて説いている。「もつ」の中核的な意味は「具象空間において対象物を手に取り収めることである」とみなしている。

31 장미라(2002: 70) で提示している, 「所有状態」を表す 9 つの動詞に対する使用頻度の調査に基づく, 「가지다 (もつ), 차지하다 (占める), 지니다 (身につける/保有する), 소유하다 (所有する)」を含む 9 つの動詞のうち, 「가지다 (もつ)」は圧倒的に高い頻度(77%)で用いられている。

が特徴的であり、「現在形終結語尾 -nynda」や「進行の意味を表す -go 'issda (～ている)」³² , 「～しはじめる」に相当する「-gi sijaghada」との結合において制約があると指摘し、容認されない表現として次のようなものを挙げている。

(260) a. (?)오늘, 철수가 그 구슬들을 가진다. *gaji-n-da* (*gaji*.PRS-IND)

(今日チョルス(人名)がその玉を持つ)

b. *철수가 그 구슬들을 조금씩 가지고 있다. *gaji-go 'iss-da* (*gaji*.CONT-IND)

(チョルス(人名)がその玉を少しずつ持っている)

c. *오늘부터 철수가 그 구슬들을 가지기 시작한다.

gaji-gi sijagha-n-da (*gaji*.NMLZ はじめる.PRS-IND)

(今日からチョルス(人名)がその玉を持ち始める)

(장미라 2002: 71)

장미라(2002: 70-71) は「가지다」について「一時的な所有状態」「所有権と使用権の両方をもつ場合」「使用権のみをもつ場合」「本来の生まれつきの自然的な所有関係」など、構文によって多様な意味と用法で用いられると記しているものの、所有物のカテゴリーによる違いについて詳細な考察は行っていない。

次に, 이종열(2008) は, 韓国語を母語とする 3 才～6 才の幼児による日常会話で構成された話しことばコーパスを用い, 言語習得の過程における「가지다」構文の実現様相について考察している。이종열(2008: 191-197) では, 幼児は「가지다」を所有概念といった語彙的な意味で用いるというよりは, 行為関係に対する連続的な認識や場面に対する因果関係の認識のために用いるという結論に至っている。つまり, 幼児による「가지다」の使用においては文法化の用法が際立つということである。

「가지다/갖다」の文法化(3.4.3 参照) について 남윤진(2000: 124) を取り上げると, 「所有, 所持」の意味をもつ用言「가지다/갖다」の活用形「gajigo/gajgo」に対し, 「対象」「道具」「状態」という関係的な意味を表す場合, 文法化した形態として解釈できると言及している。関係的な意味を表す用法のうち, 「対象」「道具」の意味を表す「gajigo/gajgo」は「助詞」として位置づけられ, 先行語として常に「連結語尾-*e*」をとり, 「状態」の意味を表す「gajigo/gajgo」は「語尾」として位置づけられるという。

以下に「対象」「道具」「状態」という関係的な意味に当てはまる「gajigo/gajgo」の例を남윤진(2000: 121) から引用する。

32 「進行」ではなく, 「結果状態の持続を表す -go 'issda (～ている)」と結合した *gajigo 'issda* (もっている) の形は最も自然的で生産的である (장미라 2002: 71-72)」という。

- (261) 동생이라도 있었다면 어머니가 나를 갖고 이렇게 야단하지 않을 텐데.

dongsaing-‘irado ‘iss-‘ess-damien ‘emma-na harmeni-ga na-ryr-gajgo ‘irehgei
 弟/妹-でも ある-PAST-COND 母-や 祖母-NOM 1SG-ACC-gajgo このように

‘iadanha-ji‘anh-‘yrteindei. [121M-110] [対象]

騒ぎ立てる-NEG-INFER

(弟でもいたら母や祖母が私のことでこんなに騒ぎ立てることはないだろうに。)

- (262) 토인비는 도전과 응전의 틀을 가지고 인간의 역사를 해석하였습니다.

to‘inbi-nyn dojen-go ‘yngjen-‘yi tyr-‘yr-gajigo ‘ingan-‘yi ‘iegsa-ryr
 人名-TOP 挑戦-COM 応戦-POSS 枠-ACC-gajigo 人間-POSS 歴史-ACC

haisegha-‘iess-sybnida. [110M-081.HWP] [道具]

解釈する-PAST-HON.IND

(トインビーは挑戦と応戦の枠で人間の歴史を解釈しました。)

- (263) 느이 아버님 저 모양 되셔 갖고 순전히 재 하나 들락날락하고 슬하에서 고물고물하
 는 거 바라보는 낙으로 사신다.

ny‘i ‘abenim je mo‘iang doi-si-e-gajgo sujenhi jiai hana
 2PL.POSS 父.HON あの 模様 なる-HON-CV-gajgo ひとえに 3SG ひとつ

dyrragnarragha-go syrha-‘eise gomurgomurha-nyn ge barabo-nyn
 出たり入ったりする-CV 膝元-LOC もぞもぞする-ATTR.PRS こと 眺める-ATTR.PRS

nag-‘yro sa-si-n-da. [156M-186.HWP] [状態]

楽しみ-INS 生きる-HON-PRS-IND

(あなたのお父さんはあのようになって, ひたすらあの子が出入りしたり, 膝元でもぞもぞするのを見るのを楽しみに生きている。)

本章の 3.4 では, 「가지다/갖다」の実例の分析に基づいて, 所有物の分類(3.4.1), 統辞論的特徴(3.4.2), 文法化の用法(3.4.3) について考察する。

「もつ」と「가지다/갖다」に関する従来の研究では, 個別動詞の一部の特徴に関する言及は少なからず見受けられるものの, 所有物名詞の性質と動詞の形態・統辞的特徴との関わり(3.5.1) および, 存在動詞による所有文との相違点(3.5.2) に関する考察は決して十分とは言えず, 明らかになっていないところが多く残されている。

3.2. 資料と考察対象について

日本語については, BCCWJ の文学作品を資料として叙述用法の「もつ」の用例を検討する。用例抽出には国立国語研究所公開の索引検索ツール「中納言」の語彙素検索を用いる。なおオンライン検索システム NLB で確認してみると, 「もつ」は 53,267 例現れており, 動詞のうち 14 位を占めている。本稿では検索範囲を BCCWJ の文学ジャンルに絞る。検索された「もつ」の用例

韓国語の用例抽出に当たって、オンラインで公開されている KNC の活用システム KKMA の計量調査に基づく、「가지다」は 17,819 例、「갖다」は 11,641 例現れており、動詞のうちそれぞれ 21 位、33 位を占めている。本章では文学作品における「가지다/갖다」の叙述用法³⁴ および文法化の例を検討する。考察対象の例は「가지다」1,510 例、縮約形「갖다」621 例である。本章の 3.4 ではこれら 2,131 例を検討した結果に基づいて述べる。

以下の 3.3.1 では主に所有物名詞の分類および、「もつ」の活用における使用実態について見ていく。その後 3.3.2 では存在動詞による所有表現に照らしつつ、「もつ」の統語的環境に焦点を当てて見ていく。

角田太作(1991) の分類に基づきつつ, さらに恒常性(constant) と一時性(temporal) に注目して「もつ」の用例(934 例)を検討してみると, 「もつ」構文における所有物のカテゴリーはおおよそ次のように示しうる。

身体-----属性-----親族-----財産-----関わり相手-----精神活動-----状態-----所持品-----活動

他方、「〈財産〉〈関わり相手〉+ もつ」は、可變的事柄を表しており、一定の時間に限ることが可能である点では「一時的所有」に似ているが、用例分析に基づくと時間・期間の制限はあま

34 連体修飾用法については属格構造とともに本稿の二部で取り扱う。

り示されることなく、もっぱら所有者の特徴を述べている場合が多い。〈財産〉は、名詞の性質よりも時間副詞との共起を含む構文的な環境によって、恒常的な属性叙述と一時的な事象叙述としての表現が比較的自由に行われる。このようなことを考慮すると、「中立的所有（準属性叙述所有文）」として位置づけうる。「もつ」構文における所有物のカテゴリー別割合を次の図に示す。

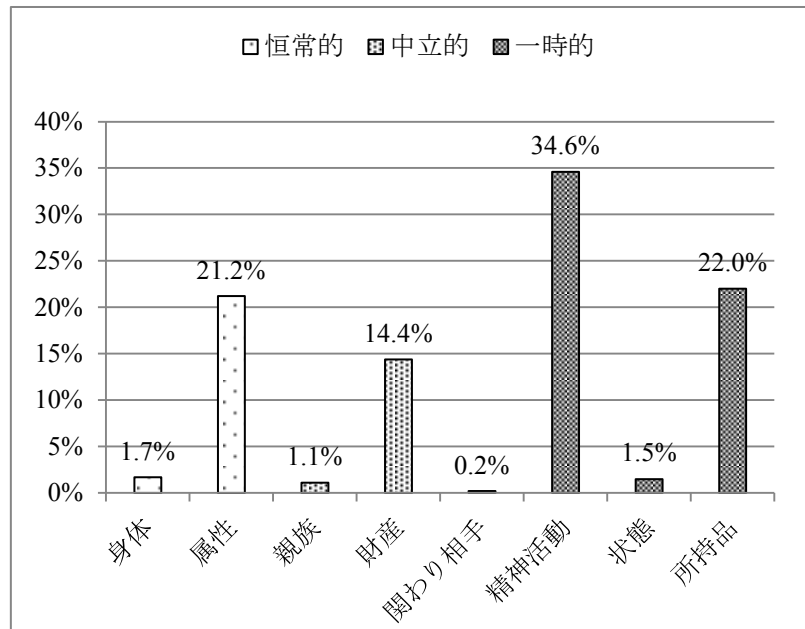


図3：「もつ」650例 - 所有物のカテゴリー別割合

初めに断っておくが、全934例の30%は「モノ名詞+もつ+V₂(移動動詞)」の形をとっているものである。「もつ+V₂」の例を反映すると〈所持品〉の割合はさらに大きくなるが、これらは別に扱う必要があるため、上掲の図に示した計量調査の対象から外している。詳細は〈所持品〉の項目で後述する。

「もつ」の所有物のカテゴリー別割合を見ると、〈精神活動〉に当てはまるものが最も多く、それに次いで〈所持品〉が比較的高頻度で現れている。その結果、全般的に「一時的所有」が目立つ。

一方、「恒常的所有」のうち、先行研究で「もつ」を使えないとしていた〈身体〉の例を見ると、比喩的な表現の割合が大きいものの、「引きしまった肉体／筋肉質の体」など、身体部分そのものの外見的特徴を表す例も見受けられる。要するに、「〈身体〉+もつ」は比喩的な表現を表す場合が多く、外見的特徴を表すのはそれほど一般的ではないといえる。

他方、〈親族〉に関しては、現れた例のほとんどが「子女」を指す表現であり、目上の人には使わないという傾向が見られる。〈親族〉をはじめ〈身体〉〈状態〉はいずれも「もつ」による生産的な表現とはいえない。

次に、述語「もつ」のふるまいに注目すると、「〈身体〉〈属性〉〈財産〉+もつ」においては「テイル形」の言い切り用法が一般的である。一方、〈精神活動〉の場合は「テイル形」と「テ

形」の両形式の割合の差がほとんどなく、さらに「タ形」で現れた例も少なくない。「〈親族〉〈所持品〉+ もつ」の場合は、従属節として現れる傾向が強い。このように、所有物の性質は述語「もつ」のふるまいに影響を与えている。以下では〈身体〉から順番に典型的な例とともに見ていく。

<身体>

角田太作(1991)によると、「適切な文脈がある場合」を除き、〈身体〉には修飾の有無にかかわらず「もつ」を使えないとされている。ところが、実例に基づくと「正しい目、二つの顔、多くの顔、屑みたいな脳」のような比喩的な表現に限らず、「引きしまった肉体、筋肉質の体、吊り気味の目、高い頬骨」といった外見的な特徴を表わしている例も見受けられる。なおこれらの全ての例は修飾を受けている。

以下の(265)は先行研究のいう「適切な文脈がある場合」に当てはまり、(266)(267)は身体部分そのものの特徴に当てはまる。

(265) 人間てのは、誰だってね、相手がいちばん言われたくないと思ってることを言う口を持ってるんだ。[OB6X_00071]

(266) 夏侯嬰は、油びかりするほどにすぐれた筋肉質の体を持っていた。[OB1X_00274]

(267) 人目を惹くすらりとした肢体と、エキゾチックで生き生きした顔、グレーの、やや吊り気味の目と、高い頬骨を持つ。[OB5X_00272]

とりわけ「目、顔、脳」の場合は、体の部分そのものを指すというより、意味的にそれぞれ「観点、性質、知能」といった〈属性〉として捉えられるケースが多い。例えば、以下の(268)の「顔」は「姿/態度」という意味として捉えられる一方、(269)の「頭脳」は「知力/才能」という意味として捉えられよう。

(268) 二つの顔もってるの。おじさんのもう一つの顔、絶対今でも母さんのこと愛してる。
[OB2X_00092]

(269) 目を見たものはそのまま頭の中に入ってしまう特殊な頭脳を持っているからだ。
[OB3X_00105]

他のカテゴリーに比べると、〈身体〉の例は明らかに少ない。現れた用例を見る限りでは、「〈身体〉+ もつ」は「テイル形」でもって文末述語として使われる傾向が強い。

<属性>

〈属性〉は一定の時間や期間における作用・状態ではなく、所有者の恒常的な性格・性質を表す。所有物名詞には「力、意味、技量、やさしさ、情熱、履歴、オーラ、気品、性格、アレルギー」などが現れている。次に該当の例を示す。

(270) コレクターってのは不思議な心理を持っていて、集めたものを子供のように自慢したくて仕方がないわけです。[OB2X_00134]

(271) 彼は、アメリカ国籍とともに、日本国籍をもっていたのである。[OB5X_00230]

(272) 犬や猫だって飼ってみれば癖はそれぞれだし、人間もつき合ってみると、それぞれけっこうヘンな癖を持っていて、自分と同じようなことやってる人がいると、ああそうなんだって、よくわかるしね。[OB5X_00278]

(273) 妙なくせがなく、いかにも子供らしい素直さを持っていたからだろう。[OB2X_00269]

吉川武時(1973: 301-302) は動詞分類において「もつ類」を「他動詞で主体の状態を変化させることをあらわすもの」、すなわち「結果動詞」として位置付けている。しかし〈身体〉や〈属性〉のような「恒常的所有」を考慮すると、一律に変化性を認めるのは議論の余地があろう。

まず、以下のように「意味、影響」と結合する「もつ」は、「もたらす」という意味として変化性を帯びており、テンス・アスペクトの意味的対立が認められる。

(274) 彼女にとって妊娠が新しく意味をもったということだ。[OB5X_00143]

(275) 学会が公明党を結成したことは、仏教盛衰に多大な影響をもつとして、創価学会対策が協議された。[OB6X_00150]

ところが、前掲の例(270)～(273)のごとく、〈属性〉は通常、時間性・変化性に関わらないといえる。形態・統語的な特徴としては前述の〈身体〉類と同様、「テイル形」をとり、言い切りの用法として実現されたものが圧倒的に多い。

<親族>

〈親族〉類は全 934 例中 8 例のみ現れている。注目すべきは、全体的に少ない例ではあるものの、「子供、娘、息子、子女」のような目下の者に偏するという傾向がある。目上の者を指している例は(276)の「兄貴」1例のみである。このような「もつ」に見られる目上・目下といった語彙の種類による制限は、「ある/いる」³⁵ の場合に〈親族〉の所有が比較的生産的であることと繋

35 寺村秀夫(1982: 158) には「所有されるもの、つまり存在するものが生きているものであるときには、一般に

がっている。

「もつ」の活用形に注目すると、「もったら／もつと／もつなら／もったって」などの形をとり、いわゆる条件・譲歩節を構成している例が目立つ。

(276) 俺みたいな兄貴持ったってひとつも得はねエぞ [OB5X_00037]

(277) 親の恩ばかり世間で強調するが、もし自分の子供を持ったらどんなに楽しいだろう。

[OB3X_00089]

<関わり相手>

〈親族〉以外の社会的人間関係を表すものは次の1例のみ現れている。

(278) それから、この頃になって気付いたことですが、子は実にたくさんの子路、子貢、顔回といった弟子たちを持っておられ、どうやら、その大部分の人たちは、... [OB3X_00163]

〈関わり相手〉の場合は言語活動において「教えている者、習っている者」などのように、統語的な構成による表現も珍しくないのに対して、〈親族〉の場合はもっぱら単一名詞で表されるということに注目すべきである。「もつ」構文では統語的構成の表現は現れにくいのに対して、2章で取り上げた「ある/いる」構文では、「恋人、味方」のような単一名詞に限らず、「親しい男、好きな人」などのような統語的構成も頻繁に用いられる。

<財産>

所有物名詞のうち「お金、ドレッサー、部屋、マイホーム、別荘、口座」のようなものは〈財産〉として捉えうる。〈財産〉の例を見ると、時間性は薄れており、所有者の特徴を述べることに焦点が当てられたケースが極めて多いものの、副詞を伴い時間的制限を比較的自由に与えることも可能である点を考慮すると、属性と状態の中立的な性格を有するといえる。〈財産〉における「もつ」の活用形は「テイル形」がとりわけ目立つ。

(279) 前畑家は自宅と工場のほかに地所を持っています、そこに三階建てのアパートを建てて賃貸しているのである。 [OB6X_00093]

(280) 今度は、できたらきちんとマンションでも買いたい。そんな金を持ってるの？

[OB2X_00135]

(281) 車を、持っていますか？前に、中古のカローラを持っていたがね。

今は、持っていませんよ。

[OB3X_00205]

「アル(イル)」の方が自然である」という指摘がある。

本稿の計量調査に基づく、「ある/いる」構文における「〈親族〉 + ある/いる」は818例中41例(5%)を示している。

(282) 今や日本人の二人に一人が携帯を持ち、Eメールを楽しんでいる。〔OB6X_00220〕

<精神活動>

「自信、興味、疑い、確信、期待、希望、責任、思い」のような感情・感覚および、「目的、意見、偏見、考え」のような思考活動を表す所有物を伴い、所有者が経験者または行為者として捉えられる場合は〈精神活動〉として分類しうる。

注意すべきは、例えば「責任をもつ」という表現を取り上げて説明すると、構文によっていくつかの解釈が可能である。仮に「責任を持って行動する」といった場合は「責任感」の意味として解釈され、〈精神活動〉に当てはまる。一方、「安全問題については、誰より機長が大きな責任を持っております」という構文では、「通常の責任者である」という意味として、前述の〈属性〉に当てはまる。このような現象は、名詞の多義性に関わる語彙的な特徴に起因しており、文脈から判断せざるを得ない。

〈精神活動〉は「もつ」構文において最も出現頻度の高い用法である。「もつ」の活用形に注目すると、「テイル形」、「テ形」の割合がそれぞれ 28%, 27% を示しており、比較的目立つ。さらに、「タ形」で現れた例も、他のカテゴリーに比べ著しく多く、可能、使役、命令、もくろみなど、結合する機能的意味の範囲が広いということも一つの特徴である。

(283) 彼は、大志を持っていて、今は、恋どころじゃない筈ですよと、私は、いってやった。
〔OB3X_00091〕

(284) ある目的をもってどこかを目指しているとは考えにくかった。〔OB6X_00047〕

(285) 弥五兵衛と甚八は、南近江の平野に出たとき、はじめて、（これなら、逃げられる…）
という確信をもった。〔OB2X_00212〕

(286) もっと大事なことは、やればできるという自信をもたせ、希望を与えることです。
〔OB6X_00113〕

(287) こうした疑問を持ってみると、家門の誇りも武士の道も、いかにも白々しく思えて来る。
〔OB2X_00254〕

(288) ここでお答えすることが適当かどうか、少し疑問を持つのですが、…〔OB5X_00112〕

「ル形」で現れた例（288）は、未来を表さず現在における感情・思考を表しているが、これは「感覚・感情動詞／思考動詞」に見られる特徴³⁶である。

36 鈴木重幸(1972: 310-311) は、「すぎさらずの注意すべき用法」として、「態度・主張・判断などをあらわす動詞」，「感覚や気分をあらわす動詞」の「すぎさらず」の形は、未来を表さず「現在における話し手の態度・主張・判断」，「現在における話し手の感覚や気分」を表すと言及している。本稿の「〈精神活動〉+ もつ」型はまさにこのような動詞類の特徴に類似している。

<状態>

「余裕、ゆとり、重み」などの名詞が所有物として現れ、所有者に関する非意志的、一時的状態を表す。〈状態〉の表現は限られているものの、使役表現をはじめ後述する韓国語との間にずれが見られる表現であり、注目に値する。以下の例の「威厳をもって」「余裕を持たせ」は、それぞれ「威厳のある態度で」「余裕のある状態にして」という意味として捉えられる。

(289) 修道士は威厳をもって答えた。〔OB3X_00167〕

(290) スケジュールにも余裕を持たせ、混雑を避けるため、平日に出かけることにした。
〔OB6X_00231〕

<所持品>

「モノを(身体部分に)もつ」のように、指示対象に対する主体の働きかけとして捉えられる場合は、場面レベルの表現であるという点で〈財産〉と区別しうる。本稿では〈所持品〉と呼んでいる。「〈所持品〉+ もつ」型で表される命題は、物理的な動きに直接関与するわけで、当然ながら特定の場所で特定の時間の流れの中に成り立つ。

所有物名詞としては「手紙、時計、マイク、グラス、湯飲み、懐中電灯、バック、切符、弁当、銃」などが現れている。以下の(292)をはじめ、具体的な身体場所「手に」が明示されている例も少なくない。

(291) ベーコンとレタスとトマトのサンドイッチと、パイ・アラモードを載せたお盆を持っている。〔OB5X_00108〕

(292) 白いパンタロンにオレンジ色のブラウスを着て、右手に大きな旅行用のスーツ・ケースを持っている。〔OB2X_00089〕

(293) 優希は、寝袋から手を出し、ライターを持った。〔OB5X_00052〕

(294) 沼田は、胸に真っ赤なリボンをつけ、トランシーバーを持った。〔OB2X_00124〕

(295) 机の上に置かれていた女の携帯電話をポケットに突っ込む。革靴とゴミ袋を手につく。
ドアの前に立って部屋全体を見渡し、問題がないことを確認してから明かりを消す。
〔OB6X_00015〕

「ル形」でもって未来テンスを表していない上掲の(295)のような例も見受けられるが、これは小説の文体に見られる特殊な用法³⁷として、「タ形」で用いられた(294)と意味的に対立を

37 鈴木重幸(1972: 312) は「一連の事件やできごとの描写などに文章上の技法として、すぎさりの中に現在形を

成さないということに注意すべきである。〈所持品〉における言い切りの「ル形」は、一般に未来テンスを表し、動作動詞のふるまいをする。

ついでながら、現実世界においてモノを手にする動作となると、それを操るなり、運ぶなりの動作が続く場合が多いということが予測される。そしてそういった事態の続きが言語活動に反映されるということは十分考えられる。〈所持品〉においては、「もつ」の直後に「来る」や「行く」などの他の動詞が続いている「 V_1 (もって)- V_2 」構成を除いても、先行節の述語として実現されているものが過半数を占めている。「 V_1 (もって)- V_2 」構成の例まで含むと、切れ続きの用法が言い切りの用法のおよそ6倍に達する。

(296) お金、用意できるだけ、持ってきたわ。〔OB3X_00178〕

(297) ブラックゾーンは刀を手に持って歩いていった。〔OB1X_00166〕

本項の冒頭で示した各所有物の比率には「〈所持品〉+ V_1 (もって)+ V_2 」構成を含めていない。韓国語における「가지다/갖다」との違いとして注目すべきことは、「もつ」は「〈所持品〉+ V_1 + V_2 」の V_1 としても、「〈所持品〉+ V 」の V としても頻繁に使われるのに対して、「가지다/갖다」は前者の用法としては頻繁に使われるものの、後者の用法は非常に制限されるということである。これについては「가지다/갖다」のところで再び取り上げる。

<活動>

「話し合いの場、親睦会、交渉、会合、～の時間」など、主に催し物を表す名詞類を所有物とし、所有者(主語)がその行い手として捉えられる場合を〈活動〉として分類する。述語「もつ」は「行う／設ける」という意味として解釈されるものが目立つ。

(298) その会合のあと、伸一は、何人かの青年たちと懇談会をもった。〔OB5X_00087〕

(299) さっそくおたがいの会の上層部同士が向島の料亭「桜茶屋」に集まり、なごやかな話し合いの時間を持った。〔OB2X_00217〕

〈活動〉類における「もつ」の活用形に注目すると、「タ形」が最も目立つ。「タ形」は過ぎ去ったこと³⁸を、「ル形」は未来のことをそれぞれ表しており、意味的対立が明確である。「テイル形」で現れた2例は、繰り返し行われることとして解釈される。

まげて使うことがある」と述べ、小説の地の文における基本形の特殊な使われ方であると記している。
38 動词的述語のタ形の意味を巡る議論は、寺村秀夫(1971)、鈴木重幸(1979)、工藤真由美(1995)、丹羽哲也(1996)、井上優(2011)を参考。

3.3.2. 「もつ」の統語論的環境

本節では、存在動詞「ある/いる」の場合を念頭に置きつつ、「もつ」構文の統語論的環境に焦点を当てて考察する。「もつ」構文を検討すると、存在文では表せない機能を果たしているものと、存在文にも見られる機能を果たしているものに分けられる。

まず、「もつ」の用例のうち、「ある/いる」とは結合しない文法的なカテゴリー³⁹を含んでいる例を取り上げる。「先行・同時，継起，もくろみ，目的，始発，継続，勧誘，変化，命令，ヴォイス，可能，やりもらい」および意志性に関わる「もつ」の例は、存在文による所有文では表せない。このような実現環境にある例が、934 例の 74% を占めている。以下に代表的な例を挙げる。

【先行・同時】

(300) 敏子は、できあがった握りメシを持って隣の部屋へ行った。[OB5X_00120]

(301) 蓮如が手に何冊かの写本を持って姿をあらわす。[OB4X_00170]

【同時】

(302) 書き終わると彼はチョークを持ったままこちらを向いた。[OB6X_00181]

(303) そういう期待を持ちながら点検を続けるのは、体力のいる作業だった。[OB6X_00070]

【継起】

(304) そしてマイクを持つと、「ぢやあ先生、三番のところよ」と言つて、カラオケのスイッチを押した。[OB4X_00061]

【もくろみ】

(305) こうした疑問を持つてみると、家門の誇りも武士の道も、いかにも白々しく思えて来る。
[OB2X_00254]

【目的】

(306) 事務局長の田中圭に、テキヤとの親睦会を持つよう動けと命じていた。[OB2X_00217]

【始発】

(307) アンソニー・オルサッティは突如として興味を持ち始めた。 [OB4X_00137]

(308) 江戸の後背地が、力をもちはじめたのである。 [OB4X_00219]

【継続】

(309) 周囲にたむろするお馴染みの顔を見回すとき、みんなもやはり自分同様に夢を持ち続けているのだと認めざるを得ない。 [OB4X_00133]

【勧誘】

(310) 東京に部屋でも持つてはと云つても、わが家がいいと、必ず帰って来た。[OB5X_00094]

39 高橋太郎(2003: 34) を参考。

【変化】

(311) 使命を自覚した青年たちは、沖縄に生まれたことに、誇りと喜びをもつようになっていたのである。〔OB6X_00064〕

【命令】

(312) もっと根性を持て！〔OB6X_00091〕

【ヴォイス】

(313) 常連客から女将さんと呼ばれているその妻は、忙しかった一日をねぎらう大入袋と土産のそばを持たせてパートタイムの従業員を帰した。〔OB3X_00230〕

(314) 私は手首をつかみ、流しの水道で傷口を洗ったあと、ルートにタオルを持たせて左手を押さえておくように言った。〔OB6X_00009〕

【可能】

(315) この世に生れてきてよかった！そんな思いを持つことができるのではないかと思います。
〔OB3X_00106〕

【やりもらい】

(316) ぼくはただ、貞ちゃんに自信を持ってもらいたいと思って…〔OB5X_00185〕

(317) これと、綿をひと袋お願いします。おきみ、雪に濡らさないように、大事に持ってちょうだいね。〔OB6X_00201〕

【その他意志】

(318) おれは広式屋のすみさんと所帯を持とうと思ってる。〔OB6X_00201〕

(319) 今、お水をお持ちします。〔OB3X_00267〕

上掲の例は動作性、意志性に関わる意味機能を表しており、〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉においてとりわけ目立つ。

一方、「条件・譲歩、理由、逆接、並列」などの用法は、存在文にも見られる統語的環境である。全 934 例の 26% がそれに当てはまる。このような場合は表そうとする意味に大きな違いを齎さず「ある/いる」で表せる場合が少なくない。以下の例の（ ）内の「ある/いる」⁴⁰ による表現を示す。

40 該当の「名詞+ある/いる」の組み合わせはコーパス (BCCWJ) の用例から見受けられるものである。

【条件・譲歩】

(320) 俺みたいな兄貴持ったってひとつも得はねエぞ。〔OB5X_00037〕

(兄貴がいたって)

(321) 親の恩ばかり世間で強調するが、もし自分の子供を持ったらどんなに楽しいだろう。

(子供がいたら)

〔OB3X_00089〕

【理由】

(322) この塾というのが早治大学予備校的な性格を持っていたため週刊誌にスッパ抜かれて学内で問題になった。 (性格があるため) 〔OB3X_00110〕

【並列】

(323) 前畑家は自宅と工場のほかに地所を持っています、そこに三階建てのアパートを建てて賃貸しているのである。 (地所があって) 〔OB6X_00093〕

【直説】

(324) すべての人が幸福になる権利をもっている。 〔OB5X_00155〕

(権利がある)

(325) ブラックウェル・コレクションは、個人としては世界最大の価値を持つと噂されるようになった。 〔OB4X_00135〕 (価値がある)

分類結果を所有物別に表すと次のようになっている。なお、「ある/いる」と重なる統語的環境の場合を「もつ/ある」と示し、「もつ」でしか表せない統語論的環境を含む場合を「もつのみ」と示す。

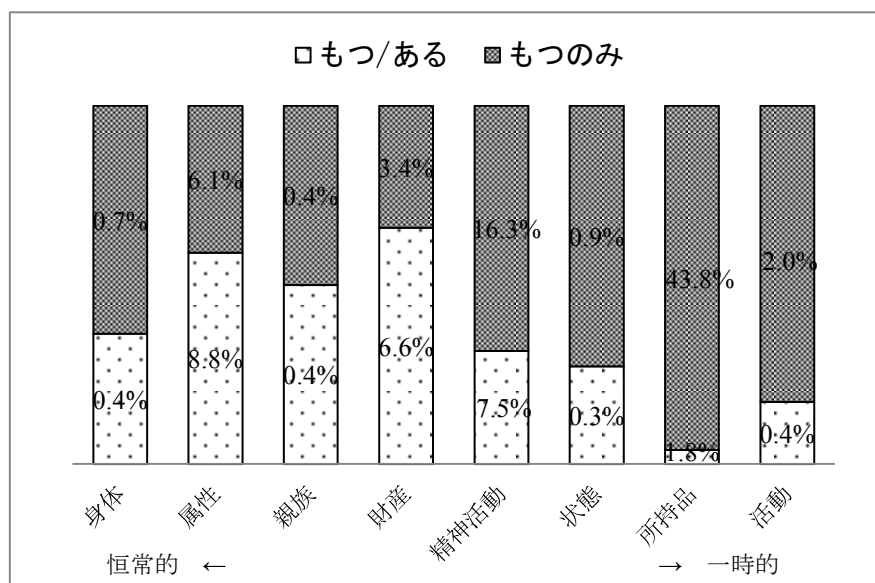


図4: 「もつ」構文の統語的環境 - 「ある/いる」構文との比較

図4の右側の〈所持品〉〈活動〉の方に近いほど意図性が顕著である場合が多く、通常「ある」

によっては表現されにくい。

注意すべきは、統語論的環境による制約がない場合、すなわち図4の「もつ/ある」に当てはまるからといって、「もつ」構文と存在文の言い替えが可能であるかというとは必ずしもそうではない。〈精神活動〉の例を挙げて説明すると、「興味をもつ/興味がある」のような、存在動詞による表現との間にそれほどの違いが感じられない場合もあれば、「疑いをもつ」「疑いがある」のように、意味の違いが生じる場合もある。

(326) 多くの妻の場合、夫が浮気をしているのではないかと疑いをもつと、夫へ直接「あなた、浮気しているんじゃないの？」とストレートに問い詰め、… [OB5X_00068]

(327) ここでお答えすることが適当かどうか、少し疑問を持つのですが、… [OB5X_00112]
(疑問がある)

次の場合も、存在文にも見られる統語的環境であるにもかかわらず、存在文の例にはあまり見受けられない。次の例の場合、日本語では存在文で表そうとすると「人にある」ではなく「人のところにある」のように表すことが必要であろう。

(328) 友達が持ってたんだよ。定期入れのこっちにチャックがついてて、反対側には小銭が入るようになってんだよな。[OB2X_00248]

(329) もしそうなら、たぶんダンブルドアが持ってるな [OB6X_00043]

さらに、「高い頬骨」のような〈身体〉に加え、「～態度」「大きいスケール」などのような〈属性〉の一部の表現にも「ある」を使わない傾向がある。

(330) 夏侯嬰は、油びかりするほどにすぐれた筋肉質の体をもっていた。[OB1X_00274]

(331) それでいて夢見がちな少女の目を、持っているのだ…。[OB2X_00269]

(332) 私もたくさんの無知を持っていますから。[OB6X_00100]

(333) かつてオランケとよばれていたひとびとが、じつは人間であり、どういう言語をつかい、どんな社会をもち、どういう服装をしていたかなどということまで知ろうとは思わず、知る必要もない。 [OB3X_00069]

本節では、韓国語の「가지다」とその縮約形「갖다」を対象に、3.4.1 では所有物の分類および「가지다/갖다」の活用における使用実態について見ていく。3.4.2 では「있다」の場合との比較を考慮しつつ、「가지다/갖다」の統語的環境に焦点を当てて考察する。その後、3.4.3.では「가지다/갖다」の文法化について取り上げる。

「가지다/갖다」構文を対象に所有物名詞を意味的特徴によって分類してみると、少なくとも次のようなカテゴリーに分けられる。

恒常的・静的 ◁◁◁◁ ▶▶▶▶ 一時的・動的

部分-----身体-----属性-----親族-----財産-----関わり相手-----精神活動-----所持品-----活動

	部分	身体	属性	親族	財産	関わり相手	精神活動	所持品	活動
가지다	0.6%	5.6%	23.9%	0.6%	21.6%	0.2%	41.1%	0.4%	6.0%
갖다	0.0%	2.3%	32.2%	0.7%	15.6%	2.0%	39.1%	0.7%	7.5%

まず、「一時的所有」として捉えうる〈精神活動〉が際立つ点や、〈属性〉〈財産〉も比較的高頻度を示す点においては日本語の「もつ」の場合と大きく変わらない。

ところが〈所持品〉に関しては、「もつ」の場合は〈精神活動〉に次いで使用頻度の高い表現であるのに対して、「가지다/갖다」においては最も使用頻度の低い表現であり、両言語の間に違いが見られる。詳細は〈所持品〉のところで後述する。

次に、「가지다」と「갖다」を比べてみると、全般的な傾向は大きく変わらないものの、〈属性〉〈関わり相手〉〈活動〉においては縮約形「갖다」の方が比較的多く使われている。上掲の図の〈部分〉から順番に代表的な例とともに見ていく。

<部分>

所有者名詞の指示対象が非情物であり、所有物名詞がその部分に当てはまるものを指す。わずかながら現れている例はすべて「gaji-go‘issda」の形式をとっている。

所有物名詞としては「창(窓), 가사(歌詞), 숲(森)」が現れている。所有者名詞との間にそれぞれ「빌딩 - 창(ビル-窓), 노래 - 가사(歌-歌詞), 산 - 숲(山-森)」のような〈全体 - 部分〉の関係が成り立つ。縮約形「갖다」の例は見受けられない。

(335) 빌딩은 참으로 많은, 각양각색의 창들을 가지고 있습니다. [D96AA114]

(ビルは実に多くの様々な窓を[lit.もっています].)

<身体>

〈身体〉に当てはまる所有物名詞には「커다란 눈 (大きい目), 아름다운 손 (美しい手), 좋은 목소리 (いい声), 똑똑한 머리 (賢い頭), 과학자의 눈 (科学者の目), 단단한 몸 (引き締まった体), 그 얼굴 (その顔)」などのように、通常、修飾語句を伴って表れる。

「가지다/갖다」の活用形に注目すると、「gaji/gaj-go」の形が5割を占めており最も目立つ。それに次いで進行形「gaji/gaj-go‘issda」が約3割を占めている。過去形「gaji-essda」⁴¹の例も4例見出されるが、進行形「gaji/gaj-go‘issda」との間に意味的な対立はなく、互いに言い替えられる。

(336) 불구라면 불구로 볼 수 있는 그 흠을 가지고 고급 장교에까지 승진했다는 것은, 소위 말하는 당성(黨性)이 강하거나 그렇지 않으면 전공(戰功)이 특별했음에 틀림없다는 생각이 들었다. [AE000398]

(不具といえど不具といえるその瘤を[lit.もって] 高級将校まで昇進したということは、いわゆる党性が強いかそれとも戦功が特別だったに違いないと思った。)

(337) 어째서 그 잘란 인물 똑똑한 머리를 가지고 나라에서 금하는 책을 읽고 나라에서 금하는 사상인가 뭔가를 가졌던 것인지 야속할 뿐이었다. [BEXX0019]

(どうしてそんな見目良い顔, 賢い頭を[lit.もって], 国から禁じる本を読み, 国から禁じる思想やら何やらを持っていたのか恨めしい限りだった。)

41 「갖다」は母音で始まる語尾との結合において制約があり、過去形語尾「-ess」と結合しない。ここでも、過去形で現れた例はすべて「가지다」の例である。

(338) 그 얼굴 갖고 여태까지 애인 하나 없었다면 그게 되레 말짱 거짓말이지. [CE000030]
(その顔を[lit.もって]今まで恋人ひとりいなかった(という)ならそれは全く嘘だ。)

(339) 그 여자는 개성 있는 얼굴을 가지고 있었다. [AE000142]
(その女は個性ある顔を[lit.もっていた]。)

(340) 그는 일생을 아름다운 일만 생각하고 행해 왔던 사람처럼 맑고 아름다운 눈을 가지고 있었다. (彼は一生美しいことだけ考えて行動してきた人のように, 清く美しい目を[lit.もっていた]。) [BEXX0002]

(341) 열정적으로 토로하는 굵직한 목소리가 그녀에게 그가 대단한 근육의 몸을 갖고 있다는 생각이 들게 했는지도 모른다. (情熱的に吐露する太い声が彼女に彼が筋骨隆々な身体を[lit.もっている]と思わせたかもしれない。) [CE000023]

注目すべきは, 「テ形」に相当する「NP_{-ACC} + gaji/gaj-go」で現れた例を見ると, ほとんどの例は具格名詞句「NP-ro」に言い替えても自然であるということである。例えば (337) (338) の下線部はそれぞれ「똑똑한 머리로 (賢い頭で)」「그 얼굴로 (その顔で)」に言い替えられ, 「~のに / ~にもかかわらず」という, 譲歩節の意味として捉えられる。

さらに, 次の例のように, 角田太作(1991) のいう「普通所有物」, すなわち誰もがもっていることが当たり前の所有物に当てはまるものも見出される。

(342) 차마 눈 가지고는 바라보지 못할 것이다. [BEXX0005]
[lit.目(を)もって]は] (とても見るに耐えないだろう。)

(343) 두 눈을 가졌으면 저 운동장을 좀 내다봐요. [CE000079]
[lit.両目をもったなら] (両目があるならあの運動場を見てください。)

これらは「NP_{-ACC} + gaji/gaj-cv」の構成でもって, 主節の命題に対する話し手の態度を表しており, 特殊な用法とみなしうる。(342) では, 「바라보지 못할 것이다 (見るができないだろう)」という主節に「눈 가지고 (lit.目をもって)」を加えることで, 「(何らかの光景が) 見るに耐えない」という意味を表している。

一方 (343) では, 「운동장을 좀 내다봐요 (運動場を見てください)」という主節に「두 눈을 가졌으면 (lit.両目をもったなら)」を加えて「見るべきだ」という意味を表している。

<属性>

恒常的性格・性質を表す〈属性〉は、〈精神活動〉に次いで高い比率を示している。ところが存在動詞の場合に比べると遥かに少ないということが注目される。存在動詞の場合は〈属性〉が5割を超えており、圧倒的に多い。これは、動詞の種類によって、より頻繁に使われる所有表現に差があるということを端的に表している。

〈属性〉に当てはまる所有物名詞には「성격(性格), 숨씨(腕前), 힘(力), 경험(経験), 직관(直観), 이름(名前), 외모(外見), 권력(権力), 지위(地位), 학벌(学歴), 직업(職業)」などが挙げられる。

(344) 유달리 초저녁 잠이 많은 그녀인데, 대신 한번 잠이 깨면 다시 잠들기가 어려운 모한 버릇을 가지고 있다. (とりわけ宵寝することが多い彼女だけど、代わりに一度目覚めると二度寝が難しいという妙な癖を[lit.もっている].) [CE000030]

(345) 키가 무척 컸고 웬지 모르게 어색한 걸음걸이를 가지고 있었다. [BEXX0002]
(背がとても高くてなんとなくぎこちない歩き方を[lit.もっていた].)

(346) 박길상씨는 출세한 세리리맨답게 안정된 분위기를 갖고 있었다. [BEXX0017]
(박킬산(人名)さんは成功したサラリーマンらしく安定した雰囲気을 [lit.もっていた].)

(347) 대학에도 안 가고, 몸을 사용하는 직업을 가지고 그 날만 살아가는 사람도 많습니다.
(大学にも行かないで、体を使う職業을[lit.もって] その日その日を生きている人も多いです.) [BEXX0017]

(348) 일본식 이름을 갖고 따로 한국식 이름을 짓는 사람은 더러 있지만… [BEXX0017]
(日本式の名前을[lit.もって] 別に韓式の名前を作る人はたまにいるが…)

(349) 그런 시골 구석에 묻어두기가 아까운 외모만은 가진 것이라 다시금 생각되었다.
(そんな田舎の隅に秘めておくにはもったいない容姿だけは[lit.もったもの] と改めて思われた。) [BEXX0005]

(350) 결정적으로 그가 문제 많은 성격을 가졌음을 나타내는 증거는 여성에 대한 혐오증이었다. (決定的に彼が問題の多い性格을[lit.もったの]を表す証拠は女性に対する嫌悪感だった。) [CE000029]

(351) 할아버지의 아버지, 그 아버지의 할아버지들은 그들 시대의 성격을 가졌다.
(お祖父さんのお父さん, そのお父さんのお祖父さんは彼らの時代の性格을[lit.もった].) [AE000148]

「가지다/갖다」の活用形に注目すると、進行形「gaji/gaj-go'issda」の例が過半数を占めており、進行形「gaji/gaj-go(16%)」、過去形「gaji-essda (13%)」の例も少なからず見出される。過去形で現れたものは、〈身体〉の場合と同様、進行形と意味的に対立を成さない。

「gaji/gaj-go」の形式をとっているものを見ると、「잠재력 (潜在力), 영혼 (魂), 권리 (権利), 감수성 (感受性)」などのような名詞を伴い、「NP_{ACC} + 가지고 태어나다 (lit.もって生まれる)」のように使われることも珍しくない。なお、韓国語では、日本語における「生まれもつ」のような複合語は作れない。

- (352) 녀석은 카메라 비푸파인더에 비친 피사체의 각도를 순간적으로 포착해 내는
천재적인 감각과 잠재력을 천부적으로 가지고 태어났다. [BEXX0020]

(やつはカメラのファインダーに映った被写体の角度を寸時に把握する天才的な感覚と潜在力を天賦的に[lit.もって生まれた].)

<親族>

典型的な〈親族〉の所有に当てはまる以下の例は極めて少ない。これらは「있다 (ある/いる), 없다 (ない/いない)」を用いて同じ意味を表しうる。

- (353) 마음속으로 늘 동생을 한 명쯤 가져보고 싶다고 생각했는데… [CE000073]

(동생이 한명쯤 있었으면 하고)

(心の中でいつも弟/妹を一人ぐらい[lit.もってみたい]/いて欲しいと思ったけど…)

- (354) 그녀는 가족을 갖고 있지 않다. [D96AA114]

(가족이 없다) (彼女は家族を[lit.もっていない].)

一方、「아이, 애, 아기, 애기(子供/赤ちゃん) + 가지다/갖다」でもって「子を授かる/妊娠する」という意味として用いられるものは少なからず散見される。なお、次のような表現は、説明の便宜上ここで取り上げているものの、特殊な意味を表すケースであり、〈親族〉の所有表現に含まれない。

- (355) 현지가 엘 가졌다는 사실 때문이 아니라, 아이를 배고도 그렇게 생글생글 웃을 수 있는 현지가 무섭기까지 하더라니까. [BEXX0017]

(ヒョンジ(人名)が子を授かった[lit.もった]という事実のためではなく、妊娠したにもかかわらずそんなににこにこ笑えるヒョンジが恐ろしくも思われた。)

- (356) 며칠 뒤에는 아이를 가진 거라고 말해 버렸다. [BEXX0017]

(何日後には子供を[lit.もったこと]授かったと言ってしまった。)

(357) 그리고 아이를 갖고 싶다는 생각을 했다. [CE000023]

(そして子供を[lit.もちたい] と思った。)

(358) 벌써부터 아기를 가지자는 말인가? [BEXX0002]

(もう子供を[lit.もとう] 作ろうというのか。)

これらは過去形「gaji-essda」, さらに願望「gaji/gaj-go sipda」, 勧誘「gaji-ja」, 自発「gaji/gaj-gei doida」などの意志性に関わる多様な形式で表れ, 典型的な親族の所有表現と異なるということに注意されたい。

このように, 「가지다/갖다」における典型的な〈親族〉の所有表現は存在文に比べ明らかに少なく, もっぱら「子を授かる」という意味として一定の時間における状態を表すケースが多いといえる。ちなみに, 日本語の「もつ」においても「妊娠している」という意味を表す例が見出されるが, 「腹に」という場所格名詞句が必要であり, 統語構造において異なるという点に注意されたい。

(359) 세きは腹に子를 も뒀습니다. [OB4X_00221]

<関わり相手>

親族名詞以外の人間関係を表す「가지다/갖다」の例としては次のようなものが挙げられる。現れた用例のほとんどは「갖다」の例である。

(360) 예술가는 애인도 가져서는 안 되는가. [AE000094]

(芸術家は恋人も[lit.もって]は] いけないのか)

(361) 확실히 그 여자는 애인을 갖지 못했을 거다. [BEXX0006]

(確かあの女は恋人を[lit.もてなかつた]に違いない。)

(362) 나의 생도 나의 사도 나는 생후 한번도 위안자를 갖지 못했다. [DENA018]

(私の生も私の死も, 私は生後一度も慰安者を[lit.もてなかつた]。)

(363) 스물 한 살인 그녀는 마흔다섯 살에 아이가 둘이나 있는 건축설계사를 애인으로

갖고 있었다. (二十一歳の彼女は四十五歳で子供が二人もいる建築設計士を[lit.恋人として]もっていた。) [DENA018]

上掲の(363)のように, 「NP_{1-ACC} NP_{2-INS} V」の形式で表れた例もわずかながら見受けられる。

<財産>

〈財産〉は、〈精神活動〉〈属性〉とともに頻繁に使われる表現の一つである。存在動詞の場合に比べ、「가지다/갖다」において高頻度で現れる。所有物名詞には「집 (家), 배 (船), 자가용 (車), 옷 (服), 이중장부 (二重帳簿)」のようなものがきている。

「가지다」の活用においては、進行形「-go 'issda」の形が4割を占めており、最も目立つ。それに次いで過去形の例が13%を占めている。さらに、願望「-go sipda」、意志「-riego」、命令「-era」、許可「-edo doida」、条件「-mien」など、他のカテゴリーに比べ、明らかに幅広い形式で用いられる。とりわけ「願望」を表す「-go sipda (～たい)」の例はほとんど〈財産〉に当てはまる。縮約形「갖다」と結合して「gajgo-sipda」の形で現れている例が目立つ。

- (364) 시골 우체국장이라는 사람이 아파트를 여섯 채나 가지구 있다구 하더라구요.
(田舎郵便局長という人がアパートを六棟も[lit.もっている] というんです。) [AE000077]

- (365) 난 네 어머니의 시를 여러 편 가지고 있다. [BEXX0025]
(私はあなたのお母さんの詞を何編[lit.もっている]。)

- (366) 그토록 소원하던 내 아파트와 차, 그리고 현금을 가졌는데도 이상하게 허전해.
(あれほど願っていた私のアパートと車, そして現金を[lit.もったのに] 何か満ち足りない) [BEXX0001]

- (367) 처음에 그가 압구정동 어딘가에 찻집을 하나 갖고 있다고 말했을 때…
(最初に彼が狎鷗亭洞のどこかに茶屋を一つ[lit.もっている] と言った時…) [BEXX0017]

- (368) 그 마음은 어린날 배를 갖고 싶어하고, 하루 종일 배를 만들어 띄우던 동심과도 같았다.
(その心は幼い頃船を[lit.もちたがって], 一日中船を作って浮かしていた童心のようだった。) [BEXX0020]

上掲の例のうち(366)をはじめ、過去形「gaji-essda (もった)」で現れた例を見ると、進行形との対立は見られず、互いに言い替えが可能である。ところが、文脈によって意味の対立が現れる場合もあるという点において、〈身体〉〈属性〉などの「恒常的所有」と異なる。仮に、(369)の質問に対する答えとして(370)のように答えた場合、それぞれ「a. 〈財産〉」「b. 〈所持品〉」として区別される。

- (369) 남은 건 어떻게 했어? (残りはどうした?)
(370) a. 내가 가졌다. (私のものにした.)
b. 내가 가지고 있다. (私が預かっている。)

このように、〈財産〉は文脈によって「恒常的所有」の特徴を見せる場合もあれば、「一時的所有」として捉えられる場合もあり、中立的な性格をもっている。さらに、所有物がものではなくヒトである次のような例も3例見受けられるが、これらは〈財産〉の拡張的な用法と見なしうる。

- (371) 영순이 저는 썩싸게 제 밥으로 김 상무 찍어놓고, 효숙이한테는 백 박사 가지라니,
그게 아무리 농담이라지만 그런 농담은 싫다. [BEXX0017]
(ヨンスンは素早くキム常務を自分のものとしてとっておいて、ヒョスクにはベク博士を[lit.もってって]いくら冗談でもそんな冗談は嫌だ。)

上記の例はヒト名詞が所有物である点で、一見〈親族〉に似ているが、所有物名詞の指示性において異なる。(371)の所有物名詞は特定の人物を指しており、指示的であるのに対して、〈親族〉の所有物名詞は非指示的である、ということに注意すべきである。

<精神活動>

〈精神活動〉は「가지다/갖다」による最も使用頻度の高い表現である。「관심 (関心), 호기심 (好奇心), 불만 (不満), 희망 (希望), 기대 (期待), 호의 (好意), 애착 (愛着), 꿈꿨이속 (下心), 경각심 (警戒心)」などの、譲渡不可能でありながら、活動性を有する感覚・感情名詞および、思考に関わる名詞が所有物として現れる。

活用形に注目すると、「テ形」に相当する「-go」, 進行形「-go 'iss」, 過去形「-'ess」の3つの形がとりわけ目立つ。

- (372) 정우는 참을성을 가지고 그를 지켜보았다. [BEXX0024]
(ジョンウ (人名) は忍耐力を[lit.もって] 彼を見守った。)

- (373) 마음을 넓게 갖고 현실을 포용해야지, … [CE000029]
(こころを広く[lit.もって] 現実を包容しなきゃ, …)

- (374) 그런 생각을 갖고 계시다면 지금이라도 버리세요. [BEXX0001]
(そんな考えを[lit.もってらっしゃる] なら今でも捨ててください。)

- (375) 왜 그녀가 내게 관심을 가졌을까에 대하여는… [CE000023]
(なぜ彼女が私に関心を[lit.もったのか] については…)

「テ形」に相当する「gajigo/gajgo」の形で現れた例の中には、上掲の(372)(373)をはじめ、主に「흥미 (興味), 확신 (確信)」などの名詞を伴い、V₂の「대하다 (もてなす), 묻다 (尋ねる), 말하다 (言う)」に対して、様態副詞のようなふるまいをするものも少なからず見受けられる。

さらに、変化「-gei doida」、もくろみ「-e boda(～てみる)」、使役「-ge hada」、命令「-era」、やりもらい「-e juda(～てあげる/くれる)」⁴²の例も珍しくないなど、多様な機能的意味と結合して用いられる。

先行研究の 장미라 (2002: 69) では、始発「～し始める」に相当する「-gi sijaghada」との結合に制約があるとしているが、〈精神活動〉においてはそのような制約はないといえる。

- (376) 그무렵 유대의 지배층은 예수의 출현에 대해 조금씩 경계심을 가지기 시작했다.
(その頃のユダヤの支配層はイエスの出現に対して少しずつ警戒心を[lit.もちはじめた].)
[AE000060]

<所持品>

モノ名詞を伴い、体に所持している状態を表している例として、次のようなものが挙げられる。

- (377) 태식이 시내에서 잡혔을 때, 그는 소형 사진기를 가지고 있었고, [AE000094]
(テシク(人名)が市内から捕まった時、彼は小型カメラを[lit.もっていたし])

- (378) 놈들이 칼을 가지고 있지 않다면 한바탕 해 볼만했다. [CE000020]
(奴らが刀を[lit.もっていなければ]勝ち目はあった。)

- (379) 이 돈 갖고 있다가 밥 사 먹고. [AE000075]
(このお金[lit.もっていて]ご飯買って食べて)

注意すべき点は、「가지다/갖다」が「モノ名詞+V₁+V₂」の V₁ として現れ、「所持」の意味を表す用法は頻繁に用いられるものの、V₂を伴わず「所持」の意味を表す用法は極めて制限されるということである。「もつ」の場合はいずれの表現も生産的であり、「가지다/갖다」と「もつ」の間に用法のずれが見られる。

「モノ名詞+가지다/갖다+V₂」の例を見ると、「gaji/gaj-go + 移動動詞」と「gaji/gaj-eda/da + 他動詞」の2つのタイプに分かれる。以下に「가지다/갖다+V₂」の例を示す。

- (380) “열쇠 잊지 말고 가지고 나가.” [CE000030]
(鍵忘れないで[lit.もって]出かけて。)

- (381) 해숙이 맥주컵 둘을 가지고 들어왔다. [BEXX0009]
(ヘスク(人名)がビールのグラス二つを[lit.もって]入って来た。)

42 「gaji-e boda (もつ-cv みる)」のように V₂が語彙的な意味を完全に失って文法的な意味のみを持つ場合は単一の述語として取り扱っている。

- (382) 치료비 갖고 와서 사과하면 봐 주겠다며 밥도 먹지 않은 채로 계속 버티는 것이다.
(治療費を[lit.もって]来て謝ると許してあげるといいながらご飯も食べないままずっとねばっているのだ。) [AE000075]

- (383) 가방은 사무실에 갖다 뒀습니다. [BEXX0006]
(カバンは事務室に[lit.もって(行って)]置いておきました。)

- (384) 수혜가 식탁 앞에 앉자 아줌마는 호박죽과 구운 감자를 갖다 주었다. [BEXX0001]
(스へ(人名)が食卓の前に座ると,お婆さんはかぼちゃのお粥と焼いたじゃがいもを[lit.もって(来て)]くれた。)

「가지다+V₂」(233例)の例においては、連結語尾「-go」をとり、移動動詞に先行するものがおよそ 70% を占めている。一方、「갖다+V₂」(228例)の場合は、連結語尾「-eda/da」をとり、授受動詞「주다 (あげる/くれる)」をはじめとする他動詞に先行しているものが 77% を占めており、「가지다」と「갖다」の使用様相に違いが見られる。

「가지/갖-eda/da + V₂」の V₂ としては、「놓다/두다 (置く), 주다/드리다 (挙げる/差し上げる), 쓰다 (使う), 버리다 (捨てる), 먹다 (食べる), 팔다 (売る), 붙이다 (付ける), 대다 (近づける)」などが現れている。「가져다/갖다 주다 (持って行って/持って来てあげる), 가져다/갖다 놓다 (持って行って/持って来て(一定の場所に)置く), 가져다/갖다 쓰다 (持って行って/持って来て使う), 가져다/갖다 먹다 (持って行って/持って来て食べる)」のように、移動動詞なしに移動性を表す。

<活動>

「회의 (会議), 시간 (時間), 휴가 (休暇), 모임 (会合), 면담 (面談)」のような所有物名詞が現れ、「가지다/갖다」は「行う/設ける」という意味として解釈される。

「가지다/갖다」の活用形に注目すると、過去形の例が圧倒的に多く、テンス・アスペクトの対立が明確である。

- (385) 비토리오 성에 들어가 노리에이와 단독 면담을 가졌다는 사실을 숨길 까닭은 물론 조금도 없었다. (ヴィットリオの城に入ってノリエイと単独の面談を[lit.もった]という事実を隠す理由はもちろん全くなかった。) [CE000030]

- (386) 오전 10 시부터 30 분간 그는 회사의 경제 관계자들과 회의를 가졌고, 그 이후 점심 때까지는… (午前10時から30分間彼は会社の経済関係者たちと會議を[lit.もったし],その後昼間では…) [BEXX0017]

(387) 오랜만에 사관들의 감시를 피해 한가로운 시간을 가지고 있었다. [BEXX0024]
(久々に士官の監視を避けてのどかな時間を[lit. もっていた].)

(388) 광신자들이 따로이 신년 축제(新年祝祭)를 갖는다더군. [AE000059]
(狂信者たちが別に新年祝祭を[lit. もつ]そうだ.)

(389) 가이드는 자기 소개의 시간을 갖자고 제안했고 우리는 마틴의 동의를 얻어 거의 만장일치로 그것을 채택했다. (ガイドは自己紹介の時間を[lit. もとう]と提案し、私たちはマーティンの同意を得てほぼ満場一致でそれを採択した。) [BEXX0002]

以上、所有物名詞に注目して「가지다/갖다」構文を検討した。

前述したように、活動性・時間性に関わる〈精神活動〉の例が極めて多く、結合する連結語尾も多様である。それに次いで〈属性〉〈財産〉の表現も頻繁に用いられる。一方、〈部分〉〈親族〉〈関わり相手〉の表現は制限される傾向にある。

また、日本語においては、「モノ名詞+もつ」でもって〈所持品〉に相当するものが〈精神活動〉に次ぐ使用頻度の高い表現であるのに対して、韓国語においては、V₂を伴わず「モノ名詞+가지다/갖다」でもって〈所持品〉を表すケースは非常に限られている。

「가지다/갖다」の活用形に注目すると、「ㄸ形」に相当する「가지고/갖고」の使用が目立つが、「〈身体〉+가지고/갖고」においては、「~にもかかわらず/~したくせに/~のに」など、主に「讓歩節」の意味として使われる。さらに、〈身体〉〈属性〉のような「恒常的所有」において、過去形「가졌다」の使用が珍しくないということも注目される。

以下の項目では、存在動詞「있다」の場合に照らしつつ、「가지다/갖다」構文の統語的特徴に重きを置いて見ていく。

3.4.2. 「가지다/갖다」の統語的環境

主に意志性に関わっている「가지다」構文は、「있다」による所有文では表せない。先行動作「가져다 (もってきて)」や願望「가지고 싶다 (もちたい)」などをはじめ、意味機能において「있다」構文と明確に区別される「가지다」の例は 68% を占めている。以下に「先行動作」と「願望」に当てはまる例を挙げる。

(390) 우산을 가지고 언니를 데리러 가야 하지 않을까. [BEXX0009]
(傘を[lit. もって]姉を迎えに行かなくてもいいのかな.)

(391) 자주 만나 얘기를 나눌 기회를 가지고 싶어. [BRE00089]
(度々会って話を交わす機会を[lit. もちたい].)

また、目的「가지려 (取りに)」, 意志「가지려고 (もとうと)」, 局面「가지기 시작하다 (もちはじめる)」, もくろみ「가져 보다 (もってみる)」, 使役「가지게 하다 (もたせる)」, 反復「가지곤 하다 (もったりする)」, 命令「가져라 (もて)」, 勧誘「가지자 (もとう)」に関わっている例も見受けられるが、これらの表現も「있다」では表せないといえよう。

一方、次に示す例のように「条件・譲歩」「理由」を表す場合をはじめ、「逆接」「並列」「義務」「推量」を表す文法的要素と結合している「가지다」の例に関しては、もとの文の意味に大きな違いを齎すことなく、「있다」で表しうる場合が少なくないと判断される。現れた用例の31%がこのような統語的環境で使われている。以下の()内に、「있다」による表現を示しておく。

(392) 모임만 가지면 논쟁이 벌어지기 일쑤였다. [CE000029]

(모임만 있으면) (会合を[lit.もつと]/あると論争が起こりがちだ。)

(393) 예술가는 애인도 가져서는 안 되는가. [AE000094]

(애인도 있어서는) (芸術家は恋人も[lit.もっては]/あってはいけないのか)

(394) 그토록 소원하던 내 아파트와 차, 그리고 현금을 가졌는데도 이상하게 허전해.

(아파트와 차, 그리고 현금이 있는데도) [BEXX0001]

(それほど願っていた私のアパートと車, そして現金を[lit.もったのに]/あるのになんか物足りない。)

さらに、「同時」を表す「가지다」の例に関しては、「성의 있게 (精義をもって), 참을성 있게 (我慢強く), 관심 있게 (興味深く), 자신 있게 (自信あり気)」など、「〈精神活動〉+ 가지고」の代わりに、「있다」が副詞化語尾を伴い、「〈精神活動〉+ 있게」のように表しうる場合が少なくない。

(395) 여자가 거의 자신을 가지고 먼저 묻는다. [BEXX0006]

(자신 있게) (女性が自信を[lit.もって] 先に尋ねる。)

(396) 정우는 참을성을 가지고 그를 지켜보았다. [BEXX0024]

(참을성 있게) (ジョンウ (人名) は忍耐力を[lit.もって] 彼を見守った。)

現われた用例を対象に、「가지다」と「있다」いずれも可能な統語的環境にあるものと、「가지다」のみが可能な統語的環境にあるものに分け、所有物のカテゴリー別に示すと次のようになっている。以下の図の「가지다/있다」は前者を表し、「가지다のみ」は後者を表す。

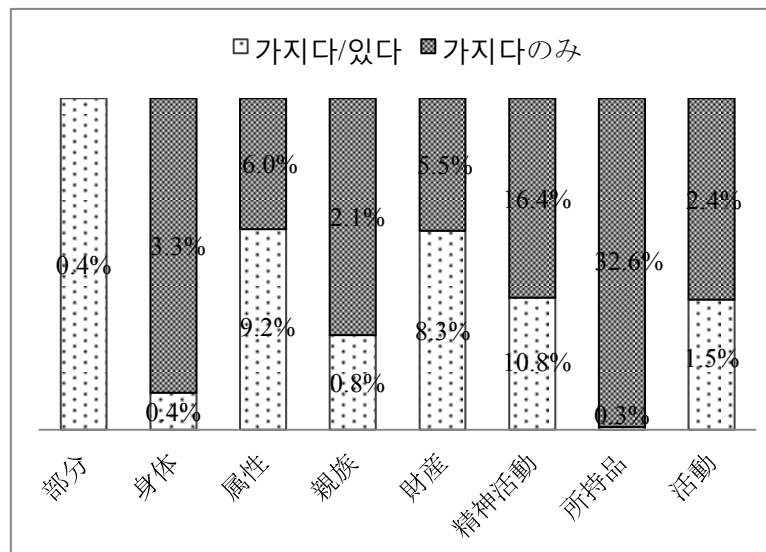


図 6：「가지다」構文の統語的環境 - 「있다」構文との比較

上掲の図において「가지다/있다」に当てはまる場合、つまり統語的環境による制約がないからといって、常に「가지다」を「있다」に置き換えられるというわけではない。日本語の場合と同様、韓国語においても主に〈身体〉や身体に関わる〈属性〉の場合は、通常「있다」を使わない傾向がある。代表的な例として「～외모(外見), ～얼굴(顔), ～곡선(曲線), ～걸음걸이(歩き方)」, さらに「～관점(観点), 부드러운 생각(柔らかい考え(方))」のようなものが挙げられる。〈所持品〉〈活動〉については、意図性が顕著である場合が多く、「있다」による表現と明確な違いが読み取れる。

3.4.3. 「가지다/갖다」の文法化とその周辺

「가지고/갖고」の文法化については従来の研究で多くの成果をあげている。以下では、先行研究に基づいて文法化した「가지고/갖고」の実現環境を調べつつ、所有動詞としての「가지다/갖다」との繋がりを示唆する現象について見ていく。

文法化現象の一つとして「가지고/갖고」を取り上げている남윤진(2000: 121-124)によると、「가지다/갖다」が「가지고/갖고」の形で使われる時、「所有, 所持」の意味が「対象, 道具, 状態」のような「関係的意味」に変るケースがあるという。「対象, 道具」の意味を表す「가지고/갖고」は「助詞」として捉えられる一方、「状態」の意味を表し、先行語として常に「連結語尾'-어」をとる「가지고/갖고」は「語尾」として解釈されると指摘している。

以下, 남윤진(2000) に倣い, 「対象, 道具」の意味を表す「가지고/갖고」は「助詞」として, 「状態」の意味を表し, 先行語として常に「連結語尾'-어」をとる「가지고/갖고」は「語尾」として取り扱う。

考察に当たって, コーパス全体における「가지다」と「갖다」の使用頻度を調べてみると, 「語尾」として用いられている例の使用率は, 「가지다」と「갖다」の両者とも書きことばに比べ, 話しことばにおいて著しく高いということが注目される。

表 26. 「가지다」 と 「갖다」 の使用頻度(KNC 全体)

	가지다		갖다	
	書きことば	話しことば	書きことば	話しことば
動詞	16,151 例 (92.2%)	992 例 (25.4%)	10,679 例 (99.6%)	685 例 (45.5%)
語尾	1,372 例 (7.8%)	2,919 例 (74.6%)	46 例 (0.4%)	820 例 (54.5%)
計	17,523 例 (100%)	3,911 例 (100%)	10,725 例 (100%)	1,505 例 (100%)

小説ジャンルに絞って、文法化した「가지고」と「갖고」の使用頻度を調べると、次表に示す通りである。

表 27. 「가지고」と「갖고」の文法化の例(KNC の小説ジャンル)

	가지고	갖고	合計
語尾	608 例 (40.3%)	44 例 (7.1%)	652 例 (30.6%)
助詞	168 例 (11.1%)	31 例 (5.3%)	199 例 (9.3%)
合計	776 例 (51.4%) (全 1,510 例中)	75 例 (12.1%) (全 621 例中)	851 例 (39.9%) (全 2,131 例中)

上表で示すように、少なくとも小説ジャンルにおいては「語尾」の機能を果たすものが比較的多い。これには、新聞記事や体験的記述を含む書きことば全体に比べ、多くの会話文が出てくる小説の文体的特徴から、書きことばと話しことばの中間的な性格が反映されていると考えられる。

「가지다」と「갖다」を分けて示すと、「가지다」の文法化の例は全 1,526 例の約 5 割を占めているのに対して、縮約形「갖다」における文法化の例は全 629 例の 12% に留まっており、「가지다」と「갖다」の使用傾向は必ずしも一致しないということがわかる。

以下では、まず「V-아/어 가지고」と「V-아/어 갖고」（以下、「V-*e* gajigo/gajgo」と記す）について取り上げた後、「助詞」の機能を果たす「가지고/갖고」について考察する。

3.4.3.1. 語尾として機能する「V-어 가지고/갖고」

「V-*e* gajigo/gajgo」の例を見ると、先行述語と後行述語の種類によって違いが見られる。以下の(397)では、それぞれ「新聞を買って、それを手に持って」のような解釈も可能であり、「所持」の意味も同時に読み取れるのに対して、(398)においては、「가지다/갖다」の語彙的な意味は完全に失われており、機能的な意味のみを表している。

(397) 해질 무렵 그녀는 거리에 나가 신문을 사 가지고 돌아왔다. [CE000030]

新聞-ACC 買う-CV *gajigo*

(日が暮れる頃、彼女は街に出て新聞を買って戻ってきた。)

(398) 나는 그만 어리둥절해 가지고 그를 쳐다볼 따름이었다. [BEXX0022]

うろたえる-CV *gajigo*

(私はついうろたえて彼を見つめるだけだった。)

以下では、「V-*e* *gajigo/gajgo*」のうち「V-*e*」がなくても文が成り立つケースと、「V-*e*」の削除が容認されないケースに分けて取り上げる。

まず、先行節が【〈所持品〉-ACC V-*e* *gajigo/gajgo*】の形で現れ、後行節の述語に移動動詞や動作動詞がくる場合は、先行節は後行節に対し、一般に「様態・手段」の意味を表す。

「V-*e* *gajigo/gajgo*」のVとしては、「사다(買う)／받다(もらう)／넣다(入れる)／(짐을)꾸리다((荷物を)作る)／챙기다(収める)／빼다(引き出す)」など、それ自体「手に収める」という保持の意味を含意する動詞が極めて目立つ。その結果、「*gajigo/gajgo*」を「所有」の意味として捉えても矛盾は生じない。

以下の例において、「V-*e*」のところを削除してみると、情報の量は減るものの適切な文として成り立つ。なお、削除が可能な部分に () を付けて表す。

- (399) 둘이서 커피잔을 하나씩 (나누어) 갖고 다시 거실에 나와 앉았을 때는…
コーヒーコップ-ACC 一つずつ(分ける-CV) *gajgo* [BEXX0017]
(二人でコーヒーコップを一つずつ(分け)持って再び居間に戻り座った時は…)

- (400) 신청서를 (써) 가지고 다음 줄에 가 섰다. [AE000148]
申請書-ACC (書く-CV) *gajigo*
(申請書を書いて列に並んだ)

次に、「V-*e* *gajigo/gajgo*」のVを削除しても文が成り立つもう一つのケースとして、【〈身体属性〉-ACC 하다(する)-*e* *gajigo/gajgo*】が挙げられる。

- (401) 손자새끼 낯을 (해)가지고 마누라 어찌구 하고 어리광으로…
孫 やつ 顔-ACC (する-CV) *gajigo* [AE000110]
(孫 (のような) 顔をして嫁なんたらって甘えることで…)

- (402) 그들은 그 꼴을 (해)갖고서는 도저히 정상인들의 사회에서 살 수가 없는 것이다.
その格好-ACC (する-CV) *gajgo* [BEXX0020]
(彼らはその格好をしては決して正常人の社会で生きていくことはできないのだ。)

ところが、NP が身体的特徴を表す場合であっても、次の例のように比喩的な表現の場合は、Vを削除すると、情報の量が減るというより、「魚の目を手に持って」という全く異なる意味として解釈される。

- (403) 어금니를 문 채 생선눈을 ?(해)가지고 음식구를 바라보고 있노라니 문득 시장기가
들었다. 魚の目-ACC ?(する-CV) *gajgo* [DENA010]
(奥歯を噛んだまま魚の目をして給食口を眺めていると突然お腹が空いてきた。)

さらに、【NP-Acc V-‘e gajigo/gajgo】のNPが〈所持品〉および恒常的な〈身体属性〉以外に当てはまる場合や、Vに「가지다/갖다」と異なる結合価をもつ動詞がきて【NP-NOM V-‘e gajigo/gajgo】の形を成しているケースにおいては、「V-‘e」を削除すると不適切となり、「-‘e gajigo/ gajgo」の機能の意味が顕著に現れる。例えば次のような例が挙げられる。

- (404) 자네가 한 열흘간 일을 못 나오다가 간신히 얼굴이 헐쓱해 가지고 나왔을 때도 나는 총무과장한테 자네를 다시 쓰자고 수없이 졸라댔었네. やつれる-cv gajigo [BEXX0009]
(君が十日間仕事を休んでいて、辛うじて顔がやつれて出てきた時も私は総務課長に君を再び雇うように数え切れないほどお願いした。)

- (405) 진호는 전날처럼 들떠 있지도 않았고, 오히려 허탈한 감정을 추스릴 길이 없는 듯, 밤새 수척해져 갖고, 와서 앉아 있었다. [BEXX0017]
やつれる-cv gajgo
(チノ(人名)は前日のように浮き立っていなく、むしろ虚脱な感情を取り直すようがないようで、一晩の間にやつれて来て座っていた。)

- (406) 그래 갖고 사관이가? (それでも士官なの?) [BEXX0024]
そうだ-cv gajgo

- (407) 그래 가지고 죽냐? (そうしては死なない。) [CE000029]
そうする-cv gajigo

後行節に対する「V-‘e gajigo/gajgo」の意味機能に注目すると、「先行動作」「様態・手段」「原因・理由」の用法が見受けられる。上で示した用法は割愛し「原因・理由」に当てはまる例のみを以下に示す。

- (408) 우린 워낙에 빚이 있어 가지고 빌릴 데가 없구만. [CE000029]
ある-cv gajigo
(うちはたくさん借金があつて借りるところがない。)

- (409) 방을 못 구해 갖고… [CE000029]
探せない-cv gajgo
(部屋を探せなくて…)

従来の研究で指摘している通り、以上のような「-‘e gajida/gajda」の機能は、連結語尾「-‘ese/‘ase」に非常に似ており、ほとんどの場合、「-‘ese/‘ase」への言い替えが可能である。さらに、連結語尾

「-go」への言い替えが可能である例も僅かながら見受けられる。例えば次のようなものが挙げられる。

(410) 나 계산해 갖구 나올께, 같이 가. (私会計してくる, 一緒に行こう。) [AE000077]

会計する-cv *gajgo*

(411) 그는 다시 일어나서 자세를 바르게 해가지고 도로 앉았다. [BEXX0005]

姿勢を正しくする-cv *gajgo*

(彼は再び起きて姿勢を正しくしてもとどおり座った。)

以上で取り上げた例における「*gajigo/gajgo*」は、語尾に後続し、活用形が固定されていること、「*gajigo/gajgo*」を省略しても、または「*gajigo/gajgo*」を他の語尾に置き換えても、元の文の意味と大して変わらないということが特徴的である。

とりわけ先行述語として「사다 (買う), 받다 (もらう)」のような「所持」に繋がる述語がきて、「오다 (来る), 가다 (行く), 나오다 (出てくる)」等の移動動詞が後続している「V₁-‘e *gajigo/gajgo* V₂」の出現頻度が目立つ。⁴³ これは、所有動詞「가지다/갖다」において「오다 (来る), 가다 (行く), 나오다 (出てくる), 나가다 (出ていく), 다니다 (行き来する), 들어오다 (入って来る)」などの移動動詞が「가지다/갖다」に後続し、「〈所持品〉+ *gajigo/gajgo* + V₂」の形式で現われている例が非常に多いということと繋がっている現象として、注目に値する。

3.4.3.2. 助詞として機能する「가지고/갖고」

「助詞」の機能を果たす「*gajigo/gajgo*」は、さらに「道具・手段」の意味として捉えられるもの、「理由」と同時に「対象」の意味として捉えられるもの、「対象」のみに当てはまるもの、という3つのタイプに分けられる。それぞれの意味機能によって、【NP_(ACC) *gajigo/gajgo*】は具格名詞句「NP-로/으로」, 「NP-에 대해서 (〜に対して)」, 「NP-때문에 (原因〜のために)」, 与格名詞句「NP-에게」等⁴⁴ への置き換えが可能である。

現れた199例を対象に置き換えの可否について検討した結果を以下の表に示す。なお、全199例(100%)であるが、複数のものへの置き換えが可能な場合は複数回数えている。

43 これは連結語尾と共起する述語を調べ、有意味な数値で現れる述語を提示している범금희 (2008: 37) の調査結果と一致する。범금희(2008)によると、連結語尾「-‘ese (-て)」と「-‘e *gajigo*」は、それぞれの高頻度で現れる先行述語の種類に違いがある。

44 その他、対格助詞「-ryr /‘yr」, 位格助詞「-‘ei」への言い替えが可能な場合もあるものの、次の理由から取り上げていない。まず、韓国語における「-ryr /‘yr」は、「対象」に限らず幅広い統語的環境に用いられる。さらに、「-ryr /‘yr」に言い替え可能な場合は上掲の表に示した形態素のいずれかに該当する。次に、位格「-‘ei」への言い替えが可能な場合は「原因・理由」の意味として捉えられるものであり、具格「-ro/‘yr」や「NP-ddaimunei (〜のために)」の意味機能と重なる。

表 28. 「NP_(-ACC) gajigo/gajgo」：置き換えの可否

	NP _(-ACC) gajigo/gajgo (199 例 100%)		
意味機能 置き換えの形態	道具・手段	理由・対象	対象のみ
-로/으로 (具格)	55.8% (111 例)	27.1% (54 例)	17.1% (34 例)
-에 대해서 (~について)	×	24.6% (49 例)	14.6% (29 例)
-때문에 (原因)	×	27.1% (54 例)	×
-에게 (与格)	×	×	1.0% (2 例)

上表から見て取れるように、表す意味機能に違いはあるものの、【NP_(-ACC) gajigo/gajgo】を具格名詞句「NP-로/으로」に言い替えられるケースが圧倒的に多い。これは、「gajigo/gajgo」と具格の機能との関わりがとりわけ深いということを示唆する。

以下では、「道具・手段」「理由・対象」「対象のみ」のそれぞれの関係的意味を表す場合について具体的な例とともに見ていく。

まず、【NP_(-ACC) gajigo/gajgo】を具格名詞句「NP-로/으로」に置換えられるものについて取り上げる。「道具・手段」に当てはまる例として次のようなものが挙げられる。

(412) 그 무렵에는 늘 지어다가 먹곤 한 약국 약 가지고는 오한이 잡히는 것 같지 않았다.

薬局 薬 gajigo

[BEXX0009]

(その頃はいつも使っていた薬局の薬では寒気がおさまるような気がしなかった。)

(413) 소주 갖고 되겠어? [CE000029]

焼酎 gajgo (焼酎でいいの?)

(414) 말만 가지고 되나. [BEXX0004]

言葉-だけ gajigo (言葉だけでだめでしょ。)

さらに、「所有動詞」の語彙的意味と「道具・手段」の文法的意味が重なるケースとしては、次のような例が挙げられる。

(415) 5 만 원 갖고 어떻게 살아? [BEXX0024]

5万ウォン gajgo (5万ウォンで/もってどうやって暮らす?)

(416) 나는 엉뚱한 열쇠를 가지고 문을 열려고 하고 있었다. [BEXX0008]

鍵-ACC gajgo (私は違う鍵をで/もってドアを開けようとしていた。)

例 (416) の場合は「열쇠를 (손에) 가졌다/들었다 (鍵を (手に) もった)」のような捉え方も可能であるのに対して、前述の (414) の「말만 가지고 (言葉だけでもって)」の場合は、「말을 가졌다

(言葉をもった)」とはいえず、文法化の度合いに違いがある。

一方、次の例における【NP-ACC + *gajigo/gajgo*】は、「NP-로/으로」および「NP-에 대해서 (～に対して)」に加え、「NP-때문에 (～のために(理由))」への言い換えも可能であり、「理由・対象」に当てはまる。

(417) 아침부터 내가 왜 남의 일을 가지고 이렇게 흥분하지? [CE000030]

他人-POSS こと-ACC *gajigo*

(朝から私が高んで他人のことでこんなに興奮するんだろう。)

(418) 오늘 아침에 내가 농담을 했던 걸 가지고 저러는 겁니다. [BEXX0007]

冗談-ACC する-PAST-REC-ATTR こと.ACC *gajigo*

(今朝私が冗談をいったことであんな調子なんです。)

(419) 지금 서울서는 그 편지를 갖고 데모를 합니다. [CE000020]

その手紙-ACC *gajgo*

(今ソウル(地名)ではその手紙に対してデモを行っているそうです。)

(420) 이미 지난 일 갖고 조 차장님 붙들며 시비할 생각은 아니고… [BEXX0018]

過ぎたこと *gajgo*

(既に終わったことでチョ次長にしがみついて文句付けるつもりはなく…)

ついでながら、原因を表す「NP-*gajigo/gajgo*」は具格「NP-로/으로」に置き換えられるが、原因を表す具格「NP-로/으로」は「NP-*gajigo/gajgo*」に置き換えられない場合もあるということに注意されたい。例えば、次に示す「NP-로/으로」の例を見ると、「NP-때문에 (～のために)」という意味を表すが、「NP-에 대해서 (～に対して)」の意味は表さず、前述の「原因」と同時に「対象」の解釈が可能な「*gajigo/gajgo*」の意味機能と異なる。

(421) 갑작스런 의심으로 굳어졌던 할머니의 표정이 조금씩 누그러졌다. [AE000058]

(当然の疑いで固まった祖母の表情が少しずつ柔らかくなった。)

(422) 심한 현기증으로 한참을 움직이지 못했다. [AE000094]

(ひどいめまいでしばらく動けなかった。)

(423) 어머니는 그가 아직 동방에 있을 때 아들을 잃은 상심과 비탄으로 일찍 눈 감았고

(お母さんは、彼がまだ東邦にいる時に、息子を失った傷心と悲嘆で早く亡くなり…)

[AE000059]

(424) 처음 그대를 보았을 때 나는 이상한 충격으로 흠칫했다. [AE000059]

(初めてあなたに会った時、私は妙な衝撃でびくっとした。)

「NP-gajigo/gajgo」の例においては、後行節に意志的行為を表す述語が目立つことのほか、否定文を取りにくい傾向がある。後行節の述語として意志性を含意するものが一般的であるという点は、所有動詞「가지다/갖다」との繋がりを示唆するものとして注目に値する。絶対的とは言いきれないものの、このような制限があるがゆえに、「原因」を表す表現に具格「-로/으로」ほど生産的に使われないと考えられる。

さらに、一部の名詞に関しては語彙論的に具格「-로/으로」との結合力が強く、「NP-gajigo/gajgo」で表せない場合がある。例えば、「탓으로 (せいで), 덕분으로 (お蔭で), 영향으로 (影響で)」のような名詞による表現がそうである。

(425) 현지 주민의 불평을 정부 당국에 강력히 드러낸 탓으로 내각이 넘어졌다.

(現地の住民の不評を政府当局に強くさらけ出したせいで内閣が崩れた。) [AE000094]

注目すべきは、「NP-gajigo/gajgo」による表現は、話し手の態度に関わる語用論的な要因も関連しているということである。多くの例は、話し手が NP の指示内容に対して、大したことだとは思っていない場合に用いられている。ちなみに、話し手がそのように思っているという判断は、以下の例のように、コンテキストから容易に読み取れる。

(426) 여인은 그 정도 가지고 뭘 그러냐는 식으로 태연하게 말했다. [BEXX0022]

それぐらい *gajigo*

(彼女はそれぐらいのことでそこまでするかのようになんげなく話した。)

(427) 일 년에 한두 번 있을까말까 한 일을 갖고 시비야? [BEXX0024]

年に一度あるかないかのようなこと-ACC *gajgo*

(年に一度あるかないかのようなことで言いがかりをつけるのか。)

出現頻度においては、以上の「理由・対象」に当てはまるものが後述の「対象のみ」に当てはまるものより高頻度で現れている。

「対象のみ」に当てはまるものについて取り上げると、【NP-ACC + *gajigo/gajgo*】を、「NP-를/을」または「NP-에 대해서 (～に対して)」に言い替えられる。同時に原因としての解釈も可能か否かという点において前述の「理由・対象」と区別される。

(428) 내 방 계약금 가지고 내가 왜 맘대로 못하나요? [CE000026]

契約金 *gajigo* 〈対象〉

(私の部屋の契約金(を/に対して)なんで私が勝手に使えないんですか?)

(429) 뻔한 걸 가지고 묻고 야단이야. [CE000026]

決まりきる-ATTR こと.ACC *gajigo* 〈対象〉

(決まりきったこと(を/に対して)聞くな)

さらに, 【NP-ACC + *gajigo/gajgo*】を与位格「NP-에/」に言い替えられる (430) (431) や, 「NP-에게」に言い替えられる (432) も「対象のみ」に当てはまる。

(430) 밥 가지고 이게 무슨 짓이고. [BEXX0024]

ご飯 *gajigo* (ご飯(で/に)なんてことをするんだ!)

(431) 다 이겨 놓은 장기를 갖고 왜 초를 치는 거여? [BEXX0020]

将棋-ACC *gajgo* (ほとんど勝った将棋をなんで台無しにするんだ!?)

(432) 그대로 의젓이 앉아서 제 닭 가지고 하듯이 또 죽어라, 죽어라, 하고 패는 것이다.

鶏.ACC *gajigo* [AE000117]

(そのままでんと座って自分の鶏に対してするように死ね, 死ねと言いながら殴るのだ。)

3.5. 第3章の結び

日本語の「もつ」構文と韓国語の「가지다/갖다」構文の対照的な側面に焦点を当てて本章での考察の結果を示す。まず、3.5.1 では所有物名詞の意味的カテゴリーに影響される述語「もつ」と「가지다/갖다」の意味的・統語的特徴を示す。その後、3.5.2 では存在文に照らして「もつ」と「가지다/갖다」に見られる特徴を示す。

3.5.1. 所有物の分類による特徴

「もつ」と「가지다/갖다」の所有物に注目すると、いずれも〈精神活動〉の例が極めて多く、一時性・活動性が際立つ点で共通している。ところが、〈身体〉〈属性〉〈親族〉〈状態〉〈所持品〉においてそれぞれ異なる側面が観察される。「もつ」と「가지다/갖다」の対照的な側面を以下にまとめる。

第一に、〈身体〉については、日本語と韓国語のいずれにおいても、角田太作(1991)の指摘の通り、通常、修飾語句を伴っている。例えば、「もつ」の所有物としては「正しい目、多くの顔、引きしまった肉体、筋肉質の体、吊り気味の目」のような名詞句が挙げられ、「가지다/갖다」の所有物としては「커다란 눈 (大きな目), 아름다운 손 (美しい手), 개성 있는 얼굴 (個性のある顔)」のような例が挙げられる。

ところが、「もつ」における〈身体〉の例には「テ形」で現れているものは見当たらないのに対して、韓国語においては「〈身体〉+ gaji/gaj-go」の形式が極めて目立つ。注目すべきことは、「〈身体〉+ gaji/gaj-go」の例の多くは「그 얼굴로 (その顔で), 그 몸으로 (その体で)」のように、具格名詞句への言い替えが可能であるということである。これらは「～にもかかわらず/～くせに/～のに」のようないわゆる「譲歩節」の意味として使われる。したがって、〈身体〉における「gaji/gaj-go」の形式は「가지다/갖다」の文法化に繋がる現象と考えられる。

第二に、変化性がなく恒常的な性格を持つ〈身体〉および〈属性〉に関して、「もつ」の場合は「タ形」で表せないのに対して、「가지다/갖다」の場合は過去形「-essda」の例も少なからず用いられるということである。過去形で表れた「가지다/갖다」のすべての例は、意味的に進行形と対立を成さない。これは、静的な意味を表しうる韓国語の過去形の特徴が表れた現象であり、注目される。

第三に、〈親族〉の例を検討すると、「가지다/갖다」においては典型的な親族の所有を表すものは極めて少なく、「아이를 가지다/갖다 (lit.子供をもつ)」という組み合わせで「子供を授かる/妊娠する」という意味を表すケースがほとんどである。それに対して、日本語では「子供をもつ」でもって「妊娠する」という意味を表さない。「子供を授かる」という意味を表す「아이를 가지다/갖다」の例は、とりわけ過去形が目立ち、意志、願望、勧誘を表す語尾との結合も自由である。

第四に、「もつ」においては一時的な〈状態〉を表すケースとして、例えば「威厳のある態度で」という意味で用いられる「威厳をもって」のような例が挙げられる。それに対して、「가지다/갖다」においては〈状態〉を表す表現により強い制限があると考えられる。上掲の「威厳をもって」は韓国語では「위엄있게 (威厳あり気に)」のように表すのが自然である。

最後に、〈所持品〉については、「가지다/갖다」の場合は文末述語としての用法に強い制限があ

り、もっぱら「가지다/갖다+V₂」の形式で使われる。それに対して「もつ」の場合は文末述語としても、「V₁+V₂」のV₁としても頻繁に使われる。

さらに、「もつ+V₂」と「가지다+V₂」のV₂に注目すると、「来る、行く」や「오다(来る), 가다(行く)」をはじめとする移動動詞が圧倒的に多いという点で共通している。

ところが、「가지다/갖다」においては、V₂として移動動詞のほか、授受動詞などの他動詞を伴い、「V-eda/da+他動詞」の形式でもって移動性を含意する。例えば、「가져다/갖다 주다(持って行って/持って来てあげる), 가져다/갖다 놓다(持って行って(一定の場所に)置く), 가져다/갖다 쓰다(持って行って/持って来て使う)」のような表現が挙げられる。

このような用法はとりわけ縮約形「갖다」において際立ち、出現頻度において移動動詞V₂を伴っている例を遥かに上回っている。それに対して、日本語の「もつ」には、移動動詞なしに移動性を表す「가지다/갖다-eda/da+他動詞」に相当する用法は見られない。

3.5.2. 存在文に照らして

第一に、「先行動作／目的／勧誘／ヴォイス／やりもらい／もくろみ／命令」などのように主体の意志・意図性が関与する「もつ」構文と「가지다/갖다」構文の場合は、存在動詞による所有文との違いが明確である。用例分析に基づくと、「もつ」と「가지다/갖다」はいずれも意志性が関与する統語的環境にあるものが全体の用例の7割を超えている。とりわけ〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉においては意志・意図性が顕著な場合が多く、「ある」「있다」によって表せないケースがほとんどである。一方、意志・意図性が関与しない構文においては、存在文への言い替えが可能な場合が少なくない。存在動詞を用いた対応表現が可能な統語的環境としては「条件・譲歩／理由／逆接／並列／義務／直説／推量」を表すケースが挙げられる。

第二に、統語的環境において制約がない場合でも存在動詞によっては表現されにくいケースもある。日本語と韓国語のいずれにおいても、主に〈身体〉や〈属性〉に当てはまる一部の表現には「ある」「있다」を使い難い。例えば、日本語では「高い頬骨、～身体、大きいスケール、～態度」のようなもの、韓国語では「～외모(外見), ~얼굴(顔), ~곡선(曲線), ~걸음걸이(歩き方), ~관점(観点)」のようなものが挙げられる。

第三に、〈身体〉の所有は存在文でも限られているが、「もつ」「가지다/갖다」による表現も非生産的である。一方、〈親族〉の所有は「ある」や「있다」によって表されるのがより一般的である。これは次のようなことに起因する。「もつ」「가지다/갖다」の例を見ると、目下の者に使われるという傾向が強く、通常、目上の者の〈親族〉の所有に使うのは稀である。それに対して存在文の場合はこのような制限はない。

最後に、日本語と韓国語における存在文では、それぞれ「～こと、～ところ、～もの、～人」「～일(こと), ~데(ところ), ~것(もの/こと), ~사람(人)」などを伴った統語的構成の所有物名詞句が少なくないのに対して、「もつ」と「가지다/갖다」の場合は統語的構成の所有物名詞句を取らない傾向がある。

第4章 「する」と「하다」

いわゆる「青い目をしている」型構文のような属性を表す「する」や、「熱で赤い顔をしている」のような一時的状態を表す表現は、韓国語の「하다」構文にも見受けられる。

(433) 【日本語】 集団の内側から色白で切れ長の目をした男が進みでた。 [OB5X_00123]

【韓国語】 du saram-‘yn ddoggat-‘i narssinha-n mommai-ryr ha-go‘iss-‘ess-da.
二 人-TOP 同じだ-ADLZ すらっとする-ATTR 体つき-ACC する-CONT-PAST-IND
(二人は同様にすらっとした体つきをしていた。) [BEXX0007]

(434) 【日本語】 彼女は泣き腫らした赤い眼をしていた。 [OB3X_00154]

【韓国語】 ‘ur-‘ese tungtung bu-‘yn nun-‘yr ha-gonyn jejjog-‘yro
泣く-CV ぶくぶく 腫れる-ATTR.PAST 眼-ACC する-CV.PRF 向こう-INS
dor-‘a ga-ss-da. [BEXX0026]
回る-CV 行く-PAST-IND
(泣いてぶくぶく腫れた眼をしては向こう側へ回って行った。)

上記の(433)では主体が本来的に備えている属性を表しており、(434)では主体の一時的な状態を他動詞文で表している。

本章では、このような内在的属性および非内在的・一時的属性を表す「する」構文と「하다」構文の使用実態に見られる共通点と相違点を明らかにする。

4.1. 先行研究

静的な意味を表す「する」について論じている研究としては、角田太作(1991), 澤田浩子(2001)⁴⁵, 佐藤琢三(2003), 影山太郎(2004, 2010) が挙げられる。以下の4.1.1~4.1.3では、角田太作(1991), 佐藤琢三(2003), 影山太郎(2010)の考察をまとめ、4.1.4では「하다」に関する先行研究について触れる。

4.1.1. 角田太作 (1991[2009])

角田太作(1991[2009: 146])には、「明るい性格をしている」のような表現における「する」は、「野球をする」等の「する」と違い、所有を表すという言及がある。所有を表す「する」は、所有物名詞として、「所有傾斜」⁴⁶の上位に位置づけられている「身体部分」「属性」のみを取り、「ネクタイをする」のような「着用する」の意味を表す場合と区別されるが、連続体をなすと指

45 澤田浩子(2001: 51) は、対格名詞句が誰にでもあるとは限らない非普通所有物であっても問題とする構文が成り立つ例として、「彼女は魅力的なほくろをしている」という文を取り上げ、「存在が前提になっている所有物」の修飾要素の有標性こそが重要であるとみなしている。

46 角田太作(1991)では、所有に関わる文法現象が起りやすい順に所有物の種類を階層的に表したものを「所有傾斜(Possession Cline)」と呼んでいる。所有物の分類と位置づけは「身体部分 > 属性 > 衣類 > (親族) > 愛玩動物 > 作品 > その他の所有物」のように提示されている。

摘されている。角田太作(1991[2009: 147-148]) による静的な意味を表す「する」のタイプを以下にまとめる。

表 29. 静的な意味を表す「する」動詞

	テンス・アスペクトに関する制限		動作/状態	NP ₁ と NP ₂ の関係	修飾語句
	言い切り	連体修飾			
①明るい性格をする	*した *する していた している	した *する していた している	状態のみ	全体・部分	必要
②怖い顔をする	した する していた している	した する していた している	動作 または 状態	全体・部分	必要
③ネクタイをする	した する していた している	した する していた している	動作 または 状態	?	不要

4.1.2. 佐藤琢三 (2003)

佐藤琢三(2003) は、日本語の「青い目をしている」型構文について「対象の根源的属性⁴⁷」の叙述を旨とするものである」と述べ、この構文の特徴を以下のように説いている。

この構文は述語に意味的な特定性がないことが特徴的である。述語には X (属性の持ち主) と Y (属性) の 2 つの項をとり、しかも意味的に透明な (動作のあり方などが特定化されていない) 語彙がふさわしい。… (中略) この構文における X と Y は常に一体といってもよい非常に強い同一性を有しており、この同一性こそが通常の文における述語動詞の実質的意味にかかわって、われわれに X と Y の関係性を了解させ、文の意味を成り立たせている。このような事情が根源的属性という意味的特徴が要求される理由であると思われる。

(佐藤琢三 2003: 33)

4.1.3. 影山太郎 (2003, 2010)

影山太郎(2010) によると、「青い目をしている」型構文は、「主語 (人間) の身体的属性を表し、そのため、「今だけ」や「近ごろ」といった短期間の継続を表す時間副詞とは相容れない」という。さらに、このように主語の恒常的な「属性」を叙述する場合は、「青い目」を「目が青い」のように、「名詞修飾構造」を「叙述構造」で言い換えることが可能であると説いている。

47 佐藤琢三(2003: 31) は、「根源的属性」を「対象 X が X として成り立つ以上は常に有される X の内在的な属性であり、X の成立後に外的に付与される可能性はないものである」と定義している。
ちなみに、ここでいう「X の内在的な属性」は角田太作(1991) の「普通所有物」と一致しない。

佐藤琢三(2003: 25) は「普通所有物」であっても「青い目をしている」型構文を成り立たせない例として「*太郎は、{昭和生まれの男性という属性/誰もが尊敬してやまない人格/皆から好かれる人柄}をしている。」を取り上げ、「属性、人格、人柄」は「単に社会的に (つまり外的に) 与えられるラベルであり、その人自身にとっての内在的な特徴とはいえない。(佐藤琢三 2003: 27)」と解いている。

影山太郎(2003: 23) は「彼女は青い目をしている」型の文を「身体属性文」と呼んでいる。

一方、「ふくれっ面をしている」のような「一時的な状態や動作を表す場合は名詞修飾から主述関係への反転が起こらない(影山太郎 2010: 14)」と述べ、以下の例を提示している。

- (435) a. 彼は近ごろふくれっ面をしている。
*彼は面がふくれだ／ふくれている。
b. 子供はその時だけ泣き顔をしていた。
*子供は顔が泣きだった／泣いていた。

4.1.4. 韓国語の「하다」に関する研究

「하다」に関する研究は数多くあるものの、複合動詞、補助動詞もしくは接尾辞といった「-하다」の形態論的位置づけ⁴⁸をはじめ、いわゆる動名詞やヴォイスに関わる用法について論じている研究⁴⁹が主流である。他方、翻訳テキストにおける「する」と「하다」の対応構造を取り扱っている研究としては、安秉杰(2004)と金恩愛(2007)が挙げられる。

安秉杰(2004: 126)では、「分離不可能所有の「する」と韓国語の対応表現」として、以下のような対訳の例を挙げている。

- (436) a. 三十五歳前後のやせ型の男で、鋭い目つきをしていた。〔人民は弱し、官吏は強し〕
b. 35 살 전후의 마른형의 남자로, 날카로운 눈매를 하고 있었다.
- (437) a. どうしたの皆さん。そんなに憂鬱そうな顔をして——〔風に吹かれて〕
b. 왜그래? 모두들 그런 우울한 듯한 얼굴을 하고.

上記のタイプに関する説明(安秉杰 2004: 125-128)を見ると、対格名詞は「通常連体修飾を受けて「～をする」と「-을/를 하다」構文に現れるのが特徴である」と記し、「韓国語では他の特定の動詞を用いて表した方が自然である」⁵⁰と述べている。

金恩愛(2007: 25)は、日本語の「きれいな顔をしている」「青い顔をしていた」などの例を挙げ、韓国語の対訳テキストでは「얼굴이 예쁘다 (顔がきれいだ)」「얼굴이 창백하다 (顔が青白かった)」のような構造で現れていると指摘し、これらを「名詞部分のみ一致する非対称構造」とみなしている。安秉杰(2004)と金恩愛(2007)のいずれの研究においても、このタイプについての説明は上述の部分のみであり、詳細な考察は行われていない。

48 주시경(1910), 박승빈(1935), 최현배(1937) は形態論的位置づけを試みた研究であり, 서정수(1986), 박종호(2010), 유경민(2010) は複合語における「-하다」について論じている。

49 日本語と韓国語の対照研究を見ると、漢語動詞における「する」とそれに相当する韓国語の「하다」について考察している安平鎬・張根壽(2001)の他, 生越直樹(1982), 都恩珍・黃情兒(2007)等は「하다」のヴォイスの問題に注目している。

50 「白い肌をしている」に対応する韓国語として, 同じ形の「하얀 피부를 하고 있네 (白い肌をしているね)」の他, 「피부가 희네 (肌が白いね)」(安秉杰 2004: 128) を挙げ, 後者の方が自然であると記している。

4.2. 「する」と「하다」に見られる連続的様相

考察に当たって、「する」構文と「하다」構文で表される事柄を内在性・意図性に注目しつつ「叙述の種類」の観点から考えると、両者とも次のような連続体を成すと考えられる。

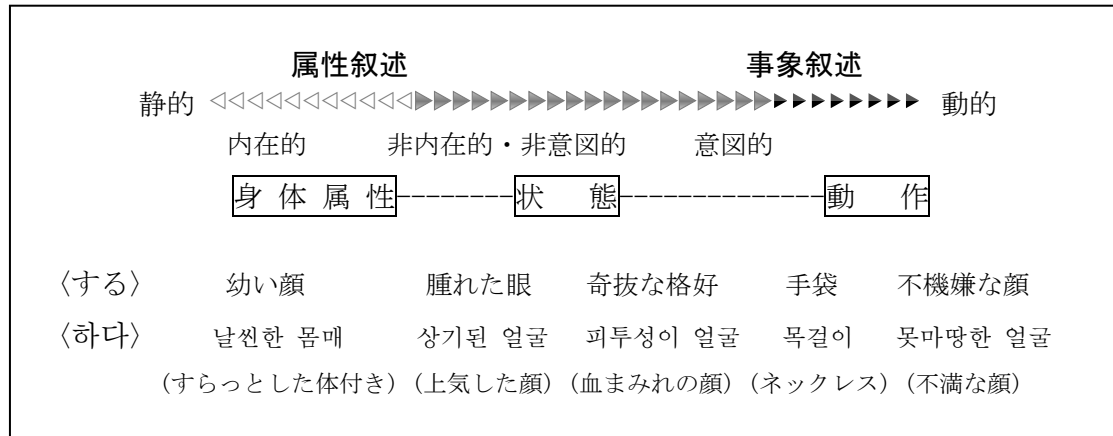


図7: 「する」構文と「하다」構文における連続的様相

以下の表に「する」構文の場合を取り上げ、本章の考察の対象について説明する。

表30. 「する」構文の叙述のタイプ

NP をする		意図性	主述関係への反転
(Ⅰ) 身体・属性	細い指をしている	無し	指が細い
(Ⅱ) 状態(物理的变化)	腫れた眼をしている	無し	眼が腫れている
(Ⅲ) 状態・動作(格好)	奇妙な髪型をしている	文脈依存的	髪型が奇妙だ
	みすぼらしい格好をしている		格好がみすぼらしい
(Ⅳ) 状態・動作	表情	文脈依存的	?顔が不満だ
	着衣	有り	×

まず、上掲の(Ⅰ)と(Ⅱ)は恒常性・一時性⁵¹において異なる。

次に、(Ⅲ)のうち「髪型」類は、特定の場面に限らない場合が多いという点を考えると「属性」に近く、曖昧な側面がある。ところがこのような曖昧さは「属性」と「状態」が連続体を成していることに起因すると考えられる。(Ⅲ)と(Ⅳ)⁵²は「する」の形態的なふるまいにおいて「しろ、するな、しながら、され、してみせる、したがる」などの形を取り、意図性・動作性

51 影山太郎(2008: 27) は「今だけ」や「ふだんは」を付けることができる「時間的に変動する可能性のあるもの」と「本質的な属性」を区別しており、Carlson(1980), Krifka et al.(1995) では主語名詞の恒常的な性質を述べる文を「Individual-level predicates」と呼び、時間の流れのなかの特定の時点における状態の叙述を「Stage-level predicates」と呼んで区別している。

52 表情を表す構文の使用率を見ると、「する」は全3,648例中236例(6.5%)である一方、韓国語の「하다」は全10,100例中92例(0.9%) 現れ、日本語における使用頻度が韓国語における使用頻度のおよそ7倍に達している。

を表す点において (I) (II) と区別される。

さらに (III) の「格好」タイプと (IV) の「着衣」タイプとの違いは次のような現象に端的に表れている。「変な服装をして、こんな格好をして」といった場合は「変な服装で、こんな格好で」への言い替えが可能であるのに対して、「指輪をして、メガネをして」の場合は「指輪で、メガネで」のように言い替えられない。

最後に (IV) の表情に当てはまる「～顔をしている」の場合は、伴っている形容詞が感情形容詞であるか性状形容詞であるか⁵³ によって、感情主が主語であるかそれとも話し手であるかによって解釈が一樣ではない。

以上のことを考慮して、本章では (I) (II) と状態の描写に使われている (III) を考察の対象とする。(I) (II) (III) においては、「X は～Y をする」を「X は Y が～だ/X の Y は～だ」のように主述関係に言い換えられるということに注目すべきである。

上述の「する」構文のタイプは韓国語の「하다」構文にも同様に見受けられる。(I) ～ (III) に対応する韓国語の例を以下に挙げておく。⁵⁴ 以下の「≈」は意味的に等価関係にあることを表す。

(438) 韓国語の「NP-를 하다」⁵⁵ による属性・状態叙述

(I) 그것은 화려한 색을 하고 있다.

gyges-‘yn hoarieha-n saig-‘yr ha-go ‘iss-da. (それは派手な色をしている)
それ-TOP 派手だ-ATTR 色-ACC する-CONT-IND

≈ 그것은 색이 화려하다.

gyges-‘yn saig-‘i hoarieha-da. (≈ それは色が派手だ)
それ-TOP 色-NOM 派手だ-IND

(II) 그는 창백한 얼굴을 하고 있다.

gy-nyn cangbaig-han ‘ergur-‘yr ha-go ‘iss-da. (彼は青白い顔をしている)
彼-TOP 青白い-ATTR 顔-ACC する-CONT-IND

≈ 그는 얼굴이 창백하다.

gy-nyn ‘ergur-‘i cangbaigha-da. (≈ 彼は顔が青白い)
彼-TOP 顔-NOM 青白い-IND

53 国立国語研究所(1972: 21-27) は、「客観的な性質・状態」を表す類を「属性形容詞」と呼び、「主観的な感覚・感情」を表す類を「感情形容詞」として区別している。韓国語の形容詞に関しては、유현경(1998) が「客観形容詞」と「主観形容詞」を区別している。

54 末尾にファイル番号がないものは作例である。ちなみに、作例は基本的に実例を簡略化する形にしており、筆者以外の母語話者にも確認を受けている。

55 韓国語の対格助詞 -를(母音の後)と-을(子音の後)を「-를」で代表し、「-를 하다 (～をする)」と記す。

(Ⅲ) 그녀는 짧은 머리를 하고 있다.

gynie-nyn jjarb-yn meri-ryr ha-go 'iss-da. (彼女は短い髪をしている)
彼女-TOP 短い-ATTR 髪-ACC する-CONT-IND

≈ 그녀는 머리가 짧다.

gynie-nyn meri-ga jjarb-da. (≈ 彼女は髪が短い)
彼女-TOP 髪-NOM 短い-IND

日本語のコーパス(BCCWJ)と韓国語のコーパス(KNC)のそれぞれの文学ジャンルに現れている「NP をする」と「NP 를 하다」を検索し、考察対象の「する」と「하다」の用例を手作業で抽出した結果を以下の表に示す。

表 31. 「する」と「하다」の属性・状態叙述

属性・状態	NP をする 3,648 例中	NP 를 하다 10,100 例中
叙述用法	102 例 (69%)	73 例 (65%)
連体用法	45 例 (31%)	39 例 (35%)
	147 例(100%)	112 例(100%)

前述の (Ⅰ) (Ⅱ) (Ⅲ) に当てはまる「する」の例は 3,648 例の約 4% を占めており、「하다」の例は 10,100 例の約 1% を示している。なお連体用法については第Ⅱ部(5.4)で取り上げ、ここでは叙述用法について見ていく。

「する」構文に比べると、〈身体・属性〉を表す「하다」構文は日常的によく使われるとまではいえないが、以下で取り上げる「하다」構文の例は韓国語においても決して珍しい表現ではない。内省に基づくと小説をはじめとする書きことばに比べ、話しことばにおいては形容詞文で表しやすいと思われる。

以下の 4.2.1 では、「する」と「하다」の対格名詞句(所有物)と対格名詞句内の修飾部に注目して考察する。その後 4.2.2 では「する」と「하다」の活用形に注目し、形態・統語的特徴について述べる。

4.2.1. 「する」と「하다」による所有表現

所有表現の観点から「する」構文と「하다」構文の所有物を分類してみると、〈身体〉〈属性〉〈状態〉の3種類に分けられる。所有物のカテゴリによる割合を示すと次の図のようになっている。

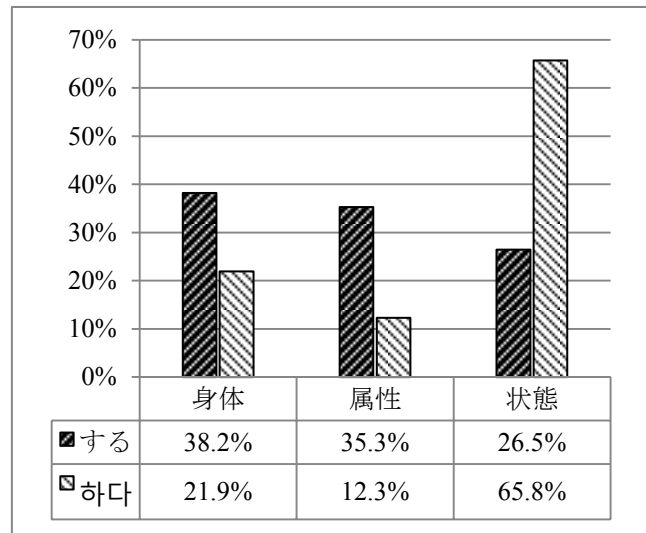


図8: 「する」と「하다」 - 所有物の分類

「する」の場合と「하다」の場合を比べてみると、「する」においては〈身体〉〈属性〉のような恒常的所有が目立つのに対して、「하다」においては物理的な変化による事柄や一時的格好を表す〈状態〉に当てはまる例が際立っており、日本語と韓国語の間に使用傾向の違いが見られる。

以下では、それぞれの所有物のカテゴリについて用例とともに見ていく。

<身体>

「する」と「하다」における〈身体〉の典型的な例として次のような例が現れている。

(439) あらためて見ると、みんな若い顔をしていた。十代だって混じっているのだ。

[OB6X_00134]

(440) しかし君はきれいで上品な顔をしているから、落ちついて女らしいのがいい。

[OB3X_00036]

(441) 中背。年齢は五十歳前後。色黒。細い指をしている。[OB5X_00115]

(442) 손자새끼 낫을 해가지고 마누라 어찌구 하고 어리광으로… [AE000110]

(孫 (のような) 顔をして嫁なんたらって甘えることで…)

(443) 그 중생은 구렁이의 몸을 하고 있었습니다. [BEXX0019]

(その衆生は青大将の体をしていました。)

(444) 그들은 짧게 치어깍은 머리에 완강한 가슴을 하고 있어 한눈에도 오랜 기간을 두고 운동으로 단련된 육체임을 알 수 있었다. [BEXX0019]

(彼らは短く刈り上げた髪に屈強な胸をしていて、長期間にわたって運動で鍛錬された肉体であることが一目でわかった。)

「する」においてはさらに「小さい眼，黒いどんぐり眼，齡より老けた顔，聡明そうな顔，たくましい体，綺麗な齒，すごい頭」のような例が現れており，「하다」においては「까무잡잡한 얼굴 (黒い顔)，정직한 얼굴 (正直(そう)な顔)，겁이 많은 눈들 (怖さ-NOM 多い-ATTR 目)，잘록한 허리 (くぼんだ腰)」のような例が現れている。

<属性>

ヒトや事物に関わる抽象的な事柄を表す名詞が所有物名詞として現れている。ヒトに関わる事柄としては，「なかなか의 顔立ち，どんな姿，やや太りすぎ의 体型」「다른 모습 (違う姿)，사람의 형상 (人の形状)，좋은 몸매 (いい体付き)」のような例が現れている。

一方，事物に関わる事柄としては，「奇怪的形，細長いかたち，足の形，乳白色，薄茶色」などの「形」や「色」を表す例が多く，「하다」においては「형체 (形体)，모양 (模様)，모습 (姿)」のような「形」を表すものがほとんどである。次に典型的な例を示す。

(445) 可愛らしい顔立ちをしていた。 [OB6X_00047]

(446) どことなく 引き締まった体つきをしている。 [OB4X_00245]

(447) 普通の炉の形をしていない。白い，歪つな碗の形をしていた。 [OB2X_00266]

(448)目は冷たい 薄茶色をしている。 [OB5X_00101]

(449) 두 사람은 똑같이 날씬한 몸매를 하고 있었다. [BEXX0007]

(二人は同じく すらっとした体つきをしていた。)

(450) 그녀는 이십대 중반으로 보이는데 대단히 좋은 몸매를 하고 있었다. [BEXX0007]

(彼女は二十代半ばに見えるがとても いい体つきをしていた。)

(451) 특히 솜씨를 내서 예쁘고 곱게 그린다고 그린 해낭신은 처녀의 모습을 하고 있었다.

(特に腕前を振るってきれいに描こうとして描いたヘナン神は 乙女の姿をしていた。)

[BEXX0022]

このように、コーパスの資料に限ると、「する」と「하다」のいずれにおいても現れている例はすべて視覚的な事柄、つまり見かけからわかる事柄を表す語彙である。

ついでながら韓国語においては、「색(色)」を表している例は小説の資料には現れていないが、インターネットの検索例からは次のような言い方も少なからず観察され、かつ自然な表現である。

(452) 몸 상태가 건강하면 결막은 연어의 핑크빛에 가까운 색을 하고 있다.

(身体の状態が健康なら結膜は鮭のピンク色に近い色をしている)

インターネット(<http://ja.wikipedia.org>) の検索例からは、さらに「誠実な性格、単純な性格、おとなしい性格」など、「～性格をしている」という表現も少なからず使われている。「性格」に比べると少ないものの、「正反対の性質をしている」や「よく似た特徴をしている」のような表現も見出される。韓国語においても「우호적인 성격을 하고 있다 (友好的な性格をしている), 비취보이는 성질을 하고 있으므로 (透き通る性質をしている)」のように、「性格、性質」については使えるが、「특징(特徴)을 하고 있다」とは言えず、語彙による自然さや許容度の違いが見られる。

以上見てきたように、身体属性を表す例が多いということは先行研究の指摘の通りであるが、無情物の事柄、とりわけモノの「形」や「色」を表すケースも少なくない。

次に、〈身体〉と〈属性〉の例に関して、所有物名詞句内の修飾部に注目すると、「する」構文では「細い、大きい、いい、美しい」などの性状形容詞に加え、「大山に似た顔、ボクサーのように折れ曲がった鼻、引き締まった体つき」のような「固定的な状態」⁵⁶を表す動詞による修飾も見受けられる。形容詞・動詞類に次いで、「少年の貌立ち、女のヒトの形」のような属格名詞句や、「能面のような顔、血のような色」などの比況を表す「～のようだ」の修飾を受けている例も現れている。「少年の貌立ち、女のヒトの形」の場合は、助動詞「～ようだ」が明示されていないものの、それぞれ「少年のような貌立ち、女のヒトのような形」という意味を表しており、いずれも「比況」による特徴づけであるといえる。

さらに、「繊細そうな顔、聡明そうな顔」のように、話し手の推量を表す助動詞「～そうだ」の修飾を受けている例も見受けられる。これらの表現は、「顔が繊細だ/聡明だ」とはいえず、「Xは繊細すだ/聡明そうだ」のように解釈される。すなわち、身体部分の「顔」の性質や特徴を表しているのではなく、主語の指示対象の性格・性質を話し手の主観的な推測によって特徴づけている。他方、修飾を受けていないケースも見られるが、すべて「肌色、レンガ色、下り眉」のような複合語であり、それ自体「非普通所有物」として捉えられる。

「하다」構文に目を向けると、「새의 모습(鳥の姿), 심장 모양(心臓の模様)」のように、名詞句の修飾を受けているものが目立つ。

さらに、「이런 낯짝(こんな顔), 그 꼴(その姿)」などのように、指示詞の修飾を受けている

56 金田一春彦(1950) は固定的な状態を表す動詞類を第四類の動詞と称し、その例として「曲がっている、ずばぬけている」などを挙げている。

ものも観察される。これらは文脈から「このような(見つともない)顔, このような(障害のある)姿」という意味として用いられている。次のような例がそうである。

(453) 들은 그 꼴을 해갖고서는 도저히 정상인들의 사회에서 살 수가 없는 것이다.

(彼らはその姿をしては決して正常人の社会で生きていくことはできないのだ。)

[BEXX0020]

前述したように, 「する」構文においては形容詞による修飾を受けているものが最も多いのに対して, 「하다」構文においては名詞(句)による修飾が形容詞による修飾を上回っており, 注目に値する。韓国語の先行研究で形容詞文の方が一般的であると指摘しているのを見ると, すべて修飾部が形容詞である。要するに, 〈身体〉〈属性〉を表す「する」構文のうち, 対格名詞句内の修飾部が形容詞の場合は, 韓国語においては選択表現の形容詞文が使われやすいといえそうである。

ちなみに, 「하다」の用例において, 動詞の修飾を受けている例は現れなかったが, 「する」における「折れ曲がった鼻」のような表現に似た言い方もある。例えば「찢어진 눈(裂く-PASS-ATTR.PAST 目)을 하고 있다」のような表現がそうである。

<状態>

〈状態〉に当てはまる例を見ると, 主語の意志にかかわらず自発的な作用の結果生じた事柄を表す「物理的变化」タイプと, その他一時的な外見について述べる「格好」タイプに分けられる。

本章の冒頭で述べた通り, 「物理的变化」タイプは「*青白い顔をしろ/*赤い眼をしよう」などのような命令表現や勧誘表現をはじめとする意志的な表現にすることはできないのに対して, 「格好」タイプにはそのような制限がない。

まず, 「物理的变化」タイプに当てはまる代表的なものとしては次のような例が挙げられる。

(454) 彼女は泣き腫らした赤い眼をしていた。[OB3X_00154]

(455) 그 낯선 여인은 내가 자기의 치마를 잡았다는 사실도 잘 모르고 울어서 퐁퐁 부은 눈을 하고는 저쪽으로 돌아갔다. [BEXX0026]

(その見知らぬ女は私が自分のスカートを掴んだことも気づかず泣いてぶくぶく腫れた眼をしては向こう側へ回って行った。)

所有物名詞として現れている語彙を見ると, 「する」においては「顔, 目」の二種類, 「하다」においては「얼굴(顔), 얼굴빛(顔色), 눈(目), 몸(身体)」の三・四種類のみが現れている。

所有物の名詞句内の修飾部に注目すると, 「する」と「하다」のいずれにおいても, 「蒼白な, 赤い, 青い」「창백한(蒼白な), 붉카한(赤い), 시뻘건(真っ赤な)」などのように, 色を表す性状形容詞による修飾が際立つ。

さらに、動詞の修飾を受けている例としては「白く醒めた顔, ふくれた顔」のようなもの, 韓国語では (455) の「부은 (晴れた)」をはじめ, 「상기된 (上気した), 시뻘겔게 흥분된 (赤く興奮した), 하얗게 바랜 (白く醒めた)」のような例が現れている。

一方, 主語の意志・意図性は関心の外にあって, もっぱら外見的な特徴を表す「格好」タイプにおいては, 所有物名詞として「修飾部 + 姿, 形, 格好, 服装, スタイル, 髪, 髪形」のような語彙が現れている。

「하다」の例を見ると, 「修飾部 + 차림/매무새/복장(身なり/服装), 모양/모습/꼴/물골(姿/格好), 머리(髪/髪型)」のような例に加え, 「거지꼴(乞食姿), 맨발(裸足), 말똥머리(馬糞(の形に似た)髪型), 진흙투성이(泥まみれ), 러닝셔츠 바람(ランニング姿)」のような複合名詞による表現が比較的目立つ。次に典型的な例を示しておく。

(456) 女のように長い髪をしており, 頭には黒い帽子をかぶっている。[OB2X_00182]

(457) 多くは長髪で, 奇抜な服装をし, マリファナの常習者もいた。[OB6X_00113]

(458) 彼はきょうは枯葉色の薄手のスウェード・シャツをはおり, パイプをくわえて, 男性服飾雑誌の口絵のような恰好をしていた。[OB1X_00022]

(459) 그는 여전히 덥수룩한 머리를 하고 방 한 구석에 놓인 책상앞에 웅크리고 앉았다.
(彼は相変わらずもじゃもじゃの髪をして部屋の片隅に置かれている机の前にしゃがみ込んだ。) [AE000120]

(460) 예술하는 여자들을 보니까, 대개 생머리를 했더군요. [BEXX0008]
(芸術(を)する女性達を見ると, 大概ストレートの髪をしていたんです。)

(461) 그녀는 자다가 방금 일어나 달려 나온 듯잠옷바람에 가운을 걸치고 있었고 실내화도 신지 않은 맨발을 하고 있었다. [BEXX0007]
(彼女は寝てる最中でついさっき起きて飛び出てきたようで, 寝巻き姿にガウンを着ていて, 上履きも履かず裸足をしていた。)

(462) 남편은 진흙 투성이를 하고 산에서 내려 왔다. [AE000103]
(夫は泥まみれをして山から下りてきた。)

次に, 所有物名詞句内の修飾部に注目すると, 「する」構文においては「奇異な, いい, きちんとした, おかしな」などの形容詞に次いで「ような, そうな, という, らしい」のような助動詞類が高頻度を示している。一方, 「하다」構文においては, 「지저분한 (汚い), 너절한 (汚らしい), 깨끗한 (清らかな), 말쑥한 (こざっぱりした)」のような形容詞の修飾を受けているも

のと、属格名詞句および複合名詞類との割合の差はほとんど見られない。

ついでながら、以上の「格好」タイプと、「목걸이(ネックレス), 귀걸이(イヤリング)를 하다」などの「着衣」タイプとの中間的な性格をもつ次のような例も観察される。

(463) 화장을 곱게 한 해숙이 하얗게 소복을 하고 누워 있을 것 같은 생각이 머릿속을 떠나지 않았다. (背後の引き戸の内側にきれいに化粧をしたヘスク(人名) が白く素服をして横になっていそうな思いが頭の中から消えなかった。) [BEXX0009]

「양복을 입고/*하고(背広を着て)」のように、「양복(背広), 한복(韓服)」などの衣服に当てはまる場合は通常「입다」が使われる。

一方、「정장(正装)」の場合は「정장을 입고/하고(正装を着て/して)」のように「입다(着る)」と「하다(する)」のいずれも可能である。

他方、「차림(身なり), 복장(服装)」となると「복장을 하고/*입고(服装をして)」のように、もっぱら「하다」で表す。(463) の「소복(素服)」の場合は一般に「소복을 입다(素服を着る)」のように表すが、「양복(背広), 한복(韓服)」に比べると「하다」による表現も許容される範囲である。このような表現は「정장을 입고/하고(正装を着て/して)」のようなタイプに影響されていると考えられる。

4.2.2. 「する」と「하다」の形態・統語的特徴

本項では述語「する」と「하다」の活用形に焦点を当てて見ていく。

「する」と「하다」の「叙述用法」の例における活用の実現形の内訳を次の図に示す。なお、「シテイテ」や「하고 있어서」をはじめ、終止形以外のものも含め「シテイル」と「하고 있다」と記す。

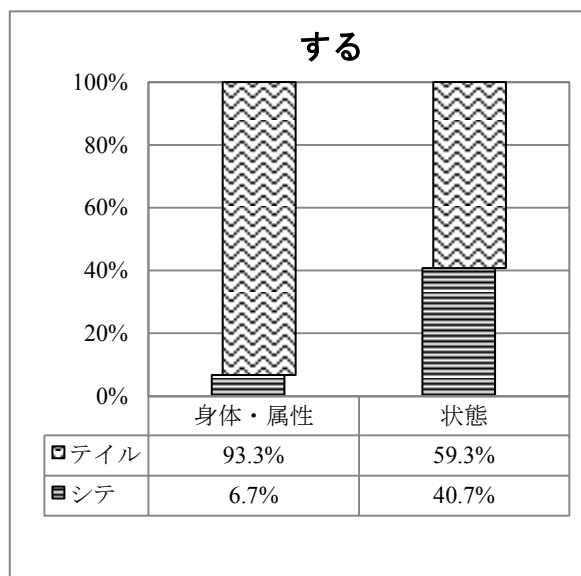


図 9 : 「する」の実現形(叙述用法)

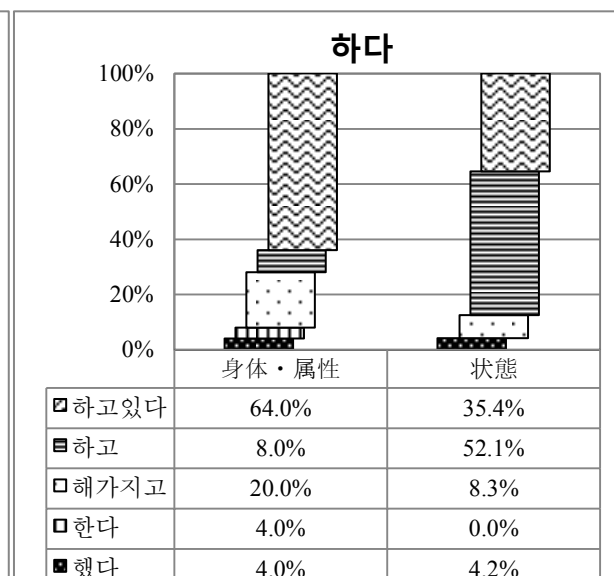


図 10 : 「하다」の実現形(叙述用法)

上の図で見て取れるように、「する」においては「シテイル」と「シテ」のいずれかの形をとっている。先行研究の指摘の通り「シタ」の例は見受けられない。

まず、〈身体・属性〉に当てはまる「する」と「하다」の例を以下に示す。

(464) 口は異様に大きく, 黒いどんぐり眼をしていた。[OB4X_00137]

(465) 判事は, 背が低く, やや太りすぎの体型をしていて, 人をいつも疑っているような鋭い目つきと, 厳しい口もとの持ち主だ。[OB4X_00268]

(466) 短い足に, 豚のような小さい眼をして薄い唇にはいつも安物の葉巻をくわえている。[OB4X_00018]

(467) いい年齢をして深みがない。[OB2X_00267]

(468) 바위는 그냥 여느 바위였는데 위쪽이 사람의 머리모양을 하고 있어 아이는 미륵바위라고 혼자 이름을 지었다. (岩はただの普通の岩だったが, 上の方が人の頭の模様の[lit.して]子供は弥勒岩と独りで名前を作った。) [BEXX0019]

(469) 손자새끼 낫을 해가지고 마누라 어찌구 하고 어리광으로… [AE000110]
(孫(のような)顔を[lit.してもって]嫁なんたらって甘えることで…)

(470) 그 낫짝을 하고 나한테로 시집을 온담 뻔뻔하게. [AE000110]
(そんな顔を[lit.して]私に嫁に来るなんて。ずうずうしい。)

(471) 둥그스름한 얼굴뿐만 아니라 이목구비 모두 여성적이며 선량한 모습을 한다.
(丸っこい顔だけでなく目鼻立ちすべて女性的で善良な姿を[lit.する]。) [BB94D022]

(472) 콧대가 유난히 높고 코 끝이 조금은 뽕명한 그런 모습을 했다. [BB94D022]
(鼻柱がやけに高く鼻先が少しずんぐりした形を[lit.した]。)

「する」の例のうち, 「シテ」の例を見ると, 現れた 5 例のうち 4 例は上掲の例 (467) の「いい年齢をして」といった慣用的な表現である。残りの 1 例は複数の事柄を羅列している (466) であるが, 一般には「シテイル」の方が使われるといえよう。

「하다」の例を見ると, (468) のような「하고 있다」の例が最も多いところは「する」の場合と変わらない。ところが, (469) のように「해가지고 (してもって)」や「하고 (して)」の形で現れている例も少なからず観察される。

(469) (470) をはじめ, 「해가지고」「하고」の形で現れた例を見ると, すべての例は話し手による非難や不満を表している。これらの例における「-를 해가지고 (～をしてもって)」「-를

하고 (～をして)」は助詞「-로」に置き換えられるが、さらに「그 낮쪽에 (その面に), 그 얼굴에 (その顔に), 그 나이에 (その歳に)」のように、助詞「-에」に置き換えても、元の文との間に意味の違いはほとんど感じられない。いずれも「～くせに/のに」のような皮肉の意味として解釈される。このような「-를 해가지고」と「-를 하고」の表現は、とりわけ話しことばにおいて助詞「-를」なしによく使われる。

注意すべきことは、「～くせに/のに」の意味として捉えられない「-를 해가지고」や「-를 하고」は、「-로」への置き換えのみが可能であり、助詞「-에」には置き換えられないということである。言い換えると、〈身体・属性〉の例における「-를 해가지고」と「-를 하고」はいずれも「-로」への置き換えが可能であるが、主節に対し「～くせに/のに」のように譲歩節の機能を果たしていると捉えられる「-를 해가지고」と「-를 하고」は、「-로」だけでなく「-에」への置き換えも可能である。

「해가지고」の例はすべて副詞節である。おそらく連体修飾や文末述語として用いることはないといって差し支えない。

最後に、〈身体・属性〉に当てはまる現在形「한다」と過去形「했다」についてはインターネットで確認してみるとさらに次のような例が見出される。なお、内省からもこれらの文に対する不自然さは感じられない。

(473) 수체의 산은 물결이 흘러가는 것과 같은 모습을 한다.

(水体の山は波が流れていくのと同じ姿を[lit.する].)

(474) 30 대 중반~50 대 초반으로 170~175cm 키에 건장한 체격을 했다.

(容疑者は30代半ば~50代前半で170~175cmの背に壮健な体格を[lit.した].)

(475) 날개 달린 여성 혹은 얼굴만 여성인 새의 모습을 했다.

(翼の付いた女性もしくは顔だけ女性である鳥の姿を[lit.した].)

(476) 위쪽의 양 모서리를 길이 44cm 정도 잘라낸 귀집이 모양을 했다.

(上側の両角を長さ44cmぐらい切り取った端折りの模様に[lit.した].)

このように、叙述用法において過去形が使えるということは日本語と大きく異なる側面である。ただしこのような現象は「하다」に限らず、静的事象の表現にも過去形が使われるという韓国語における動詞の過去形の性質に起因する。⁵⁷

次に、〈状態〉に当てはまる例としては以下のような例が挙げられる。

(477) 坊は、酸素吸入を受けながら、青白い顔をして眠っていました。[OB3X_00288]

57 韓国語の過去形の性質については伊藤英人(1990)を参考。

(478) 部屋で横になっていると、妻が青い顔をして入って来て、… [OB2X_00194]

(479) 隣に座ったダンブルドアは、いまと同じように銀色の髪をしている。 [OB6X_00179]

(480) 女のように長い髪をしており、頭には黒い帽子をかぶっている。 [OB2X_00182]

(481) 어머니가 시뻘정게 홍분된 모습을 하고 노크도 없이 교실로 들어닥쳤다.
(母が真っ赤に高ぶった姿を[lit.して]ノックもなしに教室に入り込んだ。) [CE000079]

(482) 그는 초라한 옷차림에 긴 백발을 하고 여윈 얼굴에 시선이 안정되어 있지 않은 노인
한 명을 손가락질했다. (長い白髪を[lit.して]痩せ衰えた顔に、視線が安定していない年
寄り一人を指差した。) [D97_B046]

(483) 그해 겨울 거지꼴을 하고 이 집에 찾아온 구천이의 모습이다. [BEXX0003]
(その年の冬、乞食の格好を[lit.して]この家に訪ねてきたクチョンの姿である。)

(484) 진홍색 짧은 치마에 흰 블라우스를 입었고, 단발머리를 했다. [BEXX0009]
(濃紅色の短いスカートに白いブラウスを着ていて、おかっぱ髪を[lit.した].)

「する」においては「シテイル」の割合が「シテ」の場合を少し上回っているものの、両者の差はそれほど大きくない。「物理的变化」タイプにおいては(477) (478)をはじめ、「シテ」の使用がより目立つ。

一方、「하다」においては、「하고 (して)」をとって同時性を表している例が最も目立つ。

上掲の例(482)における「하고」は同時性とともな事柄の羅列としても捉えられるが、「하고 있고 (していて)」や「하고 있으며 (していて)」で表すと不自然である。構文の構造をよく見ると、連体修飾節の被修飾名詞が主体であり、「하고」は連体修飾節の一部として実現されていることがわかる。このような連体修飾節内における事柄の羅列といった構文的な特徴が「하다」の形態的なふるまいに影響を及ぼしていると考えられる。

「하고」や「해가지고」の用法については次のことにとりわけ注目すべきである。前述の〈身体・属性〉における「-를 하고 (～をして)」 「-를 해가지고 (～をしてもって)」の例は「～くせに/のに」の意味として捉えられ、「-로」だけでなく「-에」にも置き換えられると前述した。それに対して、〈状態〉における「-를 하고」と「-를 해가지고」の例を見ると、「-에」に置き換えられるケースはわずかな例に過ぎないものの、すべての例は「-로」に置き換えられる。

以上の考察に基づくと、「-에」に置き換えられる「-를 하고」「-를 해가지고」の表現はかなり限られているが、具格助詞「-로」に置き換えられる「-를 하고」「-를 해가지고」の用法は、「가지다/갖다(3.4.3 参照)」に見られる文法化に非常に似ており、所有表現における文法化の一例であると考えられる。

最後に、〈状態〉においても(484)を含め、過去形「했다」の形をとっている例が見出されるが、いずれも「하고 있다」に言い替えられる。

4.3. 第4章の結び

本章では、「する」と「하다」による所有表現として静的な意味を表す「～をする」と「～를 하다」の叙述用法について考察を行った。以下に考察の内容をまとめる。

第一に、所有物名詞に注目すると、「する」と「하다」はいずれも「身体」や「身体に関わる事柄」を表す語彙が極めて多いということは先行研究で指摘されている通りであるが、さらにヒトに限らず事物に付随する抽象的な事柄にも頻繁に使われる。とりわけ視覚的に確認できる「形」や「色」を表すものが目立つ。

第二に、所有物名詞に先行する修飾部に注目すると、「する」構文においては、所有物名詞が性状形容詞の修飾語句を伴っているものが極めて多いのに対して、「하다」構文においては、名詞句による修飾の方が形容詞による修飾を上回っている。これと関連して、日本語の「形容詞+所有物+する」に対する韓国語の対応表現としては、「形容詞+所有物+하다」よりも、形容詞文の方が選択されやすいと考えられる。

第三に、「する」と「하다」の活用形に注目すると、〈身体〉〈属性〉に当てはまる「する」は、「いい年をして」のような「慣用的表現」を除き、「シテイル」の形(93%)で表される。

それに対して、「하다」においては、「하고 있다 (している)」の形(64%)が最も多いものの、「해가지고 (してもって) , 하고 (して) , 한다 (する) , 했다 (した)」の形で現れている例も少なからず見出される。

さらに、「〈身体〉〈属性〉+する」は文末動詞の言い切りの形が明らかに多いのに対して、「〈身体〉〈属性〉+하다」は副詞節をはじめ、接続節を成しているケースがより目立つ。

日本語と韓国語の対照的な側面としては、過去形の用法が注目される。韓国語では叙述用法においても過去形「했다」が使えるが、これは恒常的な属性や静的な事象をも過去形「했다」で表しうるといった韓国語の動詞過去形の性質に因る。

次に、〈状態〉に関しては、「青白い顔」「흥분된 모습 (高ぶった姿)」のような「物理的な変化」の結果生じた状態を表すタイプと、髪型や服装を表す「格好」タイプに分けられる。「する」に比べ、「하다」は「格好」タイプの表現に比較的多く使われる。

〈状態〉における動詞の活用形に注目すると、日本語では「シテ」、韓国語では「하고」がそれぞれ 40%, 52% を占めており、〈身体〉〈属性〉の場合に比べ、「シテ」と「하고」の形が明らかに高頻度で現れる。これらの形式をはじめ、接続の機能を果たしている例が「する」と「하다」いずれにおいても約7割に達している。「〈身体〉〈属性〉+V」と「〈状態〉+V」との実現様相の違いは、とりわけ「する」において顕著に現れる。

第Ⅱ部 連体修飾の所有表現

本稿のⅡ部では、所有動詞による連体修飾節および、属格構造を取り扱う。

所有動詞の連体用法と属格構造は、修飾部と被修飾部で構成される名詞(句)による所有表現である点で共通する。連体修飾節を第Ⅰ部の叙述用法と別に取り扱うもう一つの理由として、連体修飾節の場合は述語のテンス・アスペクトにおいて、文の場合と異なる様相を呈する(5.1 参照)ということが挙げられる。さらに、[Pr V Pe]型と[Pe V Pr]型という統語構造による違いにも注目する必要がある。

第Ⅱ部の構成は次の通りである。まず、5 章では、日本語の「ある/いる」「もつ」「する」と、韓国語の「있다」「가지다/갖다」「하다」による連体修飾節の用例を分析し、所有者と所有物の統語的位置による違い、それぞれの場合における所有物名詞の分類および、形態・統語的な特徴について考察する。

その後 6 章では、日本語と韓国語における、属格構造を対象として意味構造による分類を行った後、[Pr V Pe]型と[Pe V Pr]型における「所有物の分類」について見ていく。

最後の 7 章では、1 章から 6 章までの考察を踏まえた結論および、今後の課題と展望について述べる。

第5章 連体修飾節—「ある/いる, もつ, する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」

本章の構成は次の通りである。5.1 では、連体修飾に関する研究のうち、本章での考察と直接関連する先行研究の指摘を取り上げる。その後 5.2 では「ある/いる」と「있다」を対象に、5.3 では「もつ」と「가지다/갖다」を対象に、5.4 では「する」と「하다」を対象として、[Pr V Pe]型と [Pe V Pr] 型に分類した上、所有物の種類をはじめとする意味的、統語的特徴について考察する。最後の 5.5 では、考察の結果に基づき、それぞれの連体修飾による所有表現の特徴および、対照的な観点から日本語と韓国語との共通点と相違点を示す。

5.1. 先行研究

まず、所有および結果継続を表す動詞類について、連体修飾における特徴に触れている高橋太郎(1975)と寺村秀夫(1984)を取り上げる。その後、対照言語学な観点から、日本語と韓国語のテンス・アスペクト形式の対応関係を提示している生越直樹(1991)を取り上げる。

高橋太郎(1975: 2)は、「「所有・所属を表す動詞」の多くは連体形になると、現在形と過去形の意味の区別がなくなってしまう」と述べ、次のように示している。

- (485) a. 乙を もつ 甲
b. 乙を もった 甲

このような指摘を否定するわけではないが、それぞれの所有関係において、恒常・一時性、有情・非情性など、名詞の性質が一律ではないということを考えると、上記の「乙」と「甲」を充たす名詞、すなわち所有者名詞や所有物名詞の性質による使用傾向にも、注目する必要がある。本章の5.3.2では、「もつ」の所有物の分類および、活用形の使用傾向に注目して考察を行う。

一方、寺村秀夫(1984: 197-199) は、「性状規定的述語の場合― ～テイルの縮約形～タ」という項目の中で、次のように言及している。

(486) a. 白ッポイ着物ヲ {着タ／着テイル} 婦人ガ入ッテキタ

b. ソノ婦人ガ {着タ／着テイル} 着物ニハ見オボエガアッタ

(寺村秀夫 1984: 199)

上掲の a. では、「修飾する動詞は被修飾語 N の動作、状態を述べている（つまり N が～タ／～テイルに対して意味的に主格の関係に立っている）」のに対し、b. では「その対象（対格関係）」になっていると述べ、「b. の場合は「X ガ～スル」というコト全体があとの N を修飾している。その場合は、その動詞の～タ形は、ふつうの動詞のアスペクト（已然）を表し、その～テイル形は継続・状態（已然の結果の存在）を表す」と説いている。

要するに、修飾する動詞と被修飾語が、主格関係にある場合と、対格関係にある場合とで、動詞の実現される意味が一様ではないということである。

このような違いがあるとすれば、所有動詞についても、所有者と所有物が [Pr V Pe] 構造をなす場合と、[Pe V Pr] 構造をなす場合を区別し、それぞれの場合の実現様相の違いを明らかにすることが必要である。

次に、日本語と韓国語の対照研究である生越直樹(1991: 43-47) は、連体形に限るものではないが、韓国語を母語とする日本語学習者に見られる、テンス・アスペクト形式の誤用について、「誤用のおおくはル形とタ形に関する誤り、あるいはル形とテイル形に関する誤りである」と指摘している。日本語と韓国語のテンス・アスペクト形式の対応関係を以下に引用する。

(487) 日本語のル形・タ形・テイル形とそれに対応する朝鮮語の形の関係：

〈日本語〉	〈朝鮮語〉
ル形	現在形，連体形現在，連体形未来
タ形	過去形，連体形過去，連体形回想
テイル形	進行形，（現在形，連体形現在）

日韓対照言語学的な観点を視野に入れてテンス・アスペクトを扱っている論考⁵⁸ は数多く存在する。本章では、テンス・アスペクトの問題に深く立ち入ることはできず、前掲の生越直樹(1991)

58 油谷幸利(1978)，梅田博之・村崎恭子(1982b)，菅野裕臣(1987, 1990)，伊藤英人(1989, 1990)，浜之上幸(1991, 1992a)，生越直樹(1995)，井上優・生越直樹・木村英樹(2002) を参考。

による対応型を参考にして、所有動詞の連体修飾（5.3～5.4）における、それぞれの活用形の意味的対立および、選択されやすい形式などの実現様相について見ていく。さらに、対照的な観点から日本語と韓国語との共通点と相異点を明らかにする。

5.2. 「ある/いる」と「있다」

考察に当たって、存在文における名詞の「トコロ性」にかかわる現象に触れる。

以下、NP_{1-LOC} は連体修飾節内の処格名詞句(Locative)を、NP_{1-NOM} は連体修飾節内の主格名詞句(Nominative)を表す。主名詞は NP₂ と記す。

(488) の「(a) 机(の上)にある本」と「(c) 本がある机」を見ると、文に広げた場合の、主題は当然変わるが、(a) NP_{1-LOC} の「机」と (c) NP₂ の「机」は、いずれも「所在場所」としての解釈を受ける。韓国語の場合も同様である。

一方、NP_{1-LOC} に人名詞を置いて (488) の (b) のように表してみると、日本語では、そのままでは成立せず、「太郎のところに」のように場所化することが必要であろう⁵⁹。それに対する解釈は「所在」に限られる。要するに、(b) NP_{1-LOC} として「太郎」は不適格であり、(d) NP₂ 「太郎」は、「所有者(Pr)」として捉えられる。

次に、(b) の韓国語の場合に移ると、NP_{1-LOC} として人名詞をそのまま使えないという制限はない。ところが、韓国語においても (b) に対する解釈は、通常「所在」であり、「所有」と捉えるのは一般的ではない。一方、(d) はいわゆる親族の所有として解釈される。

(488)	〈連体修飾〉			〈叙述〉		
	NP _{-LOC}	V	NP _{-HD}	NP _{-NOM}	NP _{-LOC}	V
(a)	日 机(の上)に	ある	本	本が/は	机(の上)に	ある
	韓 책상에	있는	책	책이/은	책상에	있다
(b)	日 ?太郎に	ある/いる	息子	?息子が/は	太郎に	ある/いる
	韓 철수한테	있는	아들	아들이/은	철수한테	있다
(c)	NP _{-NOM}	V	NP _{-HD}	NP _{-LOC}	NP _{-NOM}	V
	日 本が	ある	机	机(の上)に	本が	ある
	韓 책이	있는	책상	책상에	책이	있다
(d)	日 息子が	ある/いる	太郎	太郎に	息子が	ある/いる
	韓 아들이	있는	철수	철수한테	아들이	있다

上述のことと関連して、存在動詞においては、[Pr V Pe] 型の所有表現が制限されるということが予想される。以下では、[NP_{1-LOC} V NP₂] と [NP_{1-NOM} V NP₂] という構造の違い及び、「有情性」「トコロ性」を含む名詞の意味的特性⁶⁰ に注目しつつ、実例を検討し、存在動詞の連体修飾によ

59 寺村秀夫(1968)では、日本語の名詞について「トコロ性」による区別があるということを指摘している。

一方、韓国語においては、風間伸次郎(2003)、油谷幸利(2005)等の対照研究で言及している通り、「人-에게/한테(に) 오다(来る)」のように表されるという点で、「トコロ性」による制約に違いがある。

60 風間伸次郎(1999: 121)によると、アルタイ諸語のいくつかに見られる「所有/存在」を示す接辞は「より恒常的な、一体感のある所有/存在を示す」のに用いられ、NP₁がNP₂と「関係のないトコロ性の強い名詞である場合にはこの構文をとりにくくなり、競合する存在動詞等による構文をとる」という。

る所有表現の特徴を明らかにする。

5.1.1. 用例抽出について

日本語における「ある」と「いる」の用例については、語彙素検索で「ある」と「いる」を検索し、それぞれ前方から約1万例に絞った後、「～ている」や「～てある」などの文法化の例をはじめ、連用形(2章参照)のものを外しながら、連体修飾の構造(いわゆる「内の関係」の中、述語と被修飾名詞が処格関係および、主格関係にあるもの)に当てはまる例を手作業で抽出した。その結果、「ある」537例と「いる」366例が得られた。

韓国語においては、KNCに現れた「있다」の連体形2,943例のうち、手作業で対象の構造を抽出した結果、489例が得られた。以下では、これらの例を対象に考察を行う。

5.1.2. ある/いる

「ある」と「いる」それぞれの連体修飾節の用例を対象に、①「NP_{1-LOC} V NP₂」と②「NP_{1-NOM} V NP₂」のように、構造別に分類した結果を以下の表に示す。

表 32. 連体修飾「ある」と「いる」

連体修飾	ある	いる
① [NP _{1-LOC} V NP ₂]	273 例	270 例
② [NP _{1-NOM} V NP ₂]	264 例	96 例
計	537 例	366 例

主格名詞句(NP_{1-NOM})や、それに相当する[NP_{1-LOC} V NP₂]構造のNP₂は、名詞の選択において特に制限がないといえよう。一方、処格名詞句(NP_{1-LOC})や[NP_{1-NOM} V NP₂]構造のNP₂は、「トコロ性」の影響を受けるということが予測される。

このようなことを考慮に入れ、NP_{1-LOC}と、[NP_{1-NOM} V NP₂]構造のNP₂の名詞の種類に注目すると、「ある」と「いる」のいずれも、NP_{1-LOC}には、場所名詞もしくは位置名詞を伴った名詞句がきており、有情物の例は現れていない。

一方、[NP_{1-NOM} V NP₂]におけるNP₂に注目すると、「ある」の場合は、264例中「場所」を示す名詞は58例(22%)であるのに対し、「有情物」を示す名詞が89例(34%)、「その他無情物」を示す名詞が117例(44%)現れている。

「いる」の場合は、[NP_{1-NOM} V NP₂]におけるNP₂も、「場所」を示す名詞類がほとんど(96例中91例)を占めている。これは、存在動詞の連体修飾節による所有表現は、[NP_{1-NOM} ある NP₂]の構造で現れやすいということを示唆する。

以下の5.1.2.1では「ある」について述べ、5.1.2.2では「いる」について述べる。

このような、「一体感」や「トコロ性」という名詞(句)の意味的性質は、「もつ」と「ある」による「所有/存在」表現の考察、さらには、[Pr V Pe] vs. [Pe V Pr]という構造による違いを考える際にも重要であることはいうまでもない。

5.1.2.1. ある

連体修飾の機能を果たす「ある」全 537 例中, [NP₁にある NP₂] 構造をなしている例は, 273 例である。中身を見ると, 「所在」227 例, 「その他」29 例, 「所有」17 例に分類される。

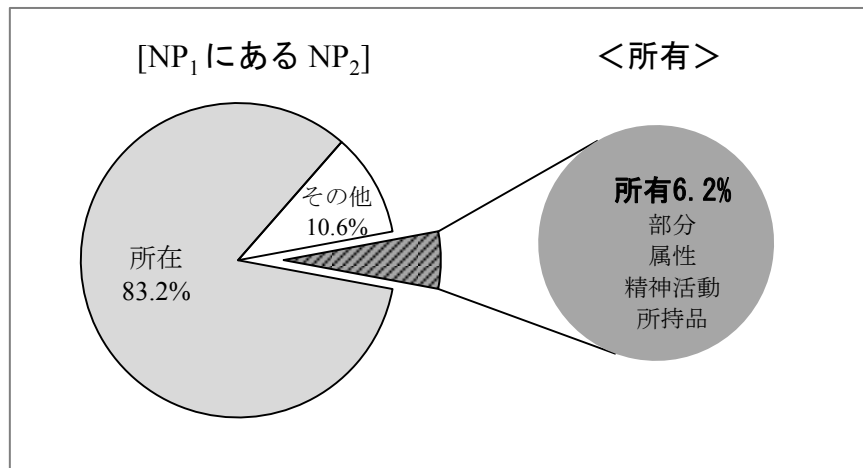


図 11 : [NP₁にある NP₂]における「所有」(273 例中 17 例)

図 11 から見てとれるように, [NP₁にある NP₂] において, 圧倒的に大きい割合を占めているのは「所在」の例である。これらは, 空間的な場所を指し示す NP_{1-loc} と, その場所を占めている対象を表す NP₂ で構成されている。以下に該当の例を示す。

(489) 一週間後, 私は有楽町に【ある】弁護士のおフィスへ行き, できあがった契約書を受け取った。〔一瞬の夏〕

(490) それから私は目の前に【ある】ノートと鉛筆をチェックしてみた。
〔世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド〕

図 11 の「その他」に含まれるものは, 2 章で取り上げた「処格措定存在文」に当てはまる, 次のような例が目立つ。

(491) 時代を動かすことのできる立場に【ある】人たちに説いたものであろうかと思います。
〔OB3X_00106〕

(492) 実際には, そのような境遇に【ある】夫も少なからずいるはずですが... 〔OB5X_00068〕

一方, NP_{1-loc} と NP₂ の間に成り立つ相対的な意味関係によって, 「NP_{1-loc}=所有者(Pr)」「NP₂=所有物(Pe)」としての解釈が可能なものは, 273 例のわずか 6% (17 例) に過ぎない。なお, 「所有」を表す [NP₁にある NP₂] は [Pr V Pe] と記す。

所有物の種類に注目すると, 〈部分〉〈属性〉〈精神活動〉〈所持品〉の 4 種類に分類される。各

カテゴリーについて用例とともに見ていく。

<部分>

次の(493)の「その会社」と「三つの編集部」や(494)の「運動場」と「横穴」の間には、それぞれ「全体 - 部分」の意味関係が成り立つと見なしうる。

角田太作(1991)は、「ほくろ」のような、誰にでもあるとは限らないものを「非普通所有物」の「身体部分」として取り扱っている。このような観点からすると、以下の例におけるNP₂は「非普通所有物」の〈部分〉として捉えられる。これに当てはまる例は6例現れているが、[Pr V Pe]型においては、比較的目的立つ方である。

(493) 原島久三は、その会社に【ある】三つの編集部のもっとも小さな部署を担当していた。

[新橋烏森口青春篇]

(494) 朝礼の始まる前に空襲となり、裏の運動場に【ある】横穴へとびこむ暇なくB二九空をうめつくして、講堂の前の壕へ入り...

[ラ・クンパルシータ]

これらに「全体 - 部分」の関係を認め、「(所在)を兼ねた」「所有」として分類するものの、所有者に相当する名詞は、「会社、運動場、天井」などのような場所名詞であり、「所在」と「所有」の区別が非常に曖昧である。このような例が[Pr V Pe]において比較的多いのは、所有者の、強い「トコロ性」に起因するといえる。

<属性>

様々な抽象的事柄を表す〈属性〉の所有は、所有表現全般において最も際立つものである。ところが、[NP₁にあるNP₂]構造のNP₂が〈属性〉に相当する場合はかなり限られる。NP₂を〈属性〉として捉えられるものは、以下の2例のみである。

(495) その不敵な面構えの背後に【ある】純粋なものを見たような気がした。[風に吹かれて]

(496) あの二人の間に【ある】秘密をさぐりあててくれませんか [OBIX_00125]

これらの実質的な所有者は「面構え」「二人」とみなされるが、「背後」「間」のような位置名詞によって場所化されている。

<精神活動>

「いらだち、感覚、矛盾」などのような、感情・思考を表す〈精神活動〉が所有物に相当し、感情が生じる場所または現れる場所に相当する身体および、その主体が所有者に相当する。感情の起点を表す身体の場合も「トコロ性」を有している。

- (497) 俊介は課長の眼に【ある】いらだちと混乱の表情を見て、つよい満足感を味わったが、
[パニック]
- (498) 私は、私の中に【あった】心の世界を言葉として表現するにはどうしたらいいのかと
いつも思っていました。 [OB6X_00086]

所有者が「私、自分」のようなヒト名詞である場合は、「私の中、自分の中」のように、位置名詞「中」を伴って現れている。

<所持品>

NP_{1-LOC} が身体部分の「(Xの)手」である場合は、「所在」のほか、「所持している状態」を表す。これらは、所有者の動作性に関わる事象叙述であり、「一時的・動的所有」として捉えうる。

- (499) 比島人は私の手に【ある】銃を見ながら、卑屈に笑った。[野火]

「ある」のみを視野に入れて考えると、単なる「所在」との区別が不要であるように思われるかもしれない。ところが、身体部分の場合は、身体を持ち主の意志と必然的に関わっており、「手にもった」のような、「もつ」を用いた類似の表現が可能であるという点に注目すべきである。

このように、[NP₁にある NP₂] 構造でもって [Pr V Pe] 型の「所有」を表す場合もあるが、「存在/所在」に限らず) このような場合でも「NP₁」を充たす名詞(句)は、「トコロ性」を有していることが要求されるため、現れうる所有関係は非常に限られる。

次に、[NP₁がある NP₂] 構造について見ていく。[NP₁がある NP₂] 構造をなしている 264 例を検討し、「所有(Pe V Pr)」に当てはまる例を取り出して所有物の分類を行った結果を以下に示す。

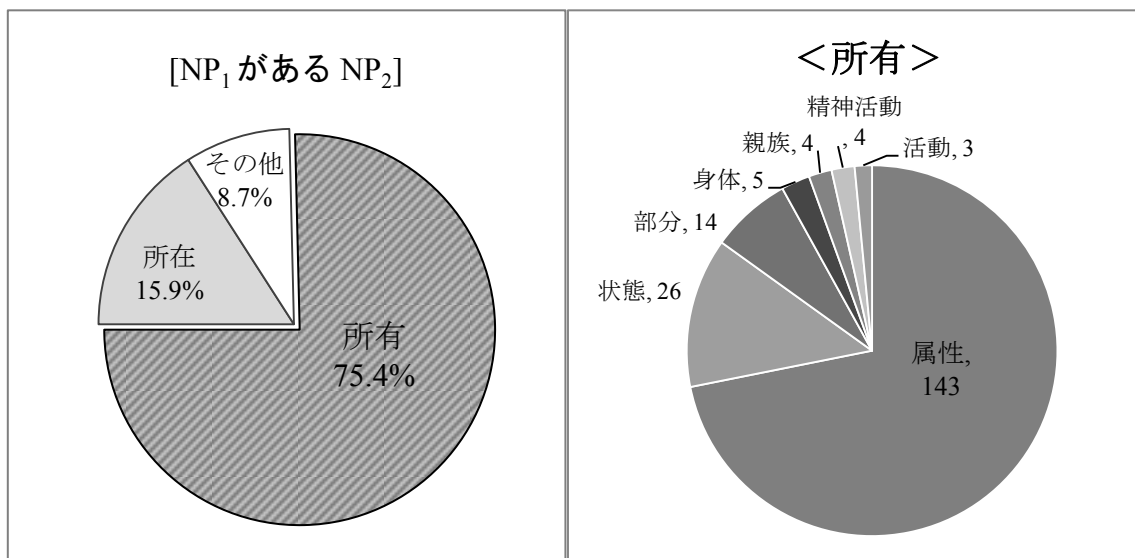


図 12 : [NP₁がある NP₂]の分類(264 例中)

図 13 : [Pe がある Pr]の所有物(199 例)

上の図に示すように、[Pe V Pr] 型においては「所有」に当てはまる例が 7 割を超えており、際立つ。残りは「所在」16%、「その他」9% に分類される。

まず「所在」に該当する例を取り上げる。モノや場所を指し示す NP_{1-NOM} と、それが占めている空間的な場所を示す NP₂ で構成された次のような例である。

(500) わずかばかりの焼け残りの書物の【ある】自室の机の前に坐るとき、彼ははじめていくらかほっとした、自分自身の時間をとり戻せるような気がした。〔榆家の人びと〕

(501) ニコロの勤務する病院の【ある】聖ポーロ区から、海軍省のある聖マルコ区に行くには、大運河を渡らないで行くわけにはいかない。〔コンスタンティノーブルの陥落〕

図 12 の「その他」には、本稿の 2 章で取り上げた「属性数量詞存在文」と「生起存在文」の連体修飾が含まれる。次のような例がそれに当てはまる。

(502) 人恋しさをしずめるはずの秋の旅でこれまでに会った人といえば、警官であり、坊さんであり、爺さんであり、七百キロも【ある】馬であり…〔OB1X_00041〕

(503) それぞれの事件の【あった】場所や、列車内に、朝倉たちの足跡が、残っていないかを、調べるためである。〔OB3X_00245〕

次に、「所有」の例を見ると、〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈親族〉〈精神活動〉〈状態〉〈活動〉にわたって幅広い種類のものが現れている。それぞれに該当する例を以下に挙げる。

<部分>

(504) 低層階は、遊歩道や庭の【ある】高級商店街になる。〔OB4X_00187〕

(505) アルツハイマー型痴呆は、神経内科などの【ある】専門的な病院にまかせ、老年科は…〔OB5X_00256〕

<身体>

(506) この髭の【ある】支店長は、どこかもったいぶった口ぶりで答えたのであった。〔点と線〕

(507) あれはメキシコ神話に登場する、翼【ある】蛇ではないのかな〔OB4X_00278〕

<属性>

「所有(Pe V Pr)」全 199 例中 143 例は〈属性〉類に属す。「才能、魅力、愛嬌、見識、教養」のような抽象名詞が、[NP₁ がある NP₂] の NP_{1-NOM} として現れており、NP₂ には「人」「男」「女性」などの有情物が現れている例が際立つ。(510) (511) は無情物が所有者に相当する例である。

(508) 実力, 才智の【ある】おじさんが, つい同族の宗家の世話を焼かざるをえないのと似ており… [国盗り物語]

(509) 彼女はたしかに若くて, 雰囲気【ある】娘さんだ。[OB1X_00125]

(510) 村の入り口の関所とあだ名の【ある】よろず屋のおかみさんときたら… [二十四の瞳]

(511) いずれにせよ由緒【ある】町なのだ。[OB4X_00014]

〈属性〉においては, 上掲の (511) のように, NP₁ が主格助詞を介さず直接述語に繋がっている「連語構成」⁶¹ のものが 24% (143 例中 34 例) を示しており, 少なくない頻度で現れている。代表的には「見識ある, 価値ある, 権威ある, 教養ある, 魅力ある」のようなものが挙げられる。

なお, このような主格助詞を伴っていない例は「所有」199 例中 40 例(20%)であり, 〈属性〉のほか, 〈身体〉〈親族〉〈状態〉にも見出される。

さらに, 「似たところ」「聞かないところ」のような, 「～ところがある NP」の形で, 統語的構成をなしている例も (143 例中 6 例) 見受けられる。

ほとんどの例においては, 上記のように NP_{1-NOM} の名詞自体が抽象名詞であるが, NP_{1-NOM} の抽象性について曖昧なもの (4 例) も見受けられる。例えば, 以下の例のように, NP_{1-NOM} が「お金」である場合は, 〈財産〉との区別が非常に曖昧である。とはいえ「車, パソコン, テレビ」などの, より物質的な〈財産〉の場合に比べると, 明らかに形容詞的な性格を持っている。

次の例においては「Pr がお金持ちであるか否か」という解釈が自然であり, この場合は性質を表す〈属性〉と見なしうる。

(512) 大して金の【ある】雑誌ではなかったので原稿料は安かった。 [瞬の夏]

<親族>

〈親族〉に当てはまる例は 4 例現れているが, その中 2 例は, Pr に「者」の意味を表す「身」が現れている (513) のような例である。

(513) さいはての地に来て妻と子の【ある】身では理想に生きるというだけで許されるわけもなかった。 [花埋み]

(514) 町方の奉公人で親の【ある】者は稀であった。[OB1X_00185]

61 남윤진(2000) に倣い, 2 つ以上の語彙が共起する現象を「連語関係」とし, この連語関係を持つ言語構成を「連語構成(Collocation)」と呼ぶ。日本語と韓国語の連語構造の対照を行っている南潤珍(2006)では, 「2 項構造の連語構成」の中に「의미 있는(lit.意味ある)」「권위 있는(lit.権威ある)」「책임 있는(lit.責任ある)」「소신 있는(lit.所信ある)」「용기 있는(lit.勇氣ある)」を提示している。

<状態>

これらの NP_{1-NOM} は、NP₂ に対する恒常的な性質を表すのではなく、一定の時間における NP₂ の状態を表す。時間的な制限を受けやすい点で〈属性〉と区別しうる。

(515) 僕は証人になります、と教員が勤人の肩に掌をふれると活気の【ある】声でいった。

〔人間の羊〕

(516) 営利企業で出来るのは、今まで掘り当てた井戸から膨大な利益を上げているメジャーに匹敵する大会社しかありませんが、そんな余裕の【ある】会社は日本にはまずないでしょうね [OB1X_00100]

(517) しばらく走って、少し人通りの【ある】道へ出る。 [女社長に乾杯]

<精神活動>

「関心、興味、疑問、自信」などの感情を表す名詞が所有物として現れ、その感情の経験者が所有者に相当する。

(518) 弓技に自信の【ある】殿上人たちを左右にわけて、競射させるのである。〔新源氏物語〕

(519) 日本の近代史に多少とも興味の【ある】人なら、聖将名将として誰しもその名を承知している東郷平八郎元帥すら、井上の基準では一等大将に入っていなかった。[OB1X_00077]

<活動>

(520) 3の証人として榎津と最後に交際の【あった】筑橋市魚屋町の割烹マダム畑千代子さん (二十八) を呼ぶことを決定、約五十分間で閉廷した。[OB0X_00026]

連体修飾の機能を果たす「ある」について、「所有」に属すものを対象に、[Pr V Pe]型と[Pe V Pr]型に分け、所有物の分布を比較した結果を以下に示す。

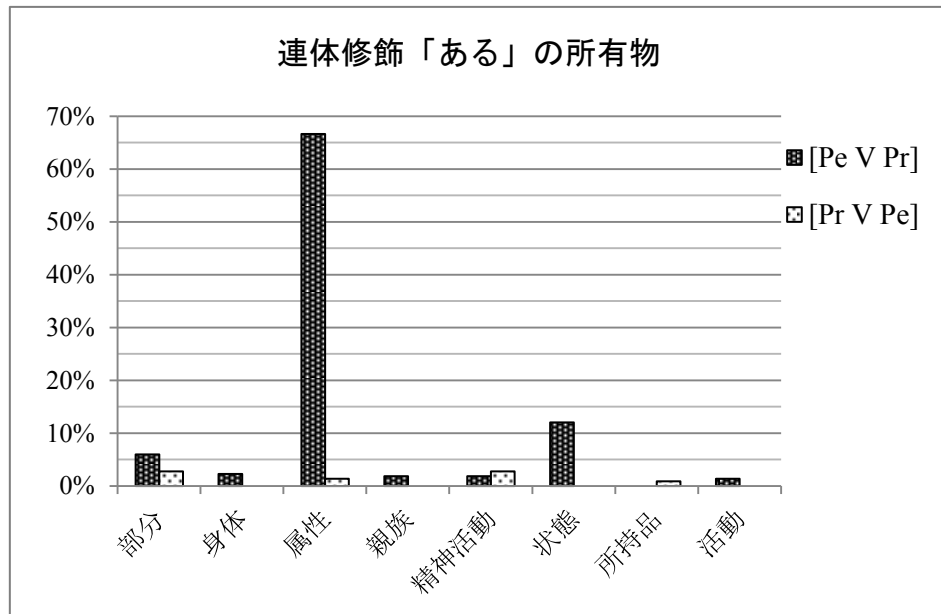


図 14：連体修飾「ある」の所有物(537 例中「所有」216 例)

[NP₁にある NP₂] においては, [Pr V Pe] の解釈が可能なものはわずか 6% (273 例中 17 例) に過ぎないのに対し, [NP₁がある NP₂] においては, [Pe V Pr] の解釈が可能なものは, 75% (264 例中 199 例) という大きな割合を示している。

[NP₁にある NP₂] においては, NP_{1-LOC} の「トコロ性」に関わる制限と深く関連しており, 表しうる所有関係および, 所有物の分布が非常に限られるということが確かめられた。

一方, [NP₁がある NP₂] においては, 予想以上に「所有」の割合が大きく, 所有物の種類も, 2.6.3 で取り上げた叙述用法の場合と大して変わらない。ただし, 〈属性〉〈状態〉以外の所有物の割合が非常に少ないという傾向はある。

さらに, 「見識ある, 魅力ある」などのような, 「連語構成」と見なされるものが多く含まれており, 「～ところがある NP₂」のような統語的構成も珍しくないということは, 「ある」の特徴として注目される。これは〈属性〉の割合がとりわけ大きいということに繋がっている。

5.1.2.2. いる

本項では連体修飾の機能を果たす「いる」について考察する。

「いる」の場合は, 「ある」の場合と同様「トコロ性」の制限がある上, さらに対象名詞句の「有情性」の制限も加わってくるということを考慮すると, 「所有」の表現は全般に限られるということが予想される。

全 366 例中, [NP₁にいる NP₂] 構造で現れた 270 例を検討すると, 「所有」として捉えうるものは見受けられない。「その他」の存在文の文型にはまるものが 8.1% (22 例) を占めており, 残りの 91.9% (248 例) はすべて「所在」を表すものである。

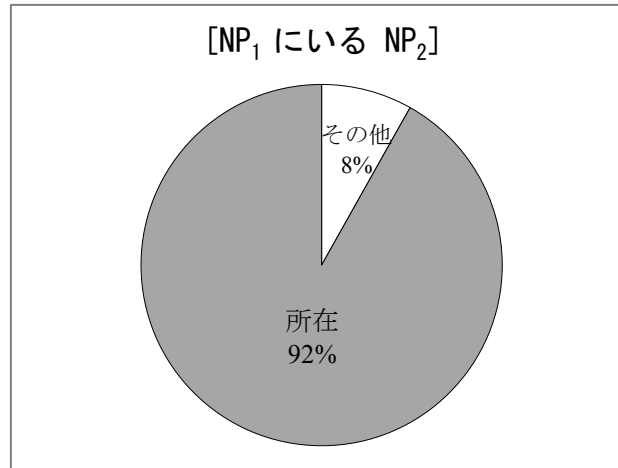


図 15 : [NP₁ にいる NP₂]の分類(270 例)

まず、「所在」に当てはまる場合について取り上げる。

もっぱら場面性に関わる表現をはじめ、長期的な滞在を表すもの、さらに組織として捉えうる場所名詞句を伴い、所属関係を含意するものなど、時間性に関わる程度の違いは見られるものの、これらはすべて、一定の空間的場所 NP_{1-loc} を対象 NP₂ が占めているということを表す。典型的な例を以下に挙げる。

(521) 正成はそれには答えず、すぐうしろに【いる】正行に前に出るように言った。

[OB1X_00197]

(522) そんな貧しい私たちのところでも、栃木に【いる】妻のきょうだいたちには楽園のようであるらしく、かわるがわる訪ねてきた。

[帰郷]

(523) 伊織が奈良へ誘ったのは、環境問題について、奈良の県庁に【いる】人と会う用事があったからだが、それは一時間もあればすむはずだった。

[OB2X_00267]

上記の(523)は、ここでは「所在」に含めているが、NP_{1-loc}の名詞が「場所」と同時に「組織」でもあるという両義的な名詞であり、「所有」の一種と見なすこともできる。

仮にこれを「所有」と見なすとする、後述する [Pr V Pe] とは区別する必要がある。(523)は NP_{1-loc} でもって NP₂ を特徴づける構造になっており、意味構造と統語構造の対応においては、むしろ「所在」と「処格指定存在文(2.4.2.4 参照)」の中間的な側面をもっている。

なお、次の例のような「処格指定存在文」や「絶対存在文」の連体修飾は図 15 の〈その他〉に含まれる。

(524) 似た立場に【いる】相手にかぎられてくる。[OB2X_00267]

(525) 世間によく【いる】親切な先輩というのとも何だかちがっていた。[OB1X_00077]

続いて、[NP₁ がいる NP₂] の形で現れた例を見ると、「いる」全 366 例中 96 例現れている。この構造においても、「所在」に当てはまるものが 83.3% (80 例) を占めており、極めて目立つ。

ところが、前述の [NP₁ にいる NP₂] においては現れなかった、「所有」に相当する例も 16.7% (16 例) 見受けられる。

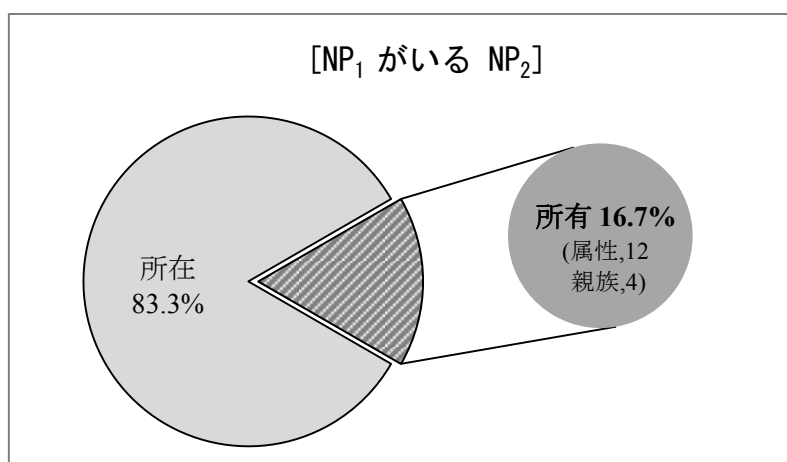


図 16 : [NP₁ がいる NP₂]における「所有」 (96 例中 16 例)

まず、「所在」に当てはまるものを以下に挙げる。

(526) 工藤は、一人残って、今まで公子の【いた】空間を、じっと見ていたが、やがて、両手の拳を固く握りしめると、居間のドアの方へと歩き出した。[OB3X_00108]

(527) 三堀の真の友人になろうとして、ふじ子の【いる】札幌を離れ、この旭川までやって来た自分を信夫は思った。[塩狩峠]

(528) 川村朝子の【いる】居酒屋に通っただけのことだ。[砂の上の植物群]

上掲の例の NP_{1-NOM} は定の人物を指示している。

一方、「所有」の例における NP_{1-NOM} は、非指示的である点に注意すべきである。以下の例における NP_{1-NOM} 「未婚の娘、医師、子供、夫」は、固有名詞に言い替えられないということがそれを示唆する。

[NP₁ がいる NP₂] における NP_{1-NOM}(Pe) は、NP₂(Pr)との相対的な意味関係によって、〈親族〉と〈属性〉のいずれかに相当する。それぞれの例を以下に示す。

<親族>

(529) やくざの女房でも、貞操観念はある。まして子供も【いる】女だ。[OB3X_00254]

(530) 妻子ある夫と夫の【いる】人妻が、… [OB3X_00022]

<属性>

(531) 未婚の娘の【いる】家には、男はみな心そそられるものだが、この六條院もあなたのおかげで… [新源氏物語]

(532) 交通の便も悪いうえに、医師の【いない】島もあれば、電気がないところもある。
[OB5X_00069]

本項の冒頭で述べたように、「いる」構文は、名詞の「トコロ性」に加え「有情性」の制限もあるから、いずれの構造においても「所有」を表し難いということが予測されるが、今回の結果はそれを裏付けるものとなった。用例分析の結果、[NP₁にいる NP₂]においては、[Pr V Pe]の解釈が可能な例は見受けられない。

一方、[NP₁がいる NP₂]においては、ほとんどの例は「所在」に属すものの、[Pe V Pr]の解釈が可能なものとして、〈親族〉や〈属性〉に相当する例(17%)も見受けられる。

このように、「いる」による連体修飾における「所有」は [Pe V Pr] 型に限られる。

5.1.3. 있다

ここでは、「있다」による連体修飾について考察する。考察に当たって、構造別用例数を以下の表に示す。

表 33. 「있다」の連体修飾

連体修飾	用例数
① [NP _{1-LOC} 있는 NP ₂]	263 例
② [NP _{1-NOM} 있는 NP ₂]	226 例
計	489 例

[NP₁에 있는 NP₂] 構造で現れた 263 例を検討すると、「所在」219 例、「その他」32 例のほか、「所有」と捉えられるものは 12 例しか見受けられない。それぞれの割合を以下の図に示す。

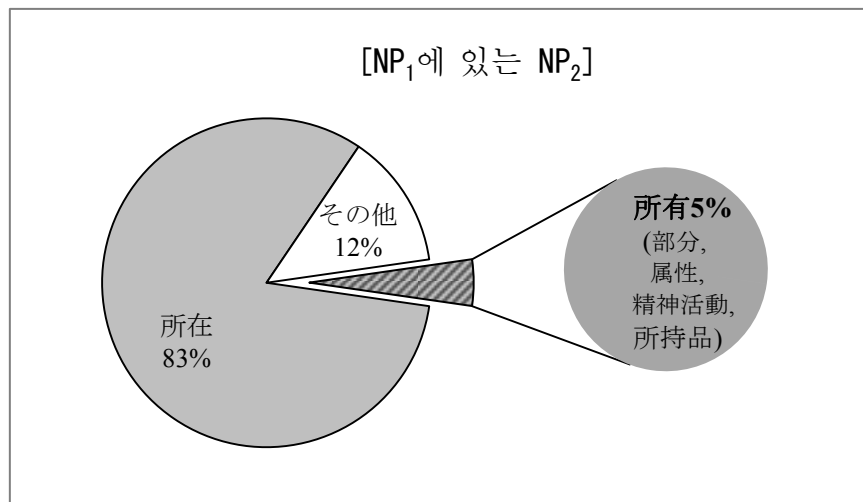


図 17 : [NP₁에 있는 NP₂]における「所有」(263 例中 12 例)

まず, 「所在」に当てはまる代表的な例を以下に示す。物理的・空間的な場所 NP_{1-loc} を NP₂ が占めているということを表す。

(533) 그는 부천에 【있는】 친구집에 다녀오는 길이였다고 제게 말했습니다. [D96AA114]
(彼は부천にある友達の家に行ってくるころだったと私に言いました。)

(534) 나는 일어서서 멘틀피스 위에 【있는】 초꽃이를 가져와서 테이블 위에 놓았다.
(私は立ち上がって멘틀피스の上にあるろうそく立てを持ってきてテーブルの上に置いた。) [CE000023]

(535) 화장실에 【있는】 놈 누구야? [CE000029]
(トイレにいるやつ(は)誰だ?)

上掲の例の間でも場面性や恒常性による違いがある。(534) (535) は, もっぱら場面的レベルの「所在」であるといえよう。一方, 次の (536) は, NP_{1-loc} を, 空間的な場所のほか, 組織として捉えると, 所属の意味を表す。

(536) 중앙부서에 【있는】 친구도 올 테고. [CE000023]
(中央部署にいる友達も来るだろうし)

意味的な側面だけを考えると, (536) の「NP_{1-loc}」と「NP₂」を, 「所在」のほか, 所属を表す [Pe V Pr]型の「所有」に含むことも考えうる。

ところが, 5.1.2.2 でも述べたが, いわゆる所属関係は, 「所有」よりも次に挙げる「処格措定存在文(2.5.2.3 参照)」に類似したところがある。いずれにせよ, 曖昧なところがあるため, ここ

では(536)のような例は「所在」(周辺のなもの)として扱う。

図17の「その他」には、主に「処格措定存在文」に当てはまるものが多いが、「絶対存在文(2.5.2.9)」の連体修飾も見受けられる。それぞれに該当する例を以下に挙げる。

(537) 피고의 처지에 【있는】 작가로서 검사 두 사람의 논의와 관련하여 변명하고…
(被告の立場にある作家として, 検事二人の議論に対して弁明し, …) [BEXX0026]

(538) 이 세상에 【있는】 모든 병신들도 다 병신이 된 까닭이 있는 거란 말예요.
(この世にいるすべての傷物にもそれぞれ傷物になった事情があるのです。) [DENA010]

続いて、「所有」の例について見ていく。

[NP₁에 있는 NP₂] に当てはまる 263 例のうち、「所有」の解釈が可能な例は、わずか 12 例(5%)に過ぎない。これらの NP_{1-loc} と NP₂ の間には、それぞれ「全体 - 部分」「主体 - 属性」「経験者 - 精神活動」「行為者 - 所持品」「経験者/行為者 - 活動」のように、一定の相対的な意味関係が成り立っており、[Pr V Pe]型の所有表現と見なしうる。該当の例を所有物のカテゴリー別に示す。

<部分>

以下の(539)のNP₂「흰 반점(白いほくろ)」は「非普通所有物」の〈部分〉として捉えることができ、(540)のNP₂は「普通所有物」の〈部分〉として捉えうる。現れた 4 例とも NP_{1-loc} に身体名詞がきている。

(539) 이 고양이와 전에 내가 죽인 플루토 사이의 유일한 다른 점인 가슴에 【있는】 흰 반점에 대해서… (この猫と以前私が殺したプルートーの間の, 唯一の違いである胸にある白い斑点について…) [D97_B046]

(540) 손바닥에 【있는】 인간의 중요한 경혈을 눌러주니까 말이야 [CE000026]
(手のひらにある人間の重要なつぼを押してくれるからね)

<属性>

NP_{1-loc} は不定の人を表しており、NP₂ は NP₁ の普遍的性質・性格に相当する、以下の例は〈属性〉として捉えられる。〈属性〉の例は次の 2 例のみである。なお(541)のように、不定指示代名詞を用いた「누구에게나」は「所有」とりわけ〈属性〉類の表現によく使われる。

(541) 정신과 전문의인 친구는 누구에게나 【있는】 보상적 심리의 표출에 다름아니라는 것으로 못박아버렸다. [CE000023] (精神科専門医の友達は誰にでもある補償心理の表出に違いないと釘を刺した。)

- (542) 늙은이들에게 【있는】 무던하게 넘어가기는 그래서 좋은 방법이 아니겠습니까.
 (お年寄りの(物事を)無難におさめるやり方は、だからいい方法ではありませんか。)
 [CE000023]

<精神活動>

現れた 4 例とも「내 마음 속 (私の心の中), 내 속 (私の中), 자기 속 (自分の中), 자기 내부 (自分の内部)」のように, 「속 (中)」「내부 (内部)」という位置名詞を伴って現れている。

- (543) 자기 내부에 【있는】 어떤 미신적인 두려움을 부적에다가 투사시키기 때문일 것이다
 (自己の内部にある迷信的な恐怖をお守りに投射するためであろう。) [BEXX0026]

- (544) 흐르는 게 세월이지만, 내 속에 【있는】 나의 꿈이 온전해지지 않는한, …
 (流れていくのが歳月とはいえ, 私の中にある私の夢が叶わない限り, …) [DENA026]

次に示す〈所持品〉と〈活動〉はそれぞれ 1 例ずつ現れている。

<所持品>

次の例では, NP_{1-LOC} に「(X の)手」がきており, NP₂ にはもの名詞がきて「所持している状態」を表す。

- (545) 상대방의 손에 【있는】 카드의 순서 등을 생각하고… [D97_B046]
 (相手の手にあるカードの順序などを考えて…)

<活動>

前述の〈属性〉のところで取り上げた不定指示代名詞を含む「누구에게나」が NP_{1-LOC} にきている。

- (546) 누구에게나 【있는】 예사로운 일이고, … [CE000023]
 (誰にでもあるありふれたことであり, …)

以上のように, 韓国語においても「トコロ性」の弱い名詞は, [NP₁에 있는 NP₂] の NP_{1-LOC} として現れにくい。

一方, [NP₁가 있는 NP₂] の形式で現れた例を検討すると, およそ 68% (153 例) が「所有」として捉えうる。[NP₁가 있는 NP₂] について, 命題による分類の結果と, 「所有」における所有物の分布を以下の図に示す。

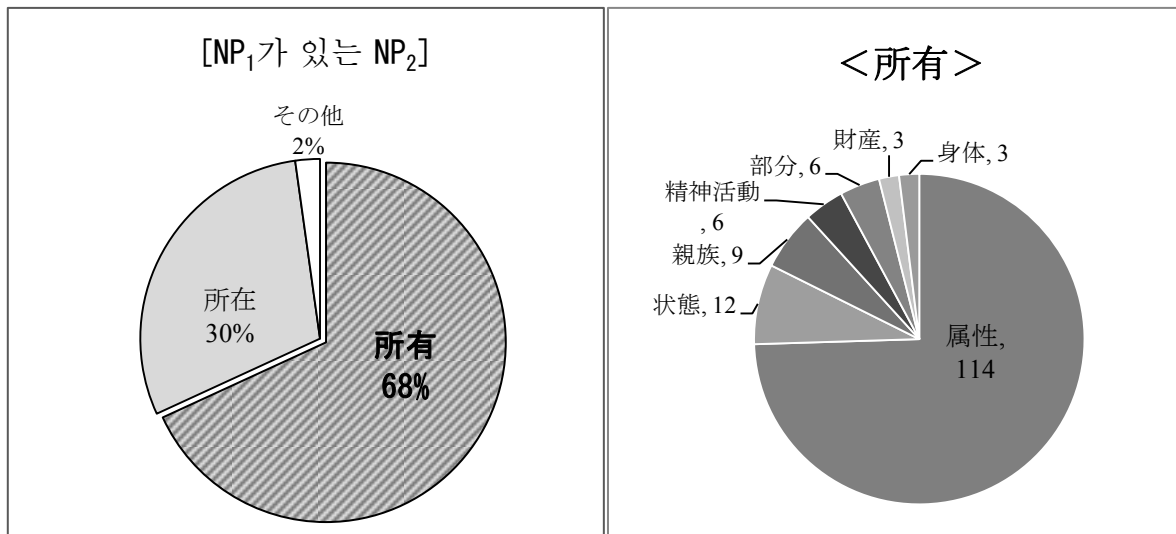


図 18 : [NP₁가 있는 NP₂]의分類(226 例)

図 19 : [Pe 있다 Pr]의所有物(153 例)

まず, 「所在」の例は, 226 例中 68 例(30%)現れている。次に代表的な例を示す。

- (547) 공단을 거쳐 그녀의 아파트가 【있는】 신시가지로 가는 버스였다. [CE000029]
(公団を通過して彼女のアパートがある新市街地に行くバスだった。)

- (548) 그녀가 남편이 【있는】 브라질로 떠나지 않고 서울에 계속 머문다고 해서…
(彼女が, 夫がいるブラジルに行かないでソウルに続けて泊まるといったので…)
[CE000030]

- (549) 보수성과 권위적 색채는 정우가 【있는】 학교도 예외가 아니었기 때문이다.
(保守性と權威的な色彩はジョンウがいる学校も例外ではなかったためである。)
[CE000079]

一方, [NP₁가 있는 NP₂] の形でもって, 存在文の「その他」の文型に当てはまるものは 5 例見出される。すべて「生起存在文」に当てはまる。

- (550) 항만 보수 확장 공사가 【있는】 흑산도에 취직이 되어 가는 중이었다. [BEXX0024]
(港湾補修の拡張工事がある黒山島に就職が決まって向かっているところだった。)

- (551) 동료교사 결혼식이 【있는】 날이긴 하지만 그것도 염려할 건 아니었다. [BEXX0007]
(同僚の教師の結婚式がある日ではあるが, それも心配することではなかった。)

以下では, 「所有」の例について見ていく。

[NP₁가 있는 NP₂] 全 226 例中 153 例は「所有」として捉えられる。所有物のカテゴリーは〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈親族〉〈財産〉〈精神活動〉〈状態〉に分類される。

以下に、それぞれの例を示す。

<部分>

(552) 집은 망사드르(다락방)가 【있는】 4 층 건물이었다. [D97_B046]

(家はマンサード (屋根裏部屋) がある 4 階の建物だった。)

(553) 한쪽 날만 【있는】 막장용 작은 손곡괱이로 전면을 툭툭 건들려 보며 중얼거렸다.

(片方の刃だけある採鉱用の小さいつるはしで前面をぽんぽんと叩きながらつぶやいた。)

[CE000029]

<身体>

(554) 아랫부리에는 수축할 수 있는 큰 주머니가 【있는】 대형의 물새이다. [BEXX0024]

(下くちばしに収縮することのできる大きな袋がある大形の水鳥である。)

(555) 아직도 상투가 【있는】 구식 노인인 선비였다. [BEXX0006]

(いまだに髻がある古風のお年寄りの士だった。)

<属性>

NP_{1-NOM} には, 「자격 (資格), 감각 (感覺), 재주 (才能), 버릇 (癖), 끈기 (根氣)」의 ような性質・性格を表す名詞類がきている例が最も目立つ。

(557)をはじめ, 「이름 있는 (名前ある)」「권위 있는 (權威ある)」「용기 있는 (勇氣ある)」「교양 있는 (教養ある)」의 ような, 主格表示を介さず直接述語に繋がっている「連語構成」の例も, 47% (114 例中 54 例) という大きい割合を占めている。

さらに, (559) を含め, 「유별난 데 (変わったところ), 신사다운 구석 (紳士らしいところ), 제멋대로 하는 점 (身勝手なところ)」などのような, 「統語的構成」の NP₁ を伴っている例(114 例中 8 例)も見出される。

(556) 최근 광고 카피 중에서 표정이 【있는】 여자가 아름답다는 말이 있잖아.

(最近広告のコピーで表情がある女が美しいという話があるじゃない。)[BEXX0001]

(557) 교양 【있는】 사람들만 사는 장소랍니다. [CE000023]

(教養のある人達ばかり住んでいる場所だそうです。)

(558) 돈 【있는】 사람들의 마음이 어찌 그리도 웅색하고 야멸찬지. [CE000079]

(お金のある人達の心が, どうしてそんなにゆとりもなく無情なのか。)

(559) 크지도 작지도 않은 키에 압광진 데가 【있는】 몸이었다. [BEXX0009]

(大きくも小さくもない身長にがっしりしたところのある体だった。)

主格表示を介さず直接述語に繋がっている例は、「所有」153 例中 69 例(45%) であり、〈属性〉類に限らず、以下で取り上げる〈状態〉〈親族〉〈精神活動〉〈財産〉類にも少なからず見出される。

<親族>

(560) 남편과 자식이 【있는】 여자와의 만남은 더 이상 불가능하다는 통속적인 결론에서였냐면 아니다. (夫と息子がある女との付き合いはこれ以上不可能だという通俗的な結論からだったのかというと、そうではない。) [D96AA114]

(561) 나는 처자식이 【있는】 몸이오. [BEXX0020]
(私は妻子(の)ある身です。)

<財産>

(562) 운동하는 사람치고 변변히 전세방 한 칸 【있는】 사람이 어딴습니까? [CE000029]
(運動する者でろくに~~レンタル部屋一間(でも)~~ある人はいないでしょう。)

(563) 낫이 【있는】 사람은 낫을 차고 식칼밖에 없는 사람은 식칼을 들고 [BEXX0006]
(鎌がある人は鎌をさげて, 包丁しかない人は包丁を持って)

<精神活動>

(564) 여기에 대해 불만 【있는】 사람 나와봐. [CE000026]
(これについて~~不満のある人~~は出て来なさい。)

(565) 속에 누렁뱀 같은 똥 생각이 【있는】 사람들이라 그러는지 [CE000023]
(心の中にヘビのような腹黒い考えがある人達だからかもしれないが)

<状態>

(566) 해당 부위에 이상 【있는】 사람 손 들어봐. [DENA026]
(該当部位に異常のある人は手あげて。)

(567) 지금 그 사람들이 시 읽을 경황이나 【있는】 사람들인가. [CE000030]
(今彼らが詩を読む余裕なんかある人達なのか。)

以上で見てきた「있다」の連体修飾節における所有表現について, [Pr V Pe]型と[Pe V Pr]型に分け, 所有物の分布を比較した結果を次の図に示す。

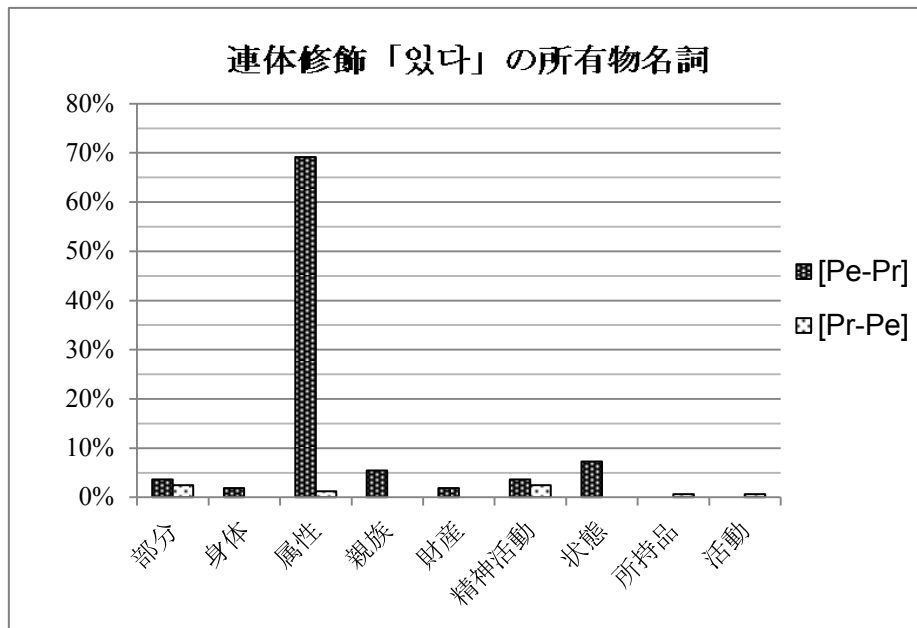


図 20：連体修飾「있다」489 例中〈所有(165 例)〉における所有物

まず，[NP₁에 있는 NP₂]においては，「所有」の [Pr V Pe] 型として捉えうる場合はわずか 5% (263 例中 12 例) に過ぎない。所有者名詞は「トコロ性」の制約を受けるため，〈全体-部分〉〈身体(生起場所)-精神活動〉に限られる。

一方，[NP₁가 있는 NP₂]においては，「所有」の [Pe V Pr] 型として捉えうるものが 68% (226 例中 153 例) を示しており，所有物名詞には〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈親族〉〈財産〉〈精神活動〉〈状態〉という幅広い範囲のものが現れている。[Pe V Pr] 型におけるもう一つの特徴は，〈属性〉の例のうち，NP₁ が述語と「連語構成」を成しているものが過半数を占めており，形容詞的なふるまいを見せるということである。

5.1.4. 結果

連体修飾機能を果たす「ある/いる」と「있다」を対象に，被修飾名詞が所有物に相当する場合の [Pr V Pe] 型と，被修飾名詞が所有者に相当する場合の [Pe V Pr] 型との違いに注目して考察を行った結果を以下に示す。

<連体修飾「ある」>

[NP₁にある NP₂] 構造では，NP_{1-loc} の名詞の「トコロ性」により，[NP₁にある NP₂] 構造でもって [Pr V Pe] 型の「所有」を表す場合(6%)もあるが，非常に限られる。所有物のカテゴリーでいうと，〈部分〉〈属性〉〈精神活動〉〈所持品〉の 4 種類が現れているものの，「トコロ性」の強い名詞が所有者の位置にくる〈部分〉〈精神活動〉のほかは制限されるという傾向が強い。

一方，[NP₁がある NP₂] 構造においては，「所有」の割合が極めて大きく(75%)，所有物の種類も，叙述用法の場合と大して変わらない。さらに，「見識ある，魅力ある」などのような，「連語

構成」と見なされるものが多く含まれていることや、「～ところがある NP₂」のような統語的構成も少なからず用いられるということが特徴的である。

<連体修飾「いる」>

「トコロ性」に加え、「有情性」の制限もあり、[NP₁ いる NP₂] でもって「所有」を表すことは考えにくい。用例分析の結果、すべての例において「所有」の解釈が可能なものはなく、予想を裏付ける結果となった。

一方、[NP₁ がある NP₂] においては、ほとんどの例は「所在」に属すものの、「所有」の解釈が可能なものとして、〈属性〉〈親族〉に相当する例(17%)も見出される。

このように、連体修飾の「いる」による「所有」は、[Pe V Pr]型に限られる。

<連体修飾「있다」>

[NP₁ 에 있는 NP₂] においては、「所有(Pr V Pe)」に当てはまるものが 5% の割合で現れている。

所有物としては〈部分〉〈属性〉〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉が現れているものの、〈(全体-)部分〉〈(生起場所-)精神活動〉に当てはまるものが目立つ。表しうる所有関係が非常に限られるという点が日本語の [NP₁ がある NP₂] の場合に極めて似ている。

一方、[NP₁ 가 있는 NP₂] においては、「所有(Pe V Pr)」として捉えられるものがおよそ 68% を示しており、両構造の実現様相の違いが明らかである。

所有物の種類は、「叙述用法」の場合と同様、幅広い種類のものが現れる。〈属性〉のおよそ 47% は、NP₁ が主格助詞を伴わず述語と「連語構成」を成すものであることが注目される。

さらに、NP₁ が統語的構成を成しているものも散見される。

<日本語と韓国語の対照>

日本語と韓国語の場合を比較してみると、日本語では、対象名詞の「有情性」によって「ある」と「いる」を区別するということを除き、全般的な傾向は大きく変わらない。日本語に限らず、韓国語においても、連体節の [NP₁ 에 있는 NP₂] においては、「トコロ性」の強いものでないと NP_{1-LOC} として現れにくい。

続いて、[NP₁ がある NP₂] と [NP₁ 가 있는 NP₂] については、修飾部に「連語構成」のものが多く現れており、さらに形容詞的な表現になっているものが多いということや、統語的構成を成す NP₁ の出現が珍しくない、ということも共通している。これは、存在動詞の所有表現に見られる特徴であり、注目に値する。より厳密には、日本語の [NP₁ がある NP₂] に比べ、韓国語の [NP₁ 가 있는 NP₂] において、「連語構成」をはじめ、主格助詞を介さず現れる傾向がとりわけ強い。

本節での考察に基づき、日本語と韓国語のいずれにおいても、存在動詞による「所有表現」はほとんど [Pe V Pr]型で実現されるといえる。

5.3. 「もつ」と「가지다/갖다」

角田太作(1991[2009: 159-160]) を再び取り上げると、文の述語として実現される「もつ」に関して、修飾要素の有無にかかわらず、通常、「身体部分」や、「普通所有物」の「属性」には使えないということが指摘されている。ところが、連体修飾節の場合は、主名詞が、所有者に相当する場合と、所有物に相当する場合があります、実現型による違いを含め、所有物の分布についても、叙述用法とは別に考察する必要がある。

本章の各項目では、連体修飾の機能を果たす「もつ」(5.3.2) と「가지다/갖다」(5.3.3) について、所有者が被修飾名詞である [Pe V Pr]型と、所有物が被修飾名詞である [Pr V Pe]型に分類した上、所有物の分類および、恒常性・一時性に影響される連体形の実現様相について考察する。

その後 5.3.4 では、考察の結果に基づき、「もつ」と「가지다/갖다」の対照的な側面を示す。

5.3.1. 用例抽出について

日本語の「もつ」に関しては、それぞれ異なる資料を用いて 2 回行った調査結果に基づく。1 回目の調査では、『新潮文庫の 100 冊』の 67 作品を資料として、日本語の「テキストデータ処理ソフトウェア（佐野 2003）」を利用して検索を行った。検索式「(持つ|持った|持っている|持っていた).*」で得られた 1,596 例のうち連体形で現れた例を考察の対象とした。

2 回目の調査では、BCCWJ の文学ジャンルにおける「もつ」1,959 例の中、連体形を手作業で取り出した。なお、モダリティ形式「～ものだ、～ことだ」のような用法や、いわゆる「外の関係」をはじめ、修飾名詞と被修飾名詞が所有者と所有物の関係を成さないもの、慣用的表現「肩を持つ」、「寄せかける、負担させる」という意味を表す「もたせる」、「保ち続ける」という意味を表すものは考察範囲から外す。このようにして得られた「もつ」を含む構文 606 例を考察対象とする。

韓国語に関しては KNC の文学作品の資料を利用する。韓国語においても、日本語の場合と同様、形式名詞が後続しているもの、「-ㄴ 것이다, -ㄴ 것이다」などのモダリティ形式と結合したもの、「가진 자, 가진 사람（お金持ち）」のような化石化しているものは対象外とする。本章では「가지다/갖다」約 4,843 例の中に現れた連体形 500 例⁶² を対象に考察を行う。

5.3.2. 「もつ」の連体修飾

連体修飾節をなしている「もつ」を対象に、所有者が被修飾名詞である [Pe V Pr] 型と、所有物が被修飾名詞である [Pr V Pe] 型(寺村秀夫(1984)での「意味的主格関係」と「意味的对格関係」)に分け、それぞれの構造における所有物の分布について見ていく。

以下、「もつ」の活用形の表記については、「もつ」「もった」「もっている/もっていた」は、それぞれ「ル形」「タ形」「テイル形」と記す。考察に当たって、用例分析の結果に基づき、所有物の分類および、構造別割合を以下の表に示す。

62 KNC 旧版の小説作品から「가지다」「갖다」を形態素分析で検索すると、「가지다」が 1,532 例、「갖다」が 728 例検索される。その中から、叙述用法の例や文法化の例、対象外の例を外していくと、対象の連体形の例は両形態を合わせても 400 例未満である。そこで、KNC 新版の中から、重ならない小説作品(1,855 例)を足して、500 例になるまで手作業で「가지다/갖다」の連体形を抽出した。

表 34. 連体修飾「もつ」の所有物(606 例)

所有物	[Pe V Pr]		[Pr V Pe]	
	用例数	割合	用例数	割合
身体	16	3.7%	0	0%
部分	10	2.3%	0	0%
属性	223	51.0%	76	45.0%
親族	18	4.1%	1	0.6%
作品	1	0.2%	0	0%
財産	31	7.1%	19	11.2%
精神活動	45	10.3%	11	6.5%
所持品	88	20.1%	62	36.7%
活動	5	1.1%	0	0%
計	437 例	100%	169 例	100%

「もつ」で表しうる所有表現は、所有物の分類の観点からすると、少なくとも上掲の 9 種類に分類される。〈身体〉〈部分〉〈親族〉〈活動〉に関しては、[Pe V Pr]型に比べると、[Pr V Pe]型による表現が制限される、ということが上の表から見て取れる。

5.3.2.1. もつ-[Pe V Pr]型

[Pe V Pr] における「もつ」の所有物には上掲のすべての種類が現れている。それぞれの所有関係は連続体をなすと考えられるが、構文における時間的限定の可否や、所有物名詞の指示性を考慮すると、概ね、恒常的所有＞中立的所有＞一時的所有、のように分けられる。

用例を検討すると、次の図において、左側にいくほど静的な事柄を表し、右側にいくほど時間性・動作性に関わるという傾向が見られる。

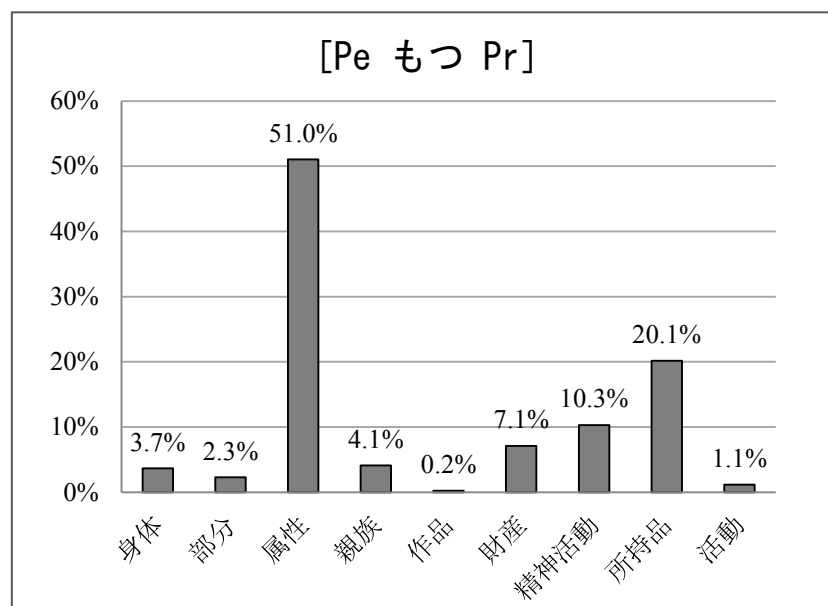


図 21：連体修飾「もつ」 - [Pe V Pr]型の所有物(606 例中 437 例)

以下では、図 21 の左側の、「恒常的所有」の典型である〈身体〉〈部分〉から、「一時的所有」を表す〈所持品〉〈活動〉にわたって、それぞれの代表的な例とともに見ていく。

<身体>

[Pe V Pr] 構造の 437 例中 16 例は、ヒトや動物を含む有情物の所有者とともに、その〈身体〉に相当する名詞句が所有物として現れている。以下に例を示す。

(568) 白鳥ぐらいの大きさの、すばらしい真紅と金色の羽を【持った】雄の不死鳥で、長い尾をシュッと振り、ハリーを見てやさしく目をパチクリした。 [OB6X_00179]

(569) 厚い防寒具を着、スキー帽で顔を掩っていた二人の横合いから、大きな角を【持った】牡鹿がのそりと出て来たのだった。 [OB2X_00066]

(570) さらにまた男としてあなたを、美しい肉体を【持つ】若い女性であり、自分の独占欲の対象でもあると考えているようです。 [エディプスの恋人]

(571) かわりにそこにいたのは、たるみ切った皮膚を【持った】ひとりの中年男だった。 [一瞬の夏]

上掲の例では、「普通所有物」が修飾語句を伴い、「もつ」の所有物として実現されている。例えば「鳥」「鹿」の場合、それぞれの所有物に相当する「羽」「角」は「普通所有物」であり、同様に「人」の場合の「肉体、皮膚」も、もっていることが当たり前の「普通所有物」である。

さらに「象牙のような指、しょぼしょぼとした目、柔軟な軀」などの例が見受けられる。

厳密にいうと、「普通所有物」は、修飾語句を伴う時点でもはや「普通所有物」でなくなるといえる。「肉体、目」等は、誰にでもあるとしても、「美しい肉体、しょぼしょぼとした目」は誰にでもあるとは言えない。

「普通所有物」が修飾語句なしに単独で現れたものや、「髭」のような「非普通所有物」が現れた例は、叙述用法(3.3 参照)に限らず、連体修飾の場合においても見受けられない。

角田太作(1991[2009: 159-160])によると、「身体部分」には、たとえ修飾を受けていても、通常、「もつ」を使えないという。ところが、上で示したように、叙述用法に続き、連体修飾の [Pe V Pr]型においても、修飾語句を伴っている〈身体〉の例は確認される。

<部分>

[Pe V Pr] 構造の 437 例中 10 例は、無情物の所有者とともに、その〈部分〉に当てはまる名詞句が所有物として実現されている。次のような例が挙げられる。

(572) 緑の濃い公園に連なる広い庭を【持つ】病院の、そのひと気の無い入口へとゆっくり歩いていったものだった。 [OB1X_00164]

(573) 斜め格子の硝子窓を持ち、ひろい温室の硝子屋根を【持っている】邸は、いかにも壊れやすい印象を与えるが、… [山月記]

<属性>

[Pe V Pr] 構造 437 例中 223 例は、恒常的、抽象的な事柄を表す〈属性〉に当てはまる。

〈属性〉には、大まかにいうと、①「才覚、性質、優しい感受性、体質、体格」などのような性質・性格や外見的特徴、②「権力、資金力、資格、技術、宗教、知識」などのような後天的に得られるもの、③「経歴、経験」をはじめ、後天的かつ過去の活動に関するものなどが当てはまる。

①に当てはまる (574) ~ (577) は〈身体〉〈部分〉の所有に最も近い。それぞれの例を以下に示す。

(574) 細いながらも、バネのように強靱な体質を【もった】この女は、いったい、いまなにを考えているのであろうか。 [OB0X_00001]

(575) 若い、角先生でさえ時にどきりとさせられるほどの美貌を【持った】菊凶が教壇に上っている。 [OB3X_00217]

(576) 現在のタンカーの二倍の容量を【持つ】巨大タンカーを造るんです。 [OB4X_00169]

(577) ふたりがいまいる店は、往復二車線ぎりぎりの道幅を【持った】道路に面している。 [OB2X_00245]

(578) 世界で最も権力を【持つ】大富豪女性ケイト・ブラックウェルについて、みんなが知っていたがった。 [OB4X_00135]

(579) 武器もなく、闘うにもなんの技術も【持たない】自分であった。 [OB1X_00203]

(580) 日本式の庭園に関してなんの知識も【持っていない】恵子や根本にも、手間のかかった凝った庭だということは、よくわかった。 [OB2X_00051]

(581) ルーマニアの外交官だった過去を【持つ】、比較宗教史のミルチア・エリアーデが、日記において、それも永い時期にわたって、何度も何度も憂えています。 [OB4X_00048]

(582) 彼ほど輝かしい経歴を持った刑事弁護士はいない。 [OB4X_00018]

このように、〈属性〉は一般に所有者の恒常的な特徴として捉えられる。とはいえ、現れる文脈によっては、内在性・恒常性に違いが生じる場合もあり、前述の〈身体〉や〈部分〉に比べると中立的な側面をもつ。

<作品>

角田太作(1991)で取り上げている「作品」には次の例が当てはまる。なお〈作品〉の例は1例のみ現れている。

- (583) 極端に言うと、十編の論文を【持っている】者は五編しか持っていない人の二倍の仕事をした、または二倍の研究能力があると見なすのである。〔若き数学者のアメリカ〕

<親族>

[Pe V Pr] 構造の437例中18例においては、所有物と所有者がいずれもヒト名詞であり、親族関係を表す。所有物名詞には「子、一人息子、病んでいる娘」をはじめ、子女を指すものが比較的目立つ。

一方、子供以外の親族関係に当てはまるものとしては、「第一級の親を持つ者、多忙を極めている夫を持つ妻」のような例が見出される。(585)の1例を除き、所有物がすべて修飾語句を伴っている、ということが注目される。

現れた例を見る限りでは、所有物の有無そのものによって、所有者を特徴づけるというより、所有物の存在は前提されており、「PrのPeはどのようなようだ」または「PrはPeがどのようなようだ」、のように捉えられる場合が多い。それを裏付ける現象として、被修飾名詞の所有者にも「親、妻、母親」のような親族名詞がきており、そもそも子供や夫などの相対的關係にある人物の存在を示唆するケースが過半数を超えている、ということが挙げられる。

- (584) ドイツ人の夫を【もつ】、日本女性で、このホテルの支配人を立派に勤めている。

[OB2X_00322]

- (585) 抄子に一人の女としてより、子を【持つ】母親としての面が表に出すぎては少し問題である。

[OB3X_00260]

- (586) いや障害のある子供を【もつ】親の苦悩を感じとったような気がする。[OB2X_00071]

- (587) 故郷に入れられなかった両親を【持つ】私は、したがって旅が古里であった。〔放浪記〕

〈親族〉においても、所有物名詞が目上の者を指す場合と、目下の者を指す場合とで、恒常性の程度に違いがある。このような側面においては、前述の〈属性〉と通じるところがある。「もちたい」「もてる」のような、「願望」や「可能」を表す表現の可否などにも関連するので、単に意味論だけにに基づく区別ではない、ということに注意されたい。

<財産>

[Pe V Pr] 構造の437例中31例は、「車、家、会社」などの不動産や、ものの所有を表わす。ほとんどの例は、前者の不動産類であり、通常、恒常的な特徴として捉えられる。

不動産類の所有を表す場合は、次の例のように、「～に〈財産〉をもつ」の形で、特定の所在

地に関する情報を伴っている例が散見される。

(588) 東京中にたくさんのマンションを【持っている】人で、不動産業界でも、誠実で評判の人よ。 [OB3X_00089]

(589) ふたり目の犠牲者は、品川に事務所を【持つ】宇田川組の高野というチンピラだった。 [OB2X_00083]

さらに、ヒトに代わって身体名詞の「身」が所有者に相当する次の(590)のような例も見出される。

(590) こうしたことの積み重ねで、和田さんは二十六店のスーパーを【持つ】身になり、四つの老人ホームをつくり、オリンピック委員として活躍するなど… [OB2X_00096]

(591) 午後からの公休日を所在なく消していると、自分で車を【持った】運転手の松さんが、自動車に乗せてやろうと云ってくれる。 [放浪記]

(592) 妻は長崎の生まれで、小学生のときに原子爆弾を受けており、原爆手帳を【持っている】身である。 [OB2X_00194]

以下の例では所有物の獲得の時点が特定の時間名詞句によって明示されている。

(593) 二十一歳でクリスチャン・ディオールの主任デザイナーとなり、千九百六十六年には自らのメゾンを【持った】、イヴ・サン・ローランのブランド。 [OB2X_00121]

<精神活動>

人の感情・思考を表す〈精神活動〉(437 例中 45 例) は、所有者の「一般的傾向」として捉えられる場合もあれば、一定の時間・期間に限られる「変化・活動」として捉えられる場合もある。感情の対象に当てはまる「に」格名詞句を伴っている例が目立つ。

(594) きっと会社に恨みを【持つ】人間、と社員が警察に訊かれたら、真っ先に名が出ますよ [女社長に乾杯]

(595) 限定された分野に強い興味を【持った】人々が限定された場所に集って、お互い同士でしかわからない情報を交換しているのだ。 [OB3X_00226]

(596) 最近の整備方式について不安を【持っている】者が四十パーセントあり、これが安全性の阻害要因になっていると指摘しております。 [OB5X_00112]

一方、(597)をはじめ、具体的な時点を明示するなど、一時性が際立つものも珍しくない。

- (597) 朝から漠然とそんな考えを【持っていた】加藤は、山の会が終ると、まったく、勝手気儘な方向に歩き出したのである。〔孤高の人〕

- (598) この連続殺人事件に興味を【持った】テレビ局が、一斉に、上野駅にカメラを持ち込んで来た。〔OB2X_00227〕

<所持品>

[Pe V Pr] 構造の 437 例中 88 例は、「荷物、グラス、フォーク」などのような、モノ名詞が所有物に相当し、「所持」の動作、状態を表す。

連体形に注目すると、「タ形」がおおよそ 60% に達する。ところが、「テイル形」、さらには「ル形」と意味的対立を成さないものがほとんどである。

- (599) 戦闘服を着て、マイクを【持った】若い魅力的な女性レポーターがしゃべっていた。〔OB5X_00062〕

- (600) 陸上でも奈良から京都を経由し、美濃の明智に至るあいだに十八の関所があり、荷物二荷を【もつ】二人の旅人が、合計一貫四百九十六文の大枚の関銭を支払われたという記録が残っている。〔OB3X_00272〕

- (601) 私は受話器を【持っている】妻にうなずいた。〔OB2X_00194〕

さらに、所有者名詞として身体名詞「手、指」が現れている例も 88 例中 19 例見受けられる。

- (602) 凜子がスプーンを【持った】手を止めてきく。〔OB5X_00169〕

- (603) 携帯を【持っている】手も細かく震えていた。〔OB6X_00247〕

- (604) 化粧っ気のない顔や、グラスを【持つ】指は透きとおるように白い。〔OB3X_00115〕

<活動>

〈活動〉に当てはまる例は、すべて肉体関係を表している。「もつ」の叙述用法で見受けられた、「親睦会、会合、～の時間」のような催し物を表すケースは見受けられない。

- (605) 自分とそういう関係を【持った】男ならば、少なくとも四日間は、夜家において、電話の前にいるはずだと信じていた。〔OB5X_00067〕

(606) しかし悲しいかな日本の場合、四十代のサラリーマンはもっとも忙しくてストレスも多く、豊かな性的生活を【もてない】人も少なくないようです。 [OB5X_00033]

以上で見てきた [Pe V Pr]型における連体形の活用形について、所有物の種類別に集計を行った結果を以下に示す。

なお、以下の図の〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉に見られる「その他」は、可能「もてる」、願望「もちたがる」の形で現れた例である。

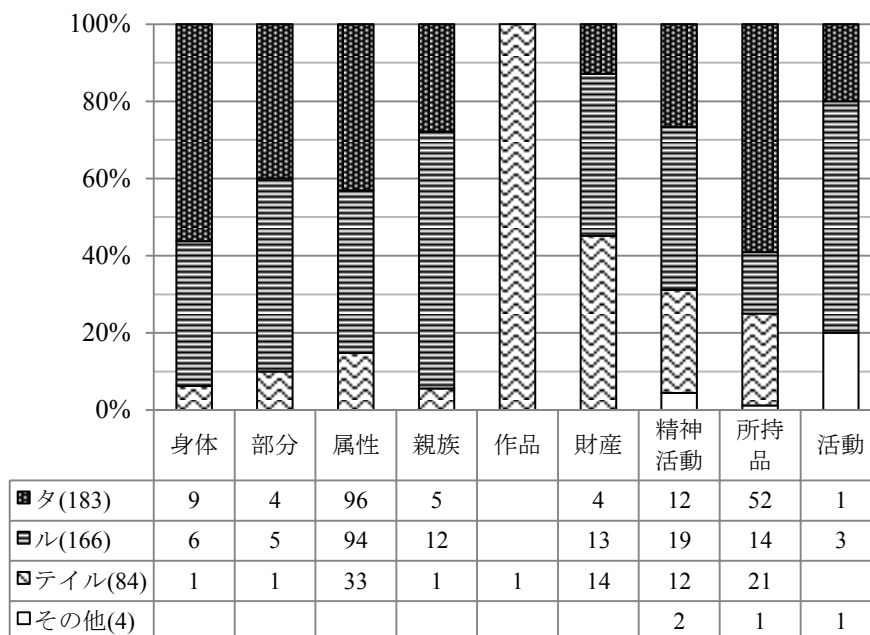


図 22 : 「もつ」の連体形 - [Pe V Pr](437 例)

〈身体〉〈部分〉〈属性〉〈親族〉のような、通常、恒常的所有を表すものにおいては、テンス・アスペクト形式の意味的対立がないにもかかわらず、「タ形」「ル形」に比べ、「テイル」形の出現頻度が明らかに少ないということが、図 22 から見て取れる。

一方、〈財産〉〈精神活動〉の例においては、時間性は捨象され、もっぱら所有者の一般的な特徴を表している例が多く、その場合は、恒常的な所有と同様、テンス・アスペクト形式が意味的に対立を成さない。それにもかかわらず前述のカテゴリーに比べ、「テイル」形の使用が比較的に目立つ。

続いて、〈所持品〉〈活動〉については、一定の時間に関わっている点で上述の種類と異なる。

まず、〈所持品〉における、「タ形」と「テイル形」は、いずれも、結果継続の状態を表す。さらに「ル形」の例も（常にそうとは限らないが）結果継続として捉えられる場合が多い。つまり、「タ形」「テイル形」「ル形」が意味的に対立しない場合がほとんどである。それにもかかわらず、「タ形」の使用頻度が際立つ。

このような現象は、瞬間動詞の連体形について、「「～テイル N」のほうが、その（主節が表している）時の N の状態を表すのに対し、「～タ N」は、（他のものと比較しての）N の外面的な特徴をいう感じが強い」という寺村秀夫(1984: 198) の指摘と関連している。

〈活動〉においてはテンス・アスペクトの対立が明確である。

5.3.2.2. もつ-[Pr V Pe]型

上述の [Pe V Pr]型(437 例) に比べると、被修飾名詞と「もつ」が対格関係にある [Pr V Pe]型の出現頻度(169 例) は明らかに少ない。出現頻度による影響もあるが、[Pr V Pe] となると、現れる所有物の種類が明らかに制限される。以下の図に、[Pr V Pe] における所有物の分布と割合を示す。

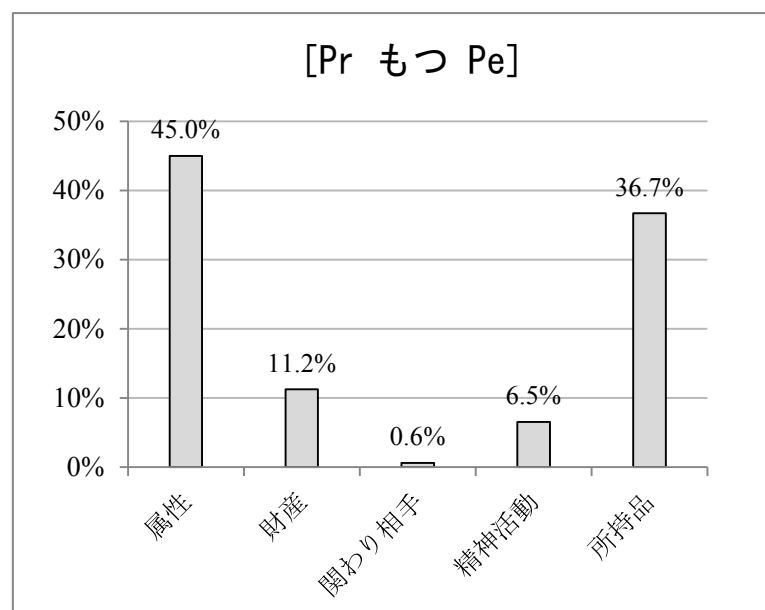


図 23：連体修飾「もつ」606 例中 - [Pr V Pe]の所有物(169 例)

上の図に示すように、[Pr V Pe] における所有物は〈属性〉〈財産〉〈関わり相手〉〈精神活動〉〈所持品〉に相当するものが観察される。

前項で取り上げた [Pe V Pr] の場合に比べると、〈身体〉〈部分〉のようなもっぱら恒常的・分離不可能所有は表現されにくいという傾向がある。一方、場面性、動作性に関わる〈所持品〉の出現率は、明らかに高い。それぞれの所有物のカテゴリーについて、上掲の図の左側の〈属性〉から順番に取り上げる。

<属性>

[Pr V Pe]型で現れた全 169 例中 76 例は、恒常的、抽象的な事柄を表す〈属性〉に当てはまる。

次の (607) (608) をはじめとして、所有者がヒト名詞であるものが 62% を占めており、(609) (610) のような、モノや抽象的事柄の無情物が所有者の位置にきているものが 38% を占めている。

(607) 彼女の【持っている】力の方向性に合ってさえいれば、彼女は他人に認められるだけの仕事をするだろう、と僕は思った。 [OB3X_00282]

(608) 彼の【持つ】知性からくる美德なのだろう、軍人よりも学者が似合う男だった。 [OB4X_00229]

(609) 夕闇のなかに屹立するビルの姿は、まさしく都会という故郷が【もつ】懐かしい情景である。 [OB3X_00115]

(610) それは日本全土の文化の【持っている】、天皇制という中心を指向する性格、絶対性、閉鎖性とは別のものです。 [OB4X_00085]

実現された連体形に注目すると、「タ形」で現れた例は見受けられず、「テイル形」と「ル形」の例が、それぞれ 51%, 49% を示している。

目立つ特徴としては、所有者が有情物である場合は「テイル形」が多く使われている(47 例中 31 例)のに対して、無情物の所有者の場合は、逆に「ル形」が多く使われる(29 例中 21 例)という傾向がある。

<財産>

[Pr V Pe] 全 169 例中 18 例は、ものや不動産の所有に当てはまる。前項で取り上げた [Pe V Pr] においては不動産類が極めて目立つのに対し、[Pr V Pe] においては、不動産類は (611) を含む 2 例のみである。残りの例はすべてモノの所有に当てはまる。

(611) 彼がどれぐらいスケールのでかい大金持であるか、たとえば、彼が世界各地に【持つ】住居だけをあげてみよう。 [ブンとフン]

(612) メアリーの部屋にやって来た彼女は、一時間ほど費やしてメアリーの【持っている】外出着や彼女の体型を調べ上げた。 [OB5X_00101]

連体形に注目すると、〈属性〉類の場合と同様、「タ形」は見受けられず、「テイル形」と「ル形」のみが現れている。出現頻度においては、「テイル形」が比較的目立つ。

<関わり相手>

親族関係以外の社会的人間関係を指す〈関わり相手〉に相当する例も 1 例見出される。次に該当の例を示す。

(613) それはKと云って、君が岩内の町に【持っている】唯一人の心の友だ。

[生まれいずる悩み]

<精神活動>

[Pr V Pe] 構造の 169 例中 11 例は以下のような〈精神活動〉に当てはまる。「～に対して」のような感情の対象が明示されているものが多い。連体形に注目すると、「一般論，習慣(ル形)」と「継続(テイル形)」の対立が明確である。「テイル形」の例が目立つ。

(614) 人生について我々が抱く感情は、我々が旅において【持つ】感情と相通ずるものがある。

[人生論ノート]

(615) 袈裟は己と向い合っていると、あの女が夫の渡に対して【持っている】愛情を、わざと誇張して話して聞かせる。

[袈裟と盛遠]

(616) 鳥飼には、三原の【持っている】疑念というものがどんなものか、わかるような気がした。

[点と線]

<所持品>

〈所持品〉は、[Pr V Pe] において、〈属性〉に続き、出現頻度の高いものである。169 例中 62 例現れているが、そのうち 25 例は (617) のように、場所名詞句「手に」を伴っている。

連体形に注目すると、「タ形」「テイル形」「ル形」は、すべて結果継続として捉えられるが、「テイル形」の使用頻度が際立って多いということが注目される。

(617) 彼女は目を細めて、手に【持った】グラスをじっと見た。[OB3X_00249]

(618) 優希は老人が【持っている】靴を確かめた。[OB5X_00136]

(619) 大野の【持つ】懐中電灯の明かりが、鬼火に見えた。[OB5X_00237]

以上で見てきた所有物の種類に注目しながら、[Pr V Pe] における連体形の活用形について集計を行った結果を以下に示す。

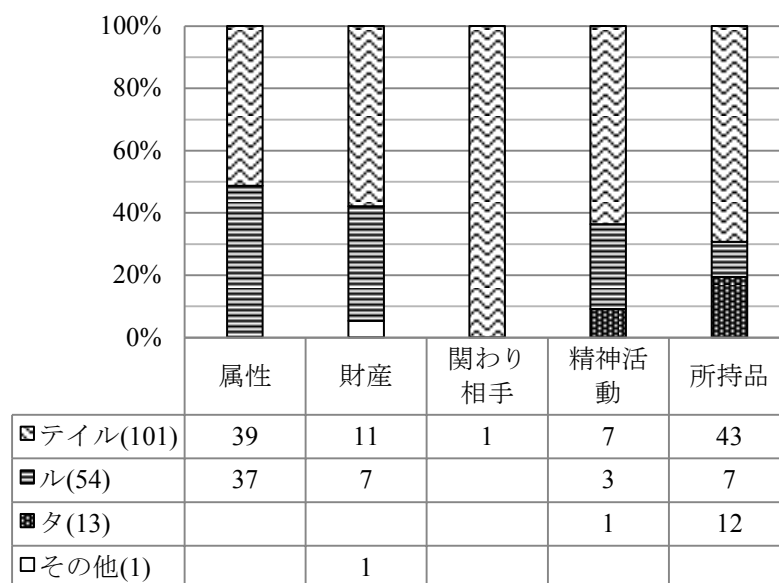


図 24 : 「もつ」の連体形 - [Pr V Pe](169 例)

図 24 から見て取れるように、〈属性〉〈関わり相手〉〈財産〉の連体形においては、「タ形」で現れた例は観察されない。〈属性〉においては、「テイル形」と「ル形」の使用頻度はそれほど変わらないものの、所有者がヒトである場合と、無情物の場合とで、異なる傾向が見られる。

前者においては「テイル形」(47 例中 31 例)が目立つのに対して、後者の場合は、「ル形」(29 例中 21 例) がとりわけ目立つ。

〈財産〉においても、「テイル形」と「ル形」の使用頻度の差は大きくないが、【テイル形】の方が上回っている。なお、〈財産〉における「その他」の 1 例は、可能形「もてる」の形で現れた例である。

一方、〈精神活動〉の場合は、「継続(テイル形)」と「一般論、習慣(ル形)」の対立が明確であり、動的述語としてのふるまいを見せる。

最後に、〈所持品〉においては、「テイル形」「ル形」「タ形」の、3 つの形式がすべて現れており、いずれも「結果継続」として捉えられるという点が注目される。それにもかかわらず、使用頻度においては、「テイル形」が圧倒的に多く用いられている。前述の [Pe V Pr] では、3 つの形式が意味的に対立を成さない場合、「タ形」がとりわけ目立つという傾向が見られた(5.3.2.1)。

このような違いは、[Pr V Pe] と [Pe V Pr] のような、述語と被修飾名詞の意味的格関係が、連体形の選択に関与していることを示唆する。

5.3.3. 「가지다/갖다」の連体修飾

本項では、連体修飾節をなしている「가지다/갖다」の例を対象に、所有者が被修飾名詞である [Pe V Pr] 構造と、所有物が被修飾名詞である [Pr V Pe] 構造に分け、それぞれの場合の、所有物の分類および、連体形の使用傾向について見ていく。

以下、現れた活用形の表記については、特に断りのない限り、以下のように代表して表す。

- ・連体形「가진, 가졌던(過去回想)」→「가진」
- ・連体形「가지고 있는/갖고 있는, 가지고 있던/갖고 있던」→「가지고 있는」
- ・連体形「가지는/갖는」→「가지는」
- ・基本形「가지다/갖다」→「가지다」

まず、所有動詞「가지다」で表しうる表現を、所有物の分類の観点からすると、少なくとも〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈親族〉〈財産〉〈関わり相手〉〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉という9種類に分類される。考察に当たって、各構造における所有物別の割合を以下の表に示す。

表 35. 連体修飾「가지다」の所有物(500 例)

所有物	[Pe V Pr]		[Pr V Pe]	
	用例数	割合	用例数	割合
部分	4	1.2%	0	0%
身体	47	13.8%	0	0%
属性	193	56.8%	57	35.4%
親族	18	5.3%	0	0%
財産	29	8.5%	46	28.6%
関わり相手	2	0.6%	0	0%
精神活動	23	6.8%	35	21.7%
所持品	16	4.7%	19	11.8%
活動	7	2.4%	4	2.5%
計	339	100%	161	100%

〈身体〉〈親族〉は、[Pe V Pr] においては決して珍しくないのに対して、[Pr V Pe] においては1例も現れていない点が注目される。

5.3.3.1. 가지다-[Pe V Pr]型

まず、被修飾名詞が所有者に相当する場合、すなわち [Pe V Pr] における所有物の分布について見ていく。[Pe V Pr] 構造における「가지다」の所有物を、恒常性・一時性に注目して整理すると、次の図のように示しうる。

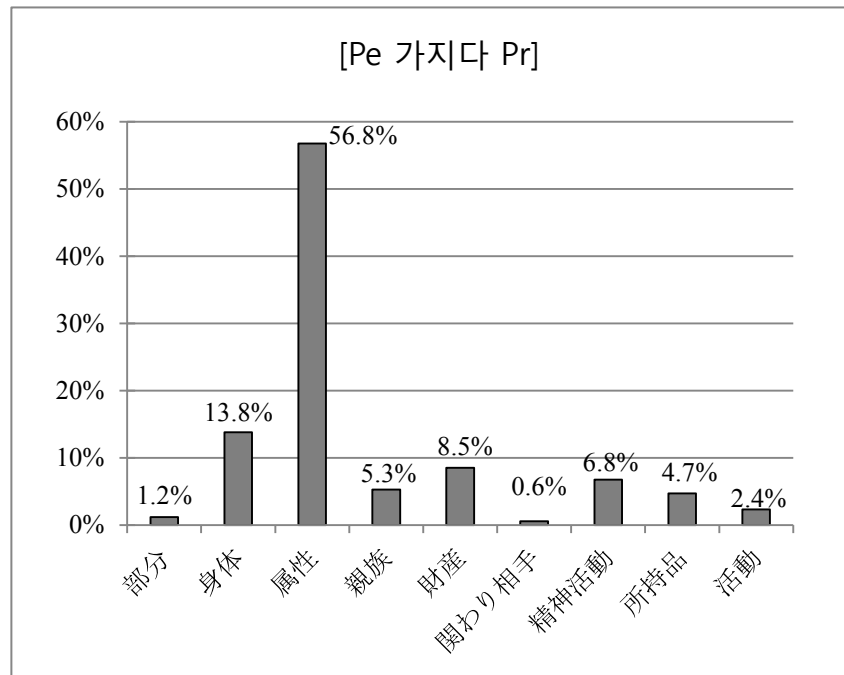


図 25 : 連体修飾「가지다」 500 例中 - [Pe V Pr]の所有物(339 例)

左側の、〈部分〉〈身体〉のような「恒常的所有」の典型から、〈所持品〉〈活動〉のような「一時的所有」にわたって、それぞれのカテゴリーに当てはまる代表的な例を以下に示す。

<部分>

一方、〈部分〉に相当するものは、339 例中 4 例見受けられる。連体形の活用形に注目すると、すべて「가진」で現れている。なお、上述の〈身体〉類も同様である。

- (620) 까만 자갈이 깔린 뜰을 【가진】사무소들이 있고… [AE000142]
(黒い砂利が敷かれた庭を [lit.もった] 事務所があり、…)

- (621) 포플라가 에워싼 운동장을 【가진】학교들 [AE000142]
(ポプラが囲んでいる運動場を [lit.もった] 学校)

<身体>

[Pe V Pr] 構造をなしている全 339 例中、〈身体〉類は 47 例現れている。これらにおいては、「普通所有物」の身体部分を表す名詞類が、修飾語句を伴って Pe として実現されている、次のような例がほとんどである。

- (622) 메기처럼 커다란 입을 【가진】사내는 [BEXX0018]
(ナマズのように大きい口を [lit.もった] 男は)

(623) 관절염의 절뚝거리는 다리를 【가진】 남편은… [BEXX0020]

(関節炎の引きずる足を [lit.もった] 夫は…)

さらに、「부리부리한 눈(ぎょろっとした目), 무쇠 같은 팔뚝(鉄のような腕), 날카로운 이빨(鋭い歯), 새하얀 피부(真っ白の肌), 커다란 입(大きい口), 연약한 육체(弱い体)」などのような例が見受けられる。

一方, わずかながら「육신을 가진 인간(lit. 肉身を持った人間)」という, 通常, もっていることが当たり前の「普通所有物」が, 修飾語句を伴わず現れている例も見出される。文脈を見ると,ギリシャ神話に出てくる神と, 人間を比べている内容である。つまり, 「普通所有物」の〈身体〉類でも, 適切な文脈が与えれば, 使えるということが確認される。

「もつ」に比べると, 「가지다」はとりわけ〈身体〉類に多く使われるという傾向があり, 注目に値する。さらに, 次の例では, 「금발머리(金髪)」のような, 修飾語句を伴っていない「非普通所有物」に当てはまるものが, Pe として現れている。このような例は, 日本語の「もつ」においては見受けられない。

(624) 파란 눈에 금발머리를 【가진】 SAS 스텐더디스들이… [BEXX0025]

(青い目に金髪を [lit.もった] SAS スチュワーデス達が…)

<属性>

「가지다」の [Pe V Pr] 構造においても, 〈属性〉に当てはまる例 (57%) が最も大きい割合を示している。〈属性〉には, 「체질 (体質), 성격 (性格), 아름다움 (美しさ)」のような性質, 「권리 (権利), 자유 (自由), 입장 (立場), 직업 (職業), 자격 (資格)」のような通常後天的に獲得される事柄, さらに「경험 (経験), 전력 (前歴)」のような履歴を表すものまで抽象的な事柄を表す多様な名詞が属する。

(625) 큰 키에 다소 마른 체격을 【가진】 이 사람 [BEXX0001]

(大きい身長に多少痩せた体格を [lit.もった] この人)

(626) 불의 산이라는 별명을 【가지고 있는】 산 [BEXX0026]

(火の山というあだ名を [lit.もっている] 山)

(627) 권리의식을 【가진】 사람이 아니면 쓰기 어려운 내용이였다. [CE000029]

(権利意識を [lit.もった] 人じゃなければ書きにくい内容であった。)

〈属性〉においては, 「가진」のほか, 「가지고 있는」も少なからず現れている。ところが, 「가진」の方が, 「가지고 있는」の8倍も多いということに注目すべきである。

他方、次の例のように「가지는」の異形態である「갖는」が使われた例も1例見受けられる。

- (628) 황해 연안에도 으레 나진과 같은 사명을【갖는】큰 항구가 필요할 것은 우리 상식으로도 추측할 바이라 하였다. (黄海沿岸にも羅津と同じ使命を [lit. もつ] 大きな港が必要になることは、我々の常識でも推測できる。) [BEXX0006]

上の例を見ると、「가진」や「가지고 있는」との違いが明確ではない。ところが、主節が「実現」を表す場合は、「가지는/갖는」は許容し難く、もっぱら「가진」「가지고 있는」で表される。これは、〈属性〉類であっても「갖는」と、「가진」「가지고 있는」が意味的な対立をなす場合があるということを示唆する。

〈属性〉にはとりわけ幅広い種類の抽象名詞が含まれており、「先天性・後天性」や「分離可能性」の程度に対する捉え方も一律ではない、ということに注意すべきである。もっぱら「分離不可能」とされる〈部分〉〈身体〉と同様、身体に関わる属性の場合は、「가지는/갖는」の使用自体が制限されるという傾向が強い。

さらには、いずれの形も可能で、かつ意味に違いが生じない名詞類もある。例えば、「특징/성질을 가지는 (特徴/性質をもつ) NP₂」のようなものがそうである。

<親族>

〈親族〉は339例中18例現れており、少なからず [Pe V Pr] 構造で使われている。活用形はすべて「가진」の形をとっている。親族名詞の語彙に注目すると、「딸 (娘), 남편 (夫), 오빠 (兄), 아버지 (父), 부모 (親), 애 (子)」などのように多様であるが、「娘」を表す「딸, 딸자식 (6例)」の例が目立つ。

- (629) 딸을【가진】어머니치고 자기 딸에 대한 신뢰감은 으레 맹목적이게 마련이지만 (娘を [lit. もった] お母さん) [CE000030]

- (630) 그녀가 가장 부러워한 사람은 오빠를【가진】여학생이었다. [CE000030] (彼女が最も羨ましがる人は兄を [lit. もった] 女学生だった。)

叙述用法 (3.4.1 参照) においては、「갖다」はさておき⁶³、「가지다」の場合は「子を授かる」という意味を表しているものが多かったが、連体修飾の [Pe V Pr] においては、典型的な親族の所有を表しているもの (20例中17例) の方が明らかに多い。このような現象は、叙述の場合と連体修飾の場合の使用傾向にずれがあるということを示唆する。

なお、親族関係以外の〈関わり相手〉に当てはまる例は、「여자를 가진 남자 (lit. 女をもった男)」を含め、2例見出される。いずれも「恋人をもつ」に相当する意味を表す。

63 叙述用法においても、異形態「갖다」の場合は「典型的な親族の所有」を表す場合が多い。

<財産>

〈財産〉(339 例中 29 例) は、〈身体〉に次いで多く使われている。語彙に注目すると、「단독주택 (一軒家), 밭 (畑), 땅 (土地), 저택 (邸宅), 도장 (道場), 빌딩 (ビル)」などのような不動産類が際立って目立つ。

活用形に関していうと、「가진」と「가지고 있는」は意味的対立をなさないが、「가진」の方が 66% を占めており、とりわけ目立つ。

(631) 집 한 채를 【가진】사람이 그걸 버리기는 어려워도… [CE000029]

(一棟の家を [lit.もった] 人がそれを捨てるのは難しいが…)

(632) 전용부두와 창고까지 【가지고 있는】이웃의 대부호였다. [AE000058]

(専用の波止場と倉庫まで[lit.もっている]隣の大富豪だった。)

一方、次のような、「갖는」が使われた例も、1 例見受けられる。次の例では、主節が非実現を表しており、「가진」や「가지고 있는」との違いが曖昧である。

(633) 이 세상에 나의 몫을 【갖는】사람이 되고 싶어. [CE000023]

(この世に自分の取り分を [lit.もつ] 人になりたい。)

ところが、「?이 세상에 나의 몫을 갖는 사람이다 ((私は)この世に自分の取り分を [lit.もつ] 人だ)」と、「이 세상에 나의 몫을 가진/가지고 있는 사람이다 ((私は)この世に自分の取り分を [lit.もった/もっている] 人だ)」は異なる意味を表す、ということに注意すべきである。前者は、使えるとしても習慣的・一般的傾向を表す意味でしか捉えられない。

<精神活動>

「관심 (関心), 감정 (感情), 호감 (好感), 모멸감 (侮蔑感)」のような、主に、感情名詞類が Pe として現れると、所有者の意志性・活動性が反映される場合が多い。[Pe V Pr] 構造の 339 例中 23 例はこれに当てはまる。

連体形に注目すると、過半数の例は「가진」の形をとっているが、「가지고 있는」との意味的な対立は見られない。

(634) 불만을 【가진】사람들에겐 단호하고도 엄격합니다. [BRE00088]

(不満を [lit.もった] 人達には、キッパリしていて、厳しいです。)

(635) 비슷한 속셈을 【가지고 있던】다른 사람들에게 내가 또다른 장애물로 나타났다고 해야 옳겠지요. (似たような下心を [lit.もっていた] 他の人々にとっては、私が新たな障害物として現れたと言うのが正しいでしょう。)

[BRE00088]

一方, 「가지는/갖는」で現れた例も 2 例見受けられるが, いずれも不定不特定の所有者に対する習慣的・一般的傾向を表すものである。

- (636) 사명감을 【가지는】 족속들을 보면... [BEXX0004]
(使命感を [lit.もつ] 連中を見ると…)

- (637) 미국에 대해 환상적 기대를 【갖는】 젊은이들한테는 냉철한 현지 상담자로, 그녀는 이국에서 혼자 살았다. (アメリカについて幻想的な期待を [lit.もつ] 若者達には冷静な現地の相談者となり, 彼女は異国で独りで暮らしていた。) [BEXX0017]

<所持品>

[Pe V Pr] 全 336 例中 16 例は, 「막대기 (棒), 지갑과 수첩 (財布と手帳), 가방 (カバン), 방청권 (傍聴券)」のようなモノ名詞が所有物として現れており, 「所持している状態」を表す。連体形に注目すると, 「가진」の形(16 例中 14 例)が非常に目立つが, 意味においては「結果継続」を表しており, 「가지고 있는」と対立しない。これらは「가지는」に言い替えられない。

- (638) 가방을 【가진】 자도 아무 말 아니하고 따라섰다. [BEXX0021]
(かばんを [lit.もった] 者も何事も言わずついて行った)

- (639) 봉선화 초롱꽃을 【가지고 있는】 계집애들 앞으로 가 바지춤을 잡고 나란히 줄을 섰다. (鳳仙花のホタルブクロを [lit.もっている] 娘たち) [CE000026]

<活動>

全 336 例中 7 例は, 動作・活動に関わる次のような例である。肉体関係を表す例のほか, 「개인전 (個展), 집회 (集会)」のような催し物を表すものが見受けられる。(642) においては, 「가지다」が意志を表す形をとっており, 動作性が際立つ。

- (640) 나이가 서른둘이고, 개인전을 두 번이나 【가진】 신예 화가라는 말을 나는 그의 친구로부터 전해 들었다. (歳が三十二で, 個展を二回も [lit.もった] 新人画家だという話を私は彼の友達から聞いた。) [BRE00085]

- (641) 그녀와 계속적으로 육체관계를 가졌거나 【가지고 있는】 자들이었습니다
(彼女と継続的に肉体関係をもっていたか [lit.もっている] 者たちでした) [AE000059]

- (642) 집회를 【가지려던】 노이수키 여사를 체포한 것이 학생 시위의 결정적 발단이 되었다면서요? (集회를 [lit.もとうとした] 노이수키女史を逮捕したのが学生のデモの

決定的な発端となったそうですね？）〔BRE00093〕

〔Pe V Pr〕における「가지다」の活用形を、所有物の種類別に集計した結果を以下に示す。なお、「その他」には前掲の（642）が当てはまる。

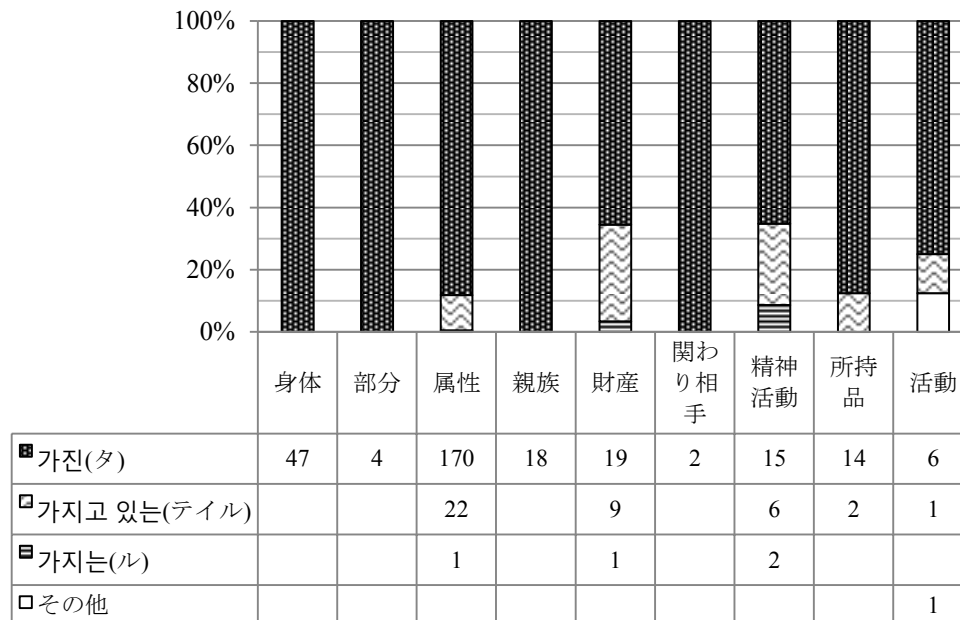


図 26：「가지다」の連体形 - 〔Pe V Pr〕(339 例)

連体修飾「가지다」の〔Pe V Pr〕においては、全般にわたって「가진」の例が多いということが、

図 26 から見て取れる。それぞれの所有物の種類において、意味的な対立がない場合に最も目立つ形式を【 】で囲んで示す。

〈身体〉〈部分〉〈属性〉⁶⁴〈関わり相手〉の例を見ると、テンス・アスペクト形式による意味的対立がないにもかかわらず、もっぱら【가진】が使われている。「가지는」は一部の名詞類を除き、制限される傾向が強い。

一方、〈財産〉に関しては、「가진」と「가지고 있는」の意味的対立が見られない点、それにもかかわらず【가진】が目立つ点では上述の所有物の種類に似ている。ところが、「가지고 있는」も少なからず用いられる点や、主節が非実現を表す場合は「가지는」との意味的対立も曖昧になるという点が上述のカテゴリーの場合と異なる。

〈精神活動〉においては、一定の時間に限らない習慣的・一般的な傾向を表す場合に限って、3つの活用形の意味的区別がなくなる。その場合は【가진】の使用が目立つ。

〈所持品〉においては、【가진】と「가지고 있는」はいずれも「結果継続」を表し、意味的に対立を成さないのに対して、「가지는」はもっぱら非実現を表す。

64 〈属性〉類については語彙によってばらつきがある。

最後に、〈活動〉の場合は、「가진」は履歴を表すのに対して、「가지고 있는」と「가지는」はいずれも習慣的・一般的傾向を表す。

5.3.3.2. 가지다-[Pr V Pe]型

連体修飾「가지다」においても、前述の [Pe V Pr]型(339 例)に比べると、[Pr V Pe]型の出現頻度(161 例)は明らかに少ない。以下の図に、[Pr V Pe]型における所有物の分布と割合を示す。

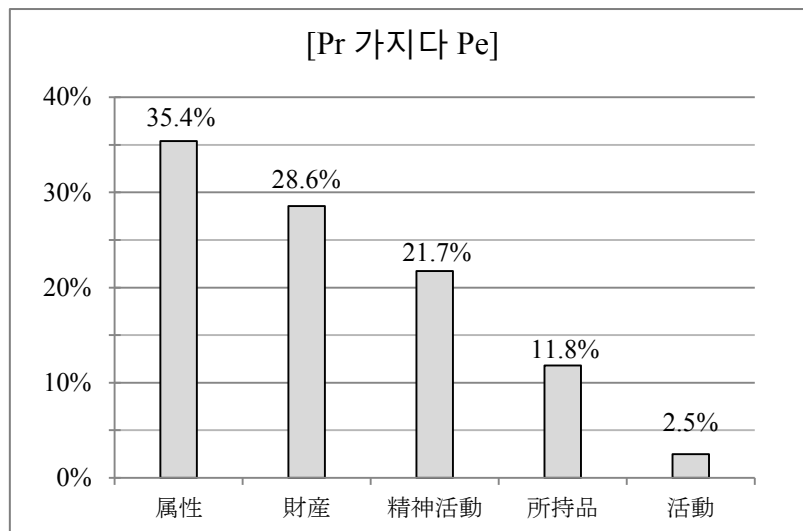


図 27 : 連体修飾「가지다」 500 例中 - [Pr V Pe]의 소유物(161 例)

上の図に示すように、[Pr V Pe] における「가지다」の所有物は、〈属性〉〈財産〉〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉に分類される。前項で取り上げた [Pe V Pr] の場合とは異なり、〈身体〉〈部分〉〈親族〉の所有は現れにくい傾向にある。以下では、各所有物のカテゴリーに当てはまる代表的な例を図 27 の左側から順番に取り上げる。

<属性>

[Pr V Pe] 構造で現れた 161 例の 35% を占めている〈属性〉においては、所有者が有情物であるものと、その他モノや抽象的事柄に相当する無情物であるものが、それぞれ約 50% (28 例対 29 例) を占めている。次の例は有情物の所有者に当てはまる。

(643) 그녀가 【가진】 재능과 양심을 마음껏 펼칠 수 있으리라는 생각이 들었다.
(彼女が [lit.もった] 才能と良心を思い切り広げられると思われた。) [CE000029]

(644) 나에게 자신이 【가진】 직업의 정당함을 선언하는 것 같았다. [BEXX0008]
(私に自分が [lit.もった] 職業の正当さを宣言するようであった。)

(645) 회원이 **【가지는】** 권리는 하나도 알지 못했었다. [CE000079]

(会員が [lit. もつ] 権利は一つも知らなかった。)

所有者が無情物である例としては、次のような例が挙げられる。

(646) 엄마라는 말이 **【가진】** 마력 (母ということばが [lit. もった] 魔力) [CE000023]

(647) 저렇게 병속에 담아두면, 아카시아꽃이 **【가지고 있는】** 향내가 모두 물속에
녹아들지도 모른다. (そのように瓶の中に入れておくと, アカシアの花が [lit. もっている]
香りが全部水の中に溶け出すかもしれない。) [BEXX0009]

実現された連体形の活用形に注目すると、「가진」で現れた例が最も目立つものの、「가지는」と「가지고 있는」の割合も、それぞれ 29%, 26% を示しており、少なからず使われている。なお、3つの活用形の間に意味的対立は見られない。

日本語の「もつ」の場合、所有者が有情物である場合と無情物である場合とで、使われる活用形に偏りが見られた (5.3.2.2 参照) ので、所有者の有情性に着目し、「가지다」の場合を検討してみると、所有者が有情物である場合は、「가진」で表された例が 54% を示しており、最も目立ち、それに次いで「가지고 있는」が比較的多い。それに対して、無情物の所有者の場合は、「가진 34%」と「가지는 45%」の差はそれほど目立たず、「가지고 있는」の割合は最も少ない。

以上のことから、「もつ」の場合ほどではないが、「가지다」においても、所有者の有情性が活用形の選択に、多かれ少なかれ影響を及ぼしているということがわかる。

<財産>

[Pr V Pe] 全 161 例中 46 例は、モノや不動産物の所有に当てはまる。活用形に関しては、「가지고 있는」と「가진」の意味的な対立はない。それぞれの割合も、52%, 46% を示しており、大きな差は見られないが、比較的「가지고 있는」の方が目立つ点や、「가지는」が使われない点で、前述の〈属性〉類と異なる側面を有している。

(648) 둘이 **【가진】** 돈이 모두 거덜나 함께 직업소개소를 찾은 거예요. [AE000060]

(二人が [lit. もった] お金がすべてなくなったので一緒に職業紹介所を訪れたんです。)

(649) 나는 내가 **【가지고 있는】** 전 재산을 투자하기로 결심을 한 것이다. [BEXX0002]

(私は私が [lit. もっている] 全財産を投資することに決めたのだ。)

さらに、「가지다」が願望を表す形をとっている例も 1 例見出される。次の例がそうであるが、厳密にいうとこの例は〈活動〉として捉えることも可能なので曖昧な側面を持っている。

- (650) 나 혼자만이 알고 싶었고 **【가지고 싶었던】** 그 아이를 마지막으로 본 순간이 되고 말았다. (私一人だけが、知りたくて [lit.もちたかった] その子を、最後に見た瞬間となつてしまった。) [BEXX0026]

<精神活動>

[Pr V Pe] の例, 全 161 例中 35 例は〈精神活動〉に当てはまるものである。次の例の波線で印してある「～에게」という「感情の対象・相手」に相当する名詞句を伴っているケースが目立つ。

- (651) 지금까지 내가 그에게 **【가졌던】** 주관적인 선입견이나 다소 모호했던 관점들은 선명해졌다. (今まで私が彼に [lit.もっていた] 主観的な先入観や多少曖昧だった観点は鮮明になった。) [BEXX0025]

- (652) 이인화가 카페의 시즈코에게 **【가지고 있는】** 감정 또한 이와 유사할 터이다.
(イインファ(人名)がカフェの静子に [lit.もっている] 感情もこれと似ているはずだ) [BEXX0021]

- (653) 내가 **【가진】** 첫번째 관심은 소설적 표현력이었다. [BEXX0018]
(私が [lit.もった] 最初の関心は小説的な表現力だった。)

- (654) 부모에 대한 그리움은 인간이면 누구나 **【갖는】** 어쩔 수 없는 감정인가. [BEXX0020]
(両親に対する恋しさは人間であれば誰もが [lit.もつ] 避けられない感情なのか。)

連体形に注目すると, 「가지는」で現れた 6 例はすべて, 上掲の例のように, 習慣的・一般的傾向を表している。このような場合に限って, 「가진」「가지고 있는」「가지는」の意味的対立がなくなる。一方, 時間副詞を伴い, 特定の時間・期間に関わる場合は, 「가진」と「가지고 있는」との間に意味的対立が見られる。また, 習慣的・一般的傾向を表す「가지는」は制限される。

<所持品>

[Pr V Pe] の例, 全 161 例中 19 例(12%) はもっぱら場面的レベルに関する〈所持品〉類に属す。日本語の「もつ」の場合(37%) に比べると, 明らかに少ない割合を示しており, 注目に値する。

連体形に注目すると, 「가진」と「가지고 있는」はいずれも, 結果継続を表し, 意味的に対立を成さないものの, 「가지고 있는」の形が 63% を示しており, 目立つ。一方, 非実現を表す「가지는」の例は現れていない。

- (655) 지금 **【가진】** 돈이 없으니 집에 가 줄게 [AE000112]
(今 [lit.もった] お金がないから家に行ってあげる)

(656) 아이가 【가지고 있던】 고무풍선이 갑자기 펑, 터지면 정말 어처구니없는 일이다.

(子供が[lit. もっていた]ゴム風船が突然ぱあんと割れたら本当にとんでもないことだ。)

[BEXX0008]

<活動>

〈活動〉に当てはまる例も, [Pr V Pe] 全 161 例中 4 例現れている。この種類においては, 「가진」は完了を, 「가지고 있는」は進行を表し, 「가지는」は非実現を表す。ただし, 以下の例のように主節が過去について述べている場合は, 「가진」と「가지는」はいずれも実現の出来事となり, 意味的対立がなくなる。

(657) 교단에 선 지 만 3 년만에 처음 【갖는】 나들이였다. [CE000079]

(教壇に立ってから 3 年ぶりにはじめて [lit. もつ] 外出だった。)

以上で見てきた [Pr V Pe] における「가지다」の活用形を, 所有物の種類別に集計した結果を以下に示す。なお, 〈財産〉における「その他」の 1 例は, 前述の例 (650) の「가지고 싶었던 (もちたかった)」である。

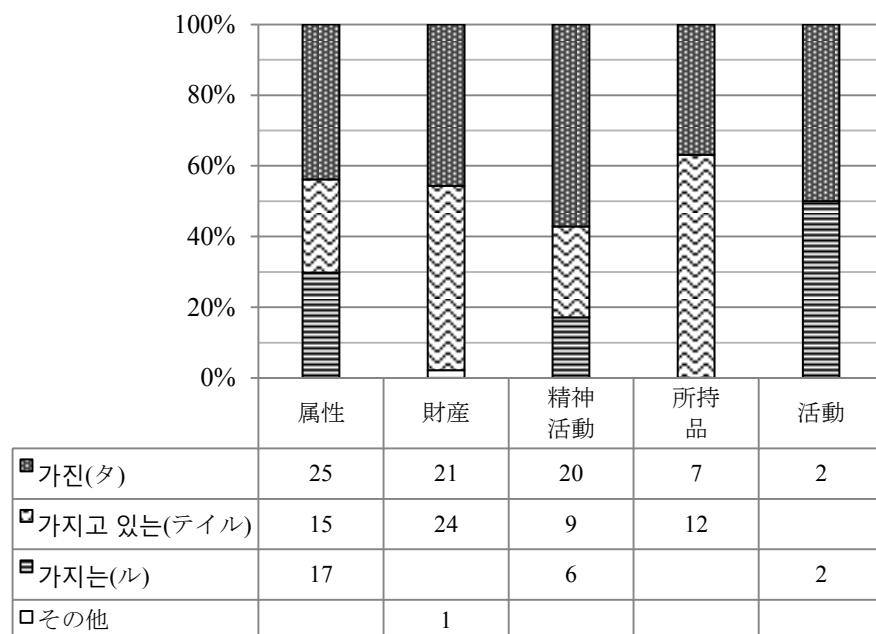


図 28 : 「가지다」の連体形 - [Pr V Pe](161 例)

「가지다」の [Pr V Pe] においては, 前項で取り上げた [Pe V Pr] の場合に比べ, 全般に実現された活用形にばらつきがある。所有物の種類ごとに中身を検討してみると, それぞれの場合における, 活用形の意味的対立は一樣ではない。以下に考察の結果を示す。なお, 意味的な対立が

ない場合の、最も現れやすい活用形を【 】で囲んで示す。

まず、〈属性〉において、「가진」「가지고 있는」「가지는」の3つの活用形は、意味的に対立を成さないにもかかわらず、多くの場合【가진】で表される傾向が見られる。注目すべきは、「가진」はさておき、「가지고 있는」「가지는」の使用は、所有者の有情性に影響されるということである。所有者が有情物である場合は、「가지는」が明らかに少ない反面、無情物の所有者の場合は、むしろ「가지는」の方が最も一般的であり、「가지고 있는」の使用が非常に少ない。

次に、〈財産〉に関しては、【가지고 있는】と「가진」の意味的な対立はなく、使用頻度においても大きな差は見られない。ところが、「가지는」が使われないという点で、前述の〈属性〉と異なる。「가지는」が使われないのは、所有者の有情性ととともに、〈財産〉の分離可能性、時間性に関わる側面に起因すると考えられる。

〈精神活動〉においては、習慣的・一般的傾向を表す場合に限って、【가진】「가지고 있는」「가지는」の意味的対立がなくなる。一定の時間・期間に関わる場合は、「가진」と「가지고 있는」は意味的に対立を成す一方、習慣的・一般的傾向を表す「가지는」は制限される。

〈所持品〉においては、もっぱら場面性を有するため、「가지는」の使用は制限される。「가진」と【가지고 있는】はいずれも、結果継続を表し、意味的に対立を成さない。

最後に、〈活動〉においては、「가진」は完了を、「가지고 있는」は進行を表し、「가지는」は、非実現を表す。主節のテンスが過去である場合は、「가진」と「가지는」はいずれも実現の出来事となり、意味的対立がなくなる。

このように、「가지다」の [Pr V Pe]型における活用形の意味的対立は、とりわけ所有物の性質に強く影響される。

さらに、[Pe V Pr]型においては、意味的対立が明確である〈活動〉はさておき、残りのすべての所有物のカテゴリーにわたって、【가진】の使用が際立つが、[Pr V Pe]型においては、所有物の種類によって【가진】をとりやすいものと、【가지고 있는】をとりやすいものに分かれる。

これは、[Pr V Pe]型となると、名詞の分離可能性や時間性により強く影響されるということの現れである。

5.3.4. 日韓対照的考察

本項では、対照言語学的な観点から、上述の考察結果に基づき、5.3.4.1では「もつ」と「가지다」の所有物の分類に焦点を当てて対照的な側面を取り上げ、5.3.4.2では、活用形の使用傾向における相違点について取り上げる。

5.3.4.1. 連体修飾「もつ」と「가지다」の所有物

比較のため、連体修飾の「もつ」と「가지다」における、所有物の分類および割合を再び次の図に示しておく。

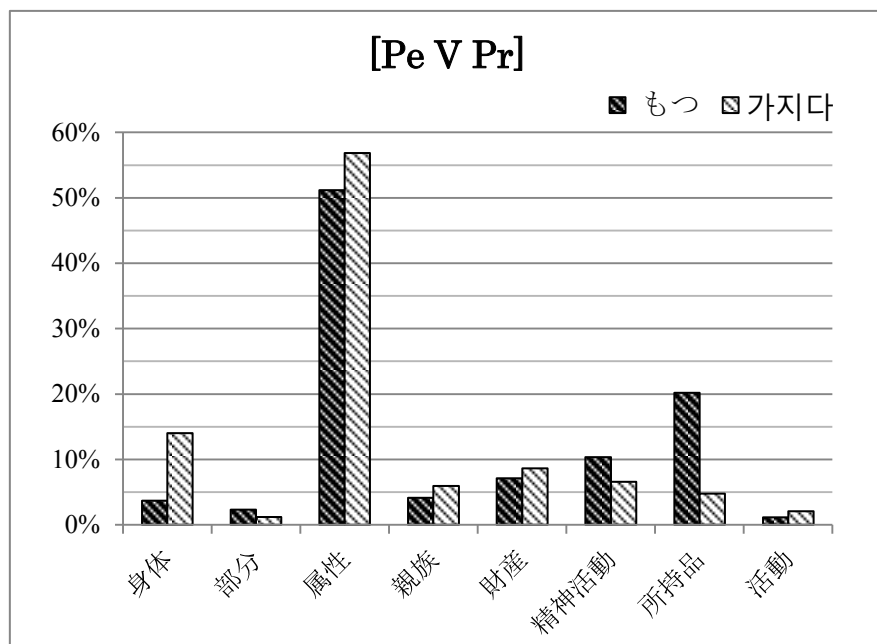


図 29 : [Pe V Pr] - もつ(437 例), 가지다(339 例)

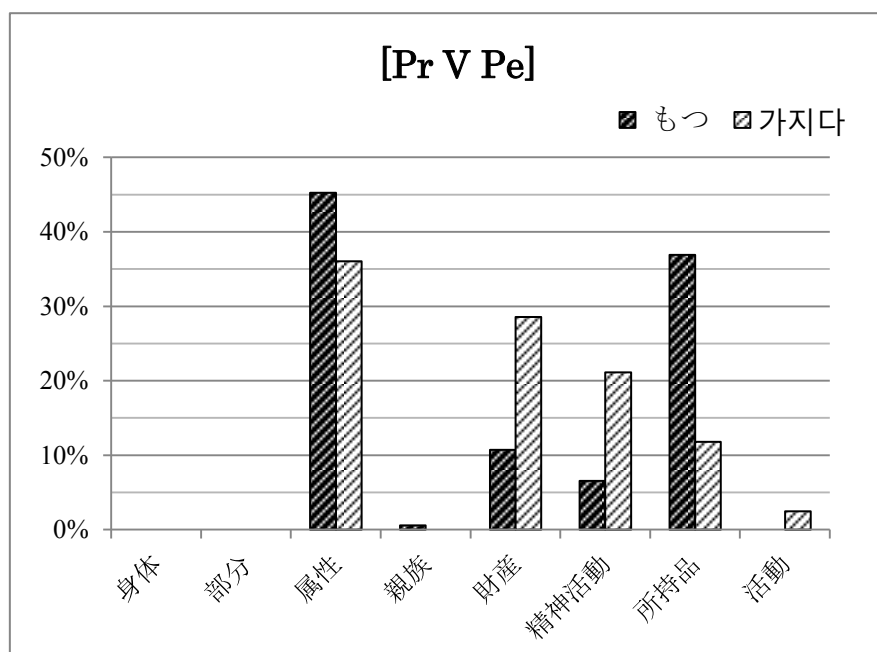


図 30 : [Pr V Pe] - もつ(169 例), 가지다(161 例)

<連体修飾「もつ(5.3.2)」と「가지다(5.3.3)」の類似点と相違点>

「もつ」と「가지다」に共通する特徴として、次のようなことが挙げられる。

- [Pr V Pe]型に比べ, [Pe V Pr]型の所有表現が生産的である。
- 幅広い抽象的な事柄を表す〈属性〉はさておき, 恒常的な性格の強い〈身体〉〈部分〉〈親族〉

は, [Pr V Pe]型の所有物として現れにくい。

- [Pr V Pe]型となると, 時間性・場面性を有する一時的所有の割合が大きくなる。

「もつ」と「가지다」との主な相違点として, 次のようなことが挙げられる。

- [Pe V Pr] と [Pr V Pe] の両構造において, 「もつ」の場合は〈所持品〉がとりわけ生産的である。それに対して, 「가지다」による〈所持品〉の所有表現は一般的ではない。

〈所持品〉は, 日常的にとりわけ多く使われる表現であるにもかかわらず, 「가지다」の使用が少ないのは, 次のようなことに起因すると考えられる。韓国語には「所持」の動作や状態を表す, 「들다(dylda)」や「지니다(jinida)」という別の動詞が存在する。

- [Pe V Pr] において, 「가지다」は, 「もつ」に比べ〈身体〉〈親族〉〈財産〉の表現に比較的多く使われる。とりわけ〈身体〉において「가지다」と「もつ」の差が顕著に現れる。
- [Pr V Pe] において, 「가지다」は, 「もつ」に比べ〈財産〉〈精神活動〉の表現に頻繁に使われる。日本語においては, これらの表現の多くは属格構造で表されるという可能性が考えられる。

5.3.4.2. 「もつ」と「가지다」の連体形

連体修飾の「もつ」と「가지다」の活用形別割合を, 構造別に分けて以下の表に示す。

なお, 「その他」として分類した「もてる／もちたがる NP₂」「가지고 싶었던／가지려던 NP₂」のような例は集計に含めていない。

表 36. 「もつ」の連体形 - 活用形別割合

	[Pe V Pr]	[Pr V Pe]
もった(タ形)	42.3% (183)	7.7% (13)
もつ(ル形)	38.3% (166)	32.1% (54)
もっている(テイル形)	19.4% (84)	60.1% (101)
計	100% (433 例)	100% (168 例)

表 37. 「가지다」の連体形 - 活用形別割合

	[Pe V Pr]	[Pr V Pe]
가진	86.9% (294)	46.9% (75)
가지는	1.2% (4)	15.6% (25)
가지고 있는	11.8% (40)	37.5% (60)
計	100% (338 例)	100% (160 例)

上表における網掛けの部分に注目しつつ, 日本語と韓国語の相違点を示す。

・連体修飾 [Pe V Pr] における日本語の「もった(タ形)」と「もつ(ル形)」は, 通常, 韓国語の「가진」と対応する。上掲の表から見て取れるように, 日本語の「もった(タ形)」と「もつ(ル形)」の割合の差に比べ, 韓国語の「가진」と「가지는」の割合の差は, 大きいというより, 「가지는」の方はほとんど使われないといっても過言ではない。割合だけ見ても, 「もつ(ル形)」と「가지는」

の用法の間にずれがあるということが窺われる。

その通り、「가지는」の使用はもっぱら一般的・習慣的傾向を表す場合に限られ、「가진」に言い替えられるケースは極めて限られている。文脈によっては「가진」と意味的に対立しない場合もあるが、その場合でさえ「가지는」はほとんど使われない。

それに対して、「もつ」の場合は、「家庭をもった研究員たち」「家庭をもつ研究員たち」のように、「もった(タ形)」と「もつ(ル形)」が意味的対立を成さず、かつ両者とも頻繁に使われる。

・韓国語における「가진」は、[Pe V Pr]型に限らず、[Pr V Pe]型においても静的な事柄を表すことができる。それに対して、日本語の「もった(タ形)」は、[Pe V Pr]型においては韓国語と同じ傾向にあるが、[Pr V Pe]型となると、主に〈所持品〉や〈精神活動〉のような、「動的」な表現に用いられる。

・「もっている(テイル形)」「가지고 있는」は、いずれも [Pr V Pe]型において多く用いられる一方、[Pe V Pr]型における使用頻度はかなり低くなる。これは、上述の日本語の「もつ(ル形)」と、韓国語の「가진」の用法に起因する。

・[Pr V Pe]型の〈属性〉において、活用形の使用傾向は所有者の有情性に影響される。「もつ」の場合、〈属性〉においては、「テイル形」と「ル形」の使用頻度はほとんど変わらない。ところが、所有者がヒトである場合と無情物である場合とで、異なる傾向が見られる。少なくとも〈属性〉に限っては、有情物の所有者では「テイル形」が多く使われているのに対して、無情物の所有者では「ル形」が多く使われる。

注目すべきは、日本語ほどはっきりした偏りではないが、「가지다」の場合も、[Pr V Pe]型の〈属性〉において、所有者の有情性による影響が観察される。有情物の所有者の場合は、「가진」に次いで「가지고 있는」の使用も少なくない一方、「가지는」は明らかに少ない。

その反面、無情物の所有者の場合は、むしろ「가지는」の方が最も一般的であり、それに次いで「가진」も少なからず現れている。他方、「가지고 있는」の使用は著しく少ない。

・「タ形」「ル形」「テイル形」の、3つの形が意味的に対立を成さない場合でも、所有物の種類によって、いずれの形式が際立つ、あるいはいずれの形式の使用が少ないという、活用形の使用傾向に違いが見られる。このような傾向はとりわけ [Pr V Pe]型において顕著である。これは、[Pr V Pe]型が、所有物の種類および、時間性により強く影響されるということの現れである。

5.4. 「する」と「하다」

第4章で述べたように、「NP をする」と「NP-를/을 하다」(以下「NP-를 하다」と記す)の用法は、動作的動作を表す場合のほか、(Ⅰ)「ある女優さんに似た顔をした子」のごとく、主体の恒常的特徴を表す場合、(Ⅱ)「青い顔をした患者」のように主体の意志によって変えられない状態を表す場合、(Ⅲ)「看護婦の格好をした女性」のごとく、主体の意志的な動作に関わるが、もっぱら結果状態に関心が向けられている場合に分けられる。

本稿の4章では(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)に当てはまる「する」と「하다」の叙述用法について考察した。

以下では、上記の(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)に当てはまる「する」と「하다」の連体修飾用法について、所有物名詞に見られる特徴(5.4.2)および、形態論・統語論的な実現様相(5.4.3)について見ていく。

5.4.1. 用例抽出について

本稿の第4章で示した通り、それぞれのコーパスを用い、前述の(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)に当てはまる「NP をする」と「NP-를 하다」の例を取り出してみると、「する」は3,648 例中 147 例(4%)、「하다」は10,100 例中 112 例(1%) が得られた。さらに、本節で取り扱う連体修飾に絞ると、「する」は45 例、「하다」は39 例に過ぎず、用例を増やして検討することが望ましいが、今後の研究の踏み台として一まずこれらの用例について考察する。

5.4.2. 「する」と「하다」の所有物

連体修飾の機能を果たす「する」と「하다」の所有物名詞に注目すると、叙述用法の場合と同様、〈身体〉〈属性〉〈状態〉の3種類に分けられる。なお、「する」と「하다」においては、主語名詞句が対格名詞句の前に置かれると「動作動詞」としての解釈になってしまうため、実現型は「所有物+動詞+所有者(Pe V Pr)」型に限られる。

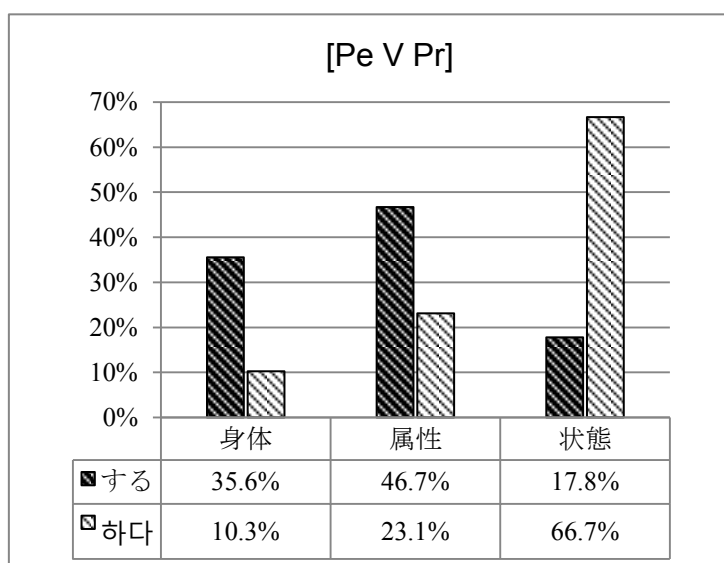


図 31 : 「する」と「하다」の所有物(Pe V Pr)

さらに、「する」と「하다」はいずれも叙述用法の場合は〈身体〉の例が〈属性〉の例より多かったが、連体修飾用法においては〈属性〉の方が〈身体〉を上回っている点で共通している。以下にそれぞれのカテゴリーに当てはまる「する」と「하다」の例を示す。

(666) 쥐 상을 한 사내가 목을 빼며 묻는다. [BEXX0004]

(ネズミの面相をした男が首を伸ばして尋ねる。)

さらに、「する」においては「奇怪な形，シャープなかたち，ポークパイの形，足の形，レンガ色，黒ずんだ色，血のような色」などが観察され，「하다」においては「사람의 머리모양（人の頭(の)模様），나발 모양（ラッパ(の)模様），소형상（牛(の)形状），심장모양（心臓(の)模様），새의 모습（鳥の模様）」のような例が観察される。

「する」と「하다」のいずれもヒトよりもモノに関わる語彙が目立つ。

<状態>

次の例における「鉛色の顔」「불카한 얼굴（赤い顔）」は一定の時間に限られる外見的特徴を表している。

(667) 犠牲者に周りを徘徊され，恐怖で鉛色の顔をしたヴォルデモートに聞こえないよう…

[OB6X_00098]

(668) 오늘도 대낮부터 불카한 얼굴을 한 은정아빠가 두 번씩이나 가게로 철원네를 찾아와 외상술을 청했던 거다. (今日も真昼から赤い顔をした웅ジョンのお父さんが二回も店にチョルウォンを訪ねてきて掛売りのお酒を求めたのだ)

[BEXX0018]

一方，一時的「格好」を表すタイプの〈状態〉の例としては次のような例が挙げられる。「格好」タイプは髪(型)と服装のいずれかに当てはまる。

(669) 振り返ると，看護婦の格好をした中年の女性が立っていた。[OB5X_00106]

(670) 알프스 소녀 하이디 같은 옷차림을 한 아가씨가 수혜에게 다가와… [BEXX0001]

(アルプスの少女ハイジのような身なりをしたお嬢さんがスへに近づいてきて…)

(671) 주름살 많은 여자 한 사람과 파마 머리를 한 젊은 여자 한 사람이 그녀를 내려다보고 있었다. (しわの多い女性ひとりとパーマの髪(型)をした若い女性ひとりが彼女を見下ろしていた。)

[BEXX0009]

以上，連体修飾用法における「する」と「하다」について，所有物名詞に注目して検討を行った。用例数が少ないということもあるが，「する」と「하다」はいずれも叙述用法に比べ，全般的に所有物として現れる語彙の種類が制限される傾向にある。

「する」と「하다」の相異点としては，叙述用法の場合と同様，「する」の場合は〈身体〉〈属性〉のような恒常的な特徴を表すケースが目立つのに対して，「하다」の場合は一時的「格好」

を表す〈状態〉の例が最も目立つ。

5.4.3. 「する」と「하다」の連体活用形

以下では、実現された「する」と「하다」の連体形に注目して考察する。以下の表にそれぞれの連体形の出現頻度を示す。

表 38. 「する」と「하다」の実現形 [Pe V Pr]

	する	用例数	割合	하다	用例数	割合
連体過去形	신타	41	91.1%	ha-n	38	97.4%
連体進行形	신테일	4	8.9%	ha-go'iss-nyn	1	2.5%
	計	45 例	100%	計	39	100%

「する」と「하다」はいずれも過去形で表されている例がほとんどである点で共通している。「する」において、被修飾名詞が形式名詞であるものや準体助詞「の」である例（「신테일」4例）を除き、残りの例はすべて「타形」で現れている。

(672) 夜, 아たたかい色をした燈火を見て, 人間の感じることって, みんな同じだと思うわ。
[OB1X_00114]

(673) 포크파이の形をした紫の帽子を被っている。[OB6X_00069]

(674) 猛禽類のような顔つきをしたウェ이터がすかさず背後にやってきて… [OB5X_00228]

(675) 次に譲る形をしているところから交譲葉とも書かれ, … [OB3X_00169]

ついでながら, インターネットからの検索例からは (676) のように「ル形」で現れている例も見出されるが, 連体修飾における「ル形」の使用は限られるといえる。以下の例では, 主体の一般的・恒常的特徴を表しているが, 準体助詞「の」の前で使われている。

(676) 農業機械が車両の形態をするのは, 農作業の対象である大地や植物を移動させることができないので, 機械のほうを移動させて目的の作業を行うより仕方がないからである。

前述した通り, 「하다」においても次の例のように過去形の使用が一般的である。

(677) 다방의 스피커는 나발 모양을 한 확장기일 듯 싶었다. [D96AA114]
(そのカフェのスピーカーはラッパの形をした拡声器であるようだった。)

インターネットの検索例で確認してみると, 「하다」においても「하고 있는」や「하는」の形も見受けられる。なおすべて「한」に言い替えられるもので, 過去形との間に意味的な対立は見

られない。例 (678) の「하고 있는」の自然さについては疑う余地はないが、(679) (680) に関しては母語話者の間でも許容度に違いがある。

(678) 어린 아이의 모습을 하고 있는 날개 달린 아모르는 누구를 모델로 했을까?
(幼い子供の姿をしている翼の付いたアモールは誰をモデルにしたのだろうか)

(679) 자그마하면서 둥그런 형태를 하는 둥근 켈트 가방은 목에 있는 실크를 원하는 색상으로 염색한 후... (小さくて丸い形をする丸いキルトカバンは廃れたシルクを欲しい色で染めた後)

(680) 액상의 우유로부터 제조되는 유제품에는 요구르트와 같이 우유를 산성 응고물을 만들어 점도를 갖게 한 것이나 치즈처럼 단단한 고체의 형태를 하는 것도 있다.
(液状の牛乳から製造される乳製品には、ヨーグルトのように牛乳を酸性凝固物にして粘度をもつようにしたものやチーズのような硬い固体の形をするものもある)

上掲の (679) (680) は出版された図書の中に現れた文であるが、筆者を含む 4 人の韓国語母語話者に確認してみたところ、4 人とも「한」の方が自然であるという意見であった。

ところが、これらの例をよく見ると、いずれも「-를 하다」の主語名詞が不特定であり、さらに製造される過程を説明しているという特徴を持つ。つまり、ある模様ができあがっていく変化の過程に焦点を当てるために、敢えて「하는」を用いていると考えられる。要するに、「하다」においても一般には「한」の形をとるといえる。

最後に「하고 있는」で現れた 1 例は「格好」タイプの〈状態〉に当てはまる。以下の例における「머리」は「髪(型)」⁶⁵ の意味で使われており、「하고 있는」は「한」に言い替えられる。

(681) 몹시 단정하게 빗질한 머리를 하고 있는 삼십대 초반의 남자인데 그는 아까부터 줄곧 커다란 성경책을 펼쳐놓고 무엇인가 혼자 중얼거리고 있었다. [BEXX0007]
(とてもきれいにとかした髪をしている四十代前半の男だが、彼は先からずっと大きな聖書を開いて何か独りで呟いていた。)

以上、「所有」を表す「する」と「하다」の連体修飾用法について考察した。

その結果をまとめると、まず、「する」と「하다」における所有表現は、〈身体〉〈属性〉〈状態〉に限られる。全般的に叙述用法に比べ、語彙の種類がより制限される傾向にある。

次に、「する」と「하다」の対照的な側面として、「する」においては〈身体〉〈属性〉のような恒常的所有に当てはまるものが際立つのに対して、「하다」においては〈状態〉に当てはまる「格好」を表すタイプが明らかに目立つ。

さらに、「する」と「하다」のいずれも連体修飾用法ではヒトの〈身体〉よりモノの「形／色」

65 韓国語では「머리」という 1 つの語彙が「頭」と「髪」の両方の意味に用いられる。

を表す〈属性〉の例が目立つ点において叙述用法との間に異なる傾向が見受けられる。ちなみに叙述用法では「する」と「하다」いずれも〈身体〉の例が〈属性〉の例を上回っている。

最後に、活用形に関しては、「する」と「하다」のいずれも連体過去形が一般的である。

5.5. 第5章の結び

本章では、連体修飾における「ある/いる」と「있다」, 「もつ」と「가지다」, 「する」と「하다」を対象に、被修飾名詞が、所有物に相当する場合 [Pr V Pe] と所有者に相当する場合 [Pe V Pr] に分け、それぞれの構造に見られる特徴について考察を行った。次に考察の結果を示す。

<「ある/いる」と「있다」>

・連体修飾「ある」(5.1.2.1)

[NP₁にある NP₂]においては、NP₁を充たす名詞の「トコロ性」にかかわる制限もあり、所有表現(Pr V Pe)とみなされる例は非常に限られる。所有物の種類は、〈部分〉〈精神活動〉〈所持品〉〈属性〉の4種類に当てはまるものが見出されるものの、〈部分〉〈精神活動〉以外はほとんど現れない。〈部分〉類の場合は、「全体 - 部分」の関係がなりたつということに重点をおけば、「所有」として捉えられるものの、所有者に相当する名詞に場所名詞がきている例が比較的多く、「所在/存在」との線引きが非常に難しい。厳密にいうと、「所在」を兼ねた「所有」と見なしうる。このように、[Pr V Pe]において〈部分〉類が比較的多いのは、所有者が「トコロ性」を有しているということに起因する。さらに、〈精神活動〉においては、感情の生じるまたは現れる場所に相当する身体名詞が所有者にきている例が比較的多く、このような現象も存在動詞の「トコロ性」に繋がっている。

一方、[NP₁がある NP₂]においては、所有表現(Pe V Pr)とみなされる例が極めて多く、所有物の種類をはじめとして、「見識ある／魅力ある」などのような「連語構成」、「～ところがある NP₂」のような統語的な構成をなす NP₁の出現など叙述用法の場合と大して変わらない。

・連体修飾「いる」(5.1.2.2)

NP₁の「トコロ性」に加え、NP₂の「有情性」の制限にもかかわっているということから、[NP₁にいる NP₂]でもって表しうる表現は非常に限られる。用例分析に基づくと、すべての例において [Pr V Pe] の解釈が可能なものはない。

一方、[NP₁がいる NP₂]においては、ほとんどの例は「所在」を表しているものの、〈属性〉〈親族〉の所有表現も少なからず見出される。

以上のことから、連体修飾の「いる」による「所有」は、[Pe V Pr]型に限られるといえる。

・連体修飾「있다」(5.1.3)

韓国語の [NP₁에 있는 NP₂]においても、所有表現(Pr V Pe)に当てはまるものは5%に過ぎず、非常に少ない。所有物の種類は、〈部分〉〈属性〉〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉が現れてい

るものの、「ある」の場合と同様、〈部分〉〈精神活動〉が比較的に目立つ。現れうる所有関係が非常に限られる点や、現れやすい所有物の種類も、日本語の [NP₁にある NP₂] の場合に極めて似ているということが注目される。

一方、[NP₁가 있는 NP₂] においては、所有表現(Pe V Pr) として捉えられるものが、「所在」の例の2倍以上に達しており、構造による用法の違いが明らかである。

所有物の種類は、「叙述用法」の場合と同様、幅広い種類にわたっている。「있다」の場合においても、NP₁が主格助詞を伴わず述語と「連語構成」をなすものが目立つ。日本語の場合と同様、統語的な構成をなしている所有物名詞句も決して珍しくない。

・日本語と韓国語との対照

日本語には「有情性」による「ある」と「いる」との区別があるということを除き、全般的な傾向は極めて似ている。

共通点の一つとして、韓国語においても、少なくとも連体節の [NP₁에 있는 NP₂] に限っては、「トコロ性」の強いものでないと NP₁ として現れにくいといえる。

日本語の [NP₁がある NP₂] と、韓国語の [NP₁가 있는 NP₂] については、修飾部に「連語構成」をなしているものが多く現れており、さらに形容詞的な表現になっているものが多いということや、統語的な構成をなしている NP₁ の出現が珍しくない、ということも共通点の一つとして挙げられる。より厳密にいえは、日本語の [NP₁がある NP₂] に比べ、韓国語の [NP₁가 있는 NP₂] の方において、「連語構成」をはじめ、主格助詞を介さず現れるという傾向がより目立つ。以上のように、日本語と韓国語のいずれにおいても、連体修飾「ある/いる」と「있다」による所有表現は、ほとんど [Pe V Pr] で実現されるといえる。

<「もつ」と「가지다」>

まず、「もつ」と「가지다」に共通する特徴として、次のようなことが挙げられる。

[Pe V Pr] においては、恒常的所有から一時的所有にわたって、比較的多様に用いられる一方、[Pr V Pe] においては、所有物の名詞類が制限されるという傾向が見られる。とりわけ恒常的な性格の強い〈身体〉〈部分〉〈親族〉は、通常、[Pr V Pe] の構造で現れないといえる。

一方、時間性や場面性を有する一時的所有は、[Pr V Pe] において生産的である。

次に、「もつ」と「가지다」との主な相違点としては、次のようなことが挙げられる。[Pe V Pr] と [Pr V Pe] の両構造において、「もつ」の場合は、〈所持品〉にとりわけ生産的であるのに対して、「가지다」による〈所持品〉の表現は非常に限られるという傾向が見られる。「所持」は日常的によく使われる表現であるにもかかわらず、「가지다」において目立たないのは、「所持」の動作・状態を表す「들다」や「지니다」という別の動詞の存在と関連していると考えられる。

さらに、[Pe V Pr] において、「가지다」の場合は、「もつ」に比べ、〈身体〉〈親族〉〈財産〉の出現が目立つ。とりわけ〈身体〉の所有に多く使われている点が注目される。

一方、[Pr V Pe] における「가지다」は、「もつ」に比べ〈財産〉〈精神活動〉の表現に比較的多

く使われる。

このようなことから、[Pe V Pr]における〈身体〉〈親族〉〈財産〉に相当する表現や、[Pr V Pe]における〈財産〉〈精神活動〉に相当する表現の多くは、日本語においては属格構造で表されるという可能性が考えられる。以上は、主に所有物の分類に関する特徴であるが、活用形の使用傾向においては次のようなことが特徴的である。

[Pe V Pr]における「もつ」の「タ形」と「ル形」は、意味的に対立しないのが一般的であり、かつ出現頻度においても大きく変わらない。[Pe V Pr]における「もつ」の「タ形」と「ル形」は、通常、韓国語の「가진」と対応するといえる。そしてこれには [Pe V Pr]における「もつ」の「ル形」と「가지는」の用法のずれが関与している。韓国語における「가지는」の使用は、もっぱら一般的・習慣的傾向を表す場合に限られ、「가진」と言い替えられる場合は非常に少ないということに注目すべきである。「가지는」と「가진」が意味的な対立をなさない文脈においても、「가진」の方の使用が際立つという傾向がある。

さらに、「가진」は、[Pe V Pr]に限らず、[Pr V Pe]においても静的な事柄を表すことができる。それに対して、「もつ」の「タ形」は、[Pe V Pr]においては「가진」と同じ傾向にあるものの、[Pr V Pe]となると〈所持品〉のような「動的」な表現にしか使われないという点が異なる。

次に、「もつ」と「가지다」は、次のような点において似ている。

「もつ」の「テイル形」と「가지고 있는」は、いずれも [Pr V Pe]において多く使われるのに対して、[Pe V Pr]となると使用率がかなり低くなるという傾向が見られる。これは、前述の [Pe V Pr]における「もつ」の「タ形／ル形」と、「가진」の用法に起因する。

また、[Pr V Pe]における〈属性〉に見られる特徴として、活用形の使用傾向が所有者の有情性に影響されるということが挙げられる。

「もつ」の場合から取り上げると、〈属性〉の全体を見る限りでは、「テイル形」と「ル形」の使用頻度は大して変わらない。ところが、所有者に注目して検討すると、有情物の所有者の場合では、「テイル形」が多く使われるのに対して、無情物の所有者の場合では「ル形」が多く使われている。

所有者の有情性による影響は、「가지다」の場合にも見られる。[Pr V Pe]における〈属性〉のうち、所有者が有情物である場合は、「가진」に次いで「가지고 있는」の使用も少なくないのに対して、「가지는」は明らかに少ない。その反面、無情物の所有者の場合は、むしろ「가지는」の方が一般的であり、それに次いで「가진」も少なからず使われている。「가지고 있는」の使用が著しく少ないということがとりわけ注目される。

このように、3つの活用形が意味的に対立を成さない場合でも、所有物の種類によって、現れやすい形式と使用頻度の少ない形式があり、それぞれの実現様相に違いが見られる。このような傾向はとりわけ [Pr V Pe]において顕著に現れる。これは、[Pr V Pe]の方が所有物の種類および、時間性に、より強く影響されるということの現れであると考えられる。前述の所有物の分類に関しては、逆に [Pe V Pr]の場合が叙述用法に似ている。

以上のように、連体修飾における活用形の意味的対立および使用傾向は、述語と被修飾名詞の意味的格関係 ([Pe V Pr] vs. [Pr V Pe]) だけではなく、所有物の種類にも強く影響されることがわ

かる。

<「する」と「하다」>

静的な事柄を表す「する」と「하다」の連体修飾用法は、次のような特徴をもっている。

第一に、所有物は〈身体〉、ヒトやモノの外見に関する〈属性〉、〈状態〉に分けられる。全般的に、現れる語彙の種類は叙述用法よりも限られる。身体名詞の場合、「する」においては「顔」のみであり、「하다」においては「얼굴 (顔), 눈 (目), 몸 (身)」の3種類のみである。

第二に、叙述用法と異なる傾向として、「する」と「하다」のいずれも、叙述用法では〈身体〉の例が〈属性〉の例を上回っているのに対して、連体修飾用法では〈身体〉より、モノの「形／色」を表す〈属性〉の例が目立つ。

第三に、「する」と「하다」の対照的な側面として、「する」においては〈身体〉〈属性〉のような恒常的所有に当てはまる場合が目立つのに対して、「하다」においては一時的な「格好」を表す〈状態〉の例が最も目立つ。

第四に、活用形に関しては、「する」と「하다」のいずれも連体過去形が一般的であり、その他の活用形はほとんど使われない。

最後に、主語名詞句が対格名詞句の前に置かれると「動作動詞」としての解釈になってしまうため、「する」と「하다」による所有表現の実現型は [Pe V Pr] 型に限られる。

第6章 日本語と韓国語の属格構造

序章でも触れたが、いわゆる属格構造(Possessive Construction) は、通言語的に幅広い意味関係を表すとして、類型論をはじめとする従来の研究では、典型的な意味関係、中核的および周辺的な意味関係、などを取り入れたスキーマについて論じているものが目立つ(1.1 参照)。

本章の各節で取り扱う内容は次の通りである。6.1 では従来の研究の流れについて取り上げ、6.2 では本章で扱う用例について述べる。続く 6.3 では、日本語と韓国語のそれぞれのコーパスの用例を分析し、NP₁ と NP₂ との間になりたつ意味構造による属格構造の類型化および、所有物の分類を行う。最後の 6.4 では、所有動詞の連体修飾用法と区別される属格構造の特徴を含め、本章での考察の結果を示す。

6.1. 先行研究

本章の考察に当たって、日本語の属格助詞「の」と韓国語における属格助詞「의」に関する研究の流れについて見ていく。

6.1.1. 日本語における「の」に関する研究

日本語の属格構造に関する研究を見ると、[NP₁ の NP₂] の NP₁ と NP₂ の意味関係の詳細な下位分類を行っているものをはじめ、名詞の指示性などの意味論的機能、語用論的解釈に注目しているものまで多様な観点からの研究が行われてきた。代表的なものとしては、国立国語研究所(1951)⁶⁶、三上章(1969)⁶⁷、鈴木康之(1978, 1979a, 1979b, 1979c)、寺村秀夫(1991)、西山佑司(2003) 等が挙げられる。

とりわけ鈴木康之(1978, 1979a, 1979b, 1979c) は、特定・不特定性に関わる「NP₁ の」の意味機能と NP₂ のカテゴリーカルな意味に注目して、属格構造を網羅的に扱っており、注目に値する。

また、西山佑司(2003) は NP₁ の叙述性および NP₂ の語彙的特徴を含め、[NP₁ の NP₂] が表す「言語的意味」を重視しており、鈴木康之(1978) をはじめとする従来の研究と異なる観点をもっている点に注目する必要がある。西山佑司(2003) による属格構造の分類は第1章の先行研究で取り上げた。以下では、鈴木康之(1978) による分類について取り上げる。

66 国立国語研究所(1951: 155-171) は [NP₁ の NP₂] を次のように分類している：

<体言について、後続の体言がその体言に所属するものであることを示す>

所有主(後の体言が前の体言の持物・属性などの場合) / 執筆者・発信者・主催者・など後の体言の作成行為をなした者 / 所属の団体 / なんらかの関係の基点となるもの / 存在の場所・位置 / 抽象的な場所 / 選択の範囲 / 存在の時刻・時期

<体言について、その体言が後続の体言の属性に当ることを示す>

性質・性格・状態 / 材料 / 数量・順序 / サ変動詞の語幹となる体言(主として漢語)について、その体言が、後続の体言に関連する動作内容であることを示す / 形容動詞の連体形語尾に準ずる用法 / 体言についてその体言が後続の体言の範囲・領域を示す場合 / 目的の事物・関与物を示す / 同格の関係で修飾する。

67 三上章(1960: 67) はさらなる修飾語が関わっている場合に着目し、以下のように述べている：

「象の鼻」をひっくり返して「鼻ノ象」と言ったらへんです。「象ノ長イ鼻」だったら、「長イ鼻の象」と言えないでもありません。所有物に飾り(形容詞)がつくと、ひっくり返しが容易になります。まれには、「京都ノ秋」と「秋ノ京都」のように、中味まで似たり寄ったりになるものもあります。

鈴木康之(1978) は連語論⁶⁸ の観点から、「ノ格の名詞をかざりとするくみあわせ」を「名詞をかざられとする連語」の一つとして取り上げ、「関係的なむすびつき」「状況的なむすびつき」「規定的なむすびつき」の3種類に大分類している。これらのうちどのような関係であるかは、NP₂の「語的な性格（どのようなカテゴリーカルな意味をもつか）によってきまる」という。次にそれぞれの代表的な例を挙げる。

(682) 鈴木康之(1978: 12-13) による「ノ格の名詞をかざりとするくみあわせ」

- ・関係的なむすびつき：自動車のやね、妹のセーター、先生の奥さん
- ・状況的なむすびつき：帳場の時計、えんがわのねこ、伊豆の地震（場所の指定）
けさのみそ汁、お昼の談話、戦争中の恐怖（時間の指定）
- ・規定的なむすびつき：長めのキセル、鋼鉄の魚船、色白の青年、ひとり者の教師

鈴木康之(1978: 15) によると、「妹のセーター」は「関係的なむすびつき」に属すのに対して、NP₁が特定されていない「女のセーター」の場合は、NP₁が人を示さず「女性用」という意味を表しており、「規定的なむすびつき」に属す。ちなみに、西山佑司(2003) は「女性用」という意味を表していても、「用」が言語化しておらず「女のセーター」や「女性のセーター」のように表されているものは「妹のセーター」と同じタイプであるとし、「女性用」という意味は可能な解釈の一つと見なしている。

6.1.2. 韓国語における「의」に関する研究

韓国語の「의」を巡る議論を見ると、属格構造の多様な意味関係⁶⁹のほか、[NP₁ 의 NP₂] と [NP₁ ∅ NP₂] ⁷⁰ の機能について言及しているものが目立つ。とりわけ [NP₁ 의 NP₂] と [NP₁ ∅ NP₂] によって表される表現の意味的な違いは非常に不明瞭であり、注目を集めてきた。

属格構造の分類に関する従来の研究では、리근영(1985)⁷¹ , 김석득(1992)⁷² をはじめ、NP₁ と

68 宮島達夫(2005) によると、奥田靖雄(1976) をはじめとする日本語における連語論という概念は言語学会(1983)『日本語文法・連語論（資編）』によって一般化したもので、2つまたはそれ以上の単語が従属的な関係を持つくみあわせを指して「連語」と称するという。

69 김석득(1992) はそれぞれの名詞の持つ意味特性によって様々な意味を表すが、2つの名詞の間には共通して「従属性」が見られると述べており、김승곤(1992) は「의」によって実現される意味を「所有」「関係」「所在」「所産」「行為が行われた場所」「比喩」「対象」「達成」「所属」「操作」の10種類に下位分類し、これらのすべては根本的に「所有」の意味を有していると述べている。一方、임흥민(1998) は {의} は統辞的な存在であるだけでなく、意味的にも対象の「存在前提」という独自の意味特性を持つと述べている。

70 주시경(1910), 李南淳(1988) 等の研究では [NP₁ 의 NP₂] の他に、名詞と名詞を並べて表す [NP₁ ∅ NP₂] も韓国語の属格構造と見なしている。주시경(1910: 313) は、[NP₁ 의 NP₂] を「格標示」による「属格標示」とし、[NP₁ ∅ NP₂] を「不定格」の実現による「属格標示」とであると述べている。

71 리근영(1985: 130) は [NP₁ 의 NP₂] における NP₁ と NP₂ の意味関係を「内容的な連係関係」と称し、16種類の意味関係を提示している。その一部として次のようなものが挙げられている。

「所有者： 학생의 그림 (학생이 가진 그림) 学生の絵 (学生がもっている絵) /
行動性、状態性の主体： 학생의 그림 (학생이 그린 그림) 学生の絵 (学生が描いた絵) /
行動性の客体： 학생의 그림 (학생을 그려놓은 그림) 学生の絵 (学生を描いた絵)」

これらの記の例に付してある「학생이〈学生が〉…/학생을〈学生を〉…」などは [NP₁ 의 NP₂] に対する解釈の多様性を示唆している。

72 김석득(1992: 378)でも、属格名詞句に対するそれぞれの具体的な解釈を提示しながら意味的分類を行っている。

NP₂ の間に成り立つ個々の意味解釈そのものの分類が目立つ。多様な解釈が一つの形式で表されるということは大事な特徴であり、それを指摘することはもちろん重要である。

ところが、個々の解釈に影響する NP₁ や NP₂ の名詞の語彙的特徴によるカテゴリーや、指示性・叙述性をはじめとする意味機能に着目した研究は乏しいと言わざるを得ない。

一方、李南淳(1988)⁷³ は、Jakobson(1936) による「部分属格」と「不定属格」に影響され、NP₁ の NP₂ に対する限定の仕方に注目しているが、扱っているものはごく一部に限られており、実例の分析に基づいた考察が必要である。

他方、日本語と韓国語の対照言語学的な観点から、韓国語の属格助詞「의」に注目している研究としては、生越直樹(1989), 강연임(1996), 松澤明子(2003), 金恩愛(2003), 油谷幸利(2005) が挙げられる。日本語と韓国語の対照研究においては、主に日本語では「の」を用いる、または「の」で表されているものが韓国語では「의」で表されていない表現や、「의」が現れる環境に焦点が当てられている。

生越直樹(1989: 359) によると、「「の」と「인 in」が対応するものは、「の」を除く修飾部 X と被修飾部 Y が「Y は X だ」という関係になりうる場合であり、「の」と「의 ui」が対応するのは、修飾部と被修飾部にそのような関係が見られない場合である」という。このような指摘は本章の 6.3.2~6.3.3 と関連しており、注目する必要がある。

一方、金恩愛(2003: 3-4) は、日本語における「めがねの子」のような一部の属格構造を取り上げ、韓国語では「안경 낀 애 (めがねかけた子)」のように動詞を用いて表される傾向があるということを指摘している。

他方、강연임(1996) は、「의」が実現する環境」の一つとして「「의」が後ろの名詞句全体を修飾したり、前の名詞句全体を受けたりする場合」を取り上げており、「의」が省略される環境」としては「「全体 - 部分」の関係にある場合」「親族関係にある場合」「의가地名を表す単語と結合した場合」「同格の構成をなす場合」を挙げている。

松澤明子(2003) は、「의」の実現されやすい環境」として、「N1, N2 あるいは [NP1 의 NP2] 全体にかかる修飾語が存在する」「3 人称代名詞「그 (彼)」との関わり」「N₁: 남 (他人), 자신 (自分/自身), 삶 (人生) N₂: 경우(場合)」などを挙げている。

油谷幸利(2005: 130-131) は、日本語では「の」を用いるのに、韓国語では「의」が用いられない場合として、「位置名詞の前」「種類を示す場合」「時の名詞が連続する場合」「機会の「-の」」を挙げている。

本稿は「의」の実現と非実現に関する問題に焦点を当てているものではないが、[NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] の分類化の際に見られる対照的な側面として、関連する諸問題についても考察を

「나의 책 → 나에게 소속된 책 ‘가짐 (소유), 소속’ (私の本 → 私に所属する本 ‘所有, 所属’) / 짐승의 소리 → 짐승이 내는 소리 ‘앞부분이 뒷부분의 형성소’ (獸の音 → 獸が出す音 ‘前の部分が後の部分の形成者’) / 나무의 가지 → 나무에 붙은 가지 ‘앞부분은 뒷부분의 전체’ (木の枝 → 木についている枝 ‘前の部分が後の部分の全体’) / 한강의 다리 → 한강에 위치한 다리 ‘위치, 처소’ (漢江の橋 → 漢江に位置した橋 ‘位置, 処所’)

73 李南淳(1988: 74-79) では「部分限定」に相当する例として「나무 가지 (木の枝)」「나무 가지 (木の枝)」をあげており、「選択限定」としては「나무의 가지 (木の枝)」,そして「不定限定」としては「탄생의 기쁨 (誕生の喜び)」「패배의 슬픔 (敗北の悲しみ)」のような例を挙げている。

行う。

6.2. 資料と考察範囲について

日本語における [NP₁ の NP₂] の資料としては、BCCWJ の「出版・書籍」の文学ジャンルとベストセラーの作品を用いる。本章では約 1,000 例の [NP₁ の NP₂] について検討した結果について考察する。「出版・書籍」の文学ジャンルで現れた例は 1,548 例であるが、位置名詞、形式名詞をはじめとして、以下の対象外としている例が約半分を占めているため、ベストセラーの小説作品から新たに補充し、考察対象の例を約 1,000 に合わせた。

韓国語における [NP₁ 의 NP₂] の資料としては、KNC の文学ジャンルを利用する。検索された [NP₁ 의 NP₂] のうち約 1,000 例を検討した結果について述べる。

日本語の用例において「ある種の、各種の、一種の、一連の、他の、以外の、中の、以上の、一切の」をはじめ、形式名詞の NP₂ を含む「-のところ、-のほう、-のほか、-のもと」や「-のいかん、-のおかげ、-の場合、-の中、-のわりには」に当てはまる例は対象としない。

韓国語の用例においては「내(私の)、네(あなたの)、이상의(以上の)、이하의(以下の)、그외의(その他の)、이외의(以外の)、하나의(ひとつの)、중의(なかの)、어떤 종류의(ある種の)、일종의(一種の)、일련의(一連の)、일체의(一切の)、일말의(一抹の)、-때의(時の)、-의 경우(の場合)、-의 것(のもの)」が現れた例は外している。

さらに、数量関係⁷⁴、時間関係、位置関係および「所在」「生起」を表す表現も本章の対象から除外する。以下では [NP₁ の NP₂] 全 1,034 例と [NP₁ 의 NP₂] 全 1,050 例を分析した結果に基づいて述べる。

6.3. [NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂]

本節では所有表現に限らず、[NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] の類型化を行い、日本語と韓国語との対応関係について考察する。コーパスの用例を対象に、NP₁ や NP₂ の叙述性の有無、名詞句の指示性、主題化の可否に注目して分類してみると、[NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] は少なくとも次のようなタイプに分けられる。

表 39. [NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] の類型化

類型と特徴		意味構造
所有	A と B の名詞は叙述性をもたない。一定の所有物のカテゴリーに当てはまる。	A は B が
事象叙述内在型	A または B は叙述性をもつ名詞であり、A と B の間に動詞と項の関係が成り立つ。	A が B する/A を B する B が A する/B を A する
属性叙述内在型	A または B は叙述性をもつ名詞であり、形容詞文の構造を有する。	A は B だ/的だ/のようだ B は A だ/的だ/のようだ
コピュラ関係	コピュラ文の構造を有する。	A は B である/B は A である
その他	語彙論・語用論に基づく関係	一定ではない

74 内的・質的な属性に関わる「属性数量詞 (6.3.4.4 参照)」の表現は考察対象に含める。

考察に当たって各タイプの割合を以下の図に示しておく。なお、以下の図における「その他」は上記のその他語彙論・語用論に基づく関係を表す。

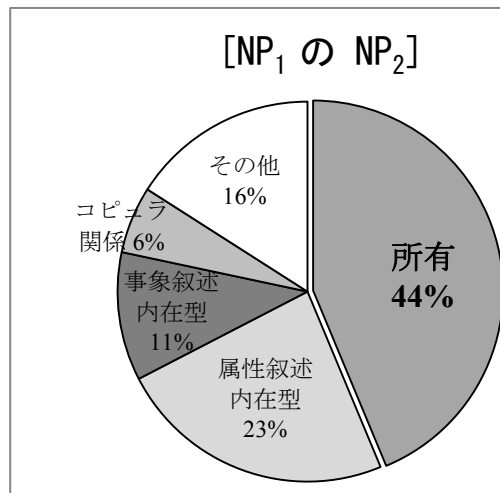


図 32 : [NP₁ の NP₂] の類型(1,034 例)

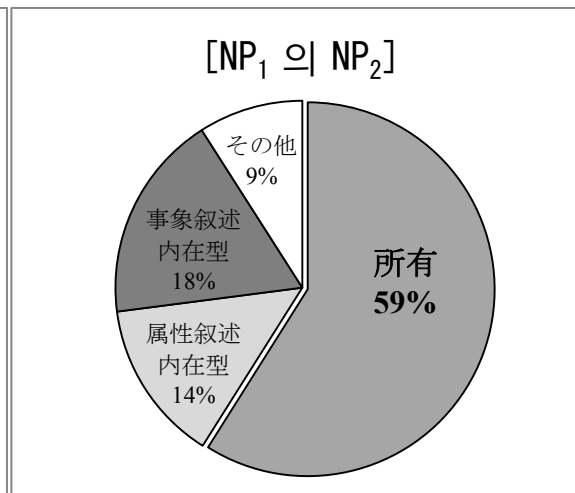


図 33 : [NP₁ 의 NP₂] の類型(1,050 例)

上の図から見てとれるように、日本語の「の」は韓国語の「의」より広い意味範囲を表す。

まず、「의」はコンピュータ関係を表さない。次に、「의」に比べ、「の」は「属性叙述内在型」と「その他」の語彙論、語用論に基づく意味関係に活発に使われる傾向が見られる。

属格構造の類型においては次の点に注意する必要がある。所有動詞を扱った 5 章までの考察に基づく、「所有」という意味領域は「属性叙述」と「事象叙述」に繋がっていると考えられる。本稿では所有文および所有動詞による連体修飾節における「所有物の分類」に基づいて、〈部分〉〈身体〉〈属性〉のような「恒常的所有(constant possession)」から、〈状態〉〈所持品〉〈活動〉のような「一時的所有(temporal possession)」までを連続的⁷⁵に捉えてきた。このような観点からすると、上の図の「属性叙述内在型」や「事象叙述内在型」の中には、意味的に〈属性〉〈精神活動〉〈状態〉〈活動〉の「所有」としても捉えうるものも少なくない。例えば「NP の期待／計画／経験／演説／不満／優しさ」などがそうである。これらは上掲の図において「属性叙述内在型」または「事象叙述内在型」のいずれかに含めているが、後に取り上げる所有物の分類および所有物の計量的調査(6.3.5)に当たっては両面性を有するものも含めて示すこととする。

以下では [NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] の各類型について用例とともに見ていく。

まず、「事象叙述内在型(6.3.1)」「属性叙述内在型(6.3.2)」「コンピュータ関係の属格構造(6.3.3)」「その他(6.3.4)」に当てはまる属格構造について取り上げる。その後 6.3.5 において「所有」に当てはまる属格構造を取り上げ、「所有物の分類」の観点から [Pr-Pe] と [Pe-Pr] の実現様相について見ていく。

75 「属性」と「事象」の連続性については益岡隆志(2008)、影山太郎(2008)の「準属性」「事象の属性化」を参考。

6.3.1. 事象叙述内在型

NP₁とNP₂の間に項と述語の関係がなりたち、意味的に「事象叙述」⁷⁶における項構造を含意しているものを「事象叙述内在型」と呼んでおく。動詞の名詞化およびサ変動詞の語根に相当する名詞がNP₁やNP₂にきており、主に「主体(NP₁)と行為・活動(NP₂)」の関係と「対象(NP₁)と行為・活動(NP₂)」の関係を表す。以下に典型的な例を示す。

<主体(NP₁)と行為・活動(NP₂)>

(683) 私は警察署長だった父の転勤でこの町に移ってきた。[PB39_00009]

(684) もし彼のおごりのビールしか飲まなかったり、飲むのさえ断わっていたら、彼は私を相棒に選んだりなどしなかっただろう。[BK_86060958]

(685) 경찰의 조사를 받았던 일을 생각하면 “히히히이” 또 한번 흥소천심에…
(警察の取り調べを受けたことを思い出すと“ゲラゲラ”とまた大声で…) [CH000044]

(686) 탁의 질문에 나는 대꾸없이 앞에 놓인 잔을 깊게 기울이고… [DENA007]
(タク (人名) の質問に私は答えず、前に置いてあるグラス (の酒) を飲み干して…)

<対象(NP₁)と行為・活動(NP₂)>

(687) 観光シーズンの開幕といった感じで、年明けから店の改装やら商品の陳列にシャッターをおろしていた店がいつせいに開き、… [PB39_00017]

(688) 第一今日では、パスポートの査証は、してもしなくてもいいんだ。[PB49_00007]

(689) 극단적인 언행의 절제, 그것을 통해 그가 관찰시키려 한 게 과연 무엇이였을까.
(極端的な言行の節制, それを通じて彼が貫徹しようとしたのは果たして何だったのか)
[DENA026]

(690) 면전에서 아내를 비방한다는 건 곧 자신의 모독이자 최소한의 자존심마저 손상당하는 일이니까 말이야. (面と向かって家内を貶すということは自分の冒瀆であり, 最低限の自尊心まで傷つけられることであるからね) [DENA007]

属格構造のもつ機能の一つである「対象(NP₁)と行為・活動(NP₂)」の意味関係は、所有表現があまり分担しない機能であると考えられる。ところが、「事象叙述内在型」に当てはまるすべて

76 益岡隆志(1987, 2008) は、「主題 - 解説」という構造を有する「属性叙述」と、「項 - 述語」の構造を有する「事象叙述」を区別している。「事象叙述文」は「動詞を主要部とし「項」と「付加語」が従属部として加わる構造を有する文」として定義している。

が本稿で見てきた所有表現と無縁であるかという点、そうとは言い切れない。「主体(NP₁)と行為・活動(NP₂)」のなかには、所有表現としての捉え方が可能なものも少なくない。例えば、「NP の確信, NP の期待, NP の計画」などの名詞は、それぞれ「NP が確信する, NP が期待する, NP が計画する」のようにサ変動詞の対応形をもつが、「NP が確信をもつ, NP が期待をもつ, NP が計画をもつ」のように、所有動詞「もつ」の所有物としても実現される。

対応する韓国語の名詞についても同様なことがいえる。「기대(期待), 확신(確信), 계획(計画)」は、それぞれ「기대하다(期待する), 확신하다(確信する), 계획하다(計画する)」という動詞の語根として実現されると同時に「기대를 가지다/갖다, 확신을 가지다/갖다, 계획을 가지다/갖다」のように、所有動詞「가지다/갖다」の所有物としても実現される。

このように、「事象叙述内在型」には「もつ」や「가지다/갖다」による表現と並行しているものもあることに注目する必要がある。〈精神活動〉に限らず、「会議, 相談, 交渉」とこれに対応する韓国語の「회의(会議), 상담(相談), 교섭(交渉)」のような再帰的な〈活動〉を表すものも「もつ」や「가지다/갖다」の所有物として現れる点において「所有」と密接な関係にある。

しかし本章では、サ変動詞をはじめ、動詞の対応型がある場合は計量調査において「事象叙述内在型」として分類する。なお、対応する動詞をもたないが、「主体(NP₁)—精神活動・活動(NP₂)」の関係にあるもの、例えば「自信, 勇氣, 悲鳴, 歓声」のような名詞が NP₂ として現れている場合は、後述の「所有(6.3.5)」における〈精神活動〉〈活動〉として分類している。

6.3.2. 属性叙述内在型

叙述性もつ名詞が含まれている属格構造には、前述の「事象叙述内在型」のほか、形容詞文の構造を有するものもある。NP₁ または NP₂ が叙述性をもつ名詞であり、「A は B だ」のように「主題と解説」の意味関係がなりたつ属格構造を「属性叙述内在型」と呼んでおく。

以下では、NP₁ が「主題」に当てはまるもの {タイプ(a)} と、NP₂ が「主題」に当てはまるもの {タイプ(b)} に分けて取り上げる。

6.3.2.1. タイプ(a)

これらの属格構造は「対象(NP₁)に対する状態・性質」を表している。主に形容詞からの転成名詞が NP₂ にきている。[NP₁ の NP₂] の NP₂ としては、「のどけさ, 傲慢さ, 緩み」のような形容詞に名詞化接尾辞が付いた形や、「わがまま, 不幸」のような形容動詞の語根に相当する名詞が目立つ。

韓国語における [NP₁ 의 NP₂] の NP₂ にも、「화사함(華やかさ), 왜소함(矮小さ)」のような形容詞に名詞化接尾辞が付いた形, 「권태(倦怠), 친절(親切)」のような形容詞の語根に相当するものが現れている例が目立つ。さらに, 「취약성(脆弱性), 평면성(平面性)」などのように, NP₂ が「~성(性)」を伴った名詞であり, NP₁ がそのような性質・性格であることを表すケースも少なからず見出されるが, これらも同類のものと見なしうる。日本語と韓国語の代表的な例を以下に示す。

(691) 私たちの母であるマリアの「優しさ」を強く感じます。[BK_86051893]

(692) そういう時、私は自分の職業のうさん臭さを感じながらも、遊びと仕事の区別もつかなければ、時間的にも自由がきく私の仕事のほうが、もともとの人間の営みに近いのではないかと思う。 [BK_86025080]

(693) 그것이 지닌 용모의 빼어남에 이아침을 받아 다른 것들은 하나도 눈에 안 들어올 정도로 인물이 볼 만했다. (それがもっている容貌の秀逸さに足手まといになって他のことはひとつも目に入らないほど面相が見ものだった。) [DENA075]

(694) 한 해 동안 집안의 평안을 읊으며 열심으로 비손한다. [CH000036]
(一年間の家の平安という願い事を吟きながら、一生懸命祈る)

6.3.2.2. タイプ(b)

日本語においては、「普通，特殊，ジプシー風」のようないわゆる形容動詞⁷⁷ および形容詞に準ずる名詞が NP₁ にきているものが目立つ。

これに対応する韓国語の表現としては、「의문(疑問), 특유(特有), 최악(最悪)」をはじめ、形容詞派生接尾辞「-스럽다, -하다」と結合する名詞が NP₁ にきて、もっぱら NP₂ の状態・性質を表すものが挙げられる。日本語と韓国語の典型的な例を以下に示す。

(695) モニターの前に陣取り、白黒の画像に見入っていた。[PB59_00001]

(696) わざと研究室に電話をかけて葉子の同僚に、緊急の用ができて行けなくなったとだけ、伝言を頼んだ。[PB29_00026]

(697) これが絶好のアサリ，ハマグリの漁場になることはいうまでもない。[BK_87039351]

(698) 매우 실감있는 현실적 기반을 확보했으며, 이를 특유의 관념성과 효과적으로 조화를 이루어냈다. (とても実感ある現実的地盤を確保した上に、これを特有の観念性と効果的に調和させていた) [BHXX0067]

(699) 신사가 모피로 깃을 장식한 고급의 털외투를 벗더니… [DENA075]
(紳士は毛皮で襟を飾った高級な毛皮の外套を脱ぐと…)

77 名詞修飾において「-な」を取る語類である。橋本進吉(1946)をはじめとする伝統文法では「形容動詞」と呼ばれてきたが、影山太郎(1993)等は名詞に近い側面を持っていることから「形容名詞」と称する。

- (700) 아무도 모르게 회심의 미소를 지으며 내 자신의 계략에 스스로 도취되고 있었다.
(こっそり会心の微笑を浮かべながら、自分の計略に自ずから陶醉されていた。)

[DENA026]

日本語においては NP₁ が複合名詞である次のような例も少なからず見出される。

- (701) 色白で、父親ゆずりの少しふっくらした体型で、ふんどしの代わりに白い木綿のパンツをはいて波打ち際をさまようように泳いでいる私を、… [PB39_00009]
- (702) あたりの風景をいっそう寒々とさせていたが、内部にはタイルばりの大浴槽があった。
[楡家の人びと]
- (703) 時代遅れのふるくさい何の意味もない習慣になぜふりまわされなければならないのだらうと、腹立たしい思いをすることだろう。
[BK_86025080]

これら複合名詞の表現に対応する韓国語の表現は、動詞の連体修飾節や単に名詞を並べる形で表されるのが一般的である。例えば、上掲の例(701)～(703)を韓国語で表そうとすると、「아버지를 닮은／아버지에게 물려받은(父親に似ている／父親から譲り受けた)」「타일로 된／타일로 만든／타일이 깔린(タイルで作られた／タイルが引かれた)」「시대에 뒤떨어진(時代に劣る)」のような連体修飾節を用いた表現になってしまう。これは語構成のレベルにおいて日本語と韓国語が対応しないケースであり、タイプ(b)の用法自体が対応しないというわけではない。

例えば、日本語の接尾辞「-だらけ」に対応する韓国語として、接尾辞「-투성이」が挙げられるが、「-だらけ」が付いている NP₁ が現れた場合は日本語の表現と韓国語の表現が対応する。次のような例がそうである。以下の韓国語の例における NP₁ は、「낙서(落書き)」に接尾辞「-투성이」が付いた形になっている。

- (704) 皺だらけのひるこの顔が、歪んでいた。[BK_86056091]
- (705) 몸체가 해체된 볼펜, 낙서투성이의 고무 책받침, 말라빠진 인주감이… [DENA007]
(本体が分解されたボールペン, 落書きだらけのゴムの下敷き, ぱさぱさの肉入れが…)

以上のものはすべて「NP₂はNP₁だ」のような措定文の構造を有しており、これらの「NP₁」は「その」などの指示詞の修飾を直接受けることはできないという特徴をもつ。

タイプ(b) は後述の「所有」における [Pe-Pr] 型と密接な関係にあり、とりわけ注目する必要がある。[Pe-Pr] 型における所有物(Pe)は所有者(Pr)と一体として捉えられる譲渡不可能なものに限られており、タイプ(b)と同様「NP₂はNP₁だ」の構造を有する。

本稿は、「属性叙述内在型 NP₂はNP₁だ」は、「所有」における所有物と所有者の一体性に起因した機能の移行に関わっていると考えている。それは「白い色の → 白色の → 白の」や「同じ年 → 同年の」「細い身の → 細身の」におけるそれぞれの表現が同じ意味を表していることに

端的に現れている。

「紺色のNP, 半円形のNP, 美声のNP」「흰색(白色)의NP, 원통형(円筒形)의NP, 거구(巨軀)의NP」をはじめ、次のような表現は「属性叙述内在型」と「所有」との境界にあるものとして捉えうる。

(706) 引込線に、ぽつんと置き忘れられたような一台の矩形の貨車 [砂の上の植物群]

(707) かなり着古した感じの灰色のセーターを無造作に着ている。[若き数学者のアメリカ]

(708) 店は、若い女性から中年の女性客で結構賑わっていた。[PB29_00003]

(709) 여행인 줄 알면서도 회색의 투피스를 입었던 것은 지금 생각해도 웃음이 나온다.
(旅だということを知っていたにもかかわらず灰色のツーピースを着て行ったのは、今考えても笑ってしまう。) [BEXX0002]

(710) 스페인의 여왕이라고 불리우는 희귀종의 나비를 잡았을 때와 같이 미칠 듯한 환희를 느꼈던 것이다. (스페인의女王と呼ばれる珍種の蝶々を捕えた時のような狂喜を感じたのだ。) [DENA010]

6.3.3. コピュラ関係の属格構造

「コピュラ関係」の一つのタイプである「ユダヤ人のお友達、働きものの虎さん」のような例は「友達はユダヤ人だ、虎さんは働きものだ」のような措定文の構造をもっており、意味構造において前述の「属性叙述内在型－タイプ(b)」に似ている。

ところが、「コピュラ関係」と「属性叙述内在型」における NP₁ の名詞の機能に注目すると、「コピュラ関係」の NP₁ として現れた「ユダヤ人、働きもの」という名詞は、仮に「そのユダヤ人が言った、その働きものが休んだ」などのように指示的に使われるのに対して、前述の「属性叙述内在型」における NP₁ の名詞は「?その中年が言った、?その美貌が休んだ」のように、指示的に使うことは難しく、形容詞的・叙述的に使われるのが一般的であるという点が異なる。

「コピュラ関係」に当てはまる「の」の例としては次のような例が挙げられる。

(711) 正直者のおじいさんが最後には沢山ご褒美もらったお話はこの間したわね。
[BK_86036435]

(712) やっぱり、野球少年とど素人のぼくとでは、問題にはならないよ。[BK_86025045]

(713) フェリーの『ソラーノウ』が夜通し走ってるぜ。[BK_86060958]

韓国語においては、コピュラ関係には「의」を使えないといえる。わずかながらコーパスに現れている以下の例は、NP₁ が名詞と形容詞の中間的な性質を持つもので、例えば「그 신참이 (そ

の新米が), 그 또래가 (その同輩が)」のように、場合によっては指示的に使うことも考えうる。そのため、一見「의」によるコピュラ関係が成り立つように思われるかもしれない。しかしこれらの名詞は意味において形容詞的な性格が極めて強く、名詞でありながらも指示的に使うことは稀である。したがって以下の例は前述の「属性叙述内在型」の一種とみなす。なお、コーパスからは3例のみが現れている。

(714) 신참의 그가 마침내 물봉으로 비쳤음이 분명했다. [DENA075]

(新米の彼がとうとうカモに見えたに違いない。)

(715) 구석자리에 비슷한 또래의 젊은 독일 남자와 나란히 앉아 담소를 나누고 있다가…

(端っこに同じぐらいの年輩の若いドイツの男性と並んで座って談笑を交わして…)

[DENA018]

一方、日本語では「泣き虫の弟、甘えん坊の彼女、くだものの梨」のような表現も珍しくないが、これを韓国語で「?울보의 동생, ?응석받이의 그녀, ?과일의 배」のように表すかという点、構成自体に問題があるとまではいわなくとも、明らかに不自然である。

これらのNP₁に関しては、「その泣き虫、そのくだもの」「그 울보, 그 과일」のように指示的に使うことは珍しくない。このように、指示的に使われる名詞が修飾部になると、韓国語においては属格助詞「의」を用いることは難しく、「울보 동생, 응석받이 그녀, 과일 배」などのように、一般には無助詞の名詞句を用いる。次の例は日韓翻訳資料の例⁷⁸ であるが、日本語では「NP₁のNP₂」で現れた表現が韓国語では「NP₁ NP₂」のように助詞を介さず表されている。

(716) 人間の姿をしたロボットの女性 [映画革命, そして押井守の世界]

인간의 모습을 한 로봇 여성

さらに「オオカミのガブ: 늑대 가브, 後輩の涼子: 후배 료코」のような例が見出される。これらのNP₁は、すべて「あのロボット、その後輩」などのように、指示的表現が自然である名詞である。

次に取り上げるコピュラ関係のもう一つのタイプは、「BはAだ」とはいえるが、その逆は成り立たない前述の「措定構造」のコピュラ関係⁷⁹ とは異なる。例えば、「雷獣を捕えたヒーローのくさまお」「弟の三吾」のような属格構造は、それぞれ「BはAだ/AがBだ」または「BはAだ/AはBだ」のように捉えられる。すなわち「くさまおが雷獣を捕えたヒーローだ/雷獣を捕えたヒーローはくさまおだ」「三吾は弟だ/弟は三吾だ」のような捉え方が可能である点が注目される。これに該当する日本語の例を示す。

78 ここで挙げている「NP₁ NP₂」および「NP₁인 NP₂」の例は、日韓翻訳資料の分析を通して「NP₁のNP₂」の韓国語対応型を提示している韓必南(2010)からの引用である。

79 コピュラ文の多様な用法については西山佑司(2003)を参照。

(717) ウインシミアスというオランダ人のアドバイザーの存在がある。[BK_86019309]

(718) 次作の〈ワンメントⅡ〉は一九四八年十月から十二月の間に描かれた。[BK_86059604]

(719) 雷獣を見ている人々はみんな目を丸くし、雷獣を捕えたヒーローのくさまおまで驚いた顔をしている。[BK_87005220]

このように、コピュラ文のいわゆる「指定文」や「同定文」の解釈が可能な属格構造においては、NP₁として現れる名詞は指示的用法をもっている。

韓国語においては、「저놈의 (あいつの), 그놈의 (こいつの)」のような、NP₁に俗語「놈 (奴)」を含んだ慣用的な表現を除き、このタイプに当てはまる属格構造は見出されない。以下に韓国語の慣用的な表現に当てはまる例を示す。

(720) 삼학년 놈의 새끼가 눈앞에 불뚱이 떨어졌는데도 공부는 안하고… [DENA009]
(三年生(奴)の野郎が切羽詰っているのに勉強どころか…)

「指定」コピュラ文および「同定」コピュラ文の構造をもつ日本語の属格構造についても、対応する韓国語は無助詞の名詞句またはコピュラ文である。

(721) 弟の直治がいつか、お酒を飲みながら… [斜陽]
남동생 나오지가 언젠가 술을 마시면서…

(722) 貧しい両親のもとを離れ、姉の佐津と共に京都に売られて行く。[映画 SAYURI]
가난한 엄마 아빠의 품을 떠나 언니인 사츠와 함께 교토로 팔려 가게 된다.

6.3.4. その他語彙論・語用論に基づく関係

属格構造の中には、語用論的な推論によって短絡的な表現が可能であり、NP₁とNP₂の関係に関する詳細な情報が明示されていないとみなしうるものがある。典型的な例としては、「ガラスのつぼ、綿のシャツ」「시멘트의 담벽 (セメントの土塀)」のようなNP₁がNP₂の「材料・素材」を表しているものや、「はり紙、パンフレット」「이야기 (話し), 그림 (絵)」のように、NP₂に対しNP₁がその「内容」に相当するものなどが挙げられる。

さらに、NP₁が存在文(2章)で取り上げた「属性数量詞」に当てはまる次のような例も同類とみなしうる。これらの意味構造は「NP₂ [の X(所有物)] はNP₁だ」として捉えられる。例えば、次の例は、それぞれ「真心パーティー[の参加費]は一人三〇〇〇円だ」「이동구간[의 거리]는 4km 이다(移動区間の距離は4km だ)」ということを表すが、X(Pe)に当てはまる「参加費」「거리(距離)」が明示されていない。

(723) 一人三〇〇〇円の「真心パーティー」を開き, 別に「県民百円募金運動」を行った。
[BK_87039351]

(724) 훈련소에서 야외교장까지, 그 4km의 이동구간에서는 전혀 본 적이 없는 길이었다.
(訓練所から屋外教場までその 4kmの移動区間では全く見たことのない道だった。)
[DENA026]

以上のような表現は, NP₁ と NP₂ の関係が日常の言語活動において容易に予測されるケースである。さらに, 文脈なしには NP₁ と NP₂ の関連性が不明である例として次のようなものも見出される。

(725) ハーイ, お話のおねえさんよ, 今日はどんなお話しようかしら? [BK_86036435]

(726) 미리는 금시 커피의 현실로 돌아왔다. [DENA006]
(ミリはすぐコーヒーの現実に戻ってきた。)

このような例に関しては, 言語場において話し手と聞き手が NP₁ と NP₂ の関係を既に了解していて具体的な情報を省いていると捉えられる。これらの [NP₁ の NP₂] が表す意味自体は, まさに西山佑司(2003) のいう「NP₁ と関係 R を有する NP₂」にほかならないもので, NP₂ と NP₁ の特定の意味関係は強く文脈依存的であるといえる。

以下では, 上述の「事象叙述内在型」「属性叙述内在型」「コピュラ関係の属格構造」「語用論と語彙論に基づく属格構造」のほか, 一定の所有物のカテゴリーに当てはまるものについて考察する。

6.3.5. 属格構造による所有表現

所有動詞の連体修飾節との比較を念頭において所有物の分類に注目しつつ, 「所有」を表す日本語の [NP₁ の NP₂] と韓国語の [NP₁ 의 NP₂] について見ていく。「所有」における NP₁ は指示的名詞句であり, NP₂ (厳密には N₂) の名詞は叙述性をもっていない。

[NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] をそれぞれ [Pr-Pe] 型と [Pe-Pr] 型に分け, 計量的調査を行った結果を以下に示す。

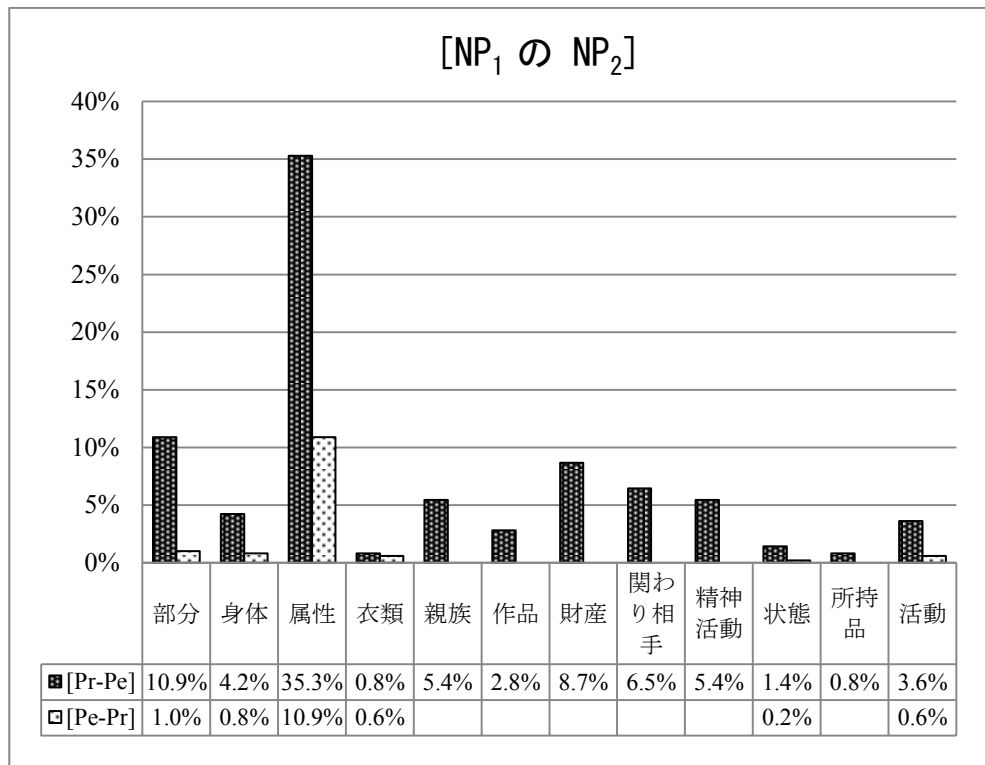


図 34 : 「の」における「所有」の実現様相(496 例)

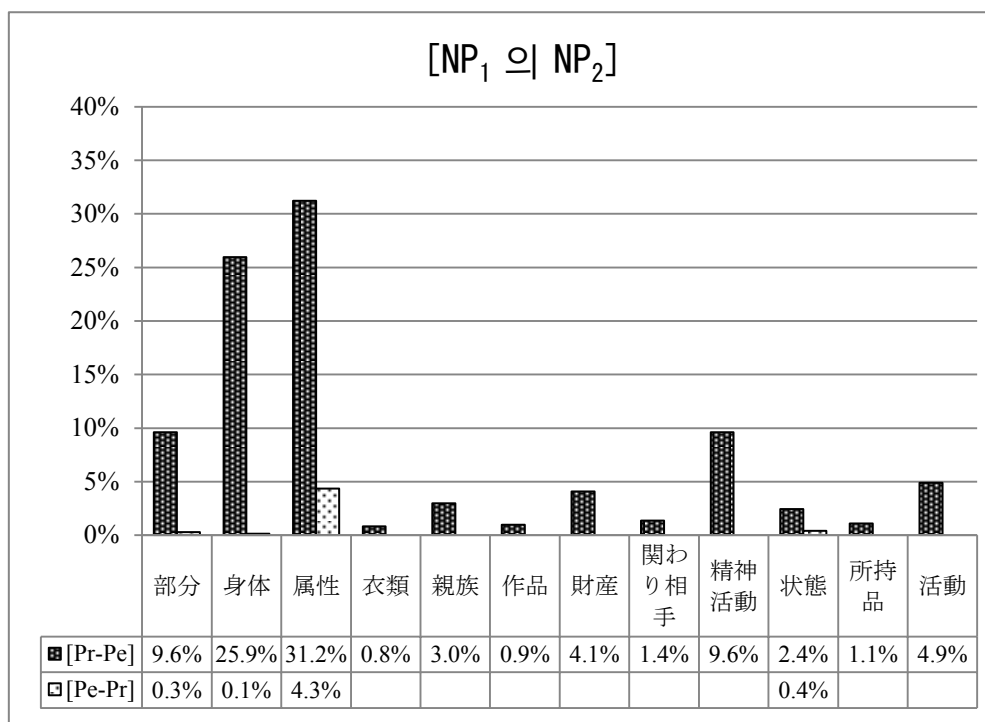


図 35 : 「의」における「所有」の実現様相(740 例)

全般的な傾向をいうと，[NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] はいずれも[Pr-Pe]型でもって「普通所有物」を限定するのが主な機能であり，[Pe-Pr]型の表現は明らかに限られている。これは，所有動

詞による連体修飾節において[Pe V Pr]型が極めて多いということと対照的である。

日本語においては「所有」の約 10%, 韓国語においては 5% のみが[Pe-Pr]型に当てはまる。

[Pe-Pr]型における所有物の語彙に注目すると、日本語と韓国語の両者とも「形, 色」「색깔(色), 형태(形態)」に当てはまる例が目立つ。

「所有」においては、角田太作(1991)で取り上げている「普通所有物」や「非普通所有物」の区別にも注目する必要がある。「普通所有物」は誰にでもある当たり前の所有物を指し、「非普通所有物」は誰にでもあるとは限らない所有物を指す。

「非普通所有物」に当てはまるものは、NP₂ の名詞自体が「非普通所有物」である場合もあれば、「普通所有物」に相当する名詞が形容詞などの修飾語句を伴い、全体として「非普通所有物」に相当するものもある。本稿では修飾語句を含む名詞句が全体として「非普通所有物」に相当するものを「統語的非普通所有物」と呼ぶ。なお、NP₂ の名詞自体が「非普通所有物」である場合について、「統語的非普通所有物」と区別する際は「語彙的非普通所有物」と呼ぶことにする。

以下では、[Pr-Pe] に当てはまるものと [Pe-Pr] に当てはまるものに分け、それぞれの用例とともに「所有物の分類」について見ていく。

6.3.5.1. 所有- [Pr-Pe]型

[NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] (以下「の」と「의」と記す) のうち、[Pr-Pe]型における所有物の分類度を以下の図に示す。

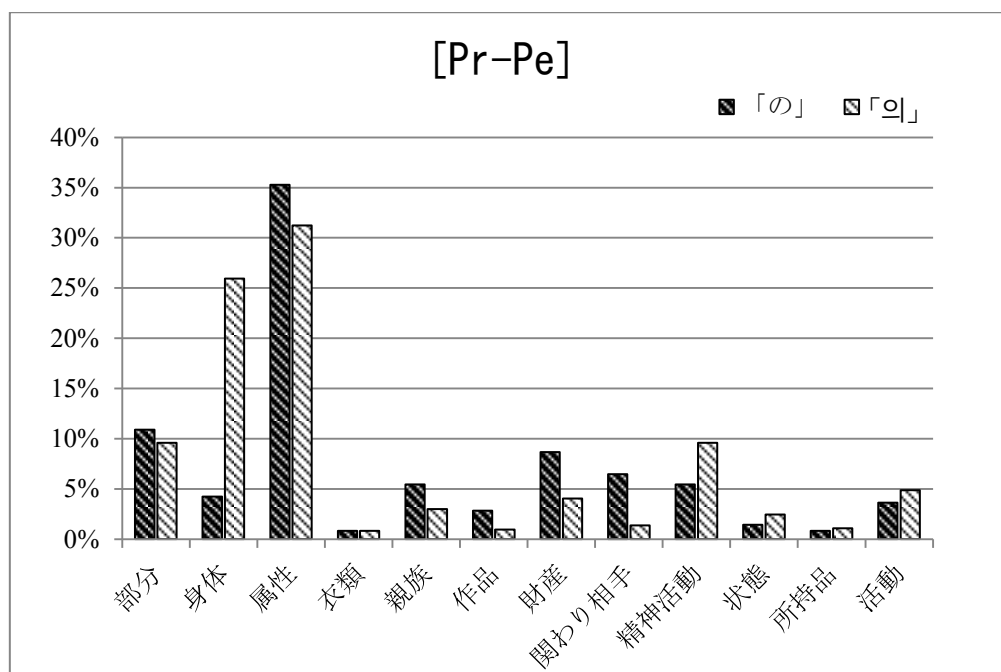


図 36 : 「の」と「의」における[Pr-Pe]型の内訳

[Pr-Pe] 型における所有物(Pe)に注目すると、「の」と「의」は両者とも〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈衣類〉〈親族〉〈関わり相手〉〈作品〉〈財産〉〈精神活動〉〈状態〉〈所持品〉〈活動〉の 12 種類

のカテゴリーに当てはまる例が見出される。

とりわけ「의」における〈身体〉の例は極めて高い割合を示しており、注目される。現れた例を検討すると、「의」の省略が可能であるケースが過半数を超えているものの、「의」の使用頻度は極めて高い。これは（会話文を含む）書きことばでは、属格助詞「의」が多く用いられるという使用傾向を示唆するものとして、注目に値する。

図 36 の所有物のカテゴリーの順に、[Pr-Pe] 型に当てはまる日本語と韓国語の典型的な例を以下に示す。

<部分>

(727) 俺は、しばらく、何をどう考えたものか血迷ってタバコのフィルターをかじっていた。
[BK_86023753]

(728) ホテルのロビーの観察に忙しくて言いそびれたが、… [BK_86031031]

(729) 아파트의 창이 일시에 눈을 압도했다. [DENA006]
(アパートの窓に圧倒された。lit.アパートの窓がいつぺんに眼を圧倒した。)

(730) 전에도 تاک 몇 번 와본 곱창집의 문을 열고 안으로 들어가 구석진 곳으로 자리를
잡고 앉았다. (以前にもタクと何度か来たことのあるホルモン屋のドアを開けて中に
入り、片隅の席に座った。) [DENA007]

上掲の例は「普通所有物」に当てはまるが、「非普通所有物」に当てはまるものとしては次のような例が挙げられる。

(731) おたくが持ってらしたズボンのシミ、あれは取れないわねえ。 [PB39_00017]

(732) 벽면의 낙서들이 흡사 생명있는 한 쌍의 남녀와도 같이 생동감 있게 느껴졌다.
(壁の落書きがまるで生きている一対の男女のように生動感が感じられた。) [DENA010]

<身体>

(733) 女たちののどからあふれる歌の意味は、方言の解らぬ私には理解できなかった。
[BK_86025080]

(734) 松本さんが語ることは自分の目で見、自分のからだで経験したことだからである。
[BK_86043862]

(735) 고모들은 손가락소리 달그락거리며 즐거워하지만 할머니의 얼굴은 어두웠다.
(叔母達はガチャガチャと匙の音を出して喜んでいるが、お祖母さんの顔は暗かった。)
[BB94F014]

- (736) 요즘 겨우 말문이 열리기 시작한 딸 한별의 눈꺼풀에 퍼런 기가 비쳤다.
(最近やっとしゃべり始めた娘の한비올의まぶたに青い影があった。) [BEXX0018]

韓国語においては、NP₂ が〈身体〉を表す名詞であると無助詞の名詞句を用いる場合が多い。
このようなことを考えると、〈身体〉の割合が高いという調査結果は非常に興味深い。

「의」が実現される環境(6.1.2 参照), 例えば, 1 人称代名詞「나」, 3 人称代名詞「그」, さらに「남(他人)」のような語彙の後ろや, NP₁ や NP₂ が修飾を受けている場合などに当てはまる例は 58 例にすぎない。残りの例はすべて「의」を用いなくてもかまわない環境であるが, それにもかかわらず「의」が頻繁に用いられている。

前掲の例をはじめ〈身体〉のほとんどの例は「普通所有物」であるが, 次のような「統語的非普通所有物」に当てはまる例も見受けられる。

- (737) 開けたままのドアに, 国光のいかつい身体が立った。[BK_86056091]

- (738) 미리의 머리에는 아직도 그 부인의 일그러진 얼굴이 가시지 않고 있었다.
(ミリの頭の中にはまだその婦人のゆがんだ顔が消えず残っていた。) [DENA006]

<属性>

〈属性〉に当てはまる「普通所有物」の例を以下に示す。

- (739) 暗い坂道を遠ざかっていく 兄のうしろ姿を見つめて, 新しい恐怖に打たれました。
[BK_86025065]
- (740) 周りに左右されやすい 自分の性格を笑いつつ, カゴ選びに熱中している。[PB39_00017]
- (741) 어둠 속이라 얼굴의 특징이 잘 드러나지 않았다. [DENA019]
(闇の中にいて 顔の特徴がよく現れなかった。)
- (742) 그의 웃는 모습이 꽤 매력 있고 정겹다고 미혜는 생각하였다. [DENA018]
(彼の笑う姿はとても優しくて魅力的だとミへは思った。)

さらに, 「普通所有物」が修飾語句を伴って統語的構成が全体として「非普通所有物」に相当する「統語的非普通所有物」に当てはまるものも見受けられる。次のような例がそれに当てはまる。

- (743) 葉子の不可解な態度もそう考えれば納得がいく。[PB29_00026]
- (744) 그녀의 개방적인 성격에는 이미 두 손 바짝든 상태였다. [DENA018]
(彼女の開放的な性格にはもうお手上げの状態だった。)

「統語的非普通所有物」は、「A は B が～だ」という叙述内容を含んでいる。上掲の例の「葉子の不可解な態度」と「그녀의 개방적인 성격 (彼女の開放的な性格)」は、それぞれ「葉子の態度は不可解だ」、「그녀의 성격은 개방적이다 (彼女の性格は開放的だ)」という命題内容を含意しているといえよう。

一方、「語彙的非普通所有物」に相当するものとしては、次のような例が挙げられる。

(745) それは, きみのニックネームだろ。 [BK_86025045]

(746) 공학도인 그녀의 그림솜씨가 궁금했다. [DENA018]
(工学徒である彼女の絵の腕前が気になった。)

さらに「任務, 秘密, ニックネーム, トレードマーク」「매력 (魅力), 솜씨 (腕前), 권위 (權威), 별명 (あだ名), 불면증 (不眠症), 과거 (過去)」のような名詞が語彙的非普通所有物として現れている。

<衣類>

身に着けている状態の衣類に当てはまるケースとしては以下の例をはじめ、「腕時計, 袴」「내리닫이 겔옷 (上下続き服), 안경 (メガネ), 치마 (スカート)」のような例が見受けられる。

(747) 「私はその証拠をもっている!」と自分のスーツの内ポケットを叩くゼスチャーをして見せた。 [BK_87006174]

(748) 화영회식이 있던 날, 나의 옷소매를 잡아다녔던 그 여자의 얼굴을 다시 그려보았다.
(私の歓迎式があった日に, 私の(服の)袖を引いたあの女の顔を思い描いてみた。) [DENA010]

<親族>

(749) 모하메ッドのお母さんと, 第二夫人が迎えてくれた。 [BK_86043928]

(750) 그녀의 할머니는 어린 삼월이를 키우면서 곧잘 이런 노래를 불렀다고 한다.
(彼女のおばあさんは幼いサムウォリを育てながらよくこんな歌を歌ったそうだ。) [DENA019]

一方、「叔父, 息子, 養子」「언니 (姉), 매형 (義兄), 아들 (息子)」のような親族関係は, 誰にでもあるとは限らない点で「非普通所有物」に相当する。

(751) 犯人が池上陽子の兄であったとは因縁である。 [PB19_00011]

(752) 그러니까 지금의 새어머니 언니의 아들 되는 사람으로 현직 고위 공직자였다.

(つまり今の継母の姉の息子にあたる人で現職の高位公職者であった。) [DENA007]

所有物の種類からすると、「普通所有物」は〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈親族〉のいずれかに当てはまる。日本語と韓国語のいずれにおいても「普通所有物」に当てはまる例が過半数を超えており、極めて目立つ。

このように、「普通所有物」を限定する機能は属格構造の主な機能の一つである。それに対して、5章で考察した所有動詞の連体修飾節においては主に「非普通所有物」の表現に使われ、「普通所有物」を限定する機能は一般的ではない。

以下では「非普通所有物」に当てはまる所有物のカテゴリーを取り上げる。

<関わり相手>

次の例をはじめ、「同僚，連れ合い，知人」「애인 (恋人)，중 (使い)，일행 (連れ)」のような社会的人間関係を表す〈関わり相手〉は「非普通所有物」として捉えられる。

(753) 木田さんの父の友人で彼女が縁故採用の世話になった幹部社員は忘れずに拭んだ

[PB39_00010]

(754) 通してくれ，今行った者の知人だ。[PB39_00013]

(755) 옛애인으로 착각할만치, 그녀는 나의 옛애인을 너무나도 많이 닮아 있었다.

(昔の彼女と勘違いするほど彼女は私の昔の彼女にすごく似ていた。) [DENA010]

<作品>

(756) あのと二人が邂逅しなかったならば，冬本路夫の作品に特別の関心を払わなかったであろう。[PB19_00011]

(757) 그녀의 유고집들을 읽기 시작했을 때 나는 자신도 모르게 뜨거운 진실과 고뇌와 방황이 던지는 흡인력에 휘말려 드는 것을 느꼈다. [DENA018]

(彼女の遺文集を読み始めた時，私は自分も知らないうちに熱い真実と苦悩と彷徨が放り出す吸引力に巻き込まれていく感じがした。)

〈作品〉に関しては，NP₂ の名詞の特定性によって次のような側面が見られる。NP₂ が固有名詞である場合，例えば「シェイクスピアの『ヴェニス商人』」のようなものは，[Pr の Pe である x] 構造の「シェイクスピアの作品の『ヴェニス商人』」を，[Pr の x] 構造の「シェイクスピアの『ヴェニス商人』」のように表していると考えられる。つまり，「シェイクスピアの『ヴェニス商人』」における NP₂『ヴェニス商人』は，「作品(Pe)」の値(x) に相当するとみなしうる。

6.3.4 で取り上げた「三〇〇〇円の真心パーティー」「4km 의 이동구간 (4km の移動区間)」のような、「属性数量詞」を表す場合にも同様なことがいえる。

語用論的な推論によってまたはコンテキストから既に Pr と Pe の関係が明確である場合は、属格構造における NP₂ の位置に直接「Pe(変項)の値」に当てはまる情報がくる、つまり短絡的な表現を用いるのは決して珍しい現象ではない。しかし、名詞の指示性の観点から考えると、所有物 Pe は非指示的であり、「Pe の値」は指示的である点で区別される。本稿では「シェイクスピアの『ヴェニスの商人』」のように、直接 Pe の値が現れたものは「所有」に含めず、「語用論に基づく関係(6.3.4)」とみなす。

<財産>

「資産, 船, アルバム」「귀금속 (貴金属), 유산 (遺産), 여축 (蓄え)」のような例が現れている。

(758) 私と犬とが一緒に写った写真とか, ドッグフードとか, 私のハンカチとか, よく遊んでいたテニス・ボールとか, 私の髪とか, それから預金通帳とかね。[BK_86025010]

(759) 私のいちばん大事なセーターに犬をくるんで, それを木箱に入れたの。[BK_86025010]

(760) 서정도의 충을 내가 메기 시작한 것은 그 무렵의 어느날부터였다。[DENA026]
(ソジョンド(人名)の銃を私が担ぐはじめたのはその頃のある日からだった。)

(761) 죽은 남편의 유품이었다。[DENA010]
(亡くなった夫の遺品だった。)

<精神活動>

(762) そうさ, 研究さ。親父の関心と時代との相関関係を調べられる。[PB29_00035]

(763) 娘の貞操観念を信ずる以外には。[PB29_00003]

(764) 나는 나에 대한 K의 우정을 의심할 수가 없었다。[DENA010]
(僕は僕に対する Kの友情を疑うことはできなかった。)

(765) 그의 저의가 대체 뭐냐 말이다 [DENA007]
(彼の底意はいったい何だというのか)

さらに「意志, 思惑, 恋情」「추구심, 꿈, 용기」のような例も〈精神活動〉に該当する。

<状態>

「病氣，協力態勢」「감금상태 (監禁狀態)，흥 (興)」をはじめ，一時的なありさまを表す。

(766) お腹のすき具合はどう？ [BK_86054866]

(767) 의식의 결빙 상태를 녹여 나가는 인물도 더러는… [DENA026]

(意識の結氷狀態を溶かしていく人物も時には…)

<所持品>

体に所持しているものを指す。「코ップ, 그라스, 태刀」「엽총 (獵銃)，보따리 (包み)，칼 (刀)」などが現れている。

(768) 五百円玉を自分の財布にしまって，おとうさんの財布から十円玉を五枚，ちょうだいした。 [PB39_00023]

(769) 그의 담뱃갑에서 담배를 꺼내 불 붙여 물었다. [DENA007]

(彼のタバコケースからタバコを一本取り出して，火を点けて口にくわえた。)

<活動>

「言葉，歓声」「비명 (悲鳴)，고함소리 (叫び声)」などはそれ自体動作・行為であるというよりは，主体による動作・行為の結果，必然的に発生する事柄を表す。主体(行為者)による一定の動作・行為が前提されるという点に注目すると〈活動〉として捉えうる。

(770) 志津は動かなかったが，表情が平七郎の次の言葉を待っているように見えた。

[PB49_00005]

(771) 街を歩けば前後左右から水のはねる音や子供の歓声が聞こえる。 [PB39_00017]

(772) 사내의 비명이 그로 하여금 내쳐 앞으로 걷게 충동질하는 것이었다. [DENA075]

(男の悲鳴が僕を妻の前の方に歩くように促した。)

(773) 그의 고함 소리에 여자들이 기겁을 했다. [DENA007]

(彼の叫び声に女性たちは仰天した。)

6.3.5.2. 所有- [Pe-Pr]型

「の」と「의」のいずれにおいても，[Pe-Pr] の例は非常に少ない。これらの所有物名詞としては修飾語句を伴った「普通所有物」が一般的である。[Pe-Pr] における所有物の割合を以下の図に示す。

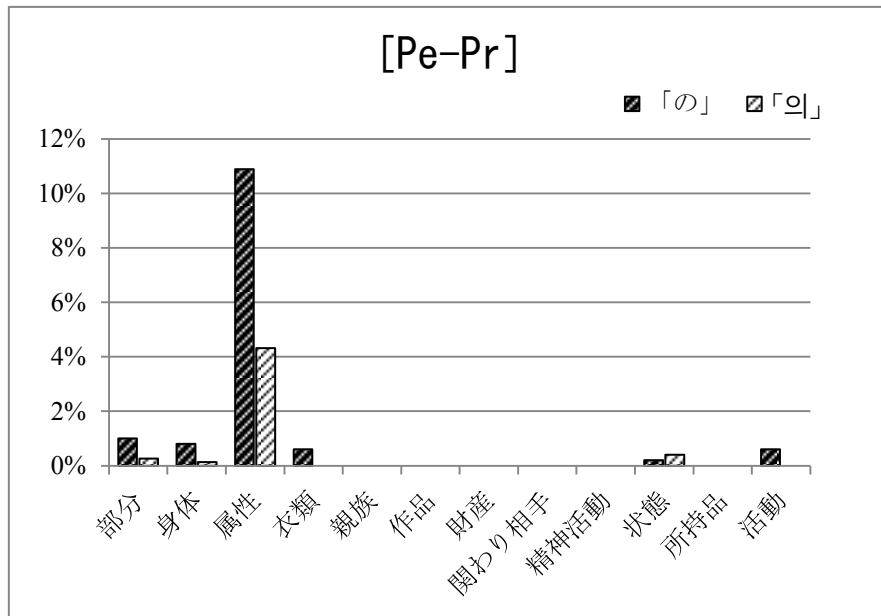


図 37 : 「の」と「의」における[Pe-Pr]型の内訳

「の」においては〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈衣類〉〈状態〉〈活動〉, 「의」においては〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈状態〉に当てはまる例が現れている。[Pe-Pr] に当てはまる「の」と「의」の例を以下に示す。

(774) 公家の育ちのような, みやびやかな雰囲気の人柄であった。〔塩狩峠〕

(775) 大の男の二の腕ほどもある太さの鉄の棒で編まれた鎖が結ばれているのだ。
〔コンスタンティノーブルの陥落〕

(776) 極地探検の服装のアムンセン 〔BK_86049684〕

(777) 겨우 걸음마를 할 나이의 아이에게 죄라는 것이 있을 수가 없다。〔DENA010〕
(やっと歩けるようになったぐらいの年の子供に罪というものはあり得ない。)

(778) 내가 미조 (彌助) 라는 아름다운 이름의 포구에 도착한 것은 지금부터 두 시간 전이었다。(私が「彌助」という美しい名前の浦に到着したのは今から二時間前のことである) 〔DH94S060〕

(779) 담배라면 냄새도 못맡는 이상 체질의 그가 담배를 피운다는 사실만으로도 그의 흥분 정도를 알만 했다。(タバコは匂いも嗅げない異常体質の彼がタバコを吸うという事実だけでも彼の興奮の程度が推し量られた。) 〔DENA007〕

前述したように, これらの NP₁ から修飾語句を取り除いた部分は, NP₂ に対し, 当たり前の所

有物として捉えられる。それゆえ修飾部を取り除くと、「雰囲気の人柄、年の子供、体質の彼」などのような奇妙な表現になってしまうという特徴をもつ。意味的に「NP₂はN₁がNP₁だ」のような叙述内容を含意している。

「の」においては、さらに「エレガンスなスタイルのヒト(属性)」、「真っ黒に日焼けしたスリムな体の彼ら(身体)」、「黒ふくめんの男、P コートの彼(衣類)」のような例が現れている。

「의」においては、「같은 색깔의 벨트 (同じ色のベルト) (属性)」、「생경스런 얼굴의 훈병 (生硬な顔の兵士) (身体)」、「플라스틱 테의 안경(プラスチック(の)ふちのメガネ), 하얀 공간이란 간판의 맥주집 (白い空間という看板の居酒屋) (部分)」のような例が見出される。

[Pe-Pr] の所有物(Pe) として、日本語においては「-色, -形, -型」、韓国語でも同様に「-색(色), -형(形)」が現れている例が際立つ。

6.4. 第6章の結び

本章では、日本語と韓国語の属格構造について意味構造による分類を行った上、属格構造による所有表現について考察した。本章での考察の結果を以下に示す。

まず、[NP₁のNP₂] と [NP₁의 NP₂] の類型には、「所有」「事象叙述内在型」「属性叙述内在型」「コピュラ関係」「その他語彙論・語用論に基づく関係」という、少なくとも5つの類型がある。

まず、「事象叙述内在型」や「属性叙述内在型」の一部は、意味的に「所有」と密接に関わっている。例えば「事象叙述内在型」においては、NP₁とNP₂が「主体と精神活動の関係にあるもの」、つまり「確信、期待、計画」のような名詞がNP₂にきており、NP₁がその主体に当てはまる場合が挙げられる。これらは「確信する、期待する、計画する」のようにサ変動詞の対応形を持つが、それぞれ「確信をもつ、期待をもつ、計画をもつ」のように、所有動詞の対象名詞（所有物）としても実現される。一方、「属性叙述内在型」における「細身の女性、黒の服」のような表現は、それぞれ「細い^体の女性、黒い^色の服」のように、「修飾語句+^{所有物}+の+所有者」構造の「所有」と連続的である。

次に、属格構造による「所有」については、[Pr-Pe] 型や [Pe-Pr] 型といったNP₁とNP₂の実現型に注目し、それぞれの場合の「所有物の分類」について考察した。その結果に基づくと、日本語と韓国語における属格構造による所有表現は、いずれも[Pr-Pe] 型でもって「普通所有物」を限定するのが主な機能であり、[Pe-Pr] 型の表現は明らかに限られている。そしてこれは所有動詞による連体修飾と大きく異なる点である。

[Pe-Pr] 型における所有物名詞に注目すると、いずれにおいてもほとんどの例は「形、色、太さ、性格」「색깔(色), 형태(形態)」のような〈属性〉に当てはまる。

韓国語の属格構造の例において注目すべき点は、[Pr-Pe] 型の「所有物(Pe)」が〈身体〉に当てはまるものが際立つということである。〈身体〉においては、通常、属格助詞「의」の省略が可能であるということから、出現率の低いものと予想していたが、反って高頻度で現れるということがわかった。これは話しことばと書きことばにおける「의」の使用傾向の違いを示唆するものとして注目に値する。

第7章 結論

本論文では、日本語と韓国語における所有表現—「ある/いる, もつ, する, の」と「있다, 가지다/갖다, 하다, 의」—に見られる意味構造の連続的様相と, 連体修飾における機能の棲み分けを明らかにすることを主な目的として, それぞれの書きことばコーパスのデータ(小説)を用い, 計量的調査および分析を行った。

本章では, 統語構造と所有物のカテゴリーに注目しつつ, 大きく所有表現の叙述用法(第Ⅰ部)と所有表現の連体用法(第Ⅱ部)に分けて対照言語学的な観点から考察した結果について述べる。

まず, 7.1 では第Ⅰ部で扱った所有動詞を述語とする構文について, 7.2 では第Ⅱ部で扱った所有動詞の連体修飾節と属格構造について, それぞれ明らかになったことを示す。

その後 7.3 では所有表現に見られる連続的様相および連体修飾における機能の棲み分けについて述べる。7.4 では本論文での考察が「所有」に関する今後の研究にいかに関与されるべきかを含め, 今後の課題と展望について述べる。

7.1. 所有動詞の叙述用法

「ある/いる, もつ, する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」の叙述用法における「所有物の分類度」を以下に示す。

所有物のカテゴリーは基本的に角田太作(1991)の「所有傾斜(1.2 参照)」に基づくが, 実例の分析を踏まえて〈部分〉〈財産〉〈関わり相手〉〈精神活動〉〈状態〉〈所持品〉〈活動〉を新たに提示した。以下の図において, 印のないところは該当の例が観察されないということを表す。

	1%未満 △	1%～ ○	5%～ ◎	10%～ ●	20%以上 ●●					
いる				◎		◎				
ある	○	△	●●	△	○		●●	●		
있다	○	△	●●	◎	◎	◎	●	●	○	
もつ		○	●●	○	●	△	●●	○	●●	○
가지다/갖다	△	○	●●	△	●	△	●●		△	◎
する		●●	●●					●●		
하다		●●	●					●●		
	部分	身体	属性	親族	財産	関わり 相手	精神 活動	状態	所持 品	活動

図 38 : 所有動詞の叙述用法—所有物の分類度

・「ある/いる」と「있다」

i) 日本語における「いる」と「ある」について, ヒトの所有においては「ある」より「いる」の方が明らかに生産的である。とりわけ親族以外の人間関係(本稿の「関わり相手」)を指す「友達, 彼氏, 彼女」などに「ある」が使われた例は見受けられない。

ii) 「ある」と「있다」について, 両者の所有物の分布は極めて似ているものの, 所有物のカ

テゴリーのうち〈所持品〉については、「있다」による表現は珍しくないのに対して、「ある」による表現は見受けられず、日本語ではもっぱら「もつ」で表す傾向がある。

iii) 「ある/いる」による所有表現に比べると、「있다」による所有表現では二重主格構文を比較的多く用いる。

iv) 〈状態〉に当てはまる「熱, 暇, 時間, 予定, 約束, 用事 + 動詞」および「話, お願い, 質問 + 動詞」のような表現は存在動詞によって頻繁に表される所有表現の一つである。

v) 「ある/いる」と「있다」のいずれにおいても、「～こと／～ところ／～もの／～人」, 「～일(こと)／～데(ところ)／～것(もの)／～사람(人)」などを主名詞とする統語的構成の所有物名詞句が頻繁に表れる。

・「もつ」と「가지다/갖다」

i) 〈精神活動〉〈属性〉〈財産〉の所有表現が生産的である点では共通する。ところが、〈身体〉〈属性〉〈親族〉〈所持品〉においてそれぞれ異なる側面が観察される。

ii) 「もつ」においては、〈身体〉の表現に「テ形」を用いないのに対して、韓国語においては「〈身体〉+가지고/갖고」の形式が目立つ。「〈身体〉+가지고/갖고」の多くは「그 얼굴로 (その顔で), 그 몸으로 (その体で)」のように、具格名詞句への言い替えが可能であり、「～にもかかわらず/～くせに/～のに」のような「譲歩節」の意味として使われる。このような「〈身体〉+가지고/갖고」は「가지다/갖다」の文法化に繋がるものと考えられる。

iii) 変化性がなく恒常的な性格を持つ〈身体〉や〈属性〉の所有表現において、「もつ」の場合は「タ形」を使えないのに対して、「가지다」の場合は過去形「가졌다」の例も珍しくない。過去形で表れた例はすべて進行形と意味的に対立を成さない。

iv) 〈親族〉の所有表現は、「もつ」と「가지다/갖다」のいずれにおいても、目上の者には使い難いなど、存在動詞に比べ、限られる傾向が強い。また、「가지다/갖다」においては、典型的な親族の所有とは区別されるが、「아이를 가지다/갖다 (lit. 子供をもつ)」でもって「子供を授かる/妊娠する」という意味を表す表現が頻繁に使われる。

v) 「もつ」は、「モノ名詞+もつ + V₂」の用法に限らず、〈所持品〉の表現に頻繁に使われるのに対して、「가지다/갖다」においては、「モノ名詞+가지다/갖다 + V₂」の構成を除き、「所持」を表す表現は極めて制限される。これは、「들다」や「지니다」という「所持」の意味を表す別の動詞の用法に影響されていると考えられる。

・「する」と「하다」

i) 静的な意味を表す「～をする」と「～를 하다」の叙述用法について、所有物名詞に注目すると、「する」と「하다」はいずれも「身体」や「身体に関わる事柄」に使われるが、「身体に関わる事柄」はさらに恒常的〈属性〉を表すものと、一時的な外見の特徴を表す〈状態〉に分類される。「する」と「하다」による所有表現は、さらに、ヒトに限らず、事物に付随する抽象的な事柄にも頻繁に使われるが、とりわけ視覚的に確認できる「形」や「色」を表すものが目立つ。

ii) 所有物名詞に先行する修飾部に注目すると、「する」においては、所有物名詞が形容詞の

修飾語句を伴っているものが際立つのに対して、「하다」においては、名詞句による修飾の方が形容詞による修飾を上回っている。これと関連して、日本語の「形容詞+所有物+する」に対する韓国語の対応表現としては、「形容詞+所有物+하다」よりも、形容詞文の方が選択されやすいと考えられる。

iii) 「する」と「하다」の活用形に注目すると、〈身体〉〈属性〉に当てはまる「する」は、「いい年をして」のような「慣用的表現」を除き、「シテイル」の形(93%)で表される。それに対して、「하다」においては、「하고 있다 (している) 」の形が最も多いものの、「해가지고 (してあって) , 하고 (して) , 한다 (する) , 했다 (した) 」の多様な形式が現れる。

iv) 「〈身体〉〈属性〉+する」は文末動詞の言い切りの形が明らかに多いのに対して、「〈身体〉〈属性〉+하다」は副詞節をはじめ、接続節を成しているものが目立つ。

v) 〈状態〉は、「青白い顔」「흥분된 모습 (高ぶった姿)」のような「物理的な変化」の結果生じた状態を表すタイプと、髪型や服装を表す「格好」タイプに分けられるが、「하다」においては「格好」タイプの〈状態〉の表現が比較的多い。一方、「する」においては〈身体〉の表現が最も目立つ。

vii) 〈状態〉における動詞の活用形は、〈身体〉〈属性〉の場合に比べ、「シテ」と「하고」の形が明らかに高頻度で現れる。

7.2. 連体修飾の所有表現

連体修飾節を成している「ある/いる, もつ, する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」に加え、日本語と韓国語の属格構造 [NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂] を対象に、被修飾名詞が所有物に相当するかそれとも所有者に相当するかに注目しつつ、それぞれの構成に見られる特徴を示す。

連体修飾の所有表現における所有物の分類度は次の通りである。() 内の % は各所有表現における[所有者-所有物]型と[所有物-所有者]型の相対的割合を表す。

		1%未満 △	1%～ ○	5%～ ◎	10%～ ●	20%以上 ●●							
いる	(8%)	○		△		○						○	
있다	(7%)	○		○					○			△	
もつ	(28%)			●		○	△	●				◎	
가지다	(32%)			●		◎		◎				○	○
의	(86%)	●	○	●●	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○
의	(95%)	●	●●	●●	○	○	○	○	○	●	○	○	○
		部 分	身 体	属 性	衣 類	親 族	作 品	財 産	関 わ り 相 手	精 神 活 動	状 態	所 持 品	活 動

図 39：連体修飾 - [所有者(Pr)-所有物(Pe)]型における所有物の分類度

いる	(92%)			○		○							
ある		◎	○	●●		○			○	●			
있다	(93%)	○	○	●●		◎	○		○	◎			
もつ	(72%)	○	○	●●		○	△	◎	◎		●	○	
가지다	(68%)	△	◎	●●		○		◎	△	◎		○	○
する	(100%)		●●	◎							●●		
하다	(100%)		●	●●							●●		
의	(14%)	○	○	●	○						△		△
의	(5%)	△	△	○							△		
		部 分	身 体	属 性	衣 類	親 族	作 品	財 産	関 わり 相 手	精 神 活 動	状 態	所 持 品	活 動

図 40：連体修飾 - [所有物(Pe)-所有者(Pr)]型における所有物の分類度

・「ある/いる」と「있다」

まず、「いる」においては、名詞句の「トコロ性」の制約と「有情性」の制約に影響され、「所有」は[所有物+動詞+所有者]型に限られる。

「ある」においては、[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]の例も見受けられるものの、9割以上は[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]として実現されている。[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]の例が少ないのは処格名詞句の「トコロ性」の制約に起因する。

[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]型の所有物には、〈部分〉〈属性〉〈精神活動〉〈状態〉の例が現れているが、所有者名詞に注目すると、感情の現れる場所として捉えられる身体名詞を含め、場所名詞がきている例がほとんどである。

叙述用法の場合と同様、連体修飾用法においても「見識ある／魅力ある」をはじめとして「連語構成」の例が多く現れる。

「있다」においても、[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]型に当てはまるものは非常に少ない。表される所有関係が非常に限られている点や、所有物の種類においても、日本語の「ある」の場合に極めて似ているということが注目される。一方、[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]型における所有物には、統語的構成をなしている所有物名詞句も現れており、種類においても「叙述用法」の場合とほぼ変わらない。

また、「권위 있는 (権威ある)」「용기 있는 (勇氣ある)」「교양 있는 (教養ある)」のように、所有物名詞句が主格助詞を伴わず、述語と「連語構成」を成しているものが目立つ点で「ある」の場合と共通している。さらに、「유별난 데 (変わったところ)」「신사다운 구석 (紳士らしいところ)」のように、統語的構成を成している所有物名詞句の出現が珍しくないのも「ある」との共通点である。

・「もつ」と「가지다」

「もつ」と「가지다」においても、[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]は「恒常的所有」から「一時的所有」にわたって幅広く使われるのに対して、[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]となると所有物が制限されるという傾向が見られる。とりわけ恒常的な性格の強い〈部分〉〈身体〉〈親族〉の所有

は、[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]によっては表現されにくい。

活用形に注目すると、[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]における「もつ」の「タ形」と「ル形」は、意味的に対立しないのが一般的であり、かつ出現頻度においても大きく変わらない。「もつ」の「タ形」と「ル形」は、通常、韓国語の「가진」と対応するが、これは「もつ」の「ル形」と「가지다」の連体現在形「가지는」が意味的に対応しないということに起因すると考えられる。韓国語における「가지는」は、もっぱら一般的・習慣的傾向を表す場合に使用されており、連体過去形「가진」と言い替えられる場合は非常に少ない。

さらに、「가진」は、[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]に限らず、[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]においても静的な事柄を表すことができる。それに対して、「もつ」の「タ形」は、[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]においては韓国語の「가진」と同じ傾向にあるものの、[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]となると「動的」な表現にしか用いられないという点が異なる。

次に、「もつ」と「가지다」は、次のような点において似ている。

「もつ」の「テイル形」と、「가지고 있는」は、いずれも[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]において多く使われているのに対して、[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]型となると使用頻度が著しく低くなるという傾向がある。これは、前述の[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]型における「もつ」の「タ形／ル形」と、「가진」の用法に起因する。

もう一つ注目に値する現象として、「もつ」と「가지다」のいずれも、[所有者(Pr)+動詞+所有物(Pe)]の〈属性〉において、現れる活用形が所有者の有情性に影響されるということが挙げられる。

「もつ」においては、所有者が有情物であると「テイル形」が多く使われるのに対して、所有者が無情物であると「ル形」の方が多く使われるということがわかった。

「가지다」においては、所有者が有情物であると「가지는」はほとんど使われず、「가진」に次いで「가지고 있는」が多く現れている。それに対して、所有者が無情物である場合は、逆に「가지는」の使用が最も目立ち、「가지고 있는」の使用は著しく少ないということが注目される。

このように、活用形の間に意味的対立が見られない場合でも、所有物の種類によって、より頻繁に使われる形式と使用頻度の少ない形式があり、それぞれの実現様相に違いが見られる。

・「する」と「하다」

「する」と「하다」による「所有」は、[所有物(Pe)+動詞+所有者(Pr)]型に限られる。所有物のカテゴリーは〈身体〉、ヒトやモノの恒常的外見に関わる〈属性〉、一時的な外見に関わる〈状態〉に分類される。「する」と「하다」いずれにおいても、叙述用法に比べ、所有物(対格名詞)として現れる語彙の種類がさらに制限される。〈身体〉を指し示す名詞は、「する」の場合は「顔」のみであり、「하다」の場合は「얼굴 (顔), 눈 (目), 몸 (身)」の3種類に限られている。

一方、〈属性〉に当てはまる名詞は「形, 形態, 色」「모양 (模様), 모습 (姿), 형태 (形態), 색 (色)」のような語彙が目立つ。

次に、叙述用法と同様、「する」においては内在的〈身体〉〈属性〉を表すものが目立つのに対して、「하다」においては一時的な格好を表す〈状態〉が目立つ。

活用形に関しては、「する」と「하다」いずれにおいても連体過去形が一般的であり、連体現在形や連体進行形の使用は珍しい。

・ [NP₁ の NP₂] と [NP₁ 의 NP₂]

属格構造による「所有」では、[所有者_{-POSS} 所有物]型は特に制限なく、幅広い範囲にわたって用いられる。それに対して、[所有物_{-POSS} 所有者]型の表現は極めて限られる。

[所有物_{-POSS} 所有者]型における所有物のカテゴリーを見ると、日本語においては〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈衣類〉〈状態〉〈活動〉、韓国語においては〈部分〉〈身体〉〈属性〉〈状態〉の例が見受けられるものの、ほとんどの例は「形、色、太さ、性格」「색깔(色), 형태(形態)」のような〈属性〉に当てはまる。

次に、[NP₁ 의 NP₂] において、[所有者_{-POSS} 所有物]型の「所有物」のうち〈身体〉に当てはまる例が極めて目立つが、このような傾向は属格助詞「의」の省略の可否を巡る問題と関連して注目し値する。〈身体〉の表現には属格助詞「의」の使用が必須ではない(6.1.2 参照)にも関わらず、[NP₁ 의 NP₂] による表現が際立つということがわかった。これは、準話しことば(会話文)を含む書きことばにおける「의」の使用傾向の一つとして興味深い。

7.3. 所有表現に見られる機能の棲み分けと意味の連続性

連体修飾の所有表現においては、[所有物(Pe)-所有者(Pr)]と[所有者(Pr)-所有物(Pe)]という構造による違いが著しいということに注目すべきである。所有動詞による連体修飾と属格構造は次のような相補的分布を成していると考えられる。なお、以下の図の網掛けのところは右側の各形式による一般的な表現であるということを表し、「?」は表現されにくいということを表す。

所 有			
[所有物(Pe)-所有者(Pr)]		[所有者(Pr)-所有物(Pe)]	
		?	ある/いる 있다
		?	もつ 가지다/갖다
	?	?	する 하다
	?		の 의

図 41：所有動詞の連体修飾と属格構造の相補的分布

「ある/いる」と「있다」の[所有物-所有者]型において「連語構成」の表現が目立つことや、「もつ」と「가지다/갖다」の[所有物-所有者]型において一般にテンス・アスペクト形式が意味的な対立を成さないこと、さらに「する」と「하다」による所有表現は[所有物-所有者]型に限られるということなど、これらはすべて[所有物-所有者]型における所有動詞の文法化の現れで

あると考えられる。

そしてこのような現象は、属格構造による所有表現と密接に関わっている。属格構造の所有表現では、[所有者-所有物]型でもって「普通所有物」を限定する機能が主要であり、[所有物-所有者]型の表現は極めて限られる。このように、所有動詞の連体修飾の場合と属格構造による所有表現が相補的分布を成す傾向にあるということに注目しなければならない。

属格構造の[所有物-所有者]型は、見かけ上「所有」とみなされるものの、意味構造においては本稿の「属性叙述内在型」に当てはまる属格構造とともに「形容詞文」や「措定コピュラ文」の機能に移行しているとみなすべきかもしれない。

本稿は、属格構造におけるタイプ(b)の「属性叙述内在型」は、[所有物-所有者]型における所有者と所有物の一体性に起因した機能の移行([所有物-所有者]型 → 属性叙述内在型)に関わっていると考えている。例えば、「丸い形の柱→円形の柱→丸い柱」や「赤い色の花→赤色の花→赤い花」におけるそれぞれの表現が同じ意味を表していることにそれは端的に現れている。

また、もっぱら[所有物-所有者]型でもって身体や身体に関わる属性を表す「する」と「하다」による所有表現も、属格構造の[所有物-所有者]型と同様、「形容詞文」と連続線上にある。

一方、「ある/いる」と「있다」における「一時的所有」や、「もつ」と「가지다/갖다」における〈精神活動〉〈所持品〉〈活動〉の表現、属格構造における「事象叙述内在型」と「所有」との関わりなどは「動詞文」と「所有」の連続性を反映していると考えられる。

以下では先行研究で取り上げた西山佑司(2003, 2004)の「存在文の分類」、益岡隆志(1987, 2008)の「叙述の類型」、角田太作(1991)の「所有傾斜」と関連して、本稿で明らかになった点について述べる。

第一に、「ある/いる」構文について、西山佑司(2003, 2004)で提示している「場所存在文」「所在文」「実在文」「帰属存在文」「リスト存在文」「所有文」「絶対存在文」に加え、本稿では「生起存在文」「属性数量詞存在文」「様態存在文」「処格措定存在文」「倒置指定存在文」という文型があることを実例とともに示した。

同じ観点に基づいて「있다」構文を検討した結果、「ある/いる」構文のうち〈属性数量詞存在文〉を除き、対応する文型が認められるということがわかった。

「ある/いる」構文の〈属性数量詞存在文〉に対応する韓国語の表現としては、「되다 (なる)」を用いた構文が挙げられる。例えば、「집까지의 거리는 10 미터도 될까 말까 했다 (家までの距離は 10 メートルあるかないかくらいだった。)」のような表現がそれに当てはまる。

また、「있다」構文のみに見られる文型として〈時間存在文〉〈具格措定存在文〉を提示した。〈時間存在文〉とは、時間名詞や副詞を伴って時間の経過を表す文のことであり、「일주일 있으면 (一週間待てば) / 조금 있다가 (少し経てから/待ってから)」のようなものがそれに当てはまる。

一方、〈具格措定存在文〉は、具格名詞句「NP-로/으로」でもって主語名詞句の指示対象の職業・身分・役割を表す表現であり、その例として「종업원으로 있다 (従業員-INS ある) / 총각으로 있다 (未婚の男-INS ある)」のような表現が挙げられる。

ところが、「非空間的存在文」のなかには、先行研究で提示している文型を含め、措定コピュラ文の意味構造を有するタイプと、指定コピュラ文の意味構造を有するタイプが観察される。本

稿ではこれらをそれぞれ「指定構造存在文」と「指定構造存在文」と呼んでいる。

「指定構造存在文」には、〈所有文〉〈属性数量詞存在文〉〈処格指定存在文〉〈具格指定存在文〉〈実在文〉が当てはまり、「指定構造存在文」には〈倒置指定存在文〉〈リスト存在文〉〈帰属存在文〉が当てはまる。また、これらのいずれの意味構造にも当てはまらない文型として〈絶対存在文〉〈時間存在文〉が挙げられる。

益岡隆志(1987, 2008) の「叙述の種類」の観点から考えると、すべての文は「事象叙述文」または「(準)属性叙述文」のいずれかに当てはまるということであるが、第 2 章で取り上げた「指定構造存在文」や〈絶対存在文〉は「事象叙述文」と「(準)属性叙述文」のいずれの特徴も有しない。つまり、益岡隆志(1987) の叙述の種類はすべての文に当てはまる包括的な分類とは言えず、新たなタイプの類型を認める必要がある。

以上のように、本稿では典型的な所有表現に限らず、「存在」や「属格構造」の多様な用法までを考察範囲に含め、所有とその周辺の表現の機能について見てきた。所有文の意味範囲を叙述の種類の観点から図式化すると次のように示しうる。

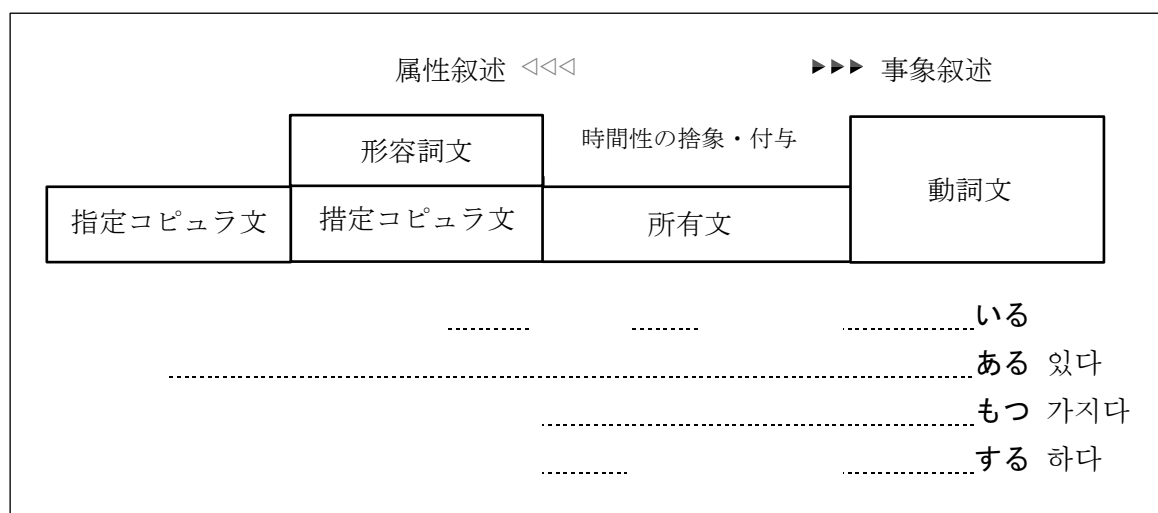


図 42：叙述の種類における「所有文」の位置づけ

「ある/いる、もつ、する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」の所有文における対照的な側面の詳細は 7.1 で示した。所有文とその周辺の意味範囲をも含めて、より大きな枠組みから考えると、「ある/いる、もつ、する」と「있다, 가지다/갖다, 하다」は、図 42 のような分布を成している。

とりわけ、「ある/いる、もつ」と「있다, 가지다/갖다」による〈所有文〉は「一時的所有」から「恒常的所有」まで幅広く用いられる。これは所有文を事象叙述と属性叙述の中間的な性格を持つものとみなすべき理由の一つである。

最後に、角田太作(1991) は、第 1 章で述べた通り、日本語の「する、所有する、持つ、ある、いる」および属格構造について、それぞれ使える所有物の分布を「所有傾斜」上に示しているが、所有動詞の連体修飾用法や、实例に基づく使用実態については調査を行っていない。

本論文では、日本語と韓国語における上掲の所有表現について、所有物の分類度および、[所

有者-所有物]型と[所有物-所有者]型による実現様相の違いなど、それぞれの所有動詞の使用実態を具体的な言語現象を踏まえて対照言語学的な観点から記述した。

角田太作(1991)での所有物の分類に加え、本論文で新たに提示した〈部分〉〈財産〉〈関わり相手〉〈精神活動〉〈状態〉〈所持品〉〈活動〉という所有物のカテゴリーは、所有文と所有動詞の形態・統辞的なふるまいに影響を及ぼす。

さらに、連体修飾構造においては、動詞による所有表現と属格構造による所有表現が相補的な分布を成していることを示した。

7.4. 今後の課題と展望

本稿の序章で述べたように、本稿ではコーパスのデータのうち小説の資料に絞って検討しているため、限られた範囲の考察に留まっている。とりわけ第6章における韓国語の属格助詞「의」の例については、話しことばになると無助詞で表される場合も多く、文体による違いにも注目する必要がある。今後はさらに広い範囲のジャンルに加え、話しことばにおける無助詞の名詞句の使用傾向についても検討することが重要である。さらに属格構造において、位置関係、数量関係、時間関係、所在、生起に関わるものを考察の対象外としたが、これらについても対照言語学的な観点から考察を加えることが必要である。

本論文では、「所有」について典型的なもののみならず周辺のものまで、比較的広範囲にわたって考察を行った。その結果、前節で示したように、「所有」のなかにはコピュラ文や形容詞文、さらには動詞文の意味構造と連続体をなしているものがあるということがわかった。「事象叙述」や「属性叙述」に繋がる現象は、いうまでもなく名詞句の性質と深く関連しており、実現される名詞句の意味的特徴に注目することは極めて重要である。今後は、とりわけ形容詞文とコピュラ文における名詞句の性質に注目して、「所有」との関連性についてさらに追及していくことが肝心である。また、所有・所持を表す他の動詞や、着脱動詞をはじめとする結果状態を表す動詞についても、本稿の観点から考察を加えることにより、「所有」と周辺の構文との関係をより明確に示すことが可能となるとと思われる。

略語一覧

略語		日本語訳	略語		日本語訳
ABL	ablative	奪格	ITER	iterative	反復
ACC	accusative	対格	LOC	locative	位格
ADLZ	adverbializer	副詞化	MOD	modality	モダリティ
ADN	adnominal	連体修飾	NEG	negative	否定
ADV	adverbial	副詞	NOM	nominative	主格
ADJLZ	adjectivalizer	形容詞化	OBL	obligation	義務
AFF	affirmative	確言	OPT	optative	希求
ANT	anterior	先行	PARA	parallel	並立
ATTR	attributive	連体形	PASS	passive	受身
CAUS	causative	使役	PAST	past	過去
COM	comitative	共格	PL	plural	複数
COMP	comparative	比較	POSS	possessive	所有格
COND	conditional	条件	POT	potential	可能
CONT	continuative	継続	PRF	perfect	完了
COP	copula	コピュラ	PROH	prohibitive	禁止
CV	converb	副動詞	PRS	present	現在
DAT	dative	与格	PURP	purposive	目的
ESS	essive	様態格	QUOT	quotative	引用
EXCL	exclamatory	感嘆	REC	recollection	回想
FUT	future	未来	RHET	rhetorical	反語的
INTRR	interrogative	疑問法	REQ	request	勧誘
HBT	habitual	習慣	SFP	sentence final particle	終助詞
HON	honorific	敬称	SIM	simultaneous	同時
IMP	imperative	命令法	TER	terminative	到格
IND	indicative	直說法	TOP	topic	主題
INFER	inferential	推量	VOL	volitional	意志
INS	instrumental	道具格/向格	-	形態素境界	

参考文献

<日本語で書かれた文献>

- 安平鎬・張根壽(2001)「一字漢語+スル」と「一字漢語+하다」鈴木英一編『「하다」と「する」の言語学』, 筑波大学
- 飯田隆(2002)「存在と言語－存在文の意味論」中川純男編『西洋精神史における言語観の諸相』31-71, 慶應義塾大学言語文化研究所
- 伊藤英人(1989)「現代朝鮮語動詞の非過去テンス形式の用法について」『朝鮮学報』131: 1-44, 朝鮮学会
- 伊藤英人(1990)「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1)－ㄷ다形について」『朝鮮学報』137: 1-53, 朝鮮学会
- 伊藤英人(2007)「名詞をめぐって」野間秀樹(編)『韓国語教育論講座 第1巻』: 537-551, くろしお出版
- 井上優(2011)「動詞述語のシタの二義性について」『国立国語研究所論集』1: 21-34, 国立国語研究所
- 井上優(2012)「事態の叙述様式と文法現象－日本語から見た韓国語－」野間秀樹(編)『韓国語教育論講座』, くろしお出版
- 井上優・生越直樹・木村英樹(2002)「テンス・アスペクトの比較対照－日本語・朝鮮語・中国語－」生越直樹(編)『対照言語学』シリーズ言語科学第4: 125-159, 大学出版会
- 林八龍(1995)「日本語と韓国語における表現構造の対照考察－日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として」『宮地裕・敦子先生古希記念論集 日本語の研究』, 明治書院
- 梅田博之・村崎恭子(1982b)「テンス・アスペクト－現代朝鮮語－」『講座日本語』11: 40-60, 明治書院
- 奥田靖雄(1983)「に格の名詞と動詞とのくみあわせ」言語学研究会編『日本語文法・連語論(資料編)』: 281-323, むぎ書房
- 奥田靖雄(1996)「文のこと－その分類をめぐって－」『教育国語』2-22: 2-14
- 奥津敬一郎(1983a)「不可分離所有と所有者移動」『都大論究』20, 東京都立大学国語国文学会
- 奥津敬一郎(2007)『連体即連用?－日本語の基本構造と諸相』, ひつじ書房
- 丹羽哲也(1996)「ル形とタ形のアスペクトとテンス－独立文と連体節－」『人文研究』48(10): 703-740, 大阪市立大学文学部
- 生越直樹(1982)「日本語漢語動詞における能動と受動－朝鮮語 hata 動詞との対照」『日本語教育』48: 53-65, 日本語教育学会
- 生越直樹(1989)「文法の対照的研究－朝鮮語と日本語－」山口佳紀編『講座日本語と日本語教育 5』: 341-361, 明治書院
- 生越直樹(1995)「朝鮮語 hayssta 形, hay issta 形 (hako issta 形) と日本語シタ形, シテイル形」国立国語研究所(編)『研究報告集』16: 185-206, 秀英出版
- 影山太郎(1980)「語彙意味論の問題－語彙分析と典型－」『言語文化研究』6: 1-20, 大阪大学
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』, ひつじ書房
- 影山太郎(2004)「軽動詞構文としての『青い目をしている』構文」『日本語文法』4-1: 22-37
- 影山太郎(2008)「属性叙述と語形成」, 益岡隆志(編)『叙述類型論』: 21-43, くろしお出版
- 影山太郎(2010)「複合語のタイポロジーと日本語の特質」『国語研プロジェクトレビュー』1-1: 5-27

- 風間伸次郎(1999)「アルタイ諸言語のいくつかにみられる所有／存在を示す一形式について」『알타이 학보』 9: 93-124, 한국알타이학회
- 風間伸次郎(2003)「アルタイ諸言語の3 グループ (チュルク, モンゴル, ツングース), 及び朝鮮語日本語の文法は本当に似ているのか: 対照文法の試み」, アレキサンダー・ボビン, 長田俊樹(編)『日本語系統論の現在』: 249-342
- 風間伸次郎他(2013)「特集「所有・存在表現」」『語学研究所論集』18:95-378, 東京外国語大学語学研究所
- 加藤重広(2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』, ひつじ書房
- 菅野裕臣(1981)『朝鮮語の入門』, 白水社
- 菅野裕臣(1987)「朝鮮語のテンスとアスペクト」『学習院大学言語共同研究所紀要』9, 学習院大学言語共同研究所: 60-70
- 菅野裕臣(1990)「アスペクトー朝鮮語と日本語ー」『国文学 解釈と鑑賞』55-1: 117-122, 至文堂
- 金水敏(1984)「「いる」「おる」「ある」ー存在表現の歴史と方言」『ユリイカ』臨時増刊: 284-293, 青土社
- 金水敏(2006)『日本語存在表現の歴史』, ひつじ書房
- 金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』第 188 輯: 1-83, 朝鮮学会
- 金恩愛(2007)「日本語の「する」は韓国語でいかに現れるかー翻訳テキストを用いた表現様相の研ー」, 第 58 回朝鮮学会大会発表論文
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『言語研究』15: 48-63
- 岸田文隆(1997)「있은初探」国立国語研究所編『日本語と外国語との対照研究 IV 日本語と朝鮮語 (下巻)』: 227-254, くろしお出版
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキストー現代日本語の時間の表現ー』, ひつじ書房
- 河野六郎(1947)「朝鮮語ノ羅馬字轉寫案」『Tôyôgo Kenkyû』2; 河野六郎(1979)『河野六郎著作集』1: 96-97, 平凡社
- 河野六郎(1979)『河野六郎著作集 第 1 巻』, 平凡社
- 国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞ー用法と実例ー』, 秀英出版
- 国立国語研究所(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』, 秀英出版
- 佐久間鼎(1941)『日本語の特質』, 育英書院
- 定延利之(2008)『煩惱の文法』, 筑摩書房
- 佐藤琢三(2003)「「青い目をしている」型構文の分析」『日本語文法』3-1: 19-34, 日本語文法学会
- 佐野洋(2003)『Windows PC による日本語研究法ーPerl, CLTOOL によるテキストデータ処理』, 共立出版
- 澤田浩子(2001)「ナツテイルによる単純状態の叙述」, 第 122 回日本言語学会大会予稿集
- 鈴木重幸(1979)「現代日本語の動詞のテンスー終止的な述語につかわれた完成相の叙述法断定のばあいー」言語学研究会(編)『言語の研究』: 5-59, むぎ書房
- 鈴木重幸(1996)『形態論・序説』, むぎ書房
- 鈴木康之(1978)「ノ格の名詞と名詞とのくみあわせ (1)」『教育国語』55: 12-24, むぎ書房

- 鈴木康之(1979a)「ノ格の名詞と名詞とのくみあわせ (2)」『教育国語』 56: 66-84, むぎ書房
- 鈴木康之(1979b)「ノ格の名詞と名詞とのくみあわせ (3)」『教育国語』 58: 83-97, むぎ書房
- 鈴木康之(1979c)「ノ格の名詞と名詞とのくみあわせ (4)」『教育国語』 59: 67-81, むぎ書房
- 高橋太郎(1975)「文中にあらわれる所属関係の種々相」『国語学』 103: 1-17, 国語学会
- 高橋太郎(1979)「連体動詞句と名詞のかかわりあいについての序説」言語学研究会編『言語の研究』: 75-172, むぎ書房
- 趙義成(1994)「現代朝鮮語の-에 서格について」『朝鮮学報』 150: 19-72, 朝鮮学会
- 角田太作(1991 [2009])『世界の言語と日本語: 言語類型論から見た日本語』, くろしお出版
- 都恩珍・黄情児(2007)「韓国語の「되다(doeda)」被動文の意味的特徴に関する一考察—日本語の「漢語+する」形に対応する場合を中心に—」『桜花学園大学人文学部研究紀要』 9: 99-115.
- 寺村秀夫(1968)「日本語名詞の下位分類」『日本語教育』 12『寺村秀夫論文集 I』 1993, くろしお出版
- 寺村秀夫(1971)「‘タ’の意味と機能—アスペクト・テンス・ムードの構文的位置づけ—」『岩倉具実教授退職記念論文集 言語学と日本語問題』, くろしお出版 (寺村1984: 313-358 に所収)
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I』, くろしお出版
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 II』, くろしお出版
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味 第三巻』, くろしお出版
- 寺村秀夫(1993)『寺村秀夫論文集 I』, くろしお出版
- 南潤珍(2006)「日本語と韓国語の連語構造の対照分析に基づいた韓国語教材の開発に関する研究」, 平成 16-17 年度科学研究費補助金基盤研究
- 西山佑司(1994)「日本語の存在文と変項名詞句」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』 26: 115-148
- 西山佑司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』, ひつじ書房
- 西山佑司(2004)「絶対存在文と帰属存在文の解釈をめぐって」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』 36: 161-178
- 仁田義雄(2001)「命題の意味的類型についての覚え書」『日本語文法』 1: 5-23, 日本語文法学会
- 野間秀樹(1990)「朝鮮語の名詞分類—語彙論・文法論のために」『朝鮮学報』 135: 1-15, 朝鮮学会
- 野間秀樹(1993)「現代韓國語의 接續形<-다가>에 對하여—aspect・taxis・用言分類—」『朝鮮学報』 149: 1-62, 朝鮮学会
- 橋本邦彦(2010)「存在と所有の間—モンゴル語の存在文と所有文の意味論」北海道言語文化研究 8: 105-127, 北海道言語研究会
- 浜之上幸(1991)「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』 138: 1-93, 朝鮮学会
- 浜之上幸(1992a)「現代朝鮮語の「結果相」=状態パーフェクト—動作パーフェクトとの対比を中心に—」『朝鮮学報』 142: 41-108, 朝鮮学会
- 韓必南(2010)「連体助詞「の」を含む名詞句の韓国語対応形について—日韓翻訳テキストの分析を通して—」『言語・地域文化研究』 16: 331-349, 東京外国語大学大学院総合国際学研究所
- 韓必南(2011)「日本語の「持つ」と韓国語の gajida について—連体修飾の場合」峰岸真琴, 稗田乃, 早津恵美子, 川口裕司(編)『コーパスに基づく言語学教育研究論集』 6: 131-150, 東京外国語大学大学院総合国際学研究院
- 韓必南(2012)「「する」と韓国語「hada」による属性叙述」『思言』 7: 53-76, 東京外国語大学記述言

語学研究室

- 韓必南(2013)「日本語の「ある/いる」構文の類型－命題の意味的特徴に注目して」『日本研究教育年報』17: 33-52, 東京外国語大学日本課程
- 益岡隆志(1987)『命題の文法－日本語文法序説』, くろしお出版
- 益岡隆志(2008)「叙述類型論に向けて」益岡隆志編『叙述類型論』: 3-18, くろしお出版
- 三上章(1953)『現代語法序説』, 刀江書院
- 三上章(1969)『象は鼻が長い』, くろしお出版
- 村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』, ひつじ書房
- 油谷幸利(1978)「現代韓國語의 動詞分類」『朝鮮學報』144: 1-35, 朝鮮学会
- 油谷幸利(2005)『日韓対照言語学入門』, 白帝社
- 吉川武時(1976)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』: 155-327, むぎ書房

<韓国語で書かれた文献>

- 김광해(1993)『국어어휘론 개설』, 집문당
- 김동석·김용하(2001)「존재/소유 구문의 논항 구조」『우리말글』22: 67-83, 우리말글학회
- 김석득(1992)「준굴곡론－토씨론」『우리말 형태론』, 탐출판사
- 김승곤(1992)『국어토씨연구』, 서광학술자료사
- 남기심·고영근(1985)『표준국어문법론』, 탐출판사
- 남기심(1993)『국어 조사의 용법－‘-에’와 ‘-로’를 중심으로－』, 박이정
- 남득현(2005)「일한 양언어의 복합어에 관한 연구-존재동사를 중심으로」『일본어문학』31: 53-74, 일본어문학회
- 남윤진(2000)『현대국어의 조사에 대한 계량언어학적 연구』國語學叢書 36, 태학사
- 리근영(1985)『조선어리론 문법－형태론』, 과학백과사전출판사
- 박승빈(1935)『조선어학』, 탐출판사
- 박종호(2010)「“X 하다”의 결합 유형에 관한 연구」『새국어교육』84: 321-339, 한국국어교육학회
- 박양규(1975)「所有와 所在」『국어학』3: 93-118, 국어학회
- 범금희(2008)『한국어 연결어미류의 실현 양상에 대한 텍스트 분석적 연구』, 嶺南大學校大學院博士學位論文
- 서정수(1986)「「動詞+動詞」型複合動詞化について「現代國語」の用例分析」『日本學報』16: 27-45, 韓國日本學會
- 서정수(1991)「풀이말 ‘있/계시(다)’에 관하여」갈음 김석득교수회갑기념논문집『국어의 이해와 인식』, 한국문화사
- 서정수(1996)『현대국어문법론』, 한양대학교출판원
- 성광수(1976)「존재동사 ‘있다’에 대한 재고」『국어어문논총:강북수박사회갑기념논문집』
- 성광수(1979)『國語助辭의 研究』, 螢雪出版社
- 신현숙(1984)『동사 받다, 얻다, 버리다, 잃다의 의미 연구』, 건국대 박사학위 논문
- 安秉杰(2004)『한·일 양어의 동사에 관한 대조 연구－한국어「하다」와 일본어「する」동사를

중심으로』, 圓光大學校大學院博士論文

- 安平鎬(2004) 「存在動詞에 관한 韓日對照研究」 『日本學報』 61-1: 167-182, 韓國日本學會
- 李南淳(1988) 「속격의 격표시」 『國語의 不定格과 格標識 省略』 : 68-97, 탑출판사
- 이수련(2006) 『한국어 소유 표현 연구』, 박이정
- 이완웅(1929) 『중등교과 조선어문전』, 조선어연구회
- 이종열(2008) 「‘가지다’ 구문의 의미 습득과 실현 양상」 『한국어의미학』 27: 179-198, 한국어의미학회
- 李熙昇(1955) 『國語學概論』, 民衆書館
- 임홍빈(1998) 「존재 전제와 속격 표지 {의}」 『국어 문법의 심층 2—명사구와 조사구의 문법』 : 283-306, 태학사
- 유경민(2010) 「구체명사+하다: 통사 구성의 어휘화 과정」 『국어국문학회지』 156: 71-89, 국어국문학회
- 유현경(1998) 『국어 형용사 연구』, 한국문화사
- 장미라(2002) 「국어 소유 상태 구문의 실현 양상」 『국어국문학』 130: 59-82, 국어국문학회
- 전수태(1987) 『국어 이동동사의 의미연구』, 한신문화사
- 전영철(2000) 「한국어 존재문의 구성」 『언어학』 27: 261-280, 한국언어학회
- 정인승(1956) 『표준고등말본』 金敏洙/河東鎬/高永根編(1977) 『歷代韓國文法大系』, 탑출판사
- 정태구(2007) 「국어 존재구문의 의미와 사건구조」 『언어』 32-4: 779-801, 한국언어학회
- 주시경(1910) 『국어문법』, 탑출판사
- 최창렬(1983) 『한국어의 의미구조』, 한신문화사
- 최현배(1937) 『우리말본』, 정음문화사
- 홍윤표(1984) 「현대국어의 후치사 {가지고}」 『동양학』 14: 25-40, 단국대학교동양학연구소

<英語で書かれた文献>

- Bach, E. (1967) ‘Have’ and ‘be’ in English syntax. *Language* 43: 462-485.
- Carlson, Gregory (1980) *Reference to Kinds in English*. New York: Garland.
- Chappell, Hilary and William McGregor(ed.) (1996) *The grammar of inalienability: A typological perspective on body part terms and the part-whole relation*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.
- Clark, Eve V. (1978) Locationals: Existential, locative, and possessive constructions. In Greenberg(ed.): 85-126.
- Dixon, R.M.W. (2009) *Basic Linguistic Theory* Vol.2: Grammatical Topics. Oxford University Press: 262-312.
- Ellis, J. and L. Boadi (1969) ‘To be’ in Twi. *The verb ‘be’ and its synonyms*, Part 4, In Verhaar(ed.): 1-71.
- Greenberg, Joseph H.(ed.) (1978) *Universals of human language* Vol.4: Syntax. Stanford University Press.
- Heine, Bernd (1997) *Possession: Cognitive sources, Forces, and Grammaticalization*. Cambridge University Press.
- Krifka et al. (1995) Genericity: An introduction. In Gregory Carlson and Francis Pelletier(eds.) *The*

- Generic Book* 1-124. University of Chicago Press.
- Krzeszowski, Tomasz P. (1990) *Contrasting languages: the scope of contrastive linguistics*. Berlin; New York: Mouton de Gruyter.
- Kuno, S. (1971) The Position of Locatives in Existential Sentences, *Linguistic Inquiry* 2: 333-378.
- Langacker, Ronald W. (1993) Reference-point constructions. *Cognitive Linguistics* 4, 1:1-38.
- Lyons, John (1968) *Introduction to theoretical linguistics*. Cambridge University Press.
- Lyons, John (1977) *Semantics*. Two volumes. Cambridge University Press.
- Nichols, Johanna (1988) On alienable and inalienable possession. In W. Shipley(ed.), *In honor of Mary Haas*, 557-609. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Nichols, Johanna (1992) *Linguistic diversity in space and time*. University of Chicago Press.
- Seiler, H. (1983) *Possession as an Operational Dimension of Language*. Tübingen: Gunter Narr.
- Shipley, William(ed.) (1988) *In Honor of Mary Haas: From the Haas Festival Conference on Native American Linguistics*. Berlin: Mouton-De Gruyter.
- Stassen, L. (1997) *Intransitive Predication*. Oxford University Press.
- Stassen, L. (2009) *Predicative Possession*. Oxford University Press.
- Svorou, Soteria (1993) *The grammar of space*. (Typological Studies in Language, 25), Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- Taylor, J. R. (1995) *Linguistic Categorization-Prototypes in Linguistic Theory*. Oxford University Press.
- Taylor, J. R. (1999) Possession, *Concise Encyclopedia of Grammatical Categories*: 300-303, edited by K. Brown and J. Miller, Amsterdam: Elsevier.
- Verhaar, J. W. M. (1969) *The verb 'be' and its synonyms*. Part 4, Foundations of Language, Supplementary Series 1, 6, 8 and 9. Dordrecht: Reidel Publishing.

<辞典>

- 국립국어연구원(1999) 『표준국어대사전』, 두산동아
- 연세대학교언어정보개발원(1998) 『연세한국어사전』, 두산동아
- 菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人共編(1988) 『コスモス朝和辞典』, 白水社
- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎編(1993) 『朝鮮語辞典』, 小学館

(인터넷検索サイト)

<http://morph.kaist.ac.kr/kcp/etc.html>

<http://ja.wikipedia.org>

<http://web.search.naver.com>

【謝辞】

本論文を完成するに当たり、多くの方々にご指導とご助言をいただきました。

東京外国語大学大学院総合国際学研究院の風間伸次郎先生，並びに伊藤英人先生，南潤珍先生には，学部時代から長年にわたってご指導とご鞭撻を賜りました。指導教員でいらっしゃる風間伸次郎先生には本論文の根幹に関わる問題，および通言語学的な観点からのご意見などご丁寧にご指導いただき，心より感謝いたします。

東京外国語大学大学院総合国際学研究院の伊藤英人先生，南潤珍先生には，日本語と韓国語との対照言語学的な観点から数々の問題について勉強させていただき，本論文に関しても貴重な指摘やコメントをいただきました。心より御礼を申し上げます。

さらに，麗澤大学大学院言語教育研究科の井上優先生，東京大学大学院総合文化研究科の生越直樹先生には，本論文の審査委員をお引き受け下さり，対照言語学の専門家というお立場から貴重なご意見やご助言をいただきましたこと，心より御礼申し上げます。

また，東京外国語大学風間伸次郎研究室の学生の皆様には学内の記述言語学研究会などでの指摘やコメントをはじめ，様々な面で支えていただきました。誠にありがとうございました。

本論文は東京外国語大学におけるグローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語教育研究拠点」の支援によるものです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。